

2021 年度

シラバス

貞静学園短期大学

目次

I 貞静学園短期大学の教育理念・目的

II 3つの方針

III 学習成果

貞静学園短期大学保育学科カリキュラムツリー

カリキュラムマップ（保育学科）

ナンバリング

カリキュラムマップ（専攻科介護福祉専攻）

保育学科

科目区分		授業科目の名称	ページ数
教養教育科目	教養科目	キャリア教育	2
		法学（日本国憲法）	3
		心理学	4
		公務員試験対策講座	5
		ソルフェージュ	6
		障害者スポーツ	7
		海外幼児教育短期留学	8
	体育	体育講義	9
		体育実技	10
	語学	英語コミュニケーションⅠ	12
		英語コミュニケーションⅡ	13
	情報	情報機器操作入門	14
		情報機器操作応用	15
専門教育科目	基礎技能科目	保育の環境（音楽表現）	16
		器楽（基礎）	18
		声楽	19
		器楽（応用）	20
		保育の環境（造形表現）	21
		基礎造形	22
		保育の環境（身体表現）	23
		幼児体育	24
		保育の環境（言語表現）	26
	基礎理論科目	教育原理	27
		保育原理	28
		子ども家庭福祉	29
		社会福祉	30
		子ども家庭支援論	31
		社会的養護Ⅰ	32
		保育・教職論	33
		特別支援の理解と方法	34

科目区分		授業科目の名称	ページ数
専門教育科目	保育の内容・方法	保育の計画と評価	35
		保育内容総論	36
		幼児と健康	37
		幼児と環境	39
		幼児と言葉	40
		幼児と表現	42
		健康指導法	43
		人間関係指導法	45
		環境指導法	46
		言葉指導法	48
		表現活動指導法（リミック）	49
		器楽合奏	50
		表現活動指導法（創作活動）Ⅰ	51
		表現活動指導法（創作活動）Ⅱ	53
		保育教材演習（エブロンシアター）	54
		保育教材演習（紙芝居・絵本）	55
		教育課程と教育方法	56
		社会的養護Ⅱ	57
		子育て支援	58
		乳児保育Ⅰ	59
		乳児保育Ⅱ	60
		子どもの健康と安全	61
		障害児保育Ⅰ	62
		障害児保育Ⅱ	63
		幼児理解	64
	保育の対象・理解	発達の心理学	66
		子ども家庭支援の心理学	67
		子どもの理解と援助	69
		教育相談論	70
		子どもの保健	72
		子どもの健康と運動	73
		子どもの食と栄養	74
	保育教育実践演習	保育教育実践演習	76
	教育・保育実習	教育実習	78
		保育実習Ⅰ（保育所）	84
		保育実習Ⅰ（施設）	84
		保育実習指導Ⅰ	85
		保育実習Ⅱ	87
		保育実習指導Ⅱ	88
		保育実習Ⅲ	89
		保育実習指導Ⅲ	90
	ゼミナール	ゼミナール	91

専攻科介護福祉専攻

授業科目の名称	ページ数
生活と福祉	93
介護概論A	93
介護概論B	95
人間関係の基礎と応用	96
生活支援技術（身体）	98
生活支援技術（家事） 担当A	99
生活支援技術（家事） 担当B	101
生活支援技術（家事） 担当C	102
生活支援技術（応用）	103
介護過程の基礎	104
介護過程の事例研究	105
介護過程の実践的応用	106
介護総合演習	107
第Ⅰ期介護実習	108
第Ⅱ期介護実習	109
訪問入浴実習	110
高齢者と生活	110
認知症概論	111
認知症ケア論	112
障害の特性と支援	113
こころとからだのしくみ	114
医療的ケア	117

I 貞静学園短期大学の教育理念・目的

本学は、「学問と人格の切磋琢磨・心の教育」の基本方針の下、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育理念とし、知識および実践力の向上、そして中断のない研究と幅広い人間教育に重点を置く大学教育機関として活動を展開しています。

本学は、「幼児教育・保育の特殊性・専門性を兼ね備えた柔軟性のある保育者養成」を教育目的とし、特に、教育の基本は人間教育であることを踏まえ、社会で生きていくためにどうあるべきか、どのような姿勢で研究を進めていくのか等、人として生きていく姿勢を絶えず念頭に置き、教育課程に反映してまいります。

また、本学は、より豊かな社会生活を実現するための教養教育及び教養教育と実務教育とが結合した専門的職業教育、さらには地域社会に密着した生涯学習の機会を与えていくことも視野に入れ、幼児教育・保育の分野において求められる専門的な知識・技術の修得は勿論のこと、心の教育を重視し、乳幼児・弱者に対する思いやりや気配りとともに、職場・社会で相手の立場に立ったものの見方・考え方ができるような人間教育を実施してまいります。

さらに、日本の未来を担う子どもの豊かな成長を、家庭と保育現場から捉え、乳幼児期の家庭のしつけが、その人間の一生を左右するほど重要であることを認識し、家庭と保育現場の双方の連帯関係の重要性という視点に立ち、真に社会に役立つ幅の広い柔軟性のある人材の養成を目指してまいります。

さらにまた、急速に進む高齢社会に対応する為に平成 22 年 4 月より、従来の専門学校介護福祉専攻科から短期大学専攻科介護福祉専攻を新たに開設し、より資質の高い介護福祉士養成をめざしてまいります。

II 3つの方針

1) アドミッションポリシー

○保育学科

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い保育士・幼稚園教諭の養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①保育士および幼稚園教諭の職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることができる人
- ②高等学校等での国語（読解力・表現力等）の基礎学力があり、積極的に保育実践力を身につけようとする人
- ③子どもの発達および子どもを取り巻く環境に関心を持ち、福祉・教育について学ぶ意欲のある人
- ④誠実で真摯な心を持ち、コミュニケーションを大切にする人

○専攻科介護福祉専攻（1年課程）

本学は、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」を教育の理念とし、資質の高い介護福祉士養成を目標としています。

そのため、以下のとおり入学者受け入れ方針を設けています。

- ①介護福祉士の職に就くことを希望し、その意志を持ち続けることができる人
- ②大学・短期大学もしくは専門学校で保育士の資格を取得し、積極的に介護実践力を身につけようとする人
- ③高齢者および障害者を取り巻く環境に関心を持ち、福祉・教育について学ぶ意欲のある人
- ④誠実で真摯な心を持ち、コミュニケーションを大切にする人

2) ディプロマポリシー

本学保育学科に2年以上在籍し、卒業に必要な単位数を修得して、広い保育学の知識と優れた保育の技能並びに保育者に相応しい豊かな人間性を有し、真に社会で活躍できる人材であると、教授会において認定した学生に対して、短期大学士（保育学）の学位を授与する。

3) カリキュラムポリシー

貞静学園短期大学の教育課程は、保育・幼児教育に携わる一人の人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や現実を正しく理解する力の涵養と、幅広く深い教養と保育に関する専門科目を総合的に教授することを目的としている。

1. 教育課程を「教養教育科目」と「専門教育科目」に分け、「教養教育科目」と「専門教育科目」を履修することにより、一般教養・専門的知識を修得し、保育・幼児教育に関する研鑽を積み、保育の専門家として卒業後も成長できる保育者養成を目指す。
2. 教養教育科目は、「教養科目」、「体育」、「語学」、「情報」に分け、保育・幼児教育を専門に学び実践する者として、幅広い知識を修得し、社会で応用できる基礎能力に必要な教養を身につけ、社会に役立つ人材を育成するための授業科目を設定する。「教養科目」の中に「キャリア教育」を卒業必修として設置し、建学の精神のもと本学独自の科目を履修することにより、本学卒業生として獲得すべき学習成果の基盤を創る。
3. 専門教育科目は、「基礎技能科目」、「基礎理論科目」、「保育の内容・方法」、「保育の対象・理解」、「保育教育実践演習」、「教育・保育実習」、「ゼミナール」から編成し、知識の獲得・活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決能力、表現力、コミュニケーション能力など、保育の専門職や社会人として必要な知識や技能を修得させるために講義、演習、実習など、多様な科目設定をする。
4. 保育学科2年間で社会に役立つ保育者を養成するため、本学独自の科目を「教養科目」、「保育の内容・方法」ならびに「保育の対象・理解」の各分野に新たに開設した。さらに保育学科2年間の学習の総まとめとして、選択科目ゼミナールを開設し、個々の学生達が絵本づくりや、伝承玩具、おもちゃづくり等、また少子社会、地域の子育て支援等、保育に関する様々な課題について、各自の研究テーマを定め、課題解決のための対応策・方法・技術等を研究し、保育者としての資質向上をはかることを目的に、ていねいな個別指導を行う。
5. 2年間を4期にわけて、基礎的・基本的な科目から総合的に実践し、応用できる科目へと順次学べるように編成する。そのため、科目は各期を基準にするが、通年科目についても各期のまとまりを持つように編成する。
6. 卒業と同時に幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の二つの免許・資格を取得できる教育課程を編成する。

Ⅲ学習成果

本学は、建学の精神「至誠、和敬、慈愛」に基づき、「これからの社会に役立つ、人間性豊かな知性と教養ある人材の育成」を教育理念としている。その教育理念を実現するために、自ら学び努力していく姿勢と、強くしなやかな意志を育むことを基盤として、専門的学習成果と汎用的学習成果の両面から学習成果を定めている。

専門的学習成果（保育者としての学習成果）とは、保育及び教育に必要な専門的知識・技術・技能を習得し、一人一人の最善の幸福を考え、倫理観を持って保育・教育を実践する能力を身に付けることである。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）とは、伝統文化、社会、自然についての理解を深め、社会で生じる様々な問題や意見に向き合い、他者と協力し、科学的・論理的に考え、積極的に解決に取り組むことが出来るようになることである。

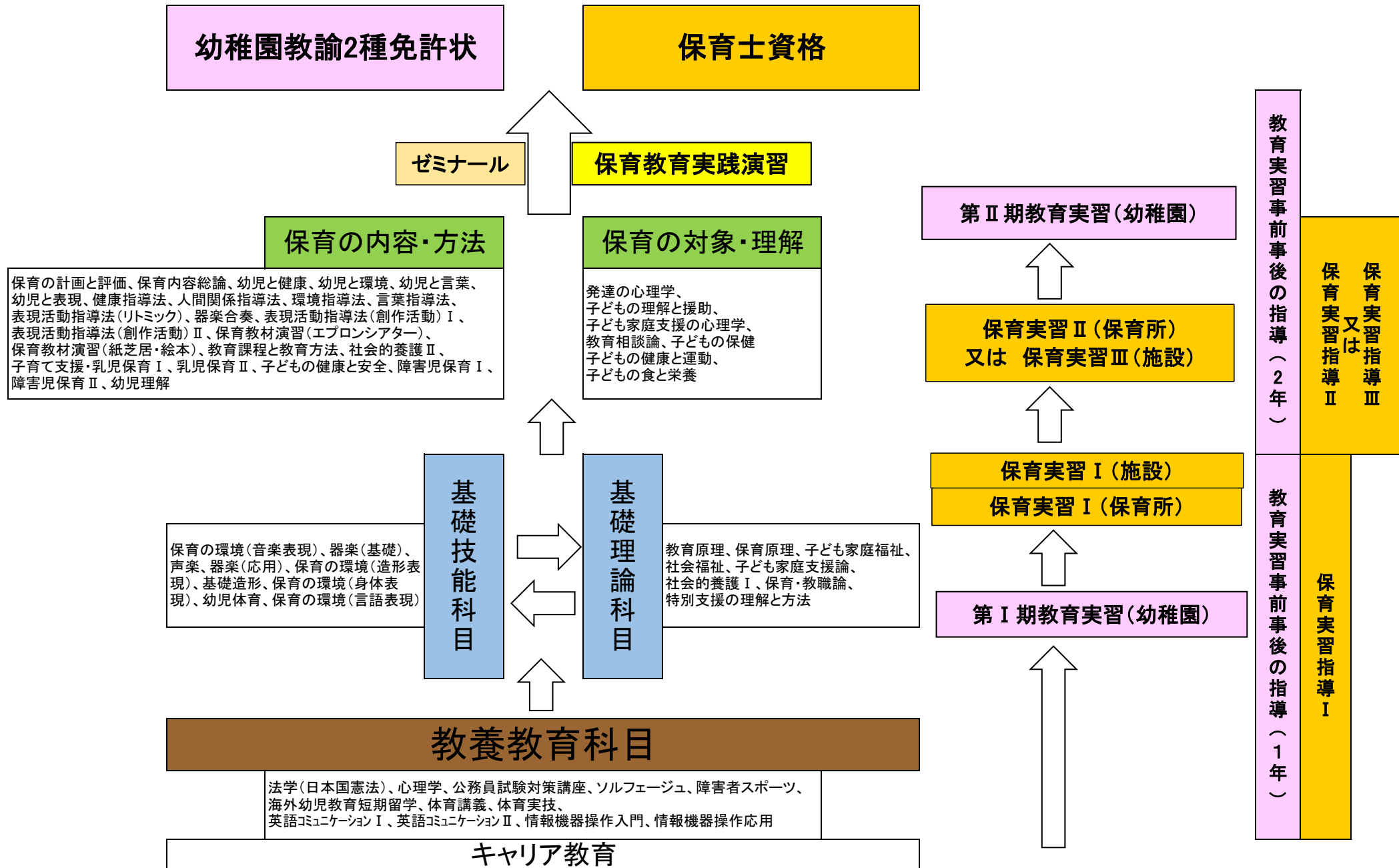
専門的学習成果（保育者としての学習成果）

1. 子どもや特別な支援を要する人の発達特性や個性について学び、一人一人の最善の幸福を考え、保育・教育および家庭支援を実践するための様々な知識・技術・技能を習得する。
2. 子どもの「生きる力」を育むために、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域についての技術や技能を習得する。
3. 保育者として子どもの人権を尊重し、倫理観を持って他者と協調すると共に、子どもの心身の健康と安全に努めながら保育・教育に取り組むことができる。
4. 獲得した知識・技能・態度を基礎として、継続的に向上心を持って学習することができる。
5. 他国の人や文化を尊重しグローバルな視点で、子ども、職場、社会を捉え、保育・教育および家庭支援について知識と理解を深めていく姿勢をつくる。

汎用的学習成果（社会人としての学習成果）

6. 文化、社会や自然に対する知識を豊かにし、多様な価値観や意見を理解し、自ら学んでいく。
7. 読む、書く、聞く、話す能力をはじめ、情報を収集・分析する能力、数や量を理解する能力を高め、
他者と協働して新しい視点や発想、柔軟な方法で問題を解決することができる。
8. 社会規範や職場のルールを理解し守り、様々な人々と協調して仕事や課題に積極的に取り組み、実現へ向けて計画し、やり遂げる強い意志を獲得する。

貞静学園短期大学保育学科カリキュラムツリー



カリキュラムマップ (保育学科)

※シラバス用

卒業要件：66単位以上、幼稚園教諭2種免許状：66単位以上、保育士資格：70単位以上

★印：必修科目29単位以外に選択科目29単位以上の修得が必要。ただし【教育実習5単位】又は【保育実習Ⅰ(保育所)・(施設)と保育実習指導Ⅰ及び「保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲ」の9単位】を修得すること。

●印：卒業又は幼稚園教諭又は保育士必修単位(選択必修を含む)

○印：選択科目

▲印：どちらかを選択

※印：50分授業

		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果
科目区分	授業科目の名称	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習		
教養教育科目	キャリア教育 ※	2				2		●	●			✓			必修科目6単位及び選択科目2単位以上修得すること	3. 4. 6. 7. 8
	法学(日本国憲法)		2	2		2			●			✓				3. 5. 6. 7. 8
	心理学		2			2		○				✓				4. 6. 7. 8
	公務員試験対策講座		1						○				✓			1. 4. 6. 7
	ソルフエージュ		1			1		○					✓			1. 2. 3. 6. 8
	障害者スポーツ		1			1		○					✓			1. 3. 5. 6
	海外幼児教育短期留学		1			1		○		○			✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	体育															
	体育講義 ※	1		1		1		●				✓				1. 4. 5. 6
	体育実技	1		1		1		●					✓			1. 3. 4. 6. 8
	語学															
	英語コミュニケーションⅠ	1		1		1			●				✓			5
	英語コミュニケーションⅡ	1		1		1				●			✓			5
専門教育科目	情報														★参照	
	情報機器操作入門		1	1		1		●					✓			4. 7
	情報機器操作応用		1	1		1					●		✓			4. 7
	小計(13科目)	6	10	8		4	11	-		-		-				-
	基礎技能科目															
	保育の環境(音楽表現)	1		1		1		●	●				✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	器楽(基礎)	1		1		1		●	●				✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	声楽 ※		1		1	1				●	●		✓			1. 2. 4. 5. 6. 7. 8
	器楽(応用)		1		1	1				●	●		✓			1. 2. 4. 5. 6. 7
	保育の環境(造形表現)	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4
	基礎造形	1		1		1		●					✓			1. 2. 4. 8
	保育の環境(身体表現)	1		1		1			●				✓			1. 2. 3. 4. 6
	幼児体育	1		1		1					●		✓			1. 3. 4. 5. 6. 8
基礎理論科目	保育の環境(言語表現)	1		1		1		●					✓			2. 4. 6. 7. 8
	小計(9科目)	7	2	8	1	4	5	-		-		-				-
	教育原理	2		2		2		●				✓				1. 5. 6
	保育原理	2		2		2				●		✓				1. 3. 5. 6. 8
	子ども家庭福祉		2			2				●		✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	社会福祉		2			2		●				✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	子ども家庭支援論		2			2					●	✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	社会的養護Ⅰ		2			2		●				✓				1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
	保育・教職論		2	2		2		●				✓				3. 4. 6. 7. 8
	特別支援の理解と方法	1		1						●			✓			1. 3. 4. 6. 7. 8
	小計(8科目)	5	10	7		14		-		-		-				-

		卒業単位		幼稚園教諭		保育士		1年		2年		授業形態			特記事項	学習成果		
科目区分	授業科目の名称	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	講義	演習・実技	実験・実習				
専門教育科目	保育の内容・方法	保育の計画と評価		2			2				●		✓			★参照	1. 3. 7	
		保育内容総論	1		1		1					●		✓			1. 2. 7. 8	
		幼児と健康	1		1			1		●				✓			1. 2. 3. 4. 6	
		幼児と環境	1		1			1			●			✓			2. 4. 6. 7	
		幼児と言葉	1		1			1		●				✓			2	
		幼児と表現	1		1			1		●				✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
		健康指導法	1		1		1				●			✓			1. 2. 3. 4. 7	
		人間関係指導法	1		1		1			●				✓			2. 3. 6	
		環境指導法	1		1		1					●		✓			2. 4. 6. 7	
		言葉指導法	1		1		1					●		✓			2	
		表現活動指導法（リトミック）	1		1		1					●		✓			1. 2. 3. 4. 6. 8	
		器楽合奏		1		1		1				○		✓			1. 2. 4. 6. 8	
		表現活動指導法（創作活動）Ⅰ		1	1			1				●		✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7	
		表現活動指導法（創作活動）Ⅱ		1	1			1					●		✓		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
		保育教材演習（エプロンシアター）		1		1					○				✓			1. 2. 4
		保育教材演習（紙芝居・絵本）		1		1						○			✓			1. 2. 3. 4. 5. 6. 7
		教育課程と教育方法	1		1						●				✓			1. 2. 7
		社会的養護Ⅱ		1				1					●		✓			1. 3. 4. 5. 6. 7. 8
		子育て支援		1				1					●		✓			1. 3. 5. 6
		乳児保育Ⅰ		2				2		●				✓				1. 3. 4
		乳児保育Ⅱ		1				1			●				✓			1. 3. 4. 6
		子どもの健康と安全		1				1			●				✓			1. 3. 4. 8
		障害児保育Ⅰ		1				1		●					✓			1. 3. 7
		障害児保育Ⅱ		1				1			●				✓			1. 3. 7
		幼児理解	2		2			2		●				✓				2. 3
		小計（25科目）	13	15	15	3	16	9		-		-		-	-		-	-
	保育の対象・理解	発達の心理学	2		2		2		●					✓				1. 3. 4. 6. 7
		子ども家庭支援の心理学		2			2			●				✓				1. 3. 4. 5. 7
		子どもの理解と援助		1			1				●				✓			1. 3. 4. 6. 8
		教育相談論		2	2							●		✓				1. 3. 4. 7. 8
		子どもの保健		2			2		●					✓				1. 3. 4. 8
		子どもの健康と運動		1		1		1			○				✓			1. 2
		子どもの食と栄養		2			2		●	●					✓			2. 6
		小計（7科目）	2	10	4	1	9	1	-		-		-	-	-		-	-
	保育教育実践演習	2		2		2					●			✓			1. 3. 4. 5. 8	
	小計（1科目）	2		2		2		-		-		-	-	-	-		-	
	教育・保育実習	教育実習（5単位）	教育実習5単位又は保育実習9単位のどちらかを必ず選択		5			1年後期及び2年後期						✓	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
		教育実習事前事後の指導1年※						●	●						1. 7. 8			
		教育実習事前事後の指導2年※								●	●						1. 2. 3. 4. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅰ（保育所）(2単位)					2	1年後期及び2年前期						✓	1. 5. 7. 8			
		保育実習Ⅰ（施設）(2単位)					2							✓	1. 5. 7. 8			
		保育実習指導Ⅰ（2単位）					2	●	●					✓			1. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅱ（2単位）					2			▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習指導Ⅱ（1単位）					1	Ⅱ又はⅢを選択		▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習Ⅲ（2単位）					2			▲					✓		1. 5. 7. 8	
		保育実習指導Ⅲ（1単位）					1			▲					✓		1. 5. 7. 8	
		小計（8科目）		17	5		9		-		-		-	-	-		-	-
	ゼミナール		2			2				○	○			✓			4. 6	
	小計（2科目）		2			2		-		-		-	-	-	-		-	
		35	66	48	5	58	27	-		-		-	-	-	-			

ナンバリング（保育学科科目コード表）

A	A	B	C	D	E	E	E	F	F
①		②	③	④	⑤			⑥	

① 科目区分

教養教育科目 教養科目	11
教養教育科目 体育	12
教養教育科目 語学	13
教養教育科目 情報	14
専門教育科目 基礎技能科目	21
専門教育科目 基礎理論科目	22
専門教育科目 保育の内容・方法	23
専門教育科目 保育の対象・理解	24
専門教育科目 保育教育実践演習	25
専門教育科目 教育・保育実習	26
専門教育科目 ゼミナール	27

② 卒業必修

必修	1
その他	0

③ 幼稚園教諭 2 種免許状取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

④ 保育士資格取得

必修	1
選択必修	2
その他	0

⑤ 保育学科通し番号

保育学科コード番号 1 を先頭にした 3 桁

⑥ 開講時期

1 年通年	10
1 年前期	11
1 年後期	12
2 年通年	20
2 年前期	21
2 年後期	22
1・2 年	13

保育学科科目コード一覧表

キャリア教育	1110210110
法学(日本国憲法)	1101210212
心理学	1100210311
公務員試験対策講座	1100010412
ソルフェージュ	1100210511
障害者スポーツ	1100210611
海外幼児教育短期留学	1100210711
体育講義	1211110811
体育実技	1211110912
英語コミュニケーションⅠ	1311111012
英語コミュニケーションⅡ	1311111121
情報機器操作入門	1401211211
情報機器操作応用	1401211322
保育の環境(音楽表現)	2111111410
器楽(基礎)	2111211510
声楽	2102211620
器楽(応用)	2102211720
保育の環境(造形表現)	2111111812
基礎造形	2111211911
保育の環境(身体表現)	2111112012
幼児体育	2111212122
保育の環境(言語表現)	2111112211
教育原理	2211112311
保育原理	2211112421
子ども家庭福祉	2200112521
社会福祉	2200112611
子ども家庭支援論	2200112722
社会的養護Ⅰ	2200112811
保育・教職論	2201112911
特別支援の理解と方法	2211013021
保育の計画と評価	2300113121
保育内容総論	2311113222
幼児と健康	2311213312
幼児と環境	2311213421
幼児と言葉	2311213512
幼児と表現	2311213612

健康指導法	2311113721
人間関係指導法	2311113812
環境指導法	2311113922
言葉指導法	2311114021
表現活動指導法(リミック)	2311114121
器楽合奏	2300214221
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ	2301214321
表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	2301214422
保育教材演習(エプロンシアター)	2300014512
保育教材演習(紙芝居・絵本)	2300014621
教育課程と教育方法	2311014712
社会的養護Ⅱ	2300114822
子育て支援	2300114922
乳児保育Ⅰ	2300115011
乳児保育Ⅱ	2300115112
子どもの健康と安全	2300115212
障害児保育Ⅰ	2300115311
障害児保育Ⅱ	2300115412
幼児理解	2311215511
発達心理学	2411115611
子ども家庭支援の心理学	2400115712
子どもの理解と援助	2400115821
教育相談論	2401015922
子どもの保健	2400116011
子どもの健康と運動	2400216112
子どもの食と栄養	2400116210
保育教育実践演習	2511116322
教育実習	2601016413
保育実習Ⅰ(保育所)	2600116513
保育実習Ⅰ(施設)	2600116613
保育実習指導Ⅰ	2600116710
保育実習Ⅱ	2600216821
保育実習指導Ⅱ	2600216921
保育実習Ⅲ	2600217021
保育実習指導Ⅲ	2600217121
ゼミナール	2700217220

カリキュラムマップ（専攻科介護福祉専攻）

授業科目の名称	単位数		1 年		授業形態		
	必修	選択	前期	後期	講義	演習	実験・実習
生活と福祉	1		15		●		
介護概論A	8		60	60	●		
介護概論B	4		30	30	●		
人間関係の基礎と応用	2		30	30		●	
生活支援技術（身体）	4		60	60		●	
生活支援技術（家事） 担当 A	4		60	60		●	
生活支援技術（家事） 担当 B						●	
生活支援技術（家事） 担当 C						●	
生活支援技術（応用）	2			60		●	
介護過程の基礎	1		30			●	
介護過程の事例研究	2			60		●	
介護過程の実践的応用	2		60			●	
介護総合演習	2		30	30		●	
第Ⅰ期介護実習	5		210				●
第Ⅱ期介護実習							●
訪問入浴実習							●
高齢者と生活	2		30		●		
認知症概論	2		30		●		
認知症ケア論	2			30	●		
障害の特性と支援	2		30		●		
こころとからだのしくみ	4		30	30	●		
医療的ケア	4		83		●		
	1					●	
	54	0	1238				

保育学科

授業科目名：1110210110 キャリア教育 1年通年	必修：卒・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：奥 明子 他 担当形態：講義 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 教養科目		
学習成果該当番号：3、4、6、7、8			
授業の到達目標及びテーマ： 「教養科目」に設置されている本学独自の本科目を履修することで、「至誠」、「和敬」、「慈愛」の建学の精神のもと、「幼児教育・保育の特殊性・専門性を兼ね備えた柔軟性のある保育者養成」という本学の教育目的に向かい、「これからの社会に貢献できる心豊かな人材の育成」という本学の教育理念を実現できる学生を育成する。到達目標としては、以下のことが挙げられる。 ・建学の精神を理解する ・マナーを身につける ・行事を企画、立案、運営する力を身につける ・危機管理において実際の場面で対応できる知識を身につける ・情報処理能力を身につける 以上をもとにキャリア形成を自覚し、今後の人生に活かすことができる			
授業の概要： 保育学科1学年次に卒業必修科目として授業の到達目標を全ての学生が達成し、本学卒業生としての学習成果の基盤をつくるために、学長講話を中心として、大学生として学ぶ姿勢や保育者としての心構え、マナー、実習への準備学習、プレゼンテーションの方法論、危機管理等幅広い教養を身に付ける。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	キャリア教育について（事前のガイダンスにて説明を行う） スタートアップスキル1 ・インターネット通信を利用した授業等の受講の仕方について（担当：教務課・学生課） ・メール送信のマナーなど	復習：実際にシステムを操作する。 （30分）	
第 2回	スタートアップスキル2 ・大学教育全般に対する動機付け ・大学生活における時間管理や学習習慣 （担当：教務委員会・1年担任）	復習：大学生として学びを継続するために必要な生活リズム（日々の生活の仕方）を理解し、自己を振り返り生活を見直す。（30分）日々実践する。	
第 3回	学長講話① 建学の精神、キャリア形成への心構え	復習：建学の精神を知り、短期大学での学習に向けて準備する。（30分）	
第 4回	洋食マナー研修「マナーのこころを学ぶ」 （担当：1年担任）	準備：ナイフ・フォークの使い方等洋食マナーに必要な事項を調べる。 （30分）	
第 5回	第1回アセスメントテスト（基礎力リサーチ） （担当：1年担任）	準備：高校までの学習を振り返っておく。（30分） 復習：得意・苦手な部分を把握する。 （30分）	
第 6回	情報管理の重要性1 ・SNS等の管理と情報の扱いに関する倫理教育 （担当：岩井）	復習：情報の取り扱いに関して復習し、危険性をまとめる。（30分）	
第 7回	情報管理の重要性2 ・情報検索とその活用について （担当：附属図書館運営委員会）	復習：保育者として情報管理の重要性についてまとめる。（30分）	
第 8回	学長講話② 社会人としてのマナー①	復習：配布されたプリントに沿って復習を行う。（30分）	
第 9回	学長講話③ 社会人としてのマナー②	復習：配布されたプリントに沿って復習を行う。（30分）	
第10回	危機管理教育1 「保育現場での危機管理①」	復習：災害時におこる現象について	

	危機管理への問題意識 (担当：大塚警察)	それぞれ理解を深めておく。 (30分)
第11回	危機管理教育2 「保育現場での危機管理②」 危機管理の実際を学ぶ (担当：大塚警察)	復習：地震・台風等の災害時における保育者の動きについて復習する。 (30分)
第12回	危機管理教育3 「保育現場における火災・防災について」 (担当：小石川消防署)	復習：火災時の初期消火や避難方法について復習する。(30分)
第13回	職業意識を高める1 保育ボランティア① (担当：実習担当)	準備：実習に必要な書類を作成する。 (60分)
第14回	職業意識を高める2 保育ボランティア② (担当：実習担当)	準備：保育士に必要な保育教材の準備をする。(60分)
第15回	プレゼンテーションの構成 テーマ「実習等」 (担当：保育学科教員)	準備：グループワークに向けてのグループ作り。夏季ボランティア実習の振り返りを行っておく。(60分)
第16回	保育士を目指して (担当：就職担当)	準備：保育士に必要な知識等について各教科の復習をする。(60分)
第17回	体育祭 ・行事に向けての準備、取組姿勢について ・実践を通して、行事の意義を体験する (担当：1年担任)	準備：競技を考案し、実践に向けて計画書を作成する。(60分) 復習：実践を通し、保育現場を想定した課題を書き出す。(60分)
第18回	卒業生シンポジウム ・保育・介護関係施設へ就職している卒業生の話を聞く。(質疑応答含む) (担当：1年担任)	復習：自分の将来像を思い描き、就職希望について考える。(30分)
第19回	プレゼンテーションへの準備 (担当：保育学科教員)	準備：第15回の内容を復習し、まとめておく(30分)
第20回	プレゼンテーションの実際 (担当：保育学科教員)	準備：発表に向けてプレゼンテーションの準備を行う(60分)
第21回	学長講話④ 社会人としてのマナー③	復習：配付されたプリントに沿って復習を行う。(30分)
第22回	危機管理教育4 「災害時における妊産婦及び母子救護所について①」 (担当：文京区防災課)	復習：母子救護所の必要性について復習し、理解を深める。(30分)
第23回	危機管理教育5 「災害時における妊産婦及び母子救護所について②」 (担当：文京区防災課)	復習：避難所が開設されたときの自分の動きを想定して書き出す。 (60分)
第24回	献血セミナー 受講を通してその理論とボランティア精神を学ぶ (担当：日本赤十字社)	復習：献血の重要性について学んだことをまとめる。(30分)
第25回	危機管理教育6 「禁止薬物について」 (担当：大塚警察)	復習：禁止薬物を知り、配布プリントを復習する。(30分)
第26回	大学祭・学習発表会における取組 (担当：全専任教員)	準備：学習発表として大学祭の準備を行う。(120分)
第27回	学長講話⑤ 資格取得の意義・社会人としてのマナー④	復習：配付されたプリントに沿って復習を行う。(30分)
第28回	和食マナー研修「マナーのこころを学ぶ」 (担当：1年担任)	準備：箸遣い等と和食マナーに必要な事項を調べる。(30分)
第29回	就職ガイダンス 先輩(在学生)の講話 (担当：1年担任)	準備：就職活動において必要となることを考え、事前に情報を集め、準備する。(30分)
第30回	専攻科介護福祉専攻について (担当：専攻科教員)	準備：介護施設に就職することを考えてみる。(30分)

定時試験 「1年間授業を受けてきて、今後どのように自身のキャリア形成をしていこうと考えていますか」のレポートを課す。

フィードバックの方法：

保育ボランティア実習後の日誌提出について、添削後コメントを添えて返却する。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：内容に応じて各種プリントを配布

学生に対する評価：各分野における取組(100%)ごとに、各担当が学生の学習成果達成度の評価を行い、その集計を100点満点に換算して科目の最終評価とする。

授業科目名：1101210212 法学（日本国憲法） 1年後期	必修：（卒）・幼・（保）	単位数： 2単位	担当教員名： 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める教科		
学習成果該当番号：3. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】私たちは、法の網の中で生活しているといわれ、気づかないうちに法と密接な係わりをもっています。そこで、現代の社会の中での法の役割・機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけ、論理的に考えることができますようにします。 【テーマ】法治国家の一員としての自覚をもち、法の重要性について理解することをテーマとします。国家の統治および組織に関する基本法である日本国憲法をはじめとする法やその制度が実際の社会生活において、どのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通じて理解することができますようにします。			
授業の概要：法の基本的な事項、すなわち、法と道徳との相違、法の存在形式や法の適用と解釈について、理解できるようにします。そして、日本国憲法の基本原理や基本的人権（自由権、社会権や人権確保のための権利）をみていきます。また、日本国憲法が規定する国会・内閣の機能や裁判所の役割、そして地方自治の制度についても、判例や事例をあげて考察します。さらに国民（有権者）が裁判に参加する裁判員制度についても扱い検討します。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	法の概念、現代の社会の中での法の役割について理解する。	予習：シラバスを読み、各回のテーマについて確認し（60分）、教科書pp.16-29をよく読んでおく（60分）。法の概念、役割についてまとめておく（60分）。	
第2回	法と道徳－共通点、相違点などを考え、議論する。	予習：教科書pp20-25を確認しておく（120分）。復習：法と他の社会規範、特に道徳について、整理しておく（60分）。	
第3回	法の種類、法の目的、法の効力など。自己採点式の確認テストをし、解説をする。	予習：前回の内容を振り返るとともに、教科書pp.32-96を確認しておく（120分）。復習：法の目的や効力について整理し、よく理解する（60分）。	
第4回	国民の訴訟への参加と裁判員制度－国民が裁判に参加する仕組み、映像も使用する。	予習：教科書pp.101-108を確認しておくとともに、裁判員制度について考えてみる（45分）。復習：裁判員制度の長所や短所についてよく整理しておく（45分）。	
第5回	日本国憲法の経緯－特に映像等も使用する。	予習：教科書のpp.112-116を読み、制定過程について調べてみる（120分）。復習：日本国憲法がどのような背景のもとで制定されたかについてまとめておく（60分）。	
第6回	日本国憲法の基本原理－民主主義、平和主義、基本的人権尊重主義、小テスト（第7回において返却、解説）	予習：教科書のpp.117-121を確認し、日本国憲法の基本原理の重要性について考えておく（60分）。復習：日本国憲法の基本原理について、整理しておく（120分）。	
第7回	基本的人権の沿革－歴史的にどのように基本的人権が保障されてきたか－、幸福追求権、新しい人権。前回の小テストの返却・解説	予習：日本国憲法の保障する人権内容について教科書のpp.122-127を確認しておく（90分）。復習：小テストの内容について再確認したうえで、基本的人権、幸福追求権、新しい人権について整理、理解しておく。（90分）	

第8回	法の下での平等，自由権の基本権－精神的自由権	予習：法の下での平等，精神的自由権に関して，教科書のpp. 127－134を確認しておく（90分）。復習：平等権、精神的自由権について整理しておく（90分）。
第9回	自由権の基本権－経済的自由権，身体的自由権	予習：教科書のpp. 134－140を読んでおく（90分）。復習：経済的自由権，身体的自由権の内容についてその内容をまとめておく（90分）。
第10回	社会権①－意義，生存権，教育を受ける権利，自己採点式の確認テストを実施し，解説を行う。	予習：教科書のpp. 140－43をよく読んでおく（60分）。復習：生存権や教育を受ける権利についてよく考え整理しておく（120分）。
第11回	社会権②－勤労の権利，労働基本権，不当労働行為，人権確保のための権利－国家賠償請求権，刑事補償請求権	予習：教科書のpp. 143－148をよく読んでおく（60分）。復習：勤労の権利，労働基本権，人権確保のための権利についてまとめておく（120分）。
第12回	わが国の統治の仕組み①－立法権，国会の憲法上の地位，国会の構成，国会の権能	予習：教科書のpp. 149－161をよく読んで国会の働きについて考えてみる（90分）。復習：国会の憲法上の地位，構成・権能について整理しておく（90分）。
第13回	わが国の統治の仕組み②－行政権，内閣の組織，議院内閣制	予習：教科書のpp. 162－172をよく読んでおく（90分）。復習：内閣の組織や議院内閣制について整理しておく（90分）。
第14回	司法権 裁判所，違憲立法審査権	予習：教科書のpp. 173－183をよく読んでおく（90分）。復習：司法権，裁判所の機能，意見立法審査権について整理しておく（90分）。
第15回	平和主義，地方自治－住民自治，団体自治，自己採点式の確認テストの実施・解説	予習：教科書のpp. 184－194をよく読み，平和主義や地方自治についてよく考えてみる（90分）。復習：平和主義，地方自治について整理しておく（90分）。
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う		
テキスト：『スタンダード法学』 川端敏朗・松嶋隆弘編著 芦書房		
参考書・参考資料等：『憲法 第六版』 芦辺信喜著 高橋和之補訂 岩波書店，『憲法とは何か』 長谷部恭男著 岩波新書		
学生に対する評価：授業時の積極性（授業時の議論の発言内容，小テスト・理解度テスト等による授業の各項目の課題への取り組み・理解など）（20%）および定時試験（80%）によって評価します。		

授業科目名：1100210311 心理学（選択） 1 年前期	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 人間の心の仕組みや、心の働きと行動との関係を理解し、生活に役立てることを目標とする。 【テーマ】 ①人と関わる際に役立つ考え方や心の仕組みを理解する ②新しい行動を身につける仕組みを理解して実践する ③心理的不適応とその支援について理解する ④先行研究や実験を通して心理学の基礎について学び、心理学的観点から日常生活を見直すと共に、保育者として必要な人間理解の基盤を作る。			
授業の概要：「こころ」に関する科学としての心理学に対する興味・関心を喚起し、さまざまな領域にわたる心理学の基礎的な知識の習得を目的とする。内容としては、現代の心理学が対象としている領域のうち、認知（知覚、学習、思考）、行動（パーソナリティ、障害、心理療法）、社会（対人行動、社会適応）を中心に基礎知識を学ぶと共に、体験を通して実践力を高めていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	心理学とは何か		
第 2回	知覚一周りの世界をどうとらえるか 小テストの実施と解説 錯視についての簡単な実験を行い、レポートを作成する。	pp8-26を読む（60分）	
第 3回	社会的態度の変容ーバランス理論と認知的不協和理論 小テストの実施と解説 フィードバックとして第2回のレポートにコメントを返す。	自分と相手の意見が異なる ときの対処を書き出す （60分）	
第 4回	社会的影響（1）ー他者の存在がどのような影響を及ぼすか 小テストの実施と解説	pp35-39、55-59を読む。 他者から影響を受けている 行動を振り返る（60分）	
第 5回	社会的影響（2）ー説得的なコミュニケーション 小テストの実施と解説 グループワークとグループ発表	意見の異なる相手を説得で きた方法についてまとめる （60分）	
第 6回	社会的影響（3）ー情報の伝達はどのように変わるか 小テストの実施と解説	pp96-103を読む。 誤った情報に影響された経 験をふりかえり、理由を考 える（60分）	
第 7回	パーソナリティと個人差（1）性格の考え方 小テストの実施と解説	pp168-173を読んで、自分 の性格特徴を書き出す （60分）	
第 8回	パーソナリティと個人差（2）性格検査 小テストの実施と解説	pp124-127を読む。 性格検査にはどのような種 類があるか調べる（60分）	
第 9回	学習の理論ー経験から学ぶ 小テストの実施と解説	pp74-81を読む（60分）	
第10回	応用行動分析ー行動はどのように変わっていくか 小テストの実施と解説 自らの行動変容の方法と結果についてレポートを作成する。	片づけられない行動を変え るための方法を考える （60分）	
第11回	ストレスとストレス・マネジメント	pp174-177、198-201、210-	

小テストの実施と解説		213を読む。 自らのストレスとストレス反応を振り返る (60分) 統合失調症について調べる (60分)
第12回	心理的障害の理解 (1) 青年期まで 小テストの実施と解説 フィードバックとして第10回のレポートにコメントを返す。	
第13回	心理的障害の理解 (2) 青年期以降 小テストの実施と解説	pp82-89を読む うつ病について調べる (60分)
第14回	心理療法の諸理論と適応支援のための心理臨床 小テストの実施と解説	pp200-209、214-225を読む。 (60分)
第15回	まとめ 学んだ心理学的理論や技法を日常生活にどのように取り入れたかについてレポートを作成する。後日、レポートにコメントを添えて返却する。	今までの学習をまとめて整理する (60分)
定時試験 筆記試験あり		
テキスト：「本当にわかる心理学」 植木理恵 日本実業出版社		
参考書・参考資料等：テーマに合わせた資料を配布し、参考書はその都度紹介する。		
学生に対する評価：定時試験（60％）、小テスト（20％）とレポート（20％）で、総合的に判断し評価する。		

授業科目名：1100010412 公務員試験対策講座（選択） 1年後期		選択：	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里 他 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 4. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ：公務員採用試験（保育士及び一般職）に必要な基礎的知識の習得を目標とする。教養試験・専門試験の内容を中心に取り組む。最終的には広い教養を身につけ、公務員試験の合格を目指す。				
授業の概要：本授業は公務員（主に保育士）を志望する学生を対象とする。公務員採用試験の合格を最終目標とし、そのために必要な内容に取り組む。一般教養・保育士専門・小論文・面接・履歴書・志願書の書き方などについて理解を深めていく。特に、教養試験に関する問題に多く取り組む。多くの過去問題に取り組むことで試験内容に慣れ、苦手意識の克服を目指す。				
授業計画：				
回数	内容	準備学習		
第 1回	授業内容についてのオリエンテーション。受験希望自治体の試験内容を確認する。	予習：シラバス及びテキスト内容の確認。公務員（保育士）について調べ、受験希望自治体の試験内容について調べる。（1時間） 復習：本授業内容について理解する。複数の受験希望自治体について試験内容を確認し問題集に取り組んでみる。（1時間）		
第 2回	文章理解分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：文章理解分野について理解を深める。（1時間） 復習：文章理解分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 3回	数的推理分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：数的推理分野について理解を深める。（1時間） 復習：数的推理分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 4回	判断推理分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：判断推理分野について理解を深める。（1時間） 復習：判断推理分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 5回	資料解釈分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：資料解釈分野について理解を深める。（1時間） 復習：資料解釈分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 6回	社会科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：社会科学分野について理解を深める。（1時間） 復習：社会科学分野の過去問題に取り組む（1時間）		
第 7回	人文科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：人文科学分野について理解を深める。（1時間） 復習：人文科学分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 8回	自然科学分野の考え方を理解し課題に取り組む。教養試験対策。	予習：自然科学分野について理解を深める。（1時間） 復習：自然科学分野の過去問題に取り組む。（1時間）		
第 9回	保育原理、教育原理、社会的養護の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：保育原理、教育原理、社会的養護について理解を深める。（1時間） 復習：保育原理、教育原理、社会的養護の過去問題に取り組む。（1時間）		
第10回	児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学について理解を深める。（1時間） 復習：児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学の過去問題に取り組む。（1時間）		
第11回	子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論について理解を深める。（1時間） 復習：子どもの保健、子どもの食と栄養、家庭支援論の過去問題に取り組む。（1時間）		
第12回	保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習の考え方を理解し課題に取り組む。専門試験対策。	予習：保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習について理解を深める。（1時間） 復習：保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習の過去問題に取り組む。（1時間）		
第13回	小論文の課題に取り組む。	予習：小論文の書き方について理解する。（1時間） 復習：過去の小論文題目を知り、その内容について考えを深める。（1時間）		

第14回	個人・集団面接、集団討論の練習を行う。	予習：さまざまな面接形態を知り、自己アピールについて考えをまとめる。（1時間） 復習：受験希望自治体の過去に行われた面接内容を確認し考えを深める。（1時間）
第15回	履歴書、志願書等の書き方について学ぶ。	予習：これまでの学校生活を振り返り自己アピールについて考えをまとめる。（1時間） 復習：受験希望自治体の志願書について知り、実際に書いてみる。（1時間）
定時試験	筆記試験を行う。	
フィードバックの方法：第2回から第12回授業において行った過去問題等の解説・添削を行う。		
テキスト：毎授業でプリントを配付する。		
参考書・参考資料等：『スイスイわかる保育士採用』教養試験・専門試験（保育士採用試験情報研究会 編 一ツ橋書店）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省 編 フレーベル館）		
学生に対する評価：毎授業の取り組み（50%）、筆記試験（50%）で評価を行う。		

授業科目名：1100210511 ソルフェージュ（選択） 1 年後期	必修：	単位数： 1 単位	担当教員名： 桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 3. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ジャズアレンジの課題曲の歌唱活動を中心としたソルフェージュを通してト音記号、ヘ音記号による楽譜の読譜ができることを目標とする。またリズム譜における複雑なリズムや分割されたリズムを実際の打楽器を用いて演奏することで、その理解を深める。 【テーマ】 楽譜の読譜と初見視唱力と初見視奏力の向上			
授業の概要：合唱曲による各声部の演奏を通して楽譜の読み方を理解する。また実際に出された音やリズムを楽譜に書き表す活動を通して、臨時記号やアーティキュレーション（音と音のつながり方）に関する記号、スタカートやアクセント、スラーなどの適切な記述を習得する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 1（幼稚園でよく扱われる曲を中心にした視唱） 参考曲：ちゅうりっぷ、ぶんぶんぶん、きらきら星、おべんとう、おはよう（ヘ音記号については左手の伴奏譜の視唱）	準備学習として、毎回テキストからソルフェージュに関する課題を提示し、授業内で視唱する。（6 0 分） （ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方を練習し、あまり読み慣れていないヘ音記号に慣れるため階名唱する。個別に聴き能力に併せて課題を出す。）	
第 2 回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 2（上線と下線）プリント回答配布と答え合わせ	プリントによる上線と下線の位置の階名記述問題（6 0 分）答え合わせによるフィードバック	
第 3 回	ト音記号とヘ音記号の楽譜の読み方その 3（臨時記号と奏法を指示する用語記号）プリント回答配布と解説	プリントによる臨時記号と奏法を指示する用語記号の問題（6 0 分）	
第 4 回	音程、純正律（長 3 度と短 3 度音程について）プリント回答配布と解説、コールユーブンゲンによる音程練習	プリントによる音程問題（7 0 分）	
第 5 回	リズムの読み方（四分音符と八分音符および休符について）プリント回答配布とリズム唱、即興リズムの練習	リズムの分割、拡大と音価（音の長さ）に関するプリント問題（7 0 分）	
第 6 回	リズムの読み方（付点八分音符と十六分音符および休符について）プリント回答配布とリズム唱の練習	付点リズムの音価に関するプリント問題（6 0 分）	
第 7 回	リズムの読み方（シンコペーションのリズムについて）プリント回答配布とシンコペーションの楽譜のリズム唱練習	シンコペーションに関するプリント問題（6 0 分）	
第 8 回	2 声の合唱曲（音の重なりについて） 事前学習で練習したパートのどちらかをペアになって合わせる。	2 声の課題楽譜を見てどちらのパートも歌えるように練習（6 0 分）	
第 9 回	3 声の合唱曲（音の重なりと役割について） 事前学習で練習したパートのいずれかを 3 人グループで合わせる。	3 声の課題楽譜を見ていずれのパートも歌えるように練習（6 0 分）	
第 10 回	4 声の合唱曲（音の重なりと役割、声量のバランスについて）事前学習で練習したパートのいずれかを 4 人グループで合わせる練習	4 声の課題楽譜を見ていずれのパートも歌えるように練習（6 0 分）	
第 11 回	4 声の合唱曲（デユナーミク・強弱法について）	課題楽譜を見て強弱のつけ方を工夫して歌う練習（6 0 分）	

第12回	4声の合唱曲（アゴーギグ・速度法について） 事前学習で工夫したアゴーギグを実際に歌う中で活かして練習する。より適切なアゴーギグのつけ方についていろいろと試す中で見つける。わからない時は実際に指導者が歌いその違いについて感じ取る。	課題楽譜を見てアゴーギグ（速度を微妙に速めたり遅めたりする方法）のつけ方を工夫して練習する。（60分）
第13回	4声の合唱曲発表 各グループで練習した曲を発表しあう。	グループで発表に向けて練習する。（90分）
第14回	伴奏法（呼吸によるアインザッツの合わせ方） 練習したコードによる簡易伴奏を弾き歌の伴奏をする。実際にアインザッツ（歌いはじめ）の合わせ方を練習する。	左手は根音（ベースとなる音）右手でコードを弾くスタイルの楽譜の練習（90分）
第15回	伴奏法（ピアノと合唱の役割とバランス） コードによる簡易伴奏で合唱の練習をする。（実技試験） 伴奏法と歌唱法における実技をこれまでの学習内容（デュナーミク、アゴーギグ、アインザッツ他）を活かした演奏となっているか評価する。学生間でも相互評価を行い、評価票をまとめて学生に返却。	前時に用いた練習曲でアゴーギグやデュナーミクを意識した伴奏を練習する。（90分）
定時試験	あり 楽典に関する筆記試験（音価に関する記号、強弱・速度に関する記号、演奏に関する記号）	
テキスト：ジャズコーラス『ディズニー名曲集』ヤマハミュージックメディアより適宜プリントし配布		
参考書・参考資料等：『音楽家の基礎練習』音楽の友社、『『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『新ソルフェージュ単声～多声のリズムやメロディーと伴奏付き視唱』教育芸術社		
学生に対する評価：筆記による定時試験（30％）と毎授業での取り組み授業前後での実技向上の割合（20％）、及び授業最終回での実技試験（50％）から評価する。		

授業科目名：1100210611 障害者スポーツ		必修：	単位数：	担当教員名：岩井 幸博
1 年前期			1単位	担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6				
授業の到達目標及びテーマ： ・ 障がい者スポーツの意義や理念などを理解し, 説明できる ・ パラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックスについて説明できる ・ 障がい者スポーツ種目のルールを理解し、技能を高める				
授業の概要： 障がい者スポーツの意義や理念、成り立ち等を講義し、障がい者スポーツとして実施されている各種目を実技形式で学ぶ。実技を通して障がい者スポーツに親しみ、その楽しさ・面白さを経験する。また、障がい者に合わせた用具やルールの工夫などについて理解を深め、支援の仕方を身につけるとともに今後の障がい者スポーツへの関わり方を考える。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	オリエンテーション ・ 障がい者スポーツについてディスカッションする		興味のある障がい者スポーツについて事前に調べておく (60 分)	
第 2回	風船バレーボール ・ いろいろな姿勢でボールをつく動作を楽しむ (立位や座位)		風船バレーボールで使用する用具やルールなどを事前に調べる (60 分)	
第 3回	シットボール ・ ルールを理解し、様々なボールで試合を実施する		シットボールのルールや映像を調べ、確認する (60 分)	
第 4回	シッティングバレーボール ・ ルールと基礎技能を確認し、試合を実施する		シッティングバレーボールのルールや映像を調べ、確認する (60 分)	
第 5回	ボッチャ① ・ 用具、ルールを確認する チーム戦を行う		ボッチャのルールを調べる (60 分)	
第 6回	ボッチャ② ・ いろいろな投球方法を身につける 個人戦を行う		どのような投球方法があるか、調べる (60 分)	
第 7回	ボッチャ③ ・ ゲームを通して他者と交流する 審判法を理解する		個人戦、団体戦の映像を視聴する (60 分)	
第 8回	フライングディスク① ・ スローの技術を確認し、ストレート、カーブ、スキップスローなどの技術を習得する。		フライングディスクについて調べる (60 分)	
第 9回	フライングディスク② ・ アキュラシー・ディスタンスを体験する		フライングディスクの競技について調べる (60 分)	
第10回	ラダーゲッター ・ 用具、ルールを確認し、投げる遊びを体験する		ラダーゲッターの用具、ルールを調べる (60 分)	
第11回	ブラインドサッカー① ・ アイマスクを着用し、サッカーの基本技能を確認する		ブラインドサッカーのルールを調べる (60 分)	
第12回	ブラインドサッカー② ・ アイマスク着用の上、試合を実施する		見えない中で何を頼りに動くのか、考える (60 分)	
第13回	ユニバーサルホッケー、シューズホッケー ・ 用具、ルールの確認と試合を実施する		ユニバーサルホッケー、シューズホッケーのルールや映像を確認する (60 分)	
第14回	車椅子を使ったスポーツの体験【スラローム】 ・ 車椅子の操作技術を学ぶ 車椅子スラローム、バスケット、バドミントンなどのルールを確認し、実践する		車椅子を使用したスポーツについて調べる (60 分)	

第15回	授業の振り返りとまとめ ・内容について各自発表し、ディスカッションを行う。	各回で取り扱った種目について感想をまとめておく（60分）
定時試験	レポート課題として授業の振り返りとまとめを提示し、提示試験期間中に提出することで定時試験とみなす。	
フィードバックの方法：毎回の授業の最後に感想を述べ、感想に対してコメントする。 レポート課題にはコメントを付して返却する。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等： ・『障がい者スポーツ指導教本—初級・中級』日本障害者スポーツ協会（編集） ・公益財団法人 日本障害者スポーツ協会ホームページ		
学生に対する評価： 授業運営への積極的な参加、受講態度（60％）：観察によって評価する。 障がい者スポーツのルールの理解度（30％）：各種障がい者スポーツのルールなどを把握しているか 試合を通して評価する レポート課題（10％）：レポート内容を評価する		

授業科目名：1100210711 海外幼児教育短期留学（選択） 1 年前期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：奥 明子 他 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：				
1. オーストラリアの語学学校に短期留学することにより、英語の読む・聞く・話すスキルの上達と、実際の生活の中で英会話を実践することにより、英語のコミュニケーションスキルを身につける。 2. 保育に特化した講義と託児所やプレスクールの見学・交流に関する演習を行うことにより、オーストラリアの保育現場の理解を深める。				
授業の概要：				
1. 出発前の事前指導において、渡航の準備、海外での生活や異文化理解について学ぶ。 2. 提携校のプログラム参加において、英語研修とオーストラリアの幼児教育について総合的に学ぶ。そして、現地学生との交流や託児所訪問を通じて、体験的に学ぶ。 3. 帰国後の事後指導において、振り返りを行うことにより、英語学習とオーストラリアの幼児教育に関する理解の定着と日豪比較をするなど、視野を広げ、グローバルな視点を養う。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	出発前の事前指導①：オーストラリア研修の概要を把握する			事後学習として第4回～第12回について学習内容を復習する（60分）
第 2回	出発前の事前指導②：多文化社会における保育・幼児教育について理解する			
第 3回	オリエンテーション：短期留学における研修の目的と日程、及び研修内容の確認、インターネットアクセスの設定、ホームステイファミリーとのコミュニケーションと注意事項の確認			
第 4回	英語研修：自己紹介、及び、キャンパスツアーとプレイスメントテスト			
第 5回	英語研修・託児所訪問：日常英会話の練習、託児所の見学とフィードバック			
第 6回	講義「オーストラリアの幼児教育」とグループワーク演習			
第 7回	英語研修・プレスクール訪問：幼児に関する英語表現、プレスクールの見学とフィードバック			
第 8回	ホームステイファミリーと日本文化を通じたコミュニケーション			
第 9回	英語研修・託児所訪問：手遊びや児童文学に関する英語表現、託児所の見学とフィードバック			
第10回	英語研修：オーストラリアの文化や保育に関する英語表現			
第11回	演習「幼児教育の企画立案」とグループワーク演習			
第12回	英語研修・託児所訪問：子どもとのコミュニケーションに関する英語表現、託児所において、子どもや教員と交流			
第13回	まとめと振り返り：オーストラリアと日本の保育や幼児教育に関する理解とまとめ			
第14回	帰国後の事後指導①：オーストラリア研修の振り返りを行い、英語研修・幼児教育に関する講義・託児所等訪問・ホームステイの体験に関する発表会を行う			
第15回	帰国後の事後指導②：海外幼児教育短期留学の経験に基づいてレポート作成とフィードバック			
定時試験	現地研修終了時の試験成績と全体を通しての取り組み姿勢及び研修後の発表を総括して定時試験とする			

テキスト：なし（授業の中で、適宜資料を配布する）
参考書・参考資料等：授業の中で、適宜参考書や参考資料の紹介を行う
学生に対する評価：1～3を総合して評価する 1. 事前指導における取り組み姿勢 10％ 2. 研修全日程の修了（修了した者に対して、提携校より修了証が授与される） 80％ 3. 事後指導における発表とレポート 10％

授業科目名：1211110811 体育講義	必修：卒・幼・保	単位数：	担当教員名：岩井 幸博
1 年前期		1単位	担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 体育 幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科 保：教養科目 体育		
学習成果該当番号：1. 4. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】			
・生涯の運動・スポーツライフを考えることができる。			
・運動遊びやスポーツが子どもにどう影響するかを学び、保育者として人に説明できる。			
・子どもに適した運動会や体育祭種目を企画することができる。			
【テーマ】			
自分自身、親・保育者として、子どもの三つの視点から運動・スポーツに関する事柄を学ぶ。また生涯を健康に過ごすためには運動が重要であることを理解し、その意識を高める。			
授業の概要：			
生涯スポーツや障害者スポーツについて映像を元に講義する。運動やスポーツについては幅広く取り扱い、その内容を自分自身、親・保育者として、子どもの三つの視点から捉える。体育実技の授業内容ともリンクさせ、体育実技で撮影した動きの映像観察を通して運動する自分を客観視し、改善を図る。また運動会や体育祭などの歴史や意義について理解し、行事である体育祭種目の企画立案などを行う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	オリエンテーション	自身の幼児期から現在までの運動経験を振り返る（60 分）	
第 2回	・運動経験振り返りシートを作成する 障害者スポーツの紹介①	障害者スポーツとは何か調べる（60 分）	
	・前回運動経験振り返りシートについてのフィードバック		
第 3回	・障害者スポーツの理念と意義を理解する 障害者スポーツの紹介②	これまでの経験から自分自身の障害者スポーツとの関わりを振り返る（60 分）	
	・障害者スポーツの競技の種類やルールについて理解する		
第 4回	・障害者スポーツ大会のボランティアについて オリンピック・パラリンピックについて	オリンピック、パラリンピックの歴史について調べる（60 分）	
第 5回	・歴史や起源、競技の種類や開催地等を知る 体力と運動能力について	体力・運動能力とは何か、自分の考えをまとめる（60 分）	
	・体力と運動能力の定義とは何かを知る		
	・一般的な人の体力・運動能力とアスリートの体力・運動能力との比較から、人間の身体について理解する		
第 6回	現代の子ども、大人の体力について①	最近よく見聞きする子どもの姿についてまとめる（60 分）	
第 7回	・子ども、大人に起きている問題点 現代の子ども、大人の体力について②	子どものからだのおかしさの原因を調べる（60 分）	
	・特に子どものからだに起きている問題点②		
	子どもの体力、食事、睡眠について		
	・日本だけでなく世界でも問題に？グローバルな視点で捉える		
第 8回	運動神経が良い悪いとは何か？	運動神経が良い悪いとは何かを考える（60 分）	
	・映像を元に運動ができる・できないについて考える（レスポンスシートに記入し、提出する）		
第 9回	運動するための基本的動作について	基本的な動作とは何かを調べる（60 分）	
	・前回レスポンスシートについてコメントし、フィードバックする		
	・幼児期に経験しておきたい基本的な動作とは何かを理解する		

第10回	運動会・体育祭の起源と意義について ・運動会、体育祭は必要か	運動会、体育祭の起源を調べる (60分)
第11回	運動会・体育祭の運営と種目の企画 ・体育祭種目の企画書を練り、提出する	運動会、体育祭種目を考える (60分)
第12回	いろいろなスポーツ種目について① ・第 11 回に提出した体育祭種目の企画書についてフィードバックする ・ニュースポーツの紹介①	いままで経験したことのないスポーツ種目について調べる (60分)
第13回	いろいろなスポーツ種目について② ・グループで興味のあるスポーツを紹介しあう	興味を持ったスポーツの映像を視聴する (60分)
第14回	自分自身の動きの客観視 ・幼児ダンステストの映像観察 映像を観察し、自己分析を行う レスポンスシートに記入し提出する	幼児ダンスのテストを受けた感想をまとめておく (60分)
第15回	授業の振り返りとまとめ ・第 14 回のレスポンスシートについてフィードバックする ・授業の振り返りとまとめを行う ・レポート課題の内容を提示する	各回で取り上げた内容について復習する (60分)
定時試験	第15回に提示するレポート課題を試験期間最終日に提出することで定時試験とみなす。	
フィードバックの方法： ・毎回の授業の感想やレスポンスカードをまとめて、共有ドライブ上で全員に共有し、口頭でコメントする。 ・レポート課題は採点次第、コメントを付して返却する		
テキスト：・適宜プリント等資料を配布する。		
参考書・参考資料等： ・『子どもに体力をとりもどそう』宮下充正著、杏林書院、 ・『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省		
学生に対する評価： ・授業に積極的に取り組む態度等を観察によって評価する（20％） ・各回の課題提出および提出物の内容によって評価する（20％）、 ・第15回に提示するレポートの提出および内容によって評価する（60％）		

授業科目名：1211110912 体育実技 1 年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：実技 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養科目 体育 幼：教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める教科 保：教養科目 体育		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・生涯にわたって運動やスポーツに親しめる力を身につける。 ・仲間とコミュニケーションを取り、身体を動かす心地よさ、楽しさを感じることができる。 ・恥ずかしがらずに身体表現することができる。 【テーマ】 ・いろいろな運動遊びやスポーツ種目、伝承遊びなどを実践する。 ・運動やスポーツを通して、他者とコミュニケーションを取る。 ・毎回保育現場で踊る幼児ダンスを習得する。			
授業の概要： 人生を健康で豊かに過ごす為には、運動習慣が不可欠である。体育実技では、生涯を通して運動する習慣を身につける為に、さまざまな運動やスポーツ種目に取り組み、仲間と共にからだを動かす心地よさ、楽しさを体感する。その経験を今後の日常生活の運動習慣の形成につなげる。また、保育者養成の観点から子どもに運動の楽しさを伝えることができる人物の育成を目指す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ガイダンス（授業概要・注意事項説明）・幼児ダンス① ・体育実技で大切にすること、体育館の使い方等を理解する。 ・運動遊びを介して仲間と交流する。 ・『ぼくのミックスジュース』を踊る	教科書pp48-50、『ぼくのミックスジュース』のダンスを振り起こす (60分)	
第 2回	幼児ダンス②・基本ステップ・ソフトバレーボール① ・前回ダンスを復習で踊る ・『あ・い・う・え・おにぎり』を踊る ・基本ステップを習得する (歩、ギャロップ、スキップ) ・ソフトバレーボール① 基本的な技能を確認する	教科書 pp31-35、『あ・い・う・え・おにぎり』のダンスを振り起こす (60 分)	
第 3回	幼児ダンス③・基本ステップ②・ソフトバレーボール② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『すきすきおかあさん』を踊る ・基本ステップを習得する ・ソフトバレーボール② ラリーを続ける (ビーチボールを使用する)	教科書pp136-138、『すきすきおかあさん』のダンスを振り起こす (20分)	
第 4回	幼児ダンス④・お手玉①・ソフトバレーボール③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『アイアイ』を踊る ・伝承遊び お手玉①よせ玉 拾い技、ゆり玉 振り技を理解する ・ソフトバレーボール③ 試合を行う	教科書pp56-59、『アイアイ』のダンスを振り起こす (60分)	
第 5回	幼児ダンス⑤・お手玉②・ソフトバレーボール④ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ドレミの歌』を踊る ・伝承遊び お手玉② 3つ玉ジャグリングを練習する ・ソフトバレーボール④ 試合を行う	教科書pp96-100、『ドレミの歌』のダンスを振り起こす (60分)	
第 6回	幼児ダンス⑥・お手玉③・バスケットボール① ・前々回、前回ダンスを復習で踊る	教科書pp104-107、『ほしぞらカーニバル』のダンスを振り起こす	

	・『ほしぞらカーニバル』を踊る ・伝承遊び お手玉④ ジャグリングの練習をする ・バスケットボール① 基本的な技能（ドリブル、パス、シュート）を遊びの中で習得する	り起こす（60分）
第7回	幼児ダンス⑦・長なわとび①・バスケットボール② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『虫歯建設株式会社』を踊る ・長なわとび① むかえなわ、かぶりなわ ・バスケットボール② 基本的な技能を活用する	教科書pp108-111、『虫歯建設株式会社』のダンスを振り起こす（60分）
第8回	幼児ダンス⑧・長なわとび②・バスケットボール③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ドラネコ・ロックン・ロール』を踊る ・長なわとび② むかえなわ8の字跳び、ダブルダッチを経験する	教科書pp75-79、『ドラネコ・ロックン・ロール』のダンスを振り起こす（60分）
第9回	幼児ダンス⑨・長なわとび③・サッカー① ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『おさかな天国』を踊る ・長なわとび③ 回し手を経験する ・サッカー① 蹴る遊び、ボールを蹴る、止める動作を理解する	教科書pp40-43、『おさかな天国』のダンスを振り起こす（60分）
第10回	幼児ダンス⑩・長なわとび④・サッカー② ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『ぼくらのロコモーション』を踊る ・長なわとび④ いろいろな跳び方をする ・サッカー② 蹴る遊び、パスを主とした試合を行う	準備学習：教科書pp112-115、『ぼくらのロコモーション』のダンスを振り起こす（60分）
第11回	幼児ダンス⑪・サッカー③ ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・『アイスクリームのうた』を踊る ・サッカー③ 試合を行う	教科書pp18-21、『アイスクリームのうた』のダンスを振り起こす（60分）
第12回	プレイソングテスト全11曲・ドッジボール ・前々回、前回ダンスを復習で踊る ・プレイソングテスト全11曲（自己評価シートの記入） 幼児ダンスの習得度をテストする ・ドッジボール ルールの確認と試合	今まで習ったダンスの振り付けを確認、練習する。振り付けは、教科書、共有ドライブの映像教材を活用するとよい（60分）
第13回	体育祭種目の企画と実施① ・過去の体育祭種目の実施① ・学生が企画した体育祭種目の練習	今まで経験してきた運動会・体育祭種目を振り返る（60分）
第14回	体育祭種目の企画と実施② ・過去の体育祭種目の実施② ・学生が企画した体育祭種目の練習	前回実施した種目内容を振り返り、ルールの改善点などを考える（60分）
第15回	体育祭種目の練習と授業の振り返り ・体育祭種目の練習、授業の振り返りを行う ・授業評価アンケート	体育祭種目実施上の注意点や作戦などを考える（60分）
定時試験	第12回に実施する幼児ダンステストおよびダンスの振り返りシートの提出、第15回目に実施する授業の振り返りシートの提出を定時試験とみなす。	

フィードバックの方法：

- ・実技課題に関しては観察し、即時口頭でフィードバックする。
- ・幼児ダンスのテストについては、終了後に振り返りを行い全体に対してコメントする。
- ・第15回振り返りシートの提出後、共有ドライブで各学生からのコメントを匿名で公表し、共有する。教員からは全体的なコメントを付す。

ICT活用について：テスト映像はWeb上の共有ドライブにアップロードし、受講生はいつでも閲覧できるようにする。スマートフォンやパソコンから各自アクセスすることで、復習や振り返りを行えるように設定する。また、テストまでのダンスについては、昨年の様子や映像教材を視聴できるように共有ドライブにアップロードする。受講生はいつでも映像を確認、視聴し予習、復習できるようにする。

テキスト：・『プレイソング2』 田中(賀来)良江・豊田泰代著、チャイルド本社

参考書・参考資料等：

- ・ 幼児ダンスや運動遊び系の書籍（本学図書館で借りられます）
- ・ 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省
- ・ 『保育所保育指針解説』 厚生労働省
- ・ 参考資料として、幼児ダンスの映像教材を Web 上の共有ドライブにアップロードする。受講生はスマートフォンやパソコンから閲覧することで幼児ダンスの予習・復習を行えるように設定する。

学生に対する評価：

- ・ 授業に積極的に参加する意欲や態度を観察によって評価する（40％）
- ・ 各回で習った幼児ダンスを第12回授業時にテストする。評価は、振りを覚えているか、恥ずかしがらずに身体表現できているか、子どもの前で踊れるか等を観察によって評価する（40％）
- ・ 実技課題であるお手玉のジャグリングへの取り組みを回数や動きの観察によって評価する（10％）
- ・ 第15回に実施する振り返りシートの提出と内容を評価する（10％）

授業科目名：1311111012 英語コミュニケーションⅠ 1年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：奥 明子、猪俣 佳瑞美 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 語学 幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める教科 保：教養科目 外国語		
学習成果該当番号：5			
授業の到達目標及びテーマ： 授業の到達目標は、日常英会話として役立つ英語表現を身につけることである。そのために、保育園や幼稚園での実際の英語使用場面を想定しながら英語の基礎を学ぶ。			
授業の概要： テキスト『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』を使用し、基本的に1Unitを2回の授業で扱う。1回目には主に、リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習を行い、2回目の授業では主に、英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習を実施する。準備学習として、指定箇所に目を通し、知らない単語の意味を調べておくこと。また授業後には復習をしっかりと行うこと。			
授業計画：授業には、必ず英和辞書を持参してください。 全ての講義は、学生参加型のアクティブ・ラーニング形式で行う。そのため、学生はペアやグループに与えられたタスク（課題）に挑戦し、導き出した答えをクラス全体に発表する、という活動に取り組む。そのため、主体的かつ積極的に講義に参加することが期待される。講義内で実施した課題の発表に対して、講師はフィードバックを行い、英語に関する理解が深められるようアドバイスを行う。			
回数	内容	準備学習	
第1回	オリエンテーション 授業の説明 Pre-unit Please Speak More Slowly 挨拶・自己紹介 英語でコミュニケーションをするときの基本表現を学ぶ	60分：p1-3 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第2回	Unit1-1 Hi, I'm Yuri Tanaka 人に何かを頼む表現 保育時間の表現などを学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p4-5 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第3回	Unit1-2 Hi, I'm Yuri Tanaka 人に何かを頼む表現 保育時間の表現などを学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック	60分：p6-7 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第4回	Unit2-1 Where Is the Multi-purpose Room? 園内の案内 位置を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p9-10 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第5回	Unit2-2 Where Is the Multi-purpose Room? 園の構成員 戸外での道案内を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック 『英語クリスマスカード』作成の説明	60分：p11-12 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第6回	Unit3-1 Good Morning. How Are You Today? 登園時の会話 今日の調子を聞く・答える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p14-15 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第7回	Unit3-2 Good Morning. How Are You Today? 持ち物 数字 手遊び歌を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英語による歌の練習	60分：p16-17 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第8回	Unit4-1 What Color Do You Like? 工作時間の会話 好きなもの／嫌いなものを聞く what の表現 リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 『英語クリスマスカード』の回収	60分：p19-20 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第9回	Unit4-2 What Color Do You Like	60分：p21-23 指定箇所に目	

	e ? 工作やお絵かきで使う道具に関する英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック	を通し、知らない単語を調べておくこと
第10回	Unit5-1 There's a Ladybug on the Leaf 園外散歩での会話 場所を表す表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p24-25 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第11回	Unit5-2 There's a Ladybug on the Leaf 集団で行う園活動 教室内のものの場所を示す英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック	60分：p26-27 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第12回	Unit6-1 It's Time to Play Outside 園庭での会話 人に何かするよう／しないように言う表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p29-30 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第13回	Unit6-2 It's Time to Play Outside 遊具の名前を示す英語を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習、講師からのフィードバック	60分：p31-33 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第14回	Unit1-3までのまとめ 小テスト 答え合わせ後に解説	60分：授業で扱ったunit1-3内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと 結果に対し、講師からのフィードバックを行う
第15回	Unit4-6までのまとめ 定時試験について	60分：授業で扱ったunit4-6内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す		
テキスト：『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』（土屋麻衣子 著） 金星堂		
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する		
学生に対する評価： 作品提出20%、定時試験40%・小テスト30%、授業態度10%で評価する。		

授業科目名：1311111121 英語コミュニケーションⅡ 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：奥 明子、猪俣 佳瑞美 担当形態：演習 オムニバス
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：教養教育科目 語学 幼：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める教科 保：教養科目 外国語		
学習成果該当番号：5			
授業の到達目標及びテーマ： 授業の到達目標は、日常英会話として役立つ英語表現を身につけることである。そのために、保育園や幼稚園での実際の英語使用場面を想定しながら英語の基礎を学ぶ。			
授業の概要： 英語コミュニケーションⅠから引き続き、テキスト『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』を使用する。基本的に1Unitを2回の授業で扱う。1回目には主に、リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習を行い、2回目の授業では主に、英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習を実施する。準備学習として、指定箇所に目を通し、知らない単語の意味を調べておくこと。また授業後には復習をしっかりと行うこと。			
授業計画： 授業には、必ず英和辞書を持参してください。 全ての講義は、学生参加型のアクティブ・ラーニング形式で行う。そのため、学生はペアやグループに与えられたタスク（課題）に挑戦し、導き出した答えをクラス全体に発表する、という活動に取り組む。そのため、主体的かつ積極的に講義に参加することが期待される。講義内で実施した課題の発表に対して、講師はフィードバックを行い、英語に関する理解が深められるようアドバイスをを行う。			
回数	内容	準備学習	
第1回	オリエンテーション 春休みにあったことを英語で伝える	60分：春休みに行ったことを英語で伝える場合、どのように表現できるか考えてみること	
第2回	Unit7-1 She Is Allergic to Eggs 保護者からの相談 食に関する好き嫌い・アレルギーの有無を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p34-35 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第3回	Unit7-2 She Is Allergic to Eggs 手洗いや歯磨き 食材の名前を伝える表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習	60分：p36-37 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第4回	Unit8-1 You Should Go to the Bathroom お昼寝時間の会話 しなければならないこと・する必要があることを伝える表現 リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p39-40 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第5回	Unit8-2 You Should Go to the Bathroom お昼寝に関する表現 英語圏のジェスチャー 手遊び歌を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習	60分：p41-43 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第6回	Unit9-1 We Made Masks Today 降園時の会話 1日の活動と様子を伝える表現（動詞の過去形）を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p44-45 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第7回	Unit9-2 We Made Masks Today 動詞の過去形 クリスマスについて伝える英語表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 『英語のアルファベットかるた』作成に向けての説明	60分：p46-47 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	
第8回	Unit10-1 If It Rains, What Happens? 園行事予定についての会話 「もし～なら」という仮定の表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習 『英語のアルファベットかるた』用英単語下書き用紙の回収	60分：p49-50 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと かるた用の英単語をまとめる	
第9回	Unit10-2 If It Rains, What Happens? 園行事の英語名 体操の名称を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習	60分：p51-53 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと	

第10回	Unit11-1 What Shall We Do Today? ネイティブとの打ち合わせ Shall I / we ...? と Will you ...? を用いた表現と応答を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p54-55 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第11回	Unit11-2 What Shall We Do Today? 時刻を表す英語 を学ぶ 英語で歌を歌う練習 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 添削した『英語のアルファベットかるた』用英単語下書き用紙を返却	60分：p56-58 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第12回	Unit12-1 I Feel Feverish 体調不良の園児との会話 病気やけがの症状を伝える表現を学ぶ リスニング演習、語彙の確認、リピーティング練習	60分：p59-60 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと
第13回	Unit12-2 I Feel Feverish 医療品の英語 身体の部位・家系図を伝える表現を学ぶ 英語表現の紹介、リスニング演習、英会話の練習 『英語のアルファベットかるた』を回収する	60分：p61-63 指定箇所に目を通し、知らない単語を調べておくこと 『英語のアルファベットかるた』の作成
第14回	Unit7-9までのまとめ 小テスト 答え合わせ後に解説	60分：授業で扱ったunit7-9内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
第15回	Unit10-12までのまとめ 期末試験について	60分：授業で扱ったunit10-12内容を見直し、不明な点があれば質問できるようにしておくこと
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す		
テキスト：『Happy English for Childcare：保育のための基礎英語』（土屋麻衣子 著） 金星堂		
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する		
学生に対する評価：作品提出20%、定時試験40%・小テスト30%、授業態度10%で評価する。		

授業科目名：1401211211 情報機器操作入門 1 年前期	必修：（卒）・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：清水 文也 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める教科		
学習成果該当番号：4. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育の現場や学生生活で必要とされる情報機器操作の基礎を身につけることを目標とする。メール、学内ネットワーク、貸出用パソコンなど、学内の情報環境を円滑に活用できる。 【テーマ】 ①保護者や関係者へのお便りやビジネス文書、保育施設内の掲示物、大学でのレポートなどの作成に役立つ基本的な文書作成ができる。②施設や一般企業での実務処理や大学での学習において比較的使われることの多いデータ管理やグラフ作成など、表計算ソフトウェアの基本的な操作ができる。			
授業の概要： Word や Excel など広く利用されているソフトウェアを用いて練習用の課題を完成させることによって、学生として、将来社会人として必要とされる基本的な情報機器操作の知識と技術を身につける。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	文字の入力と変換 ・ シラバス概要及び受講上の注意事項を説明 ・ 学内情報環境の説明（ログインの確認） ・ キーボード入力による文字入力と変換の演習	PCキーボードについて下調べをする。また、各自に配布されたPCログイン用のIDとパスワードの通知書を持参する(60分)	
第 2回	Windows の基本操作 ・ ファイル&フォルダー操作演習 （作成、コピー、削除、移動、名前変更） ・ WebMail によるメール送信確認とマナー	Windows OS について下調べをする(60分)。	
第 3回	Word①： ページ設定と印刷 ・ ページ設定（文書全体の設定）の演習 ・ 書式設定（文字の修飾）の演習 ・ 練習問題「送付状」	「ビジネス文書」について下調べをする(60分)。	
第 4回	Word②： 表の作成と編集 ・ 表の挿入方法と編集の演習 表（行）と表（列）の「結合と分割」 ・ 練習問題「案内書 1」	「表」について下調べをする(60分)。	
第 5回	Word③： 書式設定 ・ 書式設定（箇条書き・均等割り付け・ルビ） ・ ページレイアウトの設定（改ページ） ・ ヘッダーとフッターの挿入方法 ・ 練習問題「案内書 2」	「書式設定」について下調べをする(60分)。	
第 6回	Word④： 画像、ワードアート、図形の利用 ・ 画像の挿入と位置調整方法 ・ ワードアートの挿入方法と編集 ・ 図形の挿入と変形方法の演習 ・ 練習問題「募集案内」	「図解表現」を用いたビジネス文書について下調べをする(60分)。	
第 7回	Word⑤： レポート編集機能 ・ レポート見出し設定方法 ・ 文章校正（自動文章チェック機能）方法 ・ 練習問題「レポート編集」	「レポート」について下調べをする(60分)。	

第 8回	Word⑥：Excel連携機能 ・差し込み印刷機能 Excel 住所録をもとに宛先を変えて印刷 ・練習問題「申込書」	「差し込み印刷」について下調べをする(60分)。
第 9回	PowerPoint①：発表型スライド作成 ・研究発表等に必要な機能 ・練習問題「保育実習」	「発表方法」について下調べをする(60分)。
第10回	PowerPoint②：提案型スライド作成 ・企画等の提案に必要な機能 ・練習問題「ワークライフバランス」	「プレゼンテーション」について下調べをする(60分)。
第11回	Excel①：基本操作、データ入力演習 ・「行」と「列」の表形式を理解 ・文字、数値、日付の入力と編集方法 ・練習問題「表（単票形式）」	「表計算」について下調べをする(60分)。
第12回	Excel②：数式と関数、表の書式設定 ・数式と基本関数（合計、平均）の演習 ・表の書式設定と条件付き書式の違いを理解 ・練習問題「管理表 1」	合計や平均の演算方法について下調べをする(60分)。
第13回	Excel③：印刷設定、絶対参照、基本関数 ・ページレイアウトの設定方法 ・「相対参照」と「絶対参照」を理解 ・練習問題「管理表 2」	「関数」について下調べをする(60分)。
第14回	Excel④：グラフ作成（棒、円、複合グラフ） ・主要グラフの種類と用途を理解 ・間違いやすいグラフの設定方法 ・練習問題「結果表とグラフ」	「グラフ」について下調べをする(60分)。
第15回	総合課題（以下の課題を順に実施する） ①文章入力（360文字） ②文書作成（送付状） ③表計算（結果一覧）	これまでのWordとExcelの操作や機能について復習しておく(60分)。
定時試験	第15回の総合課題を定時試験とする。	
フィードバックの方法：フィードバックとして練習問題実施後、解答の解説を行います。		
テキスト：特になし		
参考書・参考資料等：杉本 くみ子（著）『30 時間アカデミック情報リテラシー Office2013』実教出版		
学生に対する評価：演習課題（80%）、授業態度（20%）を目安に総合的に評価する。		

授業科目名：1401211322 情報機器操作応用 2年後期	必修：幼	単位数： 1単位	担当教員名：清水 文也 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
学習成果該当番号：4. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育の現場や卒業研究において活用できる実践的な情報機器操作を身につけることを目標とする。 【テーマ】 ①幼稚園や保育所などで使われるお便り、保護者や子どもたちへの伝達手段としてのプレゼンテーション、音楽や写真をまとめた動画など、自ら構想した制作物を、情報機器を用いて作成できるようになる。②卒業研究にむけてプレゼンテーション資料の作成から発表までを自力で円滑にできるようになる。			
授業の概要： Word や Excel など一年次に学習したソフトウェアの復習、PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料の作成や発表、音声や動画を組み合わせたものを作成する			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	文書作成の復習 ・シラバス概要及び受講上の注意事項を説明 ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・Word復習課題「案内書」	これまでのWordの操作や機能について復習しておく(60分)。	
第 2回	文書作成応用（保育用）～遠足のお知らせ～ ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・サンプル「遠足のお知らせ」をもとに作成 主要機能：画像の挿入、キリトリ線、表の挿入	「遠足案内」の文章について下調べをする(60分)。	
第 3回	文書作成応用（保育用）～園だより～ ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・サンプル「園だより」をもとに作成 ・「園だより」に相応しい文章と必要事項の学習	「園だより」の文章について下調べをする(60分)。	
第 4回	文書作成応用（保育用）～ワードパズル～ ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・サンプル「ワードパズル」をもとに作成 自分でパズルの問題を考え、マスを設置していく	「ワードパズル」について下調べをする(60分)。	
第 5回	文書作成応用（保育用）～地図付き案内書～ ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・サンプル「地図付き案内書」をもとに作成 図形を用いて簡易的な地図の作成	図形を用いた地図について下調べをする(60分)。	
第 6回	表計算の復習 ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・Excel復習課題「請求書」	これまでのExcelの操作や機能について復習しておく(60分)。	
第 7回	表計算応用（保育用）～成長記録表～ ・10分間の文章入力（350文字以上を目標に） ・サンプル「成長記録表」をもとに作成 主要機能：グラフの挿入、関数、条件付き書式	Excelの特にグラフと関数について復習しておく(60分)。	

第 8回	スライド作成応用 ・コンテンツ制作に必要な技術の演習 ・PowerPointを使ったコンテンツサンプルを例示	これまでの PowerPoint の操作や機能について復習しておく(60分)。
第 9回	幼保用コンテンツ制作①（テーマの選定） ・各自コンテンツテーマの選定 ・マルチメディア化に相応しい題材を検討	サンプルをもとにテーマを絞っておく(60分)。
第10回	幼保用コンテンツ制作②（構成案の検討） ・スライドの構成（ラフスケッチ） ・素材の準備（画像、動画、音声）	コンテンツの構成を固めておく(60分)。
第11回	幼保用コンテンツ制作③（画像&動画収集と制作） ・画像や動画の編集加工 ・アニメーション効果と音声（効果音）の組合せ	アニメーション効果と音声ファイルとの連携方法を復習しておく(60分)。
第12回	幼保用コンテンツ制作④（仕上げとリハーサル実施） ・制限時間一人5分を目安にリハーサル ・コンテンツの構成などを再編する ※締め切りは第13回が始まる前までとする	5分間の調整方法を考えておく(60分)。
第13回	第 1 回コンテンツ制作発表 ・制限時間一人5分で順番に実施 ・発表者の問い掛けには視聴側も積極的に参加すること	コンテンツを完成させておく(60分)。
第14回	第 2 回コンテンツ制作発表 ・制限時間一人5分で順番に実施 ・発表者の問い掛けには視聴側も積極的に参加すること	リハーサルを入念に行っておく(60分)。
第15回	第 3 回コンテンツ制作発表 ・制限時間一人5分で順番に実施 ・発表者の問い掛けには視聴側も積極的に参加すること	リハーサルを入念に行っておく(60分)。
定時試験 幼保用コンテンツの制作物の提出及び、発表を定時試験とする。		
フィードバックの方法：フィードバックとして練習問題実施後、解答の解説を行います。		
テキスト： 特になし		
参考書・参考資料等：杉本 くみ子（著）『30 時間アカデミック情報リテラシー Office2013 』実教出版		
学生に対する評価：授業態度（20%）,演習課題（50%）,発表（30%）を目安に総合的に評価する。		

授業科目名：2111111410 保育の環境（音楽表現） 1年通年	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧、津布楽 杏里、 浅香 真理子												
		担当形態：演習 オムニバス													
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法														
学習成果該当番号：1, 2, 4, 5, 6, 7															
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ○ 音探しを通して、子どものまわりの音響に対する興味とその発達について理解する。 ○ 音遊びを通して、子どもの音に対する興味とその発達について理解する。 ○ 体を使った表現遊びについて理解する。 ○ 表現活動をより良くしていくために必要な音楽的知識を身に付ける。 ○ 実際の歌唱活動を通して子どもの声帯の発達や年齢に応じた曲の選択について理解する。 【テーマ】 子どもは環境によってどのような音楽的発達をするのだろうか。															
授業の概要： 子どもの周りにある音、例えば教室にいて聞こえるエアコンの動いている音、せみの声、人が動いた時の音、ドアが開閉する時の音などを注意深く聴いて発表する。その際、擬音語を用いることで音の質を表現する。音や声だけでなく、様々な表現方法があることを理解する。 自分の体や楽器以外の物を使用して音遊びを楽しむ。また、身の回りにある音の出るものを使ってリズム遊びをする。さらに、拍回しやリズムしりとり、ピアノの連弾や打楽器を用いた遊びを通して音やリズムへの興味を高め、子どもの発達について理解する。新しい子どものための歌に触れる体験を通して、子どもにとって必要な歌とはどのようなものなのかを考えていく。 わらべ歌による声の発達について理解する。(2音構成のわらべ歌、3音構成のわらべ歌、4音構成、5音構成・ペンタトニックスのわらべ歌)また遊び歌として伝承されてきたわらべ歌で実際に遊び、子どもの生活の中で歌がどのような役割をもってきたのかを理解する。童謡を歌う中で子どもの声域を理解し、無理のない自然な声の出し方について理解する。 これらの活動を通して、音に対する興味を深め、子どもの身の回りの音環境と音楽的発達とのかかわり方について理解する。 本授業では子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、身近な自然やものの音・音色、人の声や音楽等に親しむ経験を通して子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。そのために、複数の担当教員により教材活用を教授し、保育現場で子どもの感性を養うための遊びを展開することのできる力を身に付けていく。															
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td>領域「表現」について 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。</td><td>幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)</td></tr><tr><td>第 2回</td><td>身の周りの音 1 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。</td><td>調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)</td></tr><tr><td>第 3回</td><td>身の回りの音 2 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする）が、実際の体験を重視するためどれだけ多くの音環境を予</td><td>自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回	領域「表現」について 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)	第 2回	身の周りの音 1 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。	調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)	第 3回	身の回りの音 2 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする）が、実際の体験を重視するためどれだけ多くの音環境を予	自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)
回数	内容	準備学習													
第 1回	領域「表現」について 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針に書かれている事柄を知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」部分を読んでおく。(60分)													
第 2回	身の周りの音 1 耳をすまして聴こえた音を、擬音語を用いて発表する。 聴こえた音を自然の音、人工的な音、気持ちのよい音、いやな音などにわけ。 プリント提出による評価・確認。人工音と自然音の区別ができたか確認し、朱書きして返却。	調べるポイントを決め、予想される音環境をまとめる。(60分)													
第 3回	身の回りの音 2 身の回りにある音をできるだけたくさん集めて発表する。 プリント提出による評価・確認（より緻密に音環境を予想できているか確認、コメントによるフィードバックをする）が、実際の体験を重視するためどれだけ多くの音環境を予	自分の寝る部屋で就寝前に聴いた音、起床後に聴いた音をまとめる。(60分)													

第4回	想できたかという量的評価に留める。) 耳をすまして聴こえてくる音 オノマトペについて オノマトペについて理解を深め、ある事柄について多くの表現があることを知る。また、オノマトペを使用した遊びに触れ、新たな表現方法を考案していく。	オノマトペについて調べる。子どもとオノマトペの関係性について考える。
第5回	お気に入りの曲紹介 生活の中にある身近な曲のよさを他者に伝えることで、その曲の良さを改めて知る。 発表から曲の良さの捉え方を評価する。例えばア単に好き嫌いのみを書いている。イ好き嫌いの理由を書いている。ウ他の曲と比べて共通する点、異なる点を示し曲のよさを主観的な立場と客観的な立場いずれからも書いている。という3段階に分けて評価し、ウのような表現方法が望ましいことを理解させる。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	(60分) お気に入りの曲を選曲し、その良さをプリントに書く。 (60分)
第6回	体だけを使った表現 自分の体だけを使って音を出す方法を考える。なるべく多くの表現方法を考え、表現の多彩さを知る。また、他者の表現方法を参考にして、そこから新たな表現方法を考案していく。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	体を使って音を出す表現方法を考え、実際にやってみる。(60分)
第7回	楽器を用いた表現活動1 楽器を用いた表現活動について考える。子どもにとって望ましい楽器は何か、また表現方法について理解を深める。様々な楽器の使い方を知り、実際にやってみる。楽器を使った音遊びを通して、それぞれの楽器の特性を知る。音の出し方が奏法によって変わることを実際に体験し発表する。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	幼児に適した楽器について調べる。(60分)
第8回	楽器を用いた表現活動2 楽器を用いた表現活動について考える。子どもにとって望ましい楽器は何か、また表現方法について理解を深める。様々な楽器の使い方を知り、実際にやってみる。楽器を使った音遊びを通して、それぞれの楽器の特性を知る。音の出し方が奏法によって変わることを実際に体験し発表する。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	それぞれの楽器の成り立ちや構造について調べる。(60分)
第9回	リズムを意識した表現活動1 リズム遊びを通して様々なリズムがある事を知る。子どもにとって表現しやすいリズムや盛り上がるリズムを知り、実際に体験してみる。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	子どもの歌からリズムだけを抜き出し、表現してみる。(60分)
第10回	リズムを意識した表現活動2 様々なリズムを組み合わせ、心地よいリズムとはどのようなものなのかを知る。リズムがそろった時の充実感を体験する。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	リズム遊びについて調べる。(60分)
第11回	身体を使った表現活動1 手遊びや身体を使った遊びを通して、子どもの日常にあふれている身体的活動について知る。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	知っている手遊びなどをまとめる。(60分)
第12回	身体を使った表現活動2	新たな手遊びなどを考え

	身体的活動を伴った遊びや手遊びを考える。できるだけ多くのパターンを考案し、自らの表現方法を確立していく。また、発表を通して他者の表現から学ぶ。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	る。(60分)
第13回	音楽的知識 1 表現活動に必要な最低限度の音楽的知識を知る。子どものための歌の楽譜を参考にして、頻出する音符、音楽記号、音楽用語等について理解を深める。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	これまでに学んだ音楽的知識について振り返る。(60分)
第14回	音楽的知識 2 表現活動に必要な最低限度の音楽的知識を知る。子どものための歌の楽譜を参考にして、頻出する音符、音楽記号、音楽用語等について理解を深める。プリント提出による評価・確認。内容について評価コメントを書き返却。	子どものための歌に頻出する音符、音楽記号を列挙する。(60分)
第15回	現場で頻出する子どものための歌 今日、保育現場でよく歌われている子どものための歌について理解を深める。実際に体験してみるにより、多く歌われている理由を考える。	現場で多く歌われているだろう子どものための歌を列挙する。(60分)
定時試験	レポート課題を実施。	
第16回	わらべ歌で遊ぼう 2音構成のわらべ歌遊びを通して、子どもの自然な声の出し方や発達について理解する。プリント提出による評価・確認。	できるだけ多くのわらべ歌を調べてまとめる。(60分)
第17回	わらべ歌で遊ぼう 2 3音構成のわらべ歌遊びを通して、子どもの自然な声の出し方や発達について理解する。プリント提出による評価・確認。	事後学習として活動の感想をプリントにまとめる。(60分)
第18回	わらべ歌で遊ぼう 3 4音構成のわらべ歌を通して、より複雑な音構成について理解する。 他の学生が調べたわらべ歌を紹介しあうことでより多くのわらべ歌を共有させる。	授業でまだ紹介されていないわらべ歌について調べる。(60分)
第19回	わらべ歌で遊ぼう 4 5音構成のわらべ歌を通して、より複雑な音構成について理解する。 プリント提出による評価と課題を記述し返却する。	事後学習として子どもの成長にわらべうたはどのような役割があるか考察しプリントにまとめる。(60分)
第20回	わらべ歌で遊ぼう 5 グループごとにわらべ歌を1曲選び、遊び方を説明し発表する。 プリント提出による確認、評価をし学生へフィードバックする。	事後学習としてそれぞれの選んだわらべうたのよさについてプリントにまとめる。(60分)
第21回	童謡の音域 童謡の音域と子どもの声帯の発達を理解する。 プリント提出による評価・確認。	子どもの声と大人の声の違いについて考えプリントにまとめる。(60分)
第22回	童謡の描く世界 童謡のもつイメージや情緒を歌詞と旋律から感じ取る。 プリント提出による評価・確認。	「赤い鳥」運動について調べプリントにまとめる。(60分)
第23回	童謡の歴史 これまでの童謡を概観し時代によって変わり行くもの(歌詞の内容)と変わらないもの(子どもが歌うことで想像する世界)があることを理解する。 プリント提出による評価・確認。	自分が心に残っている童謡について調べプリントにまとめる。(60分)

第24回	子どもと歌 子どもの周りにある歌とその役割について歌唱活動を通して理解を深める。	現代の子どもたちはどのような歌を歌っているか調べる。(60分)
第25回	はねるリズムを使った童謡 おすもうくまちゃん、おなかのへるうた、おんまはみんな、かわいいかくれんぼ、グッドバイ、げんこつやまのためき、せんせいとおともだち等の歌唱活動を通してはねるリズムを理解する。	事後学習として付点八分音符と十六分音符の記譜を理解し、リズムが打てるようにする。(60分)
第26回	3拍子の童謡 こいのぼり、せいくらべ、気のいいあひる、きくの花、おしゃべりあひる、お家忘れて、あかちゃん、ぞうさん、たのしいワルツ等の歌唱活動を通して3拍子の曲に共通する曲想について理解する。	3拍子の童謡について調べる。(60分)
第27回	生活、季節に関する童謡 朝のあいさつ、おべんとう、はをみがきましょう、おかえりのうた等の生活に関する歌と雨降りお月さん、あわてんぼうのサンタクロース、サンタクロースがやってくる、うみ、うれしいひなまつり、十五夜お月さんなどの季節に関する歌の歌唱を通して生活や季節を素材とした童謡があり、時季によって歌われる歌も変化することを理解する。 発表による評価・確認。	季節の歌を調べる。(60分)
第28回	輪唱の歌 生活の中で遊び歌として歌われている輪唱曲について、歌唱活動を通して理解し、輪唱のための楽曲構造を理解する。 例：朝のあいさつ、かえるの合唱、かえるの夜回り、鐘がなる、こぶたぬきつねこ、さよなら、雪の踊り等	これまで経験してきた輪唱曲について振り返る。(60分)
第29回	ゲームの歌 動作化やゲームとして楽しめる歌を、実際に動作化、ゲーム化しながら活動し、生活の中で何もなくとも歌い楽しむことができることを理解する。例：アイアイ、アルプス一万尺、大きなくりの木の下で、すうじのうた、ピクニック、ホイマシペーター、やきいもグーチーパー等	知っているゲーム化した歌について調べる。(60分)
第30回	子どもと音環境 これまで活動を通して学んだ音楽から、子どもの身の周りにはどのような音環境があり、どのような楽器を使って楽しむことができるか、どのような種類の歌がありどのような場面で歌われているかについて学んだ内容をまとめる。	実際の保育現場を想像し、音楽が伴う場面を列挙する。(60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を実施	
テキスト：後期（16回～30回）神原雅之監修『幼児の音楽教育』教育芸術社、 声楽教本（教育芸術社）、今川恭子編著『おんがくのしくみ』教育芸術社		
参考書・参考資料等：小泉恭子著『いろいろな音をさがして遊ぼう』明治図書、厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領』、『こどものうたベストテン』ドレミ楽譜出版、永田栄一著『日本のわらべ歌遊び35』、神原雅之編著『リズムにどっぷり！リトミック77選』明治図書		
学生に対する評価： 前期：プリントによる振り返りと授業のまとめ(子どもの音環境の観点から理解を深めたか)の評価（50％）、自由な発想から音作りを楽しみ子どもへの理解を深めたか発表、実演からの評価（25％）、準備学習として出された課題に取り組んでいたかの評価（25％） 後期：定時試験からの評価（50％）、授業中に行う歌唱試験・発表・演奏からの評価（25％）、準備学習として出された演奏課題に取り組んでいたかの評価（25％） ＊最終成績は前期と後期の平均とする。		

授業科目名：2111211510 器楽（基礎） 1年通年	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧、津布楽 杏里、 山脇 一宏、森本 加奈、遠山 亜希、 中 美知子、大村 新 担当形態：演習 分担																				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目																						
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7																							
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 バイエル未習者に対しては、1年間でバイエル教則本 100 番台が弾けることを目標とし、バイエル教則本既習者に対しては、個々の能力にあった教材を選択し、さらなる表現能力の向上を目指す。これに加えて保育現場での実習を踏まえ、1年次においても弾き歌い曲を課題とし、演奏技術を身につける。このような技能を獲得し、幼稚園教育要領、表現に示された、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」子どもの活動を保障する。 【テーマ】 幼児教育において、ピアノ伴奏は、子どもの表現を引き出し、高めるための重要な役割を担っている。また、音楽は歌や踊りなどの活動になくはないものである。本科目では、演奏実習を通して、ピアノに関する基本的な知識や技術を身につけ、保育の中で扱う教材の伴奏法や、その教材の展開に必要な知識を習得させることをねらいとする。																							
授業の概要：個人の習熟度や経験をふまえて課題を設定する。毎回課題として出された曲をレッスンまでに譜読みし、練習することで指使い、触鍵(タッチ)、ペダルの使い方等の技術と、曲の構成(旋律の反復と対照)について学ぶ。このような授業を通して、保育の現場にふさわしいピアノの音色や強弱といったニュアンスを感じ取ることができる技能を身につける。グループレッソンの授業形態をとることで、他人の演奏から相互に学び高め合う効果も期待できる。																							
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回 ～ 第 5回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル 30 番程度まで進んでいること。正しい姿勢と指の使い方を知る。</td><td rowspan="10">準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習してくること。(毎回60分以上)</td></tr><tr><td>第 6回 ～ 第10回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル50番程度まで進んでいること。左右対照の指使い（右手が上行形、左手が下行形）触鍵(タッチ)の違いによるニュアンスの違いを感じる。</td></tr><tr><td>第11回 ～ 第15回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル60番程度まで進んでいること。旋律の反復と対照を理解して弾く。A・Bの二部形式、A・B・Aの三部形式を理解して弾く。ブルグミュラーの曲ではペダルの記譜とその使い方を理解する。</td></tr><tr><td>定時試験</td><td>あり（実技）</td></tr><tr><td>第16回 ～ 第20回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 生活の歌（おはよう、お弁当、歯をみがきましょう、おかたづけ、おかえりの歌）、初心者においては最低バイエル75番程度まで進んでいること。保育の現場でふさわしい音量と強弱を理解する。</td></tr><tr><td>第21回 ～ 第25回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル90番程度まで進んでいること。</td></tr><tr><td>第26回 ～ 第30回</td><td>個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル100番程度まで進んでいること。</td></tr><tr><td>定時試験</td><td>あり（実技）</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回 ～ 第 5回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル 30 番程度まで進んでいること。正しい姿勢と指の使い方を知る。	準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習してくること。(毎回60分以上)	第 6回 ～ 第10回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル50番程度まで進んでいること。左右対照の指使い（右手が上行形、左手が下行形）触鍵(タッチ)の違いによるニュアンスの違いを感じる。	第11回 ～ 第15回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル60番程度まで進んでいること。旋律の反復と対照を理解して弾く。A・Bの二部形式、A・B・Aの三部形式を理解して弾く。ブルグミュラーの曲ではペダルの記譜とその使い方を理解する。	定時試験	あり（実技）	第16回 ～ 第20回	個のレベルに応じたピアノ曲 生活の歌（おはよう、お弁当、歯をみがきましょう、おかたづけ、おかえりの歌）、初心者においては最低バイエル75番程度まで進んでいること。保育の現場でふさわしい音量と強弱を理解する。	第21回 ～ 第25回	個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル90番程度まで進んでいること。	第26回 ～ 第30回	個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル100番程度まで進んでいること。	定時試験	あり（実技）
回数	内容	準備学習																					
第 1回 ～ 第 5回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル 30 番程度まで進んでいること。正しい姿勢と指の使い方を知る。	準備学習として毎回課題として出される曲を次回レッスンまでに練習してくること。(毎回60分以上)																					
第 6回 ～ 第10回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル50番程度まで進んでいること。左右対照の指使い（右手が上行形、左手が下行形）触鍵(タッチ)の違いによるニュアンスの違いを感じる。																						
第11回 ～ 第15回	個のレベルに応じたピアノ曲 初心者においては最低バイエル60番程度まで進んでいること。旋律の反復と対照を理解して弾く。A・Bの二部形式、A・B・Aの三部形式を理解して弾く。ブルグミュラーの曲ではペダルの記譜とその使い方を理解する。																						
定時試験	あり（実技）																						
第16回 ～ 第20回	個のレベルに応じたピアノ曲 生活の歌（おはよう、お弁当、歯をみがきましょう、おかたづけ、おかえりの歌）、初心者においては最低バイエル75番程度まで進んでいること。保育の現場でふさわしい音量と強弱を理解する。																						
第21回 ～ 第25回	個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル90番程度まで進んでいること。																						
第26回 ～ 第30回	個のレベルに応じたピアノ曲 弾き歌い曲 初心者においては最低バイエル100番程度まで進んでいること。																						
定時試験	あり（実技）																						

フィードバックの方法： 毎回の授業で、前回授業中に実践した奏法等の定着を確認する。
テキスト： 『バイエル全訳』音楽之友社、『幼児のための音楽教育』教育芸術社、『弾き歌いピアノ曲集』ドレミ出版、『保育者のためのマーチ曲集』東京国際芸術協会
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』、『ブルグミュラー 25 の練習曲』、『ソナチネアルバム』、『ソナタアルバム』、『連弾曲集』
学生に対する評価： レッスン担当者による実技試験（前期・後期）を行い評価する。試験曲は任意のピアノ曲 1 曲とする。試験はすべて暗譜で行い、グループごとにレッスン担当教員が評価する。また、個人別課題曲への取り組み状況（準備学習）をその演奏から評価する。最終的には、定時試験及び準備学習への取組状況と授業時の実技、授業態度及び意欲の総合的評価とする。後期終了までに最低バイエル 100 番台に入り、弾き歌い 3 曲を行うこと。 定時試験時の実技試験：50％ 授業までの取り組みと授業時の実技、態度及び意欲：50％

授業科目名：2102211620 声楽	必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：浅香 真理子
2年通年（前期）			担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：保育現場で幼児に歌うことの楽しさを指導する指導法の習得を目的とする。 また、歌唱する際に必要となる楽譜の読解力を身につける。人前で弾き歌いできるようにする。			
授業の概要：歌唱のための呼吸法、発声法の習得。簡単な伴奏法の習得。唱歌や童謡の歌唱指導。弾き歌いの際に必要な、音符や音楽用語の理解や伴奏に必要な三和音の作り方を習得する。 授業中に歌唱発表を行うので、個々に練習をしてもらう。これを準備学習とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	長調の曲（チューリップ）短調の曲（ひなまつり）を全員で歌う。違いを理解して、歌詞を暗記する。→各個人の好きな弾き歌いの曲を練習する。	ピアノ伴奏部分を練習して弾き歌いできるようにする。	
第 2回	ハ長調のしくみと三和音→新しい弾き歌いの曲を決めて練習する。		
第 3回	ト長調のしくみと三和音→弾き歌いの曲を練習する。		
第 4回	ニ長調のしくみと三和音→弾き歌いの曲を練習する。		
第 5回	ヘ長調のしくみと三和音→弾き歌いの曲を練習する。		
第 6回	変ロ長調のしくみと三和音→わらべ歌を歌う。		
第 7回	唱歌や童謡の歌唱指導（あいさつのうた）		
第 8回	唱歌や童謡の歌唱指導（季節のうた）		
第 9回	唱歌や童謡の歌唱指導（行事のうた）		
第10回	唱歌や童謡の歌唱指導（わらべうた）		
第11回	唱歌や童謡の歌唱指導（愛唱歌）		
第12回	歌唱発表→弾き歌いの発表	発表の準備として、個人で歌とピアノ伴奏の練習をしてから発表に臨む。(30分)	
第13回	歌唱発表→弾き歌いの発表	準備として、歌とピアノ伴奏の練習をする。(30分)	
第14回	唱歌や童謡の歌唱指導（アニメソング）→音楽用語などのまとめプリントを配布。		
第15回	歌唱発表→プリントの答え合わせ		
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバック：歌唱発表後に発表内容に応じた評価を声や言葉がしっかり聞き取れるかどうか、楽譜どおりに音程やリズムが取れているか、また姿勢などのチェックをして、その場で伝える。			
テキスト：声楽教本（教育芸術社）、幼児の音楽教育（教育芸術社）、 おんがくのしくみ（教育芸術社）			
参考書・参考資料等：基礎楽典（全音楽出版）			
学生に対する評価：歌唱発表(50%)と定時試験(45%)、授業態度(5%)を総合して評価する。			

授業科目名：2102211620 声楽	必修：（卒）・（幼）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：浅香 真理子
2年通年（後期）			担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ:保育現場で幼児に歌うことの楽しさを指導する指導法の習得を目的とする。 また、歌唱する際に必要となる楽譜の読解力を身につける。人前で弾き歌いできるようにする。			
授業の概要：歌唱のための呼吸法、発声法の習得。簡単な伴奏法の習得。唱歌や童謡の歌唱指導。弾き歌いの際に必要な、音符や音楽用語の理解や伴奏に必要な三和音の作り方を習得する。 授業中に歌唱試験を行うので、個々に練習をしてもらう。これを準備学習とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第16回	弾き歌い指導→季節の歌や、ご挨拶の歌の確認。歌いながら、楽譜の読み方も復習する。	毎回の事後学習として楽譜の内容を忠実に表現できるように練習する。(30分)	
第17回	弾き歌い譜読み→歌唱試験曲譜読み。		
第18回	弾き歌い演奏指導→試験曲歌いこみ。		
第19回	弾き歌い演奏指導 合わせ→試験曲歌い込み		
第20回	演奏指導 暗譜→歌唱発表		
第21回	弾き歌い演奏発表→歌唱発表		
第22回	唱歌や童謡の歌唱指導（愛唱歌）→ハ長調のしくみと三和音を理解して伴奏をつける練習をする。	作曲した曲を弾き歌いできる様に練習してくる。	
第23回	唱歌や童謡の歌唱指導（わらべうた）→ト長調のしくみと三和音を理解し、伴奏を作曲する。	作曲した伴奏を弾き歌いできるように練習してくる。	
第24回	唱歌や童謡の歌唱指導（季節の歌）→ニ長調のしくみと三和音を理解して伴奏を作曲する。	伴奏部分の練習。	
第25回	唱歌や童謡の歌唱指導（アニメソング）→ヘ長調のしくみと三和音を理解し、伴奏をつける。	弾き歌いの練習。	
第26回	唱歌や童謡の歌唱指導→変ロ長調のしくみと三和音を理解して伴奏を作曲する。	弾き歌いの練習。	
第27回	歌唱発表→いろいろな曲の伴奏作曲。歌いながら、どんな風に聞こえるか確認する。	歌唱発表の準備として、個人で歌の練習をしてから発表に臨む。(30分)	
第28回	歌唱発表→伴奏部分の作曲		
第29回	唱歌や童謡の伴奏指導→伴奏部分の答え合わせ。		
第30回	唱歌や童謡の伴奏指導→主要三和音の復習。伴奏作曲のまとめ。		
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバック：歌唱発表後に発表内容に応じた評価を声や言葉がしっかり聞き取れるかどうか、楽譜どおりに音程やリズムが取れているか、また姿勢などのチェックをして、その場で伝える。			
テキスト：声楽教本（教育芸術社）、幼児の音楽教育（教育芸術社）、 おんがくのしくみ（教育芸術社）			
参考書・参考資料等：基礎楽典（全音楽出版）			
学生に対する評価：歌唱発表(50%)と定時試験(45%)、授業態度(5%)を総合して評価する。 最終成績は前期評価と後期評価の平均値とする。			

授業科目名：2102211720 器楽（応用） 2年通年	必修：（幼）	単位数： 1単位	担当教員名：津布楽 杏里、森本 加奈、 遠山 亜希、中 美知子、大村 新 担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 5. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 幼児教育において、ピアノ伴奏は、子どもの表現を引き出し、高めるための重要な役割を担っている。本科目では、演奏を通して、ピアノに関する実践的な知識や技術を身につけ、保育の中で扱う教材の伴奏法や、その教材の展開に必要な知識を習得させることをねらいとする。具体的には、行進曲 2 曲以上、弾き歌い曲 20 曲以上が弾けること。そのためには日々の練習が重要である。 【テーマ】 幼稚園教育要領「表現」には「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と示されている。このような子どもの活動を保障するために、弾き歌いの活動を通して、弾きながら歌うことに慣れ、初見の楽譜でも簡単な伴奏を付けて歌えるようにする。また自分が弾く歌だけでなく、他人の演奏から歌を知ること大切である。さらに現場のさまざまな場面で弾かれる行進曲などの習得も目指す。			
授業の概要：それぞれのレベルに応じた課題曲を演奏することで、演奏技能を高める。音楽用語や解釈について意見を発表し、よりよい奏法について考える。さまざまなテキストを用い多くの楽曲に触れ、豊かな音楽性を養う。また現場を想定して、実際に歌われている曲の演奏方法を習得する。グループレッソンの授業形態をとることで、他人の演奏から相互に学び高め合う効果も期待できる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回 ～ 第 5 回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲 楽譜に書かれている通りの演奏を目指す。何よりも指 使いに留意する。その他、強弱やフレージングも正確 に弾き分けること。弾き歌い曲は生活の歌を中心に多 くの曲を知り演奏する。	準備学習として毎回課題として出 される曲を次回レッスンまでに練 習し、授業に臨むこと。その際、 楽譜に書かれている音楽用語等につ いても調べること。レッスン後 は学習した演奏法、注意された箇 所の復習及び習得を目指すこと。 知らない楽曲についてはCD等を 活用し、事前に曲を知ること。（ 60分程度）それが練習を行う意欲 につながる。	
第 6 回 ～ 第10 回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲 任意の楽曲について、その背景を知る。作曲者、作曲 年代等から楽曲の特徴を考察する。弾き歌い曲は広く 知られている歌を中心に、季節も考慮して選曲してい く。		
第11 回 ～ 第15 回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲 任意の楽曲における様々な音型からイメージできる 内容について考察する。演奏曲の題名から楽曲の雰 囲気を想像し演奏に結びつける。弾き歌い曲は教育実 習で弾く曲を中心に演奏する。		
定時試験	課題曲：任意のピアノ曲：1曲、弾き歌い曲：1曲、行 進曲：1曲 全3曲		
第16 回 ～ 第20 回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲 楽譜には明確に書かれていない強弱、テンポの揺れを 意識しながら演奏する。弾き歌い曲は教育実習で弾く 曲を、現場を想定しながら演奏する。園生活の弾き歌 い曲について、一日の流れを把握して演奏する。		
第21 回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲		

～ 第25回	楽譜に指示されていることを踏まえ、自らの解釈も大切にして演奏を構築する。弾き歌い曲は教育実習から学んだことを活かして選曲及び演奏をする。季節も考慮して選曲する。	
第26回 ～ 第30回	個のレベルに応じたピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲子どもにも広く知られている楽曲を演奏する。ペダルの使い方を再考し、効果的な使用法を追及する。弾き歌い曲は知らない歌を中心に選曲する。知らない曲を演奏することで、楽譜から音楽を読みとる力を養う。あらゆるジャンルの歌について抵抗感をなくす。	
定時試験	課題曲：任意のピアノ曲：1曲、弾き歌い曲：1曲、行進曲：1曲 全3曲	
フィードバックの方法：毎回の授業で、前回授業中に実践した奏法等の定着を確認する。		
テキスト：『弾き歌いピアノ曲集』（ドレミ楽譜出版社）、『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）、『ブルグミュラー 25 の練習曲』（全音楽譜出版社）等		
参考書・参考資料等：ソナチネアルバム、ソナタアルバム、『幼稚園教育要領解説』等		
学生に対する評価： 年間でピアノ曲 2 曲、弾き歌い曲 20 曲以上、行進曲 2 曲を行うこと。試験曲は任意のピアノ曲、弾き歌い曲、行進曲をそれぞれ 1 曲とする。試験はすべて暗譜で行い、グループごとにレッスン担当教員が評価する。定時試験（前期・後期）の結果、授業までの取り組み（準備学習実施状況）、授業態度及び意欲を総合的に評価する。 定時試験：50%、授業までの取り組みと授業での実技、態度及び意欲：50%		

授業科目名：2111111812 保育の環境（造形表現） 1年後期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：森田 信子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・身近な素材を使った造形作品を制作したり、基礎的な造形活動ができたりするようになる。 ・共同制作の計画をたて、役割分担から、作品完成まで行えるようになる。 ・子どもの発達段階を踏まえて、季節・行事・物語等の壁面制作ができるようになる。 【テーマ】 造形表現を通して、子どもに身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする。子どもの表現や遊びを豊かに展開する支援のできる保育者養成のため、必要な知識や技術を実践的に習得する。				
授業の概要： ・子どもの発達段階や育みたい力を踏まえた上で、基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する。（色水・自然物・スタンピング・段ボールなどを使用した造形など） ・共同でテーマを考え、材料・経費・役割分担等を計画・実行し、制作し、展示を行なう。 ・保育の現場を想定した壁面切り紙えの制作を行なう。 ・子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、造形表現を通して、子どもに身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験から、子どもの遊びを豊かに展開することのできる保育者養成のため、必要な知識や技術を実践的に習得する。保育教材の作成と活用の技術を身に付け、保育現場で子どもの遊びを具体的に展開できる力を高めていく。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ① 「染め紙を楽しむ」 ・色水がみせるにじみや模様の、美しさや楽しさを体験する。 ⇒染め紙からどのような造形表現ができるかを考え、その造形活動を現場で行う想定でグループで教材研究する。 (教材として成立するか軌道修正などする。)		保育所保育指針 幼稚園教育要領の造形表現の所を読んでおく。(60分)	
第 2回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ①ー2 「染め紙から広がる造形活動」 ・準備してきた染め紙を使用する造形活動を幾つか実際に体験する (・造形遊び・箱作り・ステンドグラス風・トレー・鯉のぼり・提灯作りなど) ⇒教材研究を深め、グループで発表をする。		前回染めた紙を使用して展開する造形活動を実際制作するのに必要ものの準備。(60分)	
第 3回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ② 「小麦粘土作りを楽しむ」※アレルギーのある場合は全く違う活動に変更 ・身近材のリサイクルを材料に、現場で遊べるもの、身につけられもの、飾れるものなどを制作する。 ・作品についてプリントまとめ、作品と共に発表する。		染め紙から展開した造形活動について、配布されたプリントにまとめる。(60分)	
第 4回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ③ 「お野菜スタンプ」 ・野菜の切り口でスタンピングし、その形や模様を自由に楽しむ。 ・お野菜スタンプの形をいかして作品制作をする。		お野菜スタンプの活動について、配布されたプリントにまとめる(60分)	
第 5回	共同制作(共同テーマの決定、材料、経費、役割分担を計画する) ・現場でのお店屋さんごっこを想定して、グループごとに何屋さんになるのか、どのようなものを制作するのかなど決める。 ・活動内容と計画の決定と制作開始		大学祭に遊びに来る幼児のためのお店屋さんごっこに向けて情報を集めてくる。(60分)	
第 6回	共同制作(制作) ・活動内容の分かり易さ、楽しさ、見た目の美しさ、安全性、耐久		グループごとに決めた自分の担当の情報や材料を集めた李	

	性考え、共同制作をする。	、必要な準備を進めてくる。 (60分)
第7回	共同制作（制作） ・活動内容の分かり易さ、楽しさ、見た目の美しさ、安全性、耐久性を試し、工夫を重ね、情報を共有しながら制作を進める。	グループごとに制作を進めてくる。(60分)
第8回	共同制作（制作） ・当日の係決めをする。接し方、説明の仕方、並ばせ方、始め方、終わり方など、共通理解を深めておく。	グループごとに決めた必要箇所の制作を進めてくる。 (90分)
第9回	大学祭での幼児との活動経験から学びを深め共有する。 ・片付けなども大切な教育活動であることを踏まえながら、文化祭での活動の片付けなど後始末も行う。 ・幼児が楽しめるよう行った自分たちの活動から、良かった点改善すべき点など意見を出し合いまとめる。	友達と大まかな後始末を済ませておく。(60分)
第10回	基礎的な保育造形活動や表現技法を体験する ④ 「もぐもぐおしゃべりくん」 ・紙袋から簡単なパペットを制作する。	手作り人形などの実践について調べてくる。画材やハサミのりの他に毛糸、色紙、ボタンなどの材料を集めるなどの準備し、持参する。(60分)
第11回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①-I（構想・下描き） ・画面構成を考えながら下描きをする。（背景、メイン、サブメインなど構成を考えながら） ・図案のみならず、どのようなことを伝えたいのか、壁面に込めるテーマやメッセージを明らかにする。	どのような図案がよいか下調べをして大まかに構想してくる。(60分)
第12回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①-II（制作） ・制作手順などを知り、効率よく質の高い壁面制作に取り組む。 ・決めた図案をそのまま制作するのではなく、より良い作品になるよう構成し直しながら進めていく。	制作に必要な材料や画材や道具を準備し持参する。(60分)
第13回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①-III（制作） ・メインキャラクターの制作に取り掛かる。	完成に間に合わせられる必要量の制作を進めてくる。 (60分)
第14回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ①-IV（講評） ・サブキャラクター、その他の制作を終える。出来るだけ高い質を目指す。 ・作品提出し、互いによい点、工夫点など学び合う。	完成に間に合わせられる必要量の制作を進めてくる。 (60分)
第15回	季節・行事・物語をテーマとした壁面制作 ② ・半立体の花の壁面装飾の制作をする。 ・卒業と入学に合わせて、校内の装飾するために花を活用し、今まで学んだことをいかして壁面装飾を感性させる。	
定時試験 定期試験としての作品提出による。		
フィードバックの方法： 壁面制作⇒下図記入用紙について全員に構成の手直しを入れて返す。全体で講評を行い共有する。		
テキスト：保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説		
参考書・参考資料等：プリント・子どもの作品（絵や工作）などを参考資料とする。		
学生に対する評価： ・授業態度（事前事後課題を行い主体的に授業に取り組んでいるかなど）30% ・作品・発表・テスト（授業の目的を理解して制作しているか・創意工夫・完成度の高さ）60% ・レポート（基礎造形の知識を習得しているか・素材や道具を理解しているか）10% ・発表と作品やプリント、授業の準備・態度、定時試験に代わる作品提出と技術テストにより評価する		

授業科目名：2111211911 基礎造形 1 年前期		必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：森田 信子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育に関する科目		
学習成果該当番号：1. 2. 4. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・保育現場を踏まえた準備・演習・清掃をイメージし、実践できるようになる。 ・保育現場における絵画や造形の基礎的な技法や制作法を理解し、創作ができるようになる。 【テーマ】 ・子どもの表現に寄り添い、安心して創作する支援のできる保育者としての感性を育み、技術を身につける。				
授業の概要： ・保育者としての感性を育んだり、描写や造形の基礎力をつけたりするための演習を行う。 ・切り紙、フロッタージュ、イラスト、色塗り、新聞紙による造形、身近材による工作などを身につける。 ・習得した基礎的技術や豊かになった感性をいかして、現場で生かせるペーパーアート制作をする。 ※リモートでの授業となった場合も素材や技法などを変えて、概ね同等の内容を実施する。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	基礎造形Ⅰの概要理解 ・シラバスと保育所保育指針を読み、授業の流れと内容を掴む。 ・子どもの表現や感性を育む為にどのような力を身につけたいか考える。 ・教材の配布。設備、道具の使い方を理解する。			保育所保育指針 幼稚園 教育要領の造形表現に関する部分を読む(60分)
第 2回	感性を働かせて表現を楽しむ ①② ① 「春のいいものみつけた」 ・心のままに自然素材を貼り、壁飾りを制作する。保育者の狙いや準備を理解し、同時に子どもの気持ちも体験する。 ② 「自然素材との出会いを深める」 グループワーク ・気づきや発見をもとに自然素材を並べたり組み合わせたりする ・フロッタージュの体験。コラージュやトレーシングペーパーの写しを楽しむ。			葉や花など、春を楽しみながら自然物を収集し持参する。 (60分)
第 3回	感性を働かせて表現を楽しむ ③ ③ 「おってチョキチョキひらいて発見！」 ・切り紙を楽しみ、切り紙からできた形を使って感覚的に表現する ・形を見立てて発想したことを表現する。 ・自由に切る楽しさを味わい、イメージしながら創作する。 基礎的技術の習得 ① ① 「切り紙の展開 - 折り方・切り方を習得する」 ・五角形(星形)六角形(花形)蛇腹折りなどの制作ができるようになる。			事後：切り紙の実技テストに向けて練習する。(60分)
第 4回	感性を働かせて表現を楽しむ ④ ④ 「クレヨンくんのおさんぽ」 ・線による表現の演習。感性と身体感覚をいかして線で表現することを体験する。 ・フォルメン描線の体験 基礎的技術の習得 ② ② 「丁寧に運筆する練習」 ・集中して丁寧に線を引く演習			事後：作品を完成させて次回持参する。 (60分)
第 5回	感性を働かせて表現を楽しむ ⑤ グループワーク ⑤ 「新聞紙で広がる遊び」 ・新聞紙を使った様々な創作活動や造形遊びをグループごとにテーマを設定し体験する。 基礎的技術の習得 ③ ③ 「椰子の木」や「はしご」などの新聞紙を使用した工作やいくつかの遊び方を知って、できるようになる。			

第 6回	保育教材の作成 ① -I 「身近材を利用した工作」 ・身近な素材（紙皿・紙コップ・牛乳パック・ペットボトル・段ボール・アルミホイル・プラスチックカップなど）の特性をいかして創作を調べ、発達に合わせてどのような制作が良いか考える。 ・指導要領に照らし合わせて、制作のねらいを意識して子どもにとってよい制作が何なのかを考える。	画材や自分の担当した様々な材料を集めてくる。 (15分) 3・4・5歳の工作実例を収集・担当教材の制作の準備をしてくる。(45分)
第 7回	保育教材の作成 ① -II 「身近材を利用した工作」 ・前回からの制作の続きをし、現場で指導する場合の流れを、準備や注意点なども踏まえながらまとめ、発表する。	必要に応じて試作や制作の続きをしてくる。 (30分) 指導要領の造形表現の狙いをまとめてくる。(30分)
第 8回	基礎的技術の習得 ④ -I ・簡単な図形からイラストへ ・保育園の生活の様子を表現したイラスト	いくつかの園児の生活の様子を見ながら描けるように練習する。(60分)
第 9回	基礎的技術の習得 ④ -II ・お便りなどを想定した、園児の生活を描くイラストのテストを行う。	3つの園児の生活の様子を何も見ずに描けるように練習する(60分)
第10回	保育教材の作成 ② -I 「ペープサートの創作」 ・制作するキャラクターを決めて制作開始。	制作したいペープサートを考えてくる。 (60分)
第11回	保育教材の作成 ② -II 「ペープサートの創作」 ・下描きをペンでなぞり着彩していく。	事後：キャラクターの下描きが終わっていない分は下描きを完成してくる。 (60分)
第12回	保育教材の作成 ② -III 「ペープサートの創作」 ・丈夫なペープサートの作り方を理解し、制作をする。	制作を自宅で進めておく。 (60分)
第13回	保育教材の作成 ② -IV 「ペープサートの創作」 ・ペープサートを完成させる。	完成させられるよう制作を進めておく。 (60分)
第14回	作成した保育教材活用練習 ・ペープサートの提出 「ペープサートを演じる」(脚本課題) ・ペープサートのキャラクターをいかして内容を相談、決定、練習する。	発表のために上手く演じられるようになるまで練習をする。 (60分)
第15回	作成した保育教材活用練習 「ペープサートを演じる」(発表・鑑賞・評価)グループワーク ・ペープサートを使つての演技を発表する。 ・互いによりよくするためのアドバイスを伝え合う。	
定時試験 定期試験としての作品提出による。 フィードバックの方法： ・作品の全体講評。・作品についてはコメントによる個別指導。・目標に達成しない場合は技術指導と再テストの機会。・作品展示等		
テキスト： 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説		
参考書・参考資料等： 授業計画によって準備したプリント・画集・子どもの作品（絵や工作）を参考資料とする。		
学生に対する評価： 授業態度（事前事後課題を行い主体的に授業に取り組んでいるかなど）30% ・作品・発表・テスト（授業の目的を理解して制作しているか・創意工夫・完成度の高さ）60% ・レポート（基礎造形の知識を習得しているか・素材や道具を理解しているか）10% ・発表と作品やプリント、授業の準備・態度、定時試験に代わる作品提出と技術テストにより評価する。		

授業科目名：2111112012 保育の環境（身体表現） 1 年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：1・2・3・4・6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 コミュニケーションをうまく取れない子どもが増えつつある現代において、この授業ではダンスの持つ特性を生かし、身体での表現（ノンバーバルコミュニケーション）の能力を磨く。また身体表現を通して子どもの生活と遊びを豊かにするために必要な知識や技術を実践的に習得することを目的とする。イメージや感性を磨き様々なダンスを踊ることで「なりきる」楽しさを味わい身体をほぐして気持ちと身体を開放していく。			
授業の概要： 本授業では、子どもの心身の発達及び子どもを取り巻く環境に留意し、身体で表現する楽しさを味わうことから子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。また、ノンバーバルなコミュニケーション方法である身体表現を深め、身体で表現する楽しさを味わう。そのために 童謡にあわせた幼児ダンスを踊ることを通して、リズム音楽や身体表現の基礎的技能を身につけること、見立てやごっこ遊び等を通して、身体表現の基礎的技能を身につけ豊かな感性を磨き、保育現場で役立つ力を高めていく。また、ダンスの創作方法についても学び、実際の創作を通して、現場で役に立つ力を高めていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	オリエンテーション及びなりきり遊び（授業の目的と方法について） 本授業の目的と方法について理解する。新聞紙で衣装や小道具を作ってなりきり遊びを体験する（ひよっこりひょうたん島）。 既存曲ダンスの体験：おつかいありさん、ひよっこりひょうたん島、ぴよんぴよんバッタ わらべうた伝承遊びの体験：貨物列車から連なり遊びの展開	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10 分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分）	
第 2回	乳幼児の発達の身体表現 乳幼児の発達をとらえた身体表現を体験する（ごろ・ころ・ゆら）。 既存曲ダンスの体験：ごろ・ころ・ゆら、おしりフリフリ、かみなりさまの踊り（盆踊り ver.） わらべうた伝承遊びの体験：あぶくたった	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10 分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分）	
第 3回	手遊びから身体表現へと変身遊び 手遊びから身体表現へ発展する方法を体験する（ゲー・チヨキ・パー、じゃんけんでおはよう）。また変身遊びを通してなりきることの楽しさを体験する（かっぱなにさま!? かっぱさま!!）。創作ダンスのための曲を持ちよりグループ内作品の曲について話し合う。 既存曲ダンスの体験：じゃんけんでおはよう、かっぱなにさま!? かっぱさま!! わらべうた伝承遊びの体験：ことろことろ	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10 分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10 分） 作品の選曲（60 分）	
第 4回	おはなしから身体表現へ、ダンスのアレンジ方法 お話から身体表現へ発展する方法を体験する（だんご虫の冒険）。ダンスアレンジ方法について理解する。創作ダンスのための曲を持ちよりグループ作品の曲を決定する。 既存曲ダンスの体験：きのこ、だんご虫の冒険 わらべうた伝承遊びの体験：ことしのぼたん	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10 分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10 分） 作品の選曲（60 分）	
第 5回	創作①創作方法を知る（ダンステクニック）	準備学習：既存曲ダン	

	創作方法（ダンステクニック）について理解する。 グループワーク①創作活動（どうよう曲：1番まで振付け る） 既存曲ダンスの体験：虫のおんがくたい わらべうた伝承遊びの体験：いろはにこんぺいと、入って 出て	スの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 作品の構想（60分）
第6回	創作②作品創り グループワーク②創作活動（どうよう曲：2番まで振付け る）、創作作品の衣装について学ぶ。またダンスにおける小 道具の効果を体験する（かみなりさまの踊り）。 既存曲ダンスの体験：わたあめ雲、かみなりさまの踊り（ 鳴子ver.）	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 作品の構想（60分）
第7回	創作③作品創り グループワーク③創作活動（どうよう曲：構成・フォーメ ーションを考える） 既存曲ダンスの体験：不思議なポケット	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 衣装構想（60分）
第8回	創作④作品創り グループワーク④創作活動（どうよう曲：構成・フォーメ ーションを整える）、舞台の流れについて理解する。係り分 担について理解する。MCを考える。 既存曲ダンスの体験：大きくなったら	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 衣装作成（60分）
第9回	創作⑤作品の踊りこみ・発表 グループワーク⑤創作活動（どうよう曲：仕上げ）作品の 踊りこみをして全体の仕上げを行い、授業内で発表する 既存曲ダンスの体験：ジングルベル	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 衣装作成（60分）
第10回	創作⑥鑑賞 創作ダンスの発表・鑑賞を通して作品の構成・衣装・うご きなどを客観的に振り返る（振り返りシートへ記入）。 フィードバックの方法は、指導者が各グループへコメントを 返すこと、学生同士意見交換すること、また作品発表の様子 を映像に撮りそれらを各自で観返す。 既存曲ダンスの体験：季節いろいろ、ゆきふるるん	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分）
第11回	パラバルーン（構成・うごき）を体験する パラバルーンの方法を体験して理解する（夢をかなえてド ラえもん）。 既存曲ダンスの体験：ゆきだるまのだるりん、夢をかなえて ドラえもん わらべうた伝承遊びの体験：とおりゃんせ	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分）
第12回	ぽんぽんのダンス（構成・うごき）を体験する。 ぽんぽんの作り方を知る。また1番2番3番の構成を考え前 奏、間奏、後奏部分の移動方法を考え創作し発表する（サラ ダのマーチ） 既存曲ダンスの体験：チョコレート、赤鬼と青鬼のタン ゴ、サラダのマーチ わらべうた伝承遊びの体験：かごめかごめ、たけとんぼ	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分）
第13回	マスゲーム（構成・うごき）を体験する マスゲームの方法を理解する（世界中のこどもたちが） 既存曲ダンスの体験：おひさまとダンス、たこあげ	準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダン

第14回 第15回 定時試験	わらべうた伝承遊びの体験： たけのこいっぽん、たこあげ あそびから身体表現へ あそびから身体表現へ発展させる 既存曲ダンスの体験： はねつき、ドキドキドン！一年生、世界中のこどもたちが わらべうた伝承遊びの体験： 大波小波、羽子板あそび まとめ 復習として14回の授業で行った既存曲ダンスのテストを行う。 第9回の作品発表、および第10回の振り返りシート また、第15回のダンステスト、ノート提出を定時試験とする。	スの復習（10分） ノートまとめ（10分） 準備学習：既存曲ダンスの振り起し（10分） 事後学習：既存曲ダンスの復習（10分） ノートまとめ（10分） 準備学習：既存曲ダンスの練習（60分）
フィードバックの方法：創作させた作品に関して、指導者が各グループへコメントを返すこと、学生同士意見交換すること、また作品発表の様子を映像に撮りそれらを各自で観返すことを通して行う。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：『身体表現遊びプレイソング』賀来良江，チャイルド本社，1992. 『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005. 必要に応じて自作プリント『楽しく踊ろう』を配布		
学生に対する評価：保育現場において必要な身体を用いた表現力の向上がみられたかをはかるために以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。授業の取り組み（40%）、創作作品（20%）、ダンステスト（20%）ノート提出（20%）		

授業科目名：2111212122 幼児体育 2年後期	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：岩井 幸博 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・乳幼児期に経験すべき基本的な動作を説明することができる。 ・様々な幼児ダンスや運動遊びを指導することができる。 ・伝承遊びや遊具を使った遊びを指導することができる。 【テーマ】 乳幼児期に経験すべき基本的な運動動作を多種多様な幼児ダンス、運動遊び、伝承遊び、遊具を用いた遊び等の中で経験し、さらに子どもに対する指導法、援助法を身につける。			
授業の概要： 運動遊びや幼児ダンスの知識や技術を発表しあい、共有する。学生は2～3名のグループに分かれ、幼児ダンス・運動遊びの模擬授業を行う。その際、幼児ダンス振付の図や運動遊びのルールなどが記載された資料を作成し、配布する。発表を通して、運動場面の設定の仕方、指導法や補助法を学ぶ。幼児ダンスや運動遊びによってどのような運動動作や感覚を経験できるか、何が育つかを考える。 また、伝承遊びやいろいろな素材を使った遊具の遊び等を体験し、幼児への運動指導法、補助法を実践する。さらに授業内容をノートに記録し、現場に出てからの指導書として使用できるように作成する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ガイダンス（授業の進め方、発表・資料作成・ノート作成についての説明） ・幼児ダンス『ゴリラのゴリちゃん』を踊る ・幼児ダンス・運動遊び発表グループと日程の決定	幼児ダンスや運動遊びについて予習しておく（60分）	
第 2回	幼児ダンス・運動遊びの紹介・伝承遊び『独楽回し』 ・前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス『しりとろうた』を踊る ・運動遊び『ジャンケン系のゲーム』を行う ・伝承遊び『独楽回し』ひもの巻き方、こまの持ち方、投げ方を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しのひもの巻き方や投げ方を調べる（60分）	
第 3回	幼児ダンス・運動遊び発表①・伝承遊び『けん玉』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表① グループ発表を行う ・伝承遊び『けん玉』持ち方・遊び方を理解し、技を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する。こま回しの歴史や起源を調べる（60分）	
第 4回	幼児ダンス・運動遊び発表②・伝承遊び『皿回し』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表② グループ発表を行う ・伝承遊び『皿回し』微細な手の使い方を体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する。けん玉の歴史や起源を調べる（60分）	
第 5回	幼児ダンス・運動遊び発表③・伝承遊び『竹馬』 ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表③ グループ発表を行う ・伝承遊び『竹馬』竹馬の乗り方、補助の仕方を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。皿回しについて調べる（60分）	
第 6回	幼児ダンス・運動遊び発表④・『鉄棒』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表④ グループ発表を行う ・『鉄棒』を使った遊び① 鉄棒の設置の仕方、遊びの種類、補助方法を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。竹馬について調べる（60分）	

第7回	幼児ダンス・運動遊び発表⑤・『鉄棒』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑤ グループ発表を行う ・『鉄棒』を使った遊び② 遊びの種類、補助方法を学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する。鉄棒の遊び方や技について調べる (60分)
第8回	幼児ダンス・運動遊び発表⑥・『スラックライン』① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑥ グループ発表を行う ・『スラックライン』① 設置、補助法を学び、バランス遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第9回	幼児ダンス・運動遊び発表⑦・『スラックライン』② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑦ グループ発表を行う ・『スラックライン』② バランス遊びを通して、バランス感覚を養う 補助法を習得する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第10回	幼児ダンス・運動遊び発表⑧・『跳び箱』を使った遊び ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑧ グループ発表を行う ・『跳び箱』を使った遊び 設置方法、安全面の確保について理解する。跳び箱を使った様々な遊びを体験する。	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第11回	幼児ダンス・運動遊び発表⑨・『マット』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑨ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び① マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第12回	幼児ダンス・運動遊び発表⑩・『マット』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑩ グループ発表を行う ・『マット』を使った遊び② マットを用いて基本的な動作を含んだ遊びを体験する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第13回	幼児ダンス・運動遊び発表⑪・『ボール』を使った遊び① ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・幼児ダンス・運動遊び発表⑪ グループ発表を行う ・『ボール』を使った遊び① 様々な種類のボールを使って、投げる、捕る、蹴るなどの遊びを学ぶ	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第14回	幼児ダンスメドレー・『ボール』を使った遊び② ・前々回、前回の幼児ダンスの復習 ・今まで踊った幼児ダンスのメドレーを踊る ・『ボール』を使った遊び② 様々な種類のボールと他の遊具を組み合わせた遊びを考え、実践する	前回幼児ダンスの振りを復習する (60分)
第15回	授業の振り返りとまとめ ・授業の振り返りとまとめ ・幼児ダンス、運動あそびノート提出日の指定	幼児ダンス、運動遊びの資料の確認、ノート作成をすすめる (60分)
定時試験	定時試験期間中に授業内容を記録したノート提出日を設け、提出することを定時試験とする。	

フィードバックの方法：各回で発表した幼児ダンス、運動遊びについて発表後すぐにフィードバックを行う。具体的には学生同士の相互評価として良かった点、改善点などの意見を述べる時間を設け、かつ教員から良かった点、改善点などをコメントする。ノートは内容を評価し、コメントを付して返却する。

ICT活用について：幼児ダンス、運動遊びの様子は映像で記録し、学生が視聴できるように共有ドライブで公開する。幼児ダンスの振りの確認、運動遊びのルール確認など実施した様子から振り返りを各自が行う。

テキスト：

- ・授業発表者がプリントを作成し、発表する。
- ・授業内容に関するプリントを適宜配布する。

参考書・参考資料等：

- ・『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008.
- ・『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005.
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省
- ・『保育所保育指針解説』厚生労働省
- ・『幼児期運動指針』文部科学省

発表資料作成にあたって（幼児ダンス、運動遊びの参考図書及び音楽CDについて）

- ・本学図書館の資料を利用する
- ・居住地域にある図書館を利用する
- ・インターネットで手に入る資料を利用する

学生に対する評価：

- ・授業に取り組む姿勢、態度、仲間への補助や指導の実施などを観察によって評価する（20%）
- ・実技課題の習熟度を評価する（20%）
- ・幼児ダンス・運動遊びの資料作成と配布、発表の準備、内容等を学生の相互評価および教員による評価より総合的に判断する（20%）
- ・授業内容に関するノートを作成し、提出する。配布プリントの貼付、授業内容と感想の記述、現場で活用できるノートとして作成されているかなどを評価する（40%）

授業科目名：2111112211 保育の環境（言語表現） 1 年前期		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：朴木 一史 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎技能科目 幼：その他の科目 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境、また保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活や遊びを豊かにするための児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリングなど）を活用する技術を修得する。 【テーマ】 児童文化財のジャンルと教育的役割、発達過程と絵本、ストーリーテリング、言葉遊び（なぞなど、同義語・対義語のクイズ、回文、遊び歌）への知見を深め、実践を行う。				
授業の概要： この授業では、まず乳幼児の発達過程を踏まえた児童文化財全般について、それぞれのジャンルの意義を概観する。その後日本語の音節について理解を深め、手遊び、わらべ歌などの歌詞を収集したり覚えたりしながら、実際に身体を動かすことで遊び方の技術を修得する。また、なぞなど、同義語・対義語のクイズ、回文などを用いた言葉遊びに関する教材も主体的に収集し、その成果を発表し合って共有する。そのほか、絵本や紙芝居、ストーリーテリング（お話）の実践を通して音声言語技術の向上につとめ、保育の現場で効果的に活用できるようにする。 さらに、劇やペープサートのための脚本作りや、発表の場における動きや発声などに関する注意点なども、グループワークを通して実践的に学ぶ。最終回の授業では、総括として劇の発表を行う。 保育者にとって必要な用語や漢字も学習し、記録の作成に応用できるような力も身につける。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1 回	児童文化財の内容と意義 児童文化財の概念や、児童文化財の種類（言葉遊びであるしりとり、伝言ゲーム、かるたとりなども含む）や特徴を理解する。また、簡単な自己紹介を通して、自身の言葉や話し方についての課題を明らかにする。毎回、振り返りシートに、授業や発表を通しての自身の気づきを記入する。			教科書『保育の環境（言語表現）言葉の楽しみ』第1編の1を読んでおく。以下、通読しておく箇所のみ記載する。簡単な自己紹介のための準備。(60 分)
第 2 回	日本語の音節とリズム 日本語の音節を理解する。また、日本語のリズムは 2 音基調 8 音節句であることを知り、音律の意義と 7 音・5 音の必然性について確認する。			教科書・第 1 編の 2。心地良いリズムを持つ言語表現を探してくる。(60 分)
第 3 回	手遊び 1 乳児から 5 歳児まで、発達過程に応じた手遊びがあることを学ぶ。乳児を膝の上に乗せて手遊びを行う際の注意点についても話し合う。 この回から第 14 回まで、毎回漢字テストを実施〔『保育の基本用語』より出題〕。			教科書・第 2 編 1 章の 1・2。乳児用、幼児用手遊びにはどのようなものがあるか、インターネットなどを利用して調査する。漢字テスト〔1 回目〕対策 (60 分)
第 4 回	手遊び 2 自分たちで探し集めた手遊びについて、言葉、音楽（リズム）、動作などの観点から、教材としての価値をグループごとに検討する。また、手遊びの目的、場の設定、留意点などについても話し合ったうえで、発表を行う。			教科書・第 2 編第 1 章の 3。手遊びに関する、グループ発表のための練習。漢字テスト〔2 回目〕対策。(60 分)
第 5 回	わらべ歌 図書館資料やインターネットを利用して、各自で集め			教科書・第 2 編第 2 章。本学附属図書館や地域

	てきたわらべ歌について、グループでその価値を検討する。実際にいくつかのわらべ歌を演じ合い、共有する。	の図書館を利用して、わらべ歌に関する資料を持参する。漢字テスト〔3回目〕対策。(60分)
第6回	絵本1 絵本の読み語りの実践を通して、絵本の目的や価値、鑑賞の仕方について、グループで話し合う。次回の発表に向けて、練習を行う。	乳児向けの絵本と幼児向けの絵本を持参する〔計2冊〕。事前に読み語りの練習をしておく。漢字テスト〔4回目〕対策。(60分)
第7回	絵本2 グループで選んだ絵本について発表する。呼吸や発声、視線、表情、姿勢、本の見せ方などに留意して読み語りをを行い、絵本の選び方や注意点についても言及する。	グループで読み語りの練習を行い、発表の準備をする。絵本の選び方や読み方のポイントを整理する。漢字テスト〔5回目〕対策。(60分)
第8回	紙芝居1 グループで、いくつかの紙芝居を演じたり、鑑賞したりすることを通して、その目的や価値について話し合う。次回の発表に向けて、練習を行う。	教科書・第3章の1。本学や地域の図書館を利用して、紙芝居を1作品選び、持参する。事前に紙芝居の練習をしておく。漢字テスト〔6回目〕対策。(60分)
第9回	紙芝居2 グループで選んだ紙芝居について、人物の台詞や抜き方、間などに留意して発表を行う。描かれた場面の状況や、人物の心情を効果的に表現できるような読み方について話し合う。	教科書・第3章の2。グループで発表の練習を行う。紙芝居の演じ方のポイントを整理する。漢字テスト〔7回目〕対策。(60分)
第10回	なぞなぞ 発達過程に相応しい幼児用のなぞなぞを収集し、整理する。保育者役と幼児役を交互に行いながら、なぞなぞを使う場の設定、前置き、指示や説明の仕方を考える。なぞなぞ遊びの楽しみ方、言葉に対する興味・関心の惹き方についても検討する。	教科書・第4章。幼児向けのなぞなぞやクイズを集め、それらを保育現場で、いつ、どのように活用するか、を想定してくる。漢字テスト〔8回目〕対策。(60分)
第11回	楽しみながら言葉をやり取りする方法 同義語・類義語や対義語の一覧表をもとに、それらを用いたクイズの出し方を話し合う。また反対言葉、回文、頭韻歌などについて理解し、保育者役と幼児役を交互に行いながらクイズを出し合い、効果的な言葉の獲得方法や楽しみ方を学ぶ。	教科書・第5章。保育所を終えるまでに幼児に身に付けてほしい同義語・類義語や対義語を挙げ、効果的な指導法を考案する。漢字テスト〔9回目〕対策。(60分)
第12回	ストーリーテリング1 ストーリーテリングの概要を学び、お話の覚え方や演じ方を理解する。次回の発表会に向けて、準備と練習を行う。	教科書・第6章。教科書に掲載されているお話を、滑舌良く朗読できるようにしておく。漢字テスト〔10回目〕対策。(60分)
第13回	ストーリーテリング2 ストーリーテリングの発表をお互いに聞き合い、お話の楽しさを味わう。効果的な語り方や、聞くときのきまりなどを確認する。	お話を暗記し、語りかけるように話す練習をする。漢字テスト〔11回目〕対策。(60分)

第14回 劇1 物語や童話を劇にするため、脚本を作成する。グループで脚本化した劇、あるいはペープサートの発表に向けて、練習を行う。 第15回 劇2 劇の発表会を行う。演じることを通して気が付いた点（立ち位置、ペープサートの動かし方、ナレーションや台詞の言い方など）について話し合い、今後の言語活動に活かせるようにする。 定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う	教科書・第7章。劇に使う作品を用意する。漢字テスト〔12回目〕対策。 (60分) 劇の脚本を仕上げ、発表会で演じるための練習を行う。 (60分)
フィードバックの方法： 毎回の振り返りシートに関しては、回収後に記述内容を確認したうえで、次の授業時に返却する。漢字テストは、実施後に回収し、次の授業時に返却。フィードバックとして解答の解説を行う。	
テキスト：『保育の環境（言語表現） 言葉の楽しみ』神谷爲義 貞静学園短期大学 『保育の基本用語』長島和代編 わかば社	
参考書・参考資料等：『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子 日本エディタースクール出版部、 『保育所保育指針』厚生労働省、その他ほか授業に必要な文書などは、印刷配布する。	
学生に対する評価：次の3点を総合的に評価して、成績を判定する。 ①定時試験の得点（50%） ②授業内の演習における取り組み状況（25%） ③課題の提出状況・内容、漢字テストの得点（25%）	
実務家教員による授業科目：初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状（国語）と高等学校教諭2級免許状（国語）も有し、長年小学校教諭として勤務した。東京都教育委員会研究開発委員会 国語部会 委員長も経験しており、それらを踏まえ、保育の環境（言語表現）を担当する。	

授業科目名：2211112311 教育原理		必修：卒・幼・保	単位数：	担当教員名：濱中 啓二郎
1 年前期			2単位	担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 基礎理論科目 卒：教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想 保：保育の本質・目的に関する科目 教育原理		
学習成果該当番号：1. 5. 6				
授業の到達目標及びテーマ				
【授業の到達目標】教育、とりわけ乳幼児教育・保育の意義と目的について、子どもの発達過程、カリキュラム、子ども家庭福祉等との関わりも考えながら理解する。また、その歴史・思想をたどることによって、現在の教育が様々な教育思想を統合し、改革して出来たものであることを理解する。さらに、我が国及び諸外国の教育制度を理解すると共に、幼児教育の場における実際の教育実践の取り組み等も知りながら、生涯学習社会の教育、現代教育の現状と課題についても理解を深める。 【テーマ】教育の意義と目的、家庭地域と乳幼児教育の特性、子ども観と（日本・西洋の）教育思想、教育制度、様々な教育の実践の取り組み、生涯学習社会				
授業の概要				
まず、現在の考えられている教育の意義や目的について、乳幼児のそれも含めて理解する。次に現在の教育を成り立たせるにいたった国内外の教育思想を取り上げて、子ども観・教育観の変遷をたどる。その後、教育制度について教育法規や教育行政の基礎的事項に触れながら取り上げて、特に乳幼児保育・教育については欧米との比較を通して今日の教育のあり方を教授する。また実際の保育・教育では環境を通して行うという幼児教育の基本を踏まえながら常に実践を見直して改善を図ることの大切さを理解させ、生涯にわたって学び続けてキャリアアップを図る気持ちを持てるようにする。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1 回	【教育の意義と目的】 「教育とは何か」「教師とは何か」について、各自が教育を受けた体験をもとに考え、自分自身の教育所産を捉える。教育の目的として、教育基本法、幼稚園教育要領にも触れる。また、幼稚園、保育所の違いについても理解する。			自身が受けてきた教育から、教育の意味を自分なりにまとめておく。（60分）
第 2 回	【人間形成としての教育の役割】 人間形成の根幹としての教育の役割について、幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容から理解を深める。また、実際の幼稚園の活動から、臨床的にその意味を捉える。教育における家庭の役割についても触れる。			自身のこれまでの人生の中で、自身の性格が「どこから」「どんな影響を受けているのか」を考えておく。（60分）
第 3 回	【乳幼児期の教育の特性】 乳幼児期の教育の特性について理解するとともに、乳幼児期の教育は発達過程に応じ、環境を通して養護と教育が一体的に進められることを理解し、乳幼児に相応した教育のあり方を考える。遺伝と環境や初期経験の重要性についても触れる。			保育における養護、環境、教育、保育、学習などの言葉の意味を調べておく。（60分）
第 4 回	【幼児教育における「遊び」と「環境」】 幼児期の教育の基本は「遊び」であること、また「環境」を通して行われることを理解し、それが実際の幼稚園現場ではどういった様相を呈しているのか、具体的に理解する。保育・教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）との関わりで考えられるようにする。			幼児教育における「環境」とは何か、実際の幼稚園を基盤に、考えをまとめておく。（60分）
第 5 回	【教育実践における家庭・地域・社会との連携】 幼稚園と家庭・地域との関わり、教育現場を取り巻く様々な社会環境との関係性について理解を深める。その際、子ども家庭福祉の歴史・取り組みについても触れ、その重要性についても理解する。			幼稚園と家庭との連携、地域社会との関わりについて、自身の身近にある幼稚園の取り組みについて調べる（60分）
第 6 回	【教育の歴史・思想（1）：西洋】 中世から近代までの西洋に教育の歴史をたどり、主にコメニウス、ルソー、フレーベルらの教育思想を取り上げ、家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開を確認する。			コメニウス、ルソー、フレーベルの思想を、辞典やインターネットなどを使って調べておく。（60分）
第 7 回	【教育の歴史・思想（2）：西洋】 デューイ、モンテッソーリ、シュタイナーなどを取り上げ、経験主義、子ども中心主義、子			デューイ、モンテッソーリ、シュタイナーの教育思想を辞

	どもの興味の捉え方などに焦点を当て、考察していく。さらにプロジェクト型保育の歴史・思想についても触れる。その中から、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。	典やインターネットを使って調べておく。(60分)
第8回	【教育の歴史・思想(3)：日本】近代から現代にいたる幼児教育制度・思想を取り上げ、特に東京女子師範学校附属幼稚園、初期フレーベル主義教育思想とその弊害について取り上げる。さらに、和田實、倉橋惣三らの誘導保育論などを取り上げ、家庭や子ども、学校や学習に関わる教育の思想を理解する。	自身が高等学校の時に使っていた日本史の教科書から、日本の教育の歴史に関わる箇所を抜き出しておく。(60分)
第9回	【教育の制度(1)：教育制度の基本と諸外国の教育制度】OECDのPISAを取り上げ、世界的な観点から教育を捉える。加えて、諸外国の教育制度、とりわけフィンランド、ドイツを取り上げ考察していく。その他、シンガポール、スウェーデンの教育制度についても取り上げる。	世界には様々な教育制度があることを事前に調べ、気になった点を書き出しておく。(60分)
第10回	【教育の制度(2)：カリキュラムと教育法規・教育行政】基準としての学習指導要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等に基づく教育課程の計画、実施、評価、改善の過程を理解する。教育法規・教育行政の基礎についても触れる。	本学の学校案内を見て、何を目的にして、どんな教育が行われているのかを調べておく。(60分)
第11回	【教育実践の基礎理論としての教材「絵本」の意味】「絵本」及び「紙芝居」を取り上げ、実際の幼稚園の教育方法に即して、その教育的な意義を考察していく。教材、指導、学び、経験などをキーワードとしながら、「絵本」実践の意義を理解する。	自分が好きな絵本を10冊あげ、どういったところが好きなのか、自身の考えを書き出しておく。(60分)
第12回	【生涯学習社会と教育】生涯学習の意義と目的を理解し、生涯学習社会における個人の資質・能力の維持、形成について理解する。実際の教育現場における「研修」の意義について取り上げ、ディスカッションなどを通して考えを深める。	自分が住んでいる地域で実施している生涯学習講座について、その内容などを調べておく。(60分)
第13回	【現代の教育課題】現代の教育課題として「いじめ問題」「体罰の問題」「障害児教育」や、子どもと社会問題として「虐待への対応」などについて考察できるようにする。また、現代の教育課題について、考えを深められるようにする。	様々な教育問題について、特に関心のあることを新聞やインターネットを使って調べておく(60分)
第14回	【現代の教育課題と教育の多様な取り組み】様々な教育問題とその対応法、また幼稚園の様々な取り組みについて、テーマごとにグループに分かれディスカッションを通して考えを明確にし、発表する。また、様々な幼稚園の取り組みについて、食育、体育指導、音楽教育、地域活動など、特筆すべき点をピックアップして説明していく。	前回の授業で上がった内容または自身で調べた教育問題について、その対応法など、自分なりに考えをまとめておく。(60分)
第15回	【教育の基礎概念と実際】幼稚園教育について、学生の関心のあるテーマからディスカッションを展開し、理解を深める。特に、教育の歴史・思想、絵本・紙芝居などの教材、教師(保育者)の専門性などを取り上げ、同時にこれまでの学びを概観する。	これまでの学びを振り返り、特に関心の深いものについては、図書館の資料やインターネットなどを用いて調べておく(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法：確認レポートを提出させるたびに評価して、必要な指導助言を書き添えて返却する。		
テキスト：①【監修】谷田貝公昭・石橋哲成 【編者】石橋哲成 『コンパクト版保育者養成シリーズ 教育原理』 一藝社 ②文部科学省「幼稚園教育要領」(フレーベル館) ③厚生労働省「保育所保育指針」(フレーベル館) ④内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等：①『幼稚園教育要領解説』 ②『保育所保育指針解説』 ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 など		
学生に対する評価：定時試験を基本に、提出物や授業への参加状況を総合的に評価する。配点は、平常点(授業への取り組み・参加態度10%)、課題提出(20%)、定時試験(70%)。		

授業科目名：2211112421 保育原理 2年前期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：大学が独自に設定する科目 保：保育の本質・目的に関する科目 保育原理		
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育の意義及び目的を理解する②保育に関わる法令や制度を理解する③保育の歴史・思想の歴史と現代論の特質を理解する④保育所保育指針における保育の基本を理解する 【テーマ】保育所保育を中心に、その原理・制度・歴史・方法などがテーマとなる。			
授業の概要：近年、保育士の役割は多様になっている。本授業は「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、現代家族を概観し、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。さらに保育計画や評価の方法などを通して、保育所の実際を学んでいく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>保育の意味と意義</u> 保育の概念、保育の社会的役割と責任、保育の対象、子どもの最善の利益について理解する。	[復習]第1章についてのワーク(配布プリント)の記入(60分)	
第 2回	<u>子どもを取り巻く環境の変化とは</u> 家庭環境・社会環境の変化、保護者の子育て意識の変化 保育のニーズの多様化について考える。保育所保育指針と幼稚園教育要領の改訂の変遷を概観し、現在に至った経緯を理解する。	テキスト第2章の通読(60分)	
第 3回	<u>西洋の保育の歴史と思想</u> 中世から近代にかけての子どもの捉え方、近代における子どもの発見、代表的な近代西欧保育思想とその変遷について理解する。	テキスト第3章1節・2節の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	
第 4回	<u>日本の保育の歴史と思想</u> 代表的な保育思想・保育施設の歴史とその変遷について理解する。	テキスト第3章3節の通読(30分) [事後学習]第3回・第4回の授業の中で、興味を持った教育思想家をレポートにまとめ提出する(60分)	
第 5回	<u>保育における「子ども理解」</u> 子ども理解・カウンセリングマインド・子どもを見るまなざし・子どもの発達の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達の捉え方を理解する ※確認テストを実施する(第1～4回の内容)授業内に採点確認	テキスト第4章の通読(60分)	
第 6回	<u>保育環境とは</u> 環境による保育(保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方)、物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成について、メディアと環境との関係について考える。	テキスト第5章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	
第 7回	<u>保育の内容</u> 「保育内容」の根拠と実際の保育内容、ねらい・内容・領域の捉え方、保育所保育指針・幼稚園教育要領の構成と特徴を理解する。	テキスト第6章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)	

第8回	<u>保育の方法・形態</u> 保育方法の原理、保育の形態(自由保育と一斉保育・設定保育・チーム保育・コーナー保育・統合保育。多文化共生保育。異年齢保育・担当制保育等)と子どもの活動、遊びによる総合的な指導について考える。	テキスト第7章の通読(30分) [事後学習]興味を持った保育形態についてレポートにまとめ提出する(60分)
第9回	<u>保育の計画と評価</u> 保育における計画と実践の原理、実践から計画、改善などの必要性を検討する。保育の記録と評価、循環する保育実践とカリキュラム・マネジメント、苦情解決の原則と仕組みを学ぶ。	テキスト第8章・第9章の通読(60分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第10回	<u>家庭援助と子育て支援、保育に関する法制度</u> 子育て支援の背景、子育て支援センターとしての保育所・幼稚園の役割を理解する。相談援助者としての保育者のあり方・最新の保育制度について学ぶ。	テキスト第10章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第11回	<u>家庭・小学校との連携</u> 家庭との連携の必要性和連携の方法、保育園と幼稚園との連携・幼保小の連携の必要性並びに連携の実際を学ぶ。幼児期に育みたい資質と小学校教育への接続を理解する。	幼稚園、保育所で行われている小学校との連携実例をレポートにまとめ提出する(90分)
第12回	<u>子どもの安全・虐待・特別な配慮を要する子どもへの対応</u> 安全教育・防災教育等危機管理全般に関すること、虐待対応の基本、配慮を要する子どもへの対応、集団生活の中での障がいのある子どもの保育について理解する。	テキスト第12章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第13回	<u>保育者の専門性</u> 保育者の倫理観・子どもの人権・プライバシーの保護、保育者の専門性を考える。保育の質の向上を目指し、保育の評価と保育者の研修について検討する。 ※確認テストを実施する(第10～13回の内容)授業内に採点確認	テキスト第13章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
第14回	<u>諸外国の保育の現状と課題</u> フランス・ドイツ・アメリカ・イギリス・イタリア・フィンランド・スウェーデン・アメリカ等諸外国の保育制度や保育内容を学ぶ。	興味を持った国の保育についてレポートにまとめ提出する(90分)
第15回	<u>保育の現状と課題</u> 待機児童の現状・保育の民営化・地域型保育所・認証保育所・保育の質と第三者評価・幼保一元化等、保育園・幼稚園現代日本における保育の現状を把握し、課題について検討する。	テキスト第14章の通読(30分) [復習]ワーク(配布プリント)の記入(30分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を実施する ・毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。 フィードバックの方法： レポートについては提出後評価し、コメントを加えて返却する。 ワークシートは授業内で使用し検討及び助言をする・確認テストについては説明をしながら採点を行う		
テキスト： 『最新 保育原理』上中修編著 教育情報出版		
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』(文部科学省 フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省 フレーベル館) 適宜プリントを配布 『保育の室を高める保育原理』田中正浩編著 大学図書出版		
学生に対する評価： 以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。 定時試験50%・授業への取り組み20%・課題30%を総合的に評価する		

授業科目名：2200112521 子ども家庭福祉 2年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭福祉		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の理念と概念、そして歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体制等について理解する。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 【テーマ】 1. 権利主体としての子どもを捉えていく視点を養うこと。 2. 子ども家庭福祉サービスにより、子育て家庭の問題状況がどのように解決・緩和されているかを理解し、課題を明確にすること。				
授業の概要：子ども家庭福祉は、社会の変化に伴いその姿を変えるものである。日本における子ども・家族・社会の変化と、それに伴う子ども家庭福祉の歴史的変遷について、法律、制度、実施体制などに焦点をあてながら学んでいく。特に、子ども家庭福祉の一分野としての保育の役割について、理解を深めていく。さらに現代社会における、子どもに関する問題に焦点をあて、現代社会に求められる子ども家庭福祉の姿や今後の課題についてグループ学習を通じて、理解を深める。こうした過程を通して、子ども家庭福祉の根底である子どもの「人権」に対する理解を深め、保育者としてふさわしい子ども家庭福祉の視点を養う。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念について理解する。 ・子ども家庭福祉を学ぶ際の4つの視点（理念、政策、実践、運営）から全体像を把握し、児童の最善の利益について、グループディスカッションを行う。		社会福祉の視点や価値を振り返り、教科書pp. 1-13を読んで、児童の最善の利益について、説明できるように下調べをする（60分）。	
第2回	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向について理解する。 ・視聴覚教材を用いて、欧米の子ども家庭福祉の特徴を概観し、ニーズの変化や担い手の変化をとらえる。		教科書pp. 15-26を読んで、疑問点等を挙げることにより、子ども家庭福祉の歴史について関心を高める（60分）。	
第3回	子どもの人権擁護について理解する。 ・子どもの人権擁護のしくみがどのように構築されてきたのかを理解し、児童の権利に関する条約およびその具体化に向けた取り組みとして、「子どもの権利ノート」についてグループ学習とプレゼンテーションを行う。		教科書pp. 27-38を読んで、子どもの権利ノートに関して、下調べをする（60分）。	
第4回	子ども家庭福祉の制度と実施体制について理解する。 ・子ども家庭福祉サービスが提供されるまでの仕組みとして、基本理念、実施主体、施設、機関等を定める法律や制度について学ぶ。		教科書pp. 39-52を読んで、児童福祉法について、下調べをする（60分）。	
第5回	子ども家庭福祉の施設と専門職について理解する。 ・保育所をはじめとする児童福祉施設の種類やその目的および役割を知り、子ども家庭福祉の機関・施設に配置されている専門職倫理について、ワークシートで学ぶ。		教科書pp. 53-68と全国保育士倫理綱領を読んで、専門職としての意識を高める（60分）。	
第6回	少子化と地域子育て支援について理解する。 少子高齢化の要因や子育て支援が必要とされる背景を学び、子育て家庭のニーズに対応する地域の子育て支援の実際について、グループ学習を行う。		教科書pp. 69-82を読んで、子育てに関するサービスや制度について調べ、説明できるようにする（60分）。	

第7回	母子保健と子どもの健全育成について理解する。 ・「母子保健」「子どもの健全育成」という視点から、妊娠学童期までの支援体制を学び、子どもの健全育成の実際について、グループ学習とプレゼンテーションを行う。	教科書pp. 83-98を読んで、居住地域の子どもの健全育成について、資料を準備する(60分)。
第8回	多様な保育ニーズについて理解する。 ・子ども・子育てを社会全体で支援するしくみである子ども・子育て支援制度の概要を学び、多様な保育ニーズへの対応状況と課題に気付く。	教科書pp. 99-110と配布資料を読み、認可保育所、幼稚園、認定こども園、認可外保育施設等について、下調べをする(60分)。
第9回	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止について理解する。 ・子どもの養育環境の基盤である家庭の中で生じている子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの現状を理解するとともに、それらが子どもに及ぼす影響、そして防止のための取り組みについて理解する。持参した新聞記事で小レポートを作成する。	教科書pp. 111-124 を読んで、子ども虐待とドメスティックバイオレンスに関する新聞記事を持参する(60分)。
第10回	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。 ・貧困の現状や貧困のなかで子ども期を過ごすということが子どもにどのような影響をもたらすのかを学ぶとともに、格差を解消するための保育所の可能性について、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 125-140を読んで、子どもの貧困について、下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護について理解する。 ・社会的養護の概要やその方向性等を振り返るとともに保育士としても携わりうる社会的養護下の子どもたちへのかかわりについて、グループディスカッションを行うことにより、保育士の役割を深く理解する。	社会的養護の授業で学んだことを振り返り、教科書pp. 141-152を読んで、要保護児童について下調べをする(60分)。
第12回	障害のある子どもへの対応について理解する。 ・障害児への支援の変遷について振り返ることにより、ノーマライゼーションの理念を学修し、障害児支援のポイントについて、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 153-166を読んで、ノーマライゼーションについて下調べをする(60分)。
第13回	少年非行等への対応について理解する。 ・非行の現状や特別な支援の制度について学び、少年たちにより良い環境を提供し成長をうながす育ち直しの支援の意味や仕組みを学ぶ。	教科書pp. 167-178を読んで、少年院や児童自立支援施設について、下調べをする(60分)。
第14回	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶ。 ・出生数および合計特殊出生率の年次推移を理解し、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、次世代育成支援等の少子化対策の背景や流れを学び、今後の子育て支援の課題について、グループディスカッションを行う。	教科書pp. 179-190を読んで、これまでの少子化対策の流れについて、下調べをする(60分)。
第15回	地域における連携・協働とネットワークについて学ぶ。 保育の実践場面における「連携・協働」、「ネットワーク」について、保育所保育指針と全国保育士会倫理綱領から学び、実際の現場で求められる保育士像について、プレゼンテーションをする。	教科書pp. 191-202を読んで、連携・協働、ネットワークについて、下調べをする(60分)。
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法：第3回、第7回、第15回のプレゼンテーションのあとに講評する。第10回に、第9回で提出されたレポートにコメントをつけて返す。		
テキスト：公益財団法人 児童育成協会「子ども家庭福祉」中央法規、2019		
参考書・参考資料等：厚生労働省（編）保育所保育指針解説 株式会社フレーベル館、2018 自作資料を印刷配布する。		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（聞く態度も含む）（20％）、課題の提出状況と内容（20％）、定時試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112611 社会福祉 1 年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の本質・目的に関する科目 社会福祉		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【目標】 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点を養う。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わるしくみについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 【テーマ】 基本的人権の尊重を基盤に、社会福祉の歴史・法律・組織・技術を広い視点で学ぶ。				
授業の概要： 社会福祉の基本的視点や枠組みの理解のため、社会福祉の歴史の変遷や制度、実施体系等を学ぶ。社会福祉における子ども家庭福祉の視点や少子高齢社会における社会福祉の動向と課題について理解する。利用者の保護に関わるしくみについて幅広く学び、社会福祉の相談援助の事例から保育士に求められるソーシャルワークの基礎や今後の社会福祉サービスにおける利用者主体の仕組みを学修する。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	現代の生活と社会福祉の意義について理解する。 ・「少子社会」「高齢社会」「人口減少社会」というキーワードを用いて、現代の社会の特徴について理解するとともに、生活部面を支える社会福祉の意義と定義を理解する。			教科書pp.1-10を読んで、私たちの日常生活を支える社会福祉に関して、下調べをする(60分)。
第 2回	欧米や日本における社会福祉の歴史の変遷について理解する。 ・視聴覚教材を用いて、欧米及び日本の社会福祉の成立と展開に関して学ぶ。特に、日本の社会福祉の現代的課題として、拡大する格差・貧困問題や子どもの貧困について、焦点をあてる。			教科書pp.11-23を読んで、欧米や日本の社会福祉の歴史について、初めての用語を挙げて、下調べをする(60分)。
第 3回	社会福祉の法律について理解する。 ・日本の社会福祉の法制度の体系を整理し、制度・法律の種類、位置づけ、役割についての基礎知識を身につける。また、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉の制度・法律について理解を深める。			教科書pp.25-30を読んで、社会福祉法や児童福祉法等の下調べをする(60分)。
第 4回	社会福祉の行政組織について理解する。 ・行政機関と諸制度との関連について学ぶ。特に保育とかかわりがある厚生労働省、福祉事務所、児童相談所等の機能と役割について資料を用いて理解する。			教科書pp.31-38を読んで、自分の居住地域の行政組織について調べる(60分)。
第 5回	社会福祉の民間活動について理解する。 ・民生委員、児童委員、社会福祉協議会、共同募金、ボランティアNPOの役割について調べる。また、ボランティア体験を発表することにより、ボランティアが民間活動の一部であることに気付く。			教科書pp.39-46を読んで、自分のボランティア経験を発表できるように、下準備をする(60分)。
第 6回	保育士等の社会福祉従事者の現状と資格制度について理解する。 ・社会福祉の支援を必要としている人々と社会福祉従事者の資格制度について学ぶ。そのうえで、保育士の専門性と倫理について、グループディスカッションを行う。			教科書 pp.47-55を読んで、保育士の資格制度について、下調べをする(60分)。
第 7回	社会福祉における相談援助について理解する。 ・相談援助の概要を学び、特に方法と技術についてグループ学習を行う。特に個別援助における原則として、パールマンの問題解決アプローチとバイステックの7原則について学び、保育現場の相談援助に関して理解を深める。			教科書 pp.57-65を読んで、保育現場の相談援助について下調べをする (60分)。

第8回	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ・振り返りの小テストを行う ・福祉サービスの利用制度が、措置から契約に変わったことを理解し、情報提供と第三者評価のしくみ、利用者の権利擁護と苦情解決に関する基礎的な知識を身につける。	教科書 pp.67-76を読み、福祉サービスの利用制度が措置から契約に変更されたことについて、下調べをする(60分)。
第9回	児童家庭福祉について理解する。 ・児童に関する問題について、グループ学習とプレゼンテーションを行う。そのうえで、児童の基本的人権を保障する児童家庭福祉の対象・制度・課題等について理解する。	教科書 pp.77-86を読んで、児童に関する問題を挙げて説明できるように下調べをする(60分)。
第10回	高齢者保健福祉について理解する。 ・高齢者に関する福祉問題について、グループ学習とプレゼンテーションを行う。そのうえで、高齢者の保健福祉の制度と課題について、理解をする。	教科書 pp.87-95 を読んで、高齢者に関する福祉問題を挙げて、説明できるように、下調べをする (60分)。
第11回	障がい者福祉について理解する。 ・障がい者福祉の制度、ICF（国際生活機能分類）とノーマライゼーションの理念について学ぶ。 ・障がい者の福祉についての新聞記事や資料を用いて、小レポートを作成する。	教科書 pp.97-105 を読んで、障がい者の福祉について新聞や資料を用いて、下調べをする(60分)。
第12回	生活保護について理解する。 ・生活保護制度の概要を学び、「健康で文化的な最低限度の生活」について、グループディスカッションを行う。そのうえで、生活保護受給者の約5割が「高齢者世帯」、約3割が「傷病・障害者世帯」約1割が「母子世帯」という実態と課題について理解する。	教科書 pp.107-116 を読んで生活保護について、下調べをする(60分)。
第13回	地域福祉について理解する。 ・地域福祉の概要、制度、課題について学び、身近な地域福祉に関して、グループディスカッションを行う。そのうえで、地域福祉の推進役である地域住民、社会福祉協議会、民生・児童委員、ボランティア等について理解する。	教科書 pp.117-128を読んで居住地域の福祉について説明できるように、下調べをする(60分)。
第14回	保育と社会福祉について理解する。 ・保育所の役割について、グループディスカッションを行う。保育事業のあゆみ、保育制度・政策の動向などを学び、社会福祉の視点で保育をとらえ、今後の課題について理解する。	教科書 pp.129-139 を読んで保育所の役割について下調べをする(60分)。
第15回	福祉教育について理解をする。 ・福祉教育の定義、内容、課題について学ぶ。 ・これまでの社会福祉の授業のまとめを行うことにより、子ども家庭福祉の視点を養う。	教科書 pp.129-139 を読んで福祉教育について下調べをする(60分)。
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法： 第9回に、第8回で行った小テストの返却と解説をする。第12回で、第11回に提出されたレポートにコメントをつけて返す。第9回と第10回のプレゼンテーションの後に、講評を行う。		
テキスト： 井村圭壮・今井慶宗編著（2019）福祉の基本体系シリーズ① 社会福祉の基本体系【第5版】勁草書房		
参考書・参考資料等： 自作資料を印刷配布する。		
学生に対する評価： 準備学習及び授業への取り組み（聞く態度も含む）（20%）、課題の提出状況と内容（20%）、定時試験（60%）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112722 子ども家庭支援論 2年後期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の本質・目的に関する科目 子ども家庭支援論		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 【テーマ】保育者による家庭支援についての基礎的知識の習得を目指す。また、多様な家庭の子育てについて理解し、それぞれの家庭に応じた保育実践のあり方を学習する。				
授業の概要：少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題、女性の社会進出により、子どもを巡る社会的環境はめまぐるしく変化している。このような背景から、保育ニーズは拡大し、多様な課題をもたらしている。保育者は、子どもの健やかな育ちをサポートする者として社会的に重要な役割を担っており、子育て家庭を側面的に支える専門職である。本授業では家庭の子育ての課題を知り、支援が出来るようになることを目的とする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領にある子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。また、子ども家庭を支援する必要性を学び、保育士等が備えるべく子ども家庭支援の専門性について理解する。		教科書pp. 12-21を読んで、子ども家庭を支援することについて、下調べをする(60分)。	
第2回	「子育て」と「子育て」における価値の変容と不変性について理解する。 ・児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学び、グループディスカッションを行う。		教科書pp. 22-37を読んで、戦後の家族と子どもに関する出来事について、下調べをする(60分)。	
第3回	少子社会と家族について理解する。 ・出生数及び合計特殊出生率の年次推移を通じて少子化の要因を理解し、少子化が家族や社会全体に及ぼす影響について、グループディスカッションを行う。		教科書pp. 38-48を読み、少子化と少子化が子育てに及ぼす影響について、下調べをする(60分)。	
第4回	少子化対策から子ども・子育て支援新制度への経緯について理解する。 ・少子化、児童虐待、待機児童等の状況をふまえて、子ども子育て支援新制度の創設に至る経緯を学修する。		教科書pp. 49-59を読み、これまでの少子化対策を概観し、待機児童について、下調べをする(60分)。	
第5回	子どもと家族の変容 ①夫婦と親子について理解する。 ・子どもと家族の変容について夫婦や親子関係に着目して子育て不安や育児ストレスの原因や解消について学び、プレゼンテーションを行う。		教科書pp. 61-72を読み、子育て不安や育児ストレスについて、下準備をする(60分)。	
第6回	子どもと家族の変容 ②きょうだいと祖父母について理解する。 ・子どもにとってのきょうだいと祖父母の存在や関係の変容について、グループで事例検討を行う。		教科書pp. 73-84を読み、きょうだいや祖父母に関する事例について検討し、説明できるようにする(60分)。	
第7回	「ヒト」の持つ育ちの可能性について理解する。 ・赤ちゃんが生まれながらに持っている力についてグループ学習を行い、「ヒト」の持つ育ちの可能性について理解を深める。		教科書pp. 85-95を読み、動物の子育てについて、紹介できるように下調べをする(60分)。	
第8回	ファミリー・ウォッチング：フィールドワークについて学修する。		教科書 pp. 96-108 を読み、実際に町で、ファミリー・ウォ	

第9回	・町で行ったファミリー・ウォッチングの経験をワークシートに記録して、プレゼンテーションを行う。 親と子・家族の関係形成とその発達(虐待の予防的支援)について理解する。	ッチングを行い、発表の下準備をする(60分)。 教科書pp. 109-124の事例を読み、愛着形成と虐待の予防における保育者の役割について下調べをする(60分)。
第10回	・事例検討により、親子の愛着形成を支援する保育者の役割に気付き、虐待の予防的支援に関する視点を養う。 私の子ども時代：子どもの生活と遊びの再考について学修する。	教科書pp. 125-137を読み、自分の遊び体験と心身の成長との関係について、下調べをする(60分)。
第11回	・自分の遊び体験について、ワークシートを用いて分析し、子どもの心身の健康と生活について学修する。 子どもの成長と地域の子どもの子育て資源について学修する。	教科書pp. 140-154を読み、子育てに関する居住地域の社会資源について、下調べをする(60分)。
第12回	・地域において、妊娠、出産時期から小学生期の間に行われている援助について、グループ学習を行う。 多様な子ども・家庭支援と地域との連携①子育てのストレスと子どもの発達援助・発達障害について理解する。	教科書pp. 155-168を読んで、居住地域の子育て広場について調べて、説明できるようにする(60分)。
第13回	・子育て家庭のニーズに関して、顕在的ニーズと潜在的ニーズに応じて地域の社会資源と連携しながら対応することを学び、保育ソーシャルワークの視点を養う。 多様な子ども・家庭支援と地域との連携②虐待(要保護児童・家庭支援)について理解する。	教科書pp. 169-182を読んで、多様化する子どもや家族への支援について、下調べをする(60分)。
第14回	・保育所等は地域の子育て家庭への支援を行うために、他の関係機関と連携しながら専門性をもって取り組む必要があることを理解し、保育者の役割について、グループディスカッションを行う。 諸外国の子ども・家庭支援について理解する。	教科書pp. 183-194を読み、レ
第15回	・世界の子どもや子育てについて、文献資料を用いて調べてレポートを作成し、プレゼンテーションを行うことにより、子ども家庭支援において、広い視野と柔軟性のある判断力を身につける。 子育て支援の現状と課題についてまとめる。	世界の子どもや子育てについて文献や資料を集め、説明できるようにする(60分)。
	・授業全体を通じて、現代社会における子どもと子育て家庭の課題について振り返りを行い、子ども家庭支援に関する実践力を身につける。	教科書pp. 195-199までを読んで、振り返りを行う。(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバックの方法： 第5回と第8回のプレゼンテーションのあとに講評する。第8回と第10回で提出されたワークシートは、次回にコメントをつけて返す。第15回に、第14回で提出されたレポート課題にコメントをつけて返す。		
テキスト： 土谷みちこ（編著）「子ども家庭支援論」青踏社、2020		
参考書・参考資料等： 厚生労働省（編）保育所保育指針解説 株式会社フレーベル館、2018 文部科学省（編）幼稚園教育要領解説 株式会社フレーベル館、2018		
学生に対する評価： 準備学習及び授業への取り組み（聞く態度も含む）（20％）、課題の提出状況と内容（20％）、定時試験（60％）を総合して評価する。		

授業科目名：2200112811 社会的養護Ⅰ	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
1 年前期			
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の本質・目的に関する科目 社会的養護Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【目標】			
1.現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。			
2.児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。			
3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。			
4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。			
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
【テーマ】			
社会的養護課題と将来像の実現に向けた取り組みについて理解する。			
授業の概要：社会的養護の基本体系を理解するために、①社会的養護の歴史や理念、体系を学ぶ。②現代社会における社会的養護の役割（児童福祉サービスにおける入所・通所サービス、施設を活用したショートステイなどの在宅福祉サービス、里親や養子縁組などの家庭養護サービス、社会的養護サービスに関連する予防、相談、情報提供等）を学ぶ。③社会的養護に携わる社会福祉専門職が求められる技術と方法を習得し、施設保育士の役割について考察を深めることにより、専門性を養う。④社会的養護の対象・形態・専門職の実際、家族や関係機関との連携を学ぶことにより、実践力を養う。⑤子どもの保育に関わる社会的養護の現状と課題等を考察する。			
授業計画：			
			準備学修
第 1回	社会的養護の理念と概念について理解する。 ・「社会時養護とは何か」を理解し、その根本的な考え方である理念や原理について学修する。		《事後学習》 教科書pp. 2-12を読んでおくこと(60分)。
第 2回	社会的養護の歴史の変遷について理解する。 ・視聴覚教材を用いて欧米及び日本の歴史を振り返り、社会がどのような方法で児童を養護してきたのかを学修する。		教科書pp. 14-24を読んで、子ども観の変遷について、下調べをすること(60分)。
第 3回	子どもの人権擁護と社会的養護について理解する。 ・児童の権利に関する条約を学び、子どもの最善の利益についてレポートを作成する。		教科書pp. 26-36を読んで、子どもの権利について、下調べをすること(60分)。
第 4回	社会的養護の基本原則について理解する。 ・「家庭養育優先原則」の根拠となる児童の権利に関する条約と児童福祉法の理念についてグループ学習を行い、社会的養護の基本原則について学修する。		教科書pp. 38-47を読んで、児童の権利に関する条約について、下調べをすること(60分)。
第 5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務を学修する。 ・参考資料「全国保育士会倫理綱領」(p. 182)について、ワークシートで学ぶ。		教科書pp. 50-60を読んで、保育士の倫理について、下調べをすること(60分)。
第 6回	社会的養護の制度と法体系について理解する。 ・「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、社会的養護の制度や法体系を理解する。		教科書pp. 62-72を読んで、児童福祉法について、下調べをすること(60分)。（
第 7回	社会的養護のしくみと実施体系について理解する。 ・児童相談所から社愛的養護の施設や里親家庭に至るまでのソーシャルワーク過程、そして社会的養護の施設等の目的と概要、今後の課題について学修する。		教科書pp. 74-84を読んで、施設養護について、下調べをすること(60分)。
第 8回	社会的養護とファミリーソーシャルワークを理解する。 ・ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点や考えを確認したうえで、社会的養護においてソーシャルワークの考え方がどのように展開されるのかを確認する。		教科書pp. 86-94を読んで、エンパワメントについて、下調べをすること(60分)。
第 9回	社会的養護の対象と支援の在り方について理解する。 ・社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深		教科書pp. 98-106を読んで代替養育のプロセスについ

	めるために、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを確認する。	て、下調べをすること(60分)。
第10回	家庭的養護と施設養護について理解する。 ・社会的養護施策の動向や、里親やファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、家庭養護と施設養護の共通点と相違点に関して学修する。小テストを行う。	教科書pp. 110-120を読んで家庭的養護の利点と課題について、下調べをすること(60分)。
第11回	社会的養護にかかわる専門職について理解する。 ・現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について学修する。現場で働く際には、さまざまな施設や機関の職員と連携することになるので、保育士と連携する職種について理解する。小テストの答え合わせを行う。	教科書pp. 122-132を読んで社会的養護の施設で働く職員について、下調べをすること(60分)。
第12回	社会的養護に関する社会的状況について理解する。 ・諸外国における社会的養護の状況を参考に、養子縁組を含む社会的養護の在り方について考える。 ・子どもが育つ基盤である家庭と社会的養護について理解し、社会的養護の今後のあり方についてグループディスカッションをする。	教科書pp. 134-143を読んで社会的養護の今後の在り方について、自分の意見をまとめること(60分)。
第13回	施設等の運営管理の現状と課題について理解する。 ・社会的養護に関する施設は、様々な考え方によって設立され、運営されているが、「子どもの最善の利益」「すべての子どもを社会全体で育む」という共通の基本理念があることを理解する。	教科書pp. 146-156を読んで児童福祉施設の職員配置基準について、下調べをすること(60分)。
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題について理解する。 ・児童福祉施設に入所する子どもへの虐待の現状と課題について理解し、被措置児童の虐待の発生原因と課題について、グループディスカッションをする。	教科書pp. 158-168を読んで被措置児童等の虐待について下調べを行う(60分)。
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題を学ぶ。 ・地域福祉とは何かについて理解し、社会的養護関係の児童福祉施設がもつ地域支援の機能を学ぶ。 ・親子関係の再構築のための支援や施設を退所した児童の自立支援のあり方についてまとめる。	教科書pp. 170-180を読んで児童の自立支援について、下調べをすること(60分)。
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法： 第4回に、第3回で提出されたレポートにコメントをつけて返す。第6回に、第5回で提出されたワークシートにコメントをつけて返す。第11回に、第10回で行った小テストの解説を行う。		
テキスト：公益財団法人 児童育成協会（監修）相澤仁、林浩康（編集）「社会的養護Ⅰ」中央法規、2019		
参考書・参考資料等：自作資料を印刷配布する。		
学生に対する評価：準備学習及び授業への取り組み（聞く態度も含む）（20%）、課題の提出状況と内容（20%）、定時試験（60%）を総合して評価する。		

授業科目名：2201112911 保育・教職論 1 年前期	必修：（卒）・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：竹田 恵 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・ 職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 保：保育の本質・目的に関する科目 保育者論		
学習成果該当番号：3. 4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 本学の学生は全員が保育者を目指していることに鑑み、幼稚園教諭及び保育士の有り方について総合的に理解できるようにする。教職においては教職の意義、教員の役割、教員の役割・資質能力、職務内容、学校運営等について理解するとともに、保育者においてもその役割と倫理、制度的な位置付け、専門性、協働、研修等について理解して、現代の幼児教育及び保育をめぐる社会的な問題も考える。このことを通して教職及び保育者への意欲を高める。 【テーマ】 教員・保育者の意義と役割、教員・保育者の職務内容、教員・保育者の協働と連携、教員・保育者の研修とキャリア形成			
授業の概要：この授業は、幼児教育を施す教員及び養護と幼児教育を施す保育者の両方の職の有り方を教授するものである。両者の職には多くの共通点があるものの、またそれぞれの目的によって相違するところも数知れず存在する。そこで、上記のテーマ別に教職について教授した後保育者について教授し、その共通点や相違点が明確になるように授業を展開する。なお職の有り様を論ずるためには、それが学校教育法や児童福祉法をはじめとした様々な法令に基づくことに注目させる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>教職の意義</u> 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義について、他の職業との比較を通して話し合い、その内容をまとめる。	復習：配布資料を読み直し、 本時の学習内容をまとめる（ 60分）	
第 2回	<u>幼稚園教諭の役割</u> 教師の仕事の実態、教職の職業的特徴について知るとともに、学校教育法に規定されている幼稚園の目的、家庭・地域への教育支援、幼稚園教諭の職務など踏まえてその特徴をまとめる。	テキスト第 1 講「保育者の役割」 S t e p 2 の通読 （60 分）	
第 3回	<u>保育者の役割</u> 教師の役割と比較しながら、児童福祉法に定められた保育所、保育士、保育所保育士の役割について資料をもとに話し合い、理解できたことをまとめる。	テキスト第1講「保育者の役割」 S t e p 1 の通読 （60分）	
第 4回	<u>保育者の倫理</u> 専門職としての一般的な専門的倫理の考え方を知り、「全国保育士会倫理綱領」をもとに保育士としての倫理について話し合う。	テキスト第 2 講「保育者の倫理」の通読（60分）	
第 5回	<u>教員の職務の全体像</u> 幼稚園教諭の立場から学級経営の有り方を話し合うとともに、幼稚園教員の職名と職務を知って教員の職務の全体像を理解する。	幼稚園教諭の職務内容について、自分なりに調べてまとめる（60分）	
第 6回	<u>保育士の職務の全体像</u> 保育士の職場としては保育所、児童養護施設、障害児入所施設などさまざまな施設があることを知り、そのうちの保育所保育士の職務について仕事の概要をまとめる。	保育士の職務内容について、自分なりに調べてまとめる テキスト第 3 講Step 1 の通読（60分）	
第 7回	<u>義務・身分保障・欠格事由</u> 教員と保育士の欠格事由、及びそれぞれに与えられている職責について学ぶ。また、法令を基に教員に課せられている服務上の義務と身分保障について話し合ってから、教員の義務と対応させて保育士の信用失墜行為や秘密保持の義務の意味を話し合う。	テキスト第 3 講を読み、教員、および保育士の欠格事由についてまとめる（60分）	
第 8回	<u>教育と養護及びその一体的な展開</u> 幼稚園の幼児と保育所の乳幼児の生活を比較して、前者が遊びを中心にした総合	テキスト第 4 講「養護と教育	

	的な指導であることに対して、後者は保育所保育指針の「保育の目標」や「健康及び安全」をもとに養護の機能を加えて家庭的保育が行われるように環境が整えられていることを理解する。	」の通読（60分）
第9回	<u>資質・能力</u> 幼稚園教育要領解説をもとに幼稚園教諭として必要な資質・能力を考察したり、保育所保育指針をもとに保育士として必要な資質・能力を考察したりして、保育者として必要な資質・能力をまとめる。	テキスト第5講「保育者の資質と能力」の通読（60分）
第10回	<u>保育計画と評価</u> 保育計画にもとづいた保育を実践、記録し、その記録を振り返って計画や保育の実際を評価、改善する過程を理解する。また、その繰り返しが保育者自身の実践知を高めることになることを理解する。	テキスト第7講「保育の省察」の通読（60分）
第11回	<u>保育者の専門性と省察</u> 倉橋惣三『育ての心』をもとに、保育者の専門性と「省察」について考察する。保育者としての資質を高め、よりよい保育をめざすために必要なことは何かについて話し合う。	倉橋惣三について調べてまとめる（60分）
第12回	<u>組織と協働</u> 幼稚園及び保育所や児童養護施設等、あらゆる職場で教職員がその専門性を生かして仕事を分担し、目的達成に向かって協働していることを、事例に基づいて理解する。	テキスト第10講「園での協働」講の通読（60分）
第13回	<u>保護者支援</u> 事例をもとに保護者の子育て不安の要因を分析したり、保護者に対する支援の有り方を話し合ったりして、保護者支援が職務に位置づけられている意義を理解する。	テキスト第12講「保護者および地域社会との協働」の通読（60分）
第14回	<u>外部機関との連携</u> 幼稚園や保育所が、同じ幼稚園や保育所の間、小学校・役所の児童福祉課・医院・地域の人々との間で連携を保って在園乳幼児の保育を効果的に進めていることを理解する。	テキスト第11講「専門機関との連携」の通読（60分）
第15回	<u>研修とキャリア形成</u> 幼稚園や保育所等では、各自の研修を推奨するだけでなく現代的な保育問題の課題を取り上げて全教員・全保育者が協働して研修し、保育者としてのキャリアを向上させる必要性を理解する。また教員には研修が教育基本法によって義務化されていることから、研修が職務の一つであることを理解する。	テキスト第15講「保育者のキャリア形成」の通読（60分）
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：第2回以降、ワークシートや課題については、返却後見直しをしておくこと。フィードバックとして授業時に課題の解説を行う。（以下15回まで同様）		
テキスト： 矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』中央法規出版		
参考書・参考資料等： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 その他授業に必要な文書を印刷配布する。		
学生に対する評価：次の3点を総合的に評価して成績を判定する。 ① 定期試験の得点（70％） ② ワークシートや課題の提出状況や内容（20％） ③ 授業態度（10％）		
実務家教員による授業科目：長年幼稚園教諭として勤務し、その経験を踏まえ、保育現場の実例も含め幼稚園教諭並びに保育士の職の在り方について実践的に教授する。		

授業科目名：2211013021 特別支援の理解と方法 2 年前期	必修：卒・幼	単位数： 1 単位	担当教員名：大城 恵子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 基礎理論科目 幼：教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ① インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ② 児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ③ 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身につけている。 ④ 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤ 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ⑥ 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ⑦ 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 ⑧ 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 【テーマ】 ①特別支援教育の仕組み、②特別な支援を必要とする子どもの特性と心身の発達、③個別の指導計画と教育支援計画、④家庭や関係機関との連携、⑤指導者としてのあり方を取り上げる。			
授業の概要：本授業は、様々な「特別な支援を必要としている子」を理解し、家庭や関係機関と組織的な協力関係を構築する方法を身につけ、子ども達が生きる力を身につけていくことを支援できる指導者となるための基礎知識を身につける事を目標としている。テーマに挙げた①から⑤を軸に乳児期から幼児期までの子どもを中心に対応を学び、個別の指導計画を立案するための基礎知識を身につける。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み 特別支援教育の仕組みを概観し、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒」とはどういう子ども達なのかを知る。	第 2 回～第 1 5 回：授業内で配布する次回の参考資料を読むこと (60 分)	
第 2 回	個別計画の意義について 誕生から青年期までの発達段階を概観し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする子どもにとっての個別の指導計画および個別の教育支援計画の重要性を知る。その基礎として課題分析の方法についてレポートを作成する。		
第 3 回	家庭との連携・関係機関との連携について 地域の子育て支援、医療機関、療育機関など関係機関の役割を知り、家庭との連携や保護者支援の方法について知る。		
第 4 回	特別な支援を必要とする子どもの生活（0～2 歳）①集団生活の中での早期発見 集団生活の中で特別な支援を必要とする子どもを早期に発見するための基礎的な知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。		
第 5 回	特別な支援を必要とする子どもの生活（0～2 歳）②集団生活場面での対応 地域の子育て支援、医療機関、療育機関等の関係機関や家庭と連携し、子どもに必要な個別の指導計画をたてるための基礎的知識を身につける。課題としてあげた児童・生徒について連携のマップを作成し、レポート提出を行う。		
第 6 回	特別な支援を必要とする子どもの生活（3～5 歳） ①集団生活の中での早期発見		

第7回	集団生活の中で特別な支援を必要とする子どもを早期に発見するための基礎的知識を身につけ、早期療育の必要性について知る。 特別な支援を必要とする子どもの生活（3～5歳）②多動な子への対応の工夫 多動な子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。また、学齢期になって経験する可能性がある困難について知り、支援の方法について知る。
第8回	特別な支援を必要とする子どもの生活（3～5歳）③自閉スペクトラム症の子への対応の工夫 自閉スペクトラム症の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を身につける。また、学齢期になって経験する可能性がある困難について知り、支援の方法について知る。これを基に課題としてあげた実際の指導計画の改善法についてレポートを作成する。
第9回	特別な支援を必要とする子どもの生活（3～5歳）④学習障害の子への対応の工夫 学習の子どもが集団生活の中で経験する困難や必要な支援について知り、個別の指導計画、教育支援計画をたてるための基礎的知識を得る。また、学齢期になって経験する可能性がある困難について知り、支援の方法について知る。
第10回	特別な教育的ニーズがある子どもへの理解と対応 母国語や貧困、家庭の問題等により特別な教育的ニーズがある子どもについて知り、その対応を理解する。
第11回	様々な障害を持つ子どもへの学習支援について 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもについて基礎的知識を身につけると共に、特別支援学校における教育を概観する。
第12回	特別な支援を必要とする子どもの就学支援と小学校生活 就学に向けた支援の在り方を学び、小学校との連携について考察する。また、インクルーシブ教育や小学校における特別支援教育コーディネーターの役割について基礎的な知識を得る。
第13回	特別な支援を必要とする子どもに携わる指導者が身につけるべき基礎的な力① 特別な支援を必要とする子ども達に携わる保育士・教師として身につけるべき基礎的な能力として、コミュニケーション、コーチング、ファシリテーション、問題解決能力という観点から考える。
第14回	特別な支援を必要とする子どもに携わる指導者が身につけるべき基礎的な力② 第13回で学んだ基礎知識を元に、現在の自身の到達度についてワークシートを記入し、今後どの点をどのように伸ばしていくべきか、その学習の方法などをグループで話し合う。
第15回	個別指導計画に関するグループ学習の発表 第5回、7回、8回、9回の講義で提示された事例についてグループで立案した個別指導計画を発表する。
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う
フィードバックの方法：第2回、5回、8回のレポートについて、コメントを付して返却すると共に次回の授業にて全体的なコメントを行う。	
テキスト：『特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践』 川合 紀宗，若松 昭彦，牟田口 辰己ら編著 北大路書房	
参考書・参考資料等：『特別支援学校—幼稚園教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部（最新版）』 文部科学省 ・ 各回、準備学習として授業内容に合わせた A4 版 1～4 ページの自作資料を配付する。	
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点(60%) ②レポートや授業で調べた内容等の記録 (30%) ③授業態度 (10%)	

授業科目名：2300113121 保育の計画と評価 2 年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の内容・方法に関する科目 保育の計画と評価		
学習成果該当番号：1. 3. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学ぶ。また、子ども理解に基づいた保育の過程について考えながら、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成の意義と方法について理解する。 【テーマ】 保育所保育指針 第 1 章 総則 4「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」に示されているように、保育所は、幼児教育の場であることを明確化している。保育所における保育目標の達成及び子どもの発達を見通した保育の方法と環境に関する基本的な考え方について学ぶ。計画性のある保育を実施するために必要な留意事項やポイントについて具体的な事例を通して理解する。				
授業の概要： 本授業では、園の包括的な基本方針（保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園共通）である「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。また、ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深めていく。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	保育の計画と評価の基本 子どもの保育と育ちについて考える		テキスト①p6-31の通読 (60分)	
第 2 回	保育所の理解 保育所における乳児保育の基本と配慮・保育所における全体的な計画と保育の実践について「乳児保育」の授業で学んだ内容を確認する。		テキスト②p66-p79・テキスト③p38-45・p120-131の通読(60分)	
第 3 回	幼稚園の理解 幼稚園における教育の基本と配慮・幼稚園における教育課程と指導計画の実践を理解する。		テキスト②p66-p79の通読 (60分)	
第 4 回	保育所の部分指導計画を作成する(課題1) 部分指導計画は、課題として提出を求める。		テキスト②p130-134・配布資料の通読(60分)	
第 5 回	長期的な指導計画の作成 長期的な指導計画とは・年間指導計画・期別指導計画・月別指導計画・指導計画の工夫・保健計画・食育計画等の作成手順と留意事項を学ぶ。		テキスト①p54-78テキスト・②p20-31の通読(60分)	
第 6 回	短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 0・1・2歳児の指導計画作成の留意点を理解する。 保育実習の振り返りと実習園の指導計画の比較を行う。 (グループ討議)各園の違いをレポートに記入する。		テキスト①p114-130の通読 (60分)	
第 7 回	短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 3歳児以上児の指導計画作成の留意点を理解する。 3歳児以上児の指導計画作成のポイント・指導計画の実例の作成手順と留意事項を学ぶ。		第6回のレポートの記入・テキスト①p132-141の通読 (60分)	
第 8 回	保育所の部分指導計画を作成する(課題2) 部分指導計画は、課題として提出を求める		テキスト②p66-p79・配布資料の通読(60分)	

第9回	0・1・2歳児の特徴と指導計画 0歳児の特徴と保育・1歳児の特徴と保育・2歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法を理解する。	テキスト②p136-p142の通読(60分)
第10回	幼児の特徴と指導計画 3歳児の特徴と保育・4歳児の特徴と保育・5歳児の特徴と保育、並びに具体的な活動場面における適切な援助方法(子どもの主体的な活動を尊重した援助)を理解する	テキスト②p144-150・配布資料の通読(60分)
第11回	幼稚園の部分指導計画を作成する(課題3) 部分指導計画は、課題として提出を求める 保育実習の振り返りと実習園の指導計画の比較を行う。(グループ討議)	テキスト②p130-134・配布資料の通読(60分)
第12回	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録 ポートフォリオ・ドキュメンテーション等の役割、実例をもとに理解する。ドキュメンテーションを作成する。(課題4)	配布資料の通読(30分) 復習:ドキュメンテーション作成(60分)
第13回	グループワーク 作成したドキュメンテーションの発表と内容の検討を行う	ドキュメンテーションの作成(60分)
第14回	保育の評価と改善 保育における評価とは・評価を改善に生かす・保育の質の向上を目指す研修の取り組みを理解する。	テキスト①p178-188テキスト②p152-153の通読(60分)
第15回	教育・保育施設と小学校との連携 生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録・幼稚園幼児指導要録の役割と作成方法を理解する。	テキスト①p190-200・テキスト②p154-157の通読(60分)
定時試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する ・毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。	
フィードバックの方法: フィードバックとして提出課題にコメントを返す。		
テキスト: テキスト①『保育の計画と評価演習ブック』松本峰雄監修(ミネルヴァ書房) テキスト②『教育課程・保育の計画と評価 -書いて学べる指導計画』岩崎淳子、及川留美、粕谷亘三(萌文書林) テキスト③『乳児保育の基礎と実践』関根久美・山本智子編著(大学図書出版)		
参考書・参考資料等: 『保育所保育指針解説』(フレーベル館)・『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)		
学生に対する評価: 以下の3点を総合的に評価する。 ①課題の提出とその内容(30%) ③授業への取り組み(20%) ④定時試験(50%)		
実務家教員による授業科目: 長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。		

授業科目名：2311113222 保育内容総論	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：瀬川 千津子
2年後期			担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容総論		
学習成果該当番号：1. 2. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①乳幼児期の教育における内容について具体的な事例を挙げて説明できる。②遊びを通しての総合的な指導と保育者の役割が説明できる。③幼稚園教育における幼児理解に基づく評価及び小学校教育との円滑な接続について説明できる。④長期の指導計画と短期の指導計画との関係について説明できる。⑤指導計画作成手順と配慮点及び評価の考え方について説明できる。⑥幼児にとっての園行事の在り方を説明できる。⑦幼児の実態に沿った保育教材を工夫する力を付ける。⑧保育記録を書くことを通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。⑨模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を養う。 【テーマ】①乳幼児期の発達を支える保育内容について、子どもが自身の興味・関心のもと五感を働かせながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を通して遊びが発展することを学ぶ。②子どもの遊びを通じた学びに着目しながら、幼児期に育ってほしい10の姿及び保育者の役割について学ぶ。③幼児期に育ってほしい10の姿への理解を通して、幼児教育における評価と小学校教育との接続について5領域のねらい及び内容をもとに話し合う。④長期及び短期の指導計画の仕組みとその関連性について教科書をもとに理解を深める。⑤指導計画作成手順と評価について具体的な事例をもとに検討する。⑥園行事のあり方について具体的な事例をもとにグループで話し合い計画を立てる。⑦幼児の実態に沿った保育教材あり方とその工夫について、視聴覚教材をもとに話し合う。⑧保育記録の実際を具体的な事例検討より学び、総合的な指導の意味について考える。⑨予想される子どもの活動をもとに「園外保育時のお弁当」をテーマにした模擬保育の実施を通して、保育を総合的な視点で捉える経験をする。			
授業の概要：本授業では、幼稚園教育及び保育所保育の基本に基づく保育の考え方を中心に、子どもの発達を見通した指導計画作成及び保育現場における具体的な指導のあり方について学ぶ。園生活全体を通じた総合的な指導を行うにあたっては、具体的な幼児の姿と関連づけながら環境を構成・実践するために必要な知識・技術を必要とする。視聴覚教材等を通して多様な保育の展開と保育者の適切な援助について学び、子どもが遊びの中でどのような経験をしているのかを話し合い分析するとともに、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認する。更に、保育記録の書き方や模擬保育を通じた総合的な指導をとりあげることにより、身につけた保育の知識をもとに構想力を養う。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第1回	保育の基本と保育内容1 ー保育の基本とその特性ー 幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園などの保育施設において日々行われている保育が、どのような基本や基礎的な考え方に基づいて展開されているのかについて学ぶ。その際、各保育施設の保育内容は、「幼児教育」を共通に捉えている視点についても理解する。		教科書で下調べpp8-14, 幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第1 幼稚園の基本 確認 (60分)
第2回	保育の基本と保育内容2 ー保育の構造と評価ー 子どもは、園における遊びや生活を通して発達していく。保育者は、常に集団保育の見通しを持ちながら遊びや生活を通してその発達を意図的に援助する役割を担うことを学ぶとともに、保育内容と領域の関係について教科書をもとに整理する。		教科書で下調べpp14-19, 第1章 総則 第1 幼稚園の基本 確認 (60分)
第3回	子ども理解と保育内容1 ー子ども理解と遊びを通しての総合的な指導ー 子どもの学びとは、自らが主体的に身近な環境に関わり、試行錯誤を繰り返しながらその経験の意味を見出していくプロセスである。保育者が、子ども理解を通して保育内容について考える意義を理解するとともに、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ。		教科書で下調べpp106-123, 幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第2「幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 確認 (60分)
第4回	子ども理解と保育内容2 ー10の姿からみる日々の保育の評価とその視点①ー 実際の保育活動を記録した視聴覚教材を用いて、3歳児・4歳児の遊		幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第2「幼稚園教育において育

	びの姿を観察し、発達段階も理解した上で、遊びの中からどのような原体験を獲得しているかについて 5 領域のねらい及び内容とのつながりを考えながら分析を行う。その際、本授業では分析シートを用いて記載し、分析の手法も学ぶ。また、幼児が豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったりできるようになったりする「知識及び技能の基礎」を育む遊びであるか考察する力を養う。	みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 確認(60分)
第 5回	子ども理解と保育内容 3 — 10 の姿からみる日々の保育の評価とその視点②— 実際の保育活動を記録した視聴覚教材を用いて、5 歳児の遊びの姿を観察し、発達段階も理解した上で、遊びの中からどのような資質・能力を獲得しているかについて分析し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として掲げられている「気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするよう、遊びを通しての総合的な指導」における保育者の援助について学ぶ。さらに、5領域を通して育成された幼児の資質・能力が小学校教育の学びにどのように接続するのかについて学ぶ。	幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第2「幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 確認(60分)
第 6回	幼児理解に基づく評価及び小学校教育との円滑な接続 子どもの学びに向かう力は、「心情、意欲、態度」という言葉で表される。難しいと思っても挑戦することや粘り強く取り組む姿勢、また、友だちと協力しながら頑張るという経験は、子どもの「非認知的能力」の獲得に大きな影響を与える。実際の保育活動を記録した視聴覚教材を用い、子どもが自分のやりたいことを実現するために物事に粘り強く取り組む場面をもとにして、子どもの育ちとその意味を考察する力を養う。また、「接続」とは幼児教育と小学校教育をつないでいくことを示すことを踏まえて、教科書の要点をつかみながら幼児教育と小学校教育とのスムーズな移行についても意見を述べ合う。リアクションペーパーの提出を求める。	教科書で下調べ pp179-187,幼稚園教育要領解説 第1章 総則, 第3 教育課程の役割と編成等 確認(60分)
第 7回	保育実践と保育内容 1 — 保育環境の構成と具体的な援助— 保育環境とは、「自然・もの・ひと・文化」の4つに分けられる。それぞれの意味や解釈を進めながら、実際の保育活動を記録した視聴覚教材を用いて、身近な環境に積極的に関わる子どもの遊びを観察し、発達段階も理解した上で活動に応じた具体的な援助について考える。	教科書で下調べ pp128-141,自作資料「教育課程の役割と編成等及び幼児理解に基づいた評価」、幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等 確認(60分)
第 8回	保育実践と保育内容 2 — 指導計画と保育内容及び長期・短期の指導計画と評価— 教育課程や全体的な計画の特徴と構造を学び、子どもの発達特性を踏まえた指導計画の実際について理解する。また、長期・短期の指導計画といった指導計画の種類と内容について、具体的な事例をもとに理解を深める。	教科書で下調べ pp142-155,自作資料,幼稚園教育要領解説 第1章 総則 第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 確認(60分)
第 9回	集団行動と保育内容 — クラスとしての成長と園行事の在り方— 子どもにとって園行事とは楽しい活動であると同時に日本の伝統や文化に触れる機会でもある。保育現場で実際に行われている様々な園行事（お正月、節分、ひな祭り、七夕、運動会、生活発表会）についてグループで意見を出し合うことで、行事を通して期待できる子どもの育ちについて考える。その際、3 歳児の場合は、行事を楽しむ、または、楽しみに待つ、5 歳児の場合は、活動への意欲や期待、そして目的意識が持てるようにするなど、子どもの発達段階に合わせてねらいや内容など教育的な意図と配慮についても考えていく。	教科書で下調べ pp114-117 (60分)
第10回	保育環境の構成と保育内容 — 幼児の実態に沿った「保育教材」の意味— 保育環境を構成するとは、「把握する・選ぶ・探す・つくる・活用する」の5つに分けられる。保育の場で環境を構成する方法について具体的に考えていくために、「空間の適切性」「人やものの適切性」「時間的な見通しの適切性」を踏まえ、グループで話し合いながら保育	教科書で確認 pp158-178 (60分)

第11回	実践の多様な展開と保育教材の意味について理解を深めていく。リアクションペーパーの提出を求める。 具体的な援助と保育内容 ー幼児の実態に沿った「保育教材」の活用ー 保育者の援助の目的とは、保育という営みを通して子どもたちの成長を願っていくことである。一人一人の遊びを支え、主体的な遊びや様々な活動が充実し、仲間関係の育ちを育むために必要な保育者の適切な援助について、具体的な事例をもとに検討しながら理解を深めていく。	配布資料を読んでおくこと (60分)
第12回	保育記録と保育内容 ー保育記録方法総合的な指導の理解ー 保育者は、自らの関わりを振り返り（省察）記録することから子どもの思いを理解しながら明日への保育へとつなげている。保育実践の適切性や子ども理解、そして子どもの成長過程を書き残すために記録が大切となることを学ぶ。また、保育活動の中で、子どもたちの発見や学びは保育者によって日々蓄積されていることを踏まえ、エピソード記述・ポートフォリオ・ドキュメンテーションなどの方法など、実際に現場で活用されている保育記録方法について理解する。	教科書で下調べ pp118-123 (60分)
第13回	模擬保育を通した総合的な指導 1 ー具体的な活動からねらい及び内容について考えるー 「園外保育時のお弁当」をテーマに視聴覚教材をもとに幼児の姿を観察して保育記録を取りながら、その活動に関するねらい及び内容並びに教育的配慮について考える。更に、園外を想定していることを踏まえ、保育室とは違った保育者の援助や活動に対する留意点等をグループで話し合うと共に、子どもの反応や動線について考えながら具体的な援助方法のポイントを掴んでいく。リアクションペーパーの提出を求める。	配布資料を読んでおくこと (60分)
第14回	模擬保育を通した総合的な指導 2 ー模擬保育の部分指導案作成ー 子どもの予想される姿をもとにして「園外保育時のお弁当」の活動に関するねらい及び内容を踏まえた指導案（部分案）を作成する。その際、保育者としての心構えや保育活動の留意点等、グループで話し合った内容を参考としながら具体的な援助方法や関わりについて考える。リアクションペーパーの提出を求める。	配布資料を読んでおくこと (60分)
第15回	模擬保育を通した総合的な指導 3 ー模擬保育の実施ー 「園外保育時のお弁当」の活動に対するねらい及び内容を踏まえ、子どもの動線を中心に置きながら、指導案（日案）をもとにしてグループごとに模擬保育を実践する。実践後は、活動に対する保育者としての留意点の再確認や反省等、振り返りと省察を行いながら総合的に指導する力を養う。リアクションペーパーの提出を求める。	作成した指導案（日案）の確認 (60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバックの方法：フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返します。		
テキスト：『改訂版 保育内容の基礎と演習』（柴崎正行編著 わかば社）		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省,フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省,フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園 保育・教育要領解説』（内閣府,文部科学省,厚生労働省 フレーベル館） 『映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども -あそんでぼくらは人間になる-』（大豆生田 啓友他 編著） ・毎時間、授業内容に合わせた自作資料		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点(50%)②レポートや授業で調べた内容・リアクションペーパーの記録(30%)③授業態度・保育教材及び模擬保育の発表(20%)		
実務家教員による授業科目：長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。		

授業科目名：2311213312 幼児と健康 1 年後期		必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代、 岩井 幸博 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：1・2・3・4・6				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】領域「健康」に示されるねらいを十分に学び、それを保育現場で達成することの出来る能力を育成することを授業の目標とする。また、具体的な運動を取り上げ運動観察すること、運動の発生過程や援助方法の理解を深める。 【テーマ】健康に関する現代的課題は広範囲にわたっていることを知る。その上で子どもたちにとって運動の意義について、また、運動あそびを提供する際に大切にしなければならない考え方について理解を深める。子どもたちがのびのびと運動に親しみ主体的に取り組める環境作りについて考える。				
授業の概要：幼稚園教育要領 領域「健康」には、幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うという観点が示されている。心と体の健康は相互に関連し合い、健康で情緒の安定している幼児は積極的に環境に関わり自ら体を動かして遊ぶものである。また乳幼児の身体的能力の調和的発達は健やかな成長にとって必要不可欠である。そこで本授業では、領域「健康」の指導・援助の基本となる見方・とらえ方・考え方を、具体的事例の資料や視覚教材などのICTを活用し修得させる。保育者に必要な『観察力』を高め、指導・援助の基礎的力を高めていく。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	現代の子どもたちの現状（担当：豊田泰代・岩井幸博） 現代の子どもたちの健康課題は広範囲にわたっていることを理解し現状を把握する。 ICT 教材「身体が動かない～子どもの運動能力に異変あり」 NHK クローズアップ現代 2007 年放送（約 26 分）レスポンスカードに記入する。			準備学習：保育所保育指針、幼稚園教育要領の「健康」の部分に目を通す。（60分）
第 2回	運動の得意・不得意は生まれつき？（担当：豊田泰代） 人間の動きは生まれたのち、学習によって身に付ける割合が多いことを理解する。また、その時期を逃すと身に付きづらくなる（臨界期）。 ICT 教材「母と子の体操(Das Mutter unt Kind Turnen)」 1970 年女子体育連盟監修、 オーストリア（約25分）母と子がともに身体を動かす中で「心身」の健康がはぐくまれていることを映像から読み取る。レスポンスカードに記入する。			準備学習：保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から抜粋した「健康」に関するプリントに目を通す。（60分）
第 3回	領域「健康」のねらいと内容（担当：豊田泰代） 子どもの健康を育むためには運動能力を向上させるのが目的なのではなく、豊かな生活から心身の健康が獲得されるという領域「健康」のねらいを理解する。また、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から抜粋した「健康」に関するプリントで用語の違いなどについて理解する。 ICT教材「ダンスダンスダンス」（約15分）自作動画を用いて現場の取り組みを観る。レスポンスカードに記入する。			準備学習：教科書 pp8 - 9 を読む。（60分）
第 4回	健康な生活のリズムー健康を取り戻す（担当：豊田泰代） 子どもたちの生活リズムの乱れが問題となっている。乳幼児の基本的な生活習慣の意義を健康の三大原則（食事・睡眠・運動）や生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）の観点から考察する。また自分の身を守れない「転んでも手が出ない」子どもたちの健康を取り戻す方策を考える。 ICT 教材「転んでも手が出ない子どもたちへのアプローチ」（約 15 分）自作動画を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。			準備学習：教科書 pp9 - 11、文部科学省「早寝・早起き・朝ごはん」パンフレットを読む。（60分）

第5回	幼児の運動能力低下の原因（背景）（担当：岩井幸博） 生活習慣の変容が幼児の体の発達や運動能力に与える影響を理解する。また親や保育者として運動能力の向上のためにはどうしたらよいか、その方策をグループでディスカッションし発表する。 ICT教材「昔あそびから現代のあそびの変遷について」自作画像を用いて説明する。 （約10分）レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp12 - 15、運動能力の低下に関する新聞記事やインターネットのニュース記事を読む。（60分）
第6回	身体の発育発達と運動（担当：豊田泰代） 乳幼児の身体諸機能の発育・発達を理解するとともに、運動とのかかわりを理解する。 ICT教材「身体発達と移動運動（ロコモーション）の発生過程」（約15分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。 レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp15 - 18を読む。（60分）
第7回	運動の適時性（担当：豊田泰代） 乳幼児は大人を単に小さくしたものではない。乳幼児の特性を把握し、適切な時期に適切な運動を行うことの重要性を理解する。 ICT教材「運動の適時性を考える」（約15分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp18 - 19、揺さぶられっ子症候群の記事を読む。（60分）
第8回	器用な子と不器用な子のうごきの習得過程（担当：豊田泰代） 一見不器用と思われる子どもでも、一見器用だと思われる子どもと最終的な到達点は同じであるという視点に立った援助の重要性について理解を深める。 ICT教材「一見不器用と思われる子どもの成長過程を追う」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp23 - 25を読む。（60分）
第9回	あそびの効用及び自己概念と運動（担当：豊田泰代） 一見関係が無いと思われるあそびが上達ポイントである事例からうごきの転移やあそびがもたらす効用について考察する。また運動は自己概念の形成に大きく関与することを理解する。 ICT教材「うごきの転移ー幼児の投げの発生過程から眺める」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp26 - 27, pp31 - 33を読む。（60分）
第10回	社会性（ルール）の発達と運動（担当：岩井幸博） 遊びの発達や年齢的变化を知り、ルールのある遊びの意義について考える。また、なぜ幼児期に遊びが大事であるか考え、他者と意見交換する。 ICT教材「個別遊びから集団遊びへの変化について」自作映像を元に説明する。（約10分）レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp33 - 36を読む、自分の遊び経験を幼稚園・保育園から現在に到るまで振り返りまとめておく。（60分）
第11回	生活としての運動（担当：岩井幸博） 子どもの生活と運動の関連性について理解を深める。なかでも基本的生活習慣にみられる動き（箸をもつ、鉛筆や筆をもつ、着衣、排泄など）の習得について考える。 ICT自作教材「子どもの手の発達について」（約10分）レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp41 - 46を読む、今の自分の基本的生活習慣に見られる動きの中で、苦手な動きを把握しておく。（60分）
第12回	遊びの中の運動（担当：岩井幸博） 日本の運動遊び、世界の運動遊びの種類を知る。また運動遊びを通して習得する基本的な動作の種類やあそびの概念と特質を理解する。 教材「ブリューゲル作の『子供の遊戯』」の絵画に記載されている遊びはどんなものかクイズ形式で問い、遊びについてディスカッションする。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp46 - 53を読む、日本や世界の運動遊びの中で知っているものを挙げておく。（60分）

第13回	動機付けと運動（担当：豊田泰代） 運動場面における内発的動機付けと外発的動機付けについて理解する。また、活動が深まりを見せていくためには、内発的動機付けの中核的要因としてのできる感覚⇔有能感が重要であることを理解する。 ICT教材「できる感覚を味わうことの重要性－短なわとびの発生過程から眺める」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp53 - 58を読む。（60分）
第14回	人的環境（応答的環境）の重要性（担当：豊田泰代） 乳幼児にとって「できたかできなかったか」の評価ではなく「どのような点がどのようによくなったのか」という質的評価を含めた評価が返ってくることの重要性を応答的環境の側面から考察する。 ICT教材「運動の質的側面を含めた評価の重要性－幼児のころがりの発生過程から眺める」（約10分）自作動画、自作資料を用いて理解を深める。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp59 - 60 を読む。（60分）
第15回	安全を考える、安全に気づく力の育成、病気の予防（担当：岩井幸博） 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を学ぶ。幼児が遊ぶ場所や動線などを考えて安全に遊びができる環境を構成する力を養う。また運動時に多いケガの応急処置について、その方法を学ぶ。レスポンスカードに記入する。	準備学習：教科書 pp73 - 81、95 - 97を読む。（60分）
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す		
フィードバックの方法：すべての授業のはじめに前回の授業で記入したレスポンスカードの内容について取り上げコメントをフィードバックする。		
テキスト：『保育と幼児期の運動あそび』，岩崎洋子編，萌文書林，2008.		
参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説』，（株）フレーベル館，2018. 『幼稚園教育要領解説』，（株）フレーベル館，2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，（株）フレーベル館，2018. 『0歳からはじめるうごきづくり』，太田昌秀・豊田泰代・久保景子，幻冬舎レックス，2008. 『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び（第二版）』，井上勝子編，建帛社，2010. 『どの子ものびる運動神経－幼児期の運動100選』，白石豊・広瀬仁美，かもがわ出版，2003.		
学生に対する評価：乳幼児の「健康」に関する見方・とらえ方・考え方が身についているかをはかるために以下の2項目を総合的に評価して成績を判定する。定時試験成績（70%），また第1回から第15回の授業時のレスポンスカード（30%）		

授業科目名2311213421 幼児と環境		必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：笹川 康子 担当形態：演習 単独
2年前期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 幼児を取り巻く環境について総合的に理解し、幼児と環境との関わり的重要性について専門的に学ぶ。環境の中から幼児の興味・関心を引き出すことのできる知識・技術の習得を目指すし、保育現場での実践力を身に付ける。 【テーマ】 領域「環境」を通して、幼児の原体験を豊かにし、幼児の「科学的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとする。領域「環境」のねらいと内容、領域「環境」の具体的な指導方法、「科学的なものの見方や考え方」を幼児期から習得することの意義を学ぶ。				
授業の概要： 幼稚園教育要領「環境」のねらいを保育現場で実践していくために必要とされる、「保育者としての感性の育成」に重点を置き、まず保育者自身が幼児にとって最大の環境であることを学ぶ。学生が自身の原体験を再認識し、幼児に様々な事象と積極的に触れ合う場を提供すること、さらに幼児の「科学的なものの見方や考え方」の芽生えを支える知識・技術の習得を行う。授業は様々な視聴覚教材、具体的教材を用い、学生自身による調査研究、発表等も重視して習得させるものである。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習等 事後学習	
第 1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」で扱う幼児を取り巻く環境には、物的環境、人的環境、社会的環境等様々な側面があることを学び、それらが幼児の発達に及ぼす影響とその重要性について学ぶ。 幼児にとって保育者は、センス・オブ・ワンダーを担う隠れたカリキュラムと言える非常に重要な環境であることを把握し、今後の学習に対する姿勢を形成する。		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容、 A：14～23頁、36～37頁 (45分)	
第 2回	幼児の育ちと環境に関わる力の育成 自身の原体験を振り返りながら、幼児の育ちと環境に関わる力の育成に関する専門的事項を学ぶ。領域「環境」と小学校「生活科」「理科」との接続、さらに 21 世紀を生きる社会人となることを見据えた上で、幼児の興味・関心を「科学的探究心」へと導くことの重要性を学ぶ。		準備学習 B：6～9頁 幼児期からの自身の自然体験を思い起こす(45分)	
第 3回	環境に関わる力の必要性 幼児に周囲の環境に対して興味・関心を抱かせるためには保育者が積極的に「環境」の設定を行うことが必要である。 さらにその興味・関心を保育者が「科学的探究心」に発展させるためには、自身の感性を養うことが必須である。 自然の不思議さを遊びから感じ取る、日常生活での興味・関心を大切にすることがなぜ必要なのかを考え、領域「環境」と理科教育分野への幼小接続まで視野に入れて、法則性や因果関係への気づきの重要性を発達と共に学ぶ。		準備学習 A：30～31頁、88～89頁、 B：18～23頁をまとめる。 (45分)	
第 4回	乳幼児期の思考・科学的概念の発達① 文字・数量の概念（1から10までの数、連続量・非連続量）について学び、教材研究を行う。		準備学習 A：81～85頁、B：10～17頁(45分)	
第 5回	乳幼児期の思考・科学的概念の発達② 図形概念（まる・さんかく・しかくを主として）、併せて幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心の育成や関わり方等を学び、教材研究を行う。		準備学習 A：85頁、身の回りの物の形状と理由について考える (45分)	
第 6回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について ① 自然を取り入れてあそぶ。自然の不思議さに触れる。 （題材：昆虫）保育現場での飼育の重要性、幼児が実物に触れる体験の重要性、生命維持の難しさ等、命を持つ生物なら		準備学習 A：64～65頁 B：43～46頁(45分)	

第7回	ではの関わり方について学ぶ。 幼児の生物・自然との関わりに関する事象について② 自然にかかわる力はなぜ必要なのか。身近な小動物への幼児の興味・関心を高めるために保育者の援助のあり方を考える。(題材：昆虫) 他領域との関わりを大切にして教材開発を行う。	準備学習 A：145～147頁、B：48～55頁(45分)
第8回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について③ 自然にかかわる力はなぜ必要なのか。身近な小動物への幼児の興味・関心を高めるために保育者の援助のあり方を考える。(題材：昆虫) 他領域との関わりを大切にして教材開発を行う。	準備学習 第7回教材を完成させる
第9回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について④ 幼児に生物・自然との関わりに幅広く興味・関心を持たせるため、身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行うことを学ぶ。	準備学習 A：134～135頁、B：40頁～42頁、身近な野草の生息状況の把握(45分)
第10回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑤ 身近な植物への興味・関心を大切にして保育活動を行う。領域「環境」と小学校「生活科」「理科」との接続について学ぶ。	準備学習 A：136～144頁(45分)
第11回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑥ 幼児の環境にある自然現象を題材として、教材開発を行いつつ、幼児の科学的なものの見方や考え方を育てるための知識を得る。	準備学習 保育教材となる自然現象について各自、レポートを作成する。(45分)
第12回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑦ 生物多様性や大型哺乳類を題材とした授業を通し、知識の獲得や現代の課題確認を通して、21世紀を生きる人が持つべき「科学的なものの見方や考え方」を学ぶ。	準備学習 A:62～63頁(15分) 事後学習 授業中に出された課題について行う(30分)
第13回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑧ 大型哺乳類を題材とした教材開発を行い、「乳幼児期から体系的に関わる力」と「その後の教育に接続することのできる力」の獲得の重要性を理解する。「命」を感じる保育を目指す。	準備学習 A:56～57頁(15分) 事後学習 授業中に出された課題について行う(30分)
第14回	幼児の生物・自然との関わりに関する事象について⑨ 秋の自然環境を題材とした取組	準備学習 幼稚園教育要領解説197頁教科書B32～39頁
第15回	環境構成 保育者はどのように保育環境を捉え、計画的に構成していけばよいか、理論と実践を学ぶ。	準備学習 A：95～107頁(45分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法：第11回レポートについて個別コメントでフィードバックを行う		
テキスト：A：『保育実践に生かす 保育内容「環境」』（高内正子監修 上中修編著 保育出版社）B：『こどもの世界Ⅲ こどもと自然／科学』（矢野博之編著 大学図書出版）		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館） 自作資料・教材を配付 視聴覚教材使用		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験(70%) ②授業内課題(20%) ③準備学習への取り組み及び授業態度(10%)		

授業科目名：2311213512 幼児と言葉 1年後期	必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：朴木 一史 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：2			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 領域「言葉」の指導の基盤となる言葉の意義と機能及びその言葉の獲得過程を理解するとともに、言葉に対する感覚を磨き、言葉で想像する楽しさを味わわせるための専門的事項を身につける。①話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。②乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。③言葉の楽しさや美しさについて、具体例を挙げて説明できる。④言葉遊びについて基礎的な知識を身に付ける。⑤言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて説明できる。⑥児童文化財について基礎的な知識を身に付けるとともに、幼児の発達における意義について理解する。 【テーマ】 ①言葉の意義と機能、②表現と伝達、③言語活動の意義と機能、④言葉の力、⑤言葉の発達、⑥言葉遊び（しりとり・なぞなぞ・かるた）、⑦児童文化財（歌・絵本・お話・劇）			
授業の概要： 本授業は、領域「言葉」の指導の基盤となる事項を講義、話し合い、実践等により修得させるものである。テーマで述べたように、言葉そのものの意義と機能から始めて、言葉が人間に及ぼす力の大きさを確認した後、乳幼児における言葉の発達を概観する。その後、言葉遊びや児童文化財等の具体的な題材や作品等に基づいてその教育的価値を追究できるようにし、子どもの言語や言語生活及び遊びや児童文化財に対する理解を深めるようにする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	言葉の意義と機能 社会的な記号体系である言葉の意義や機能としての伝達、思考及び認識等について知り、それらが現れる具体場面の様子についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp5-p13の下調べ (60分)	
第2回	表現と伝達 幼児の絵と文字の発達の様子から、絵が幼児のものの見方や感じ方の表現であることを理解するとともに、文字も絵と同じような自己表現から始まり他者との伝達に用いられていくようになる過程について事例を基にディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp14-p24の下調べ及び確認テストの見直し (60分)	
第3回	言語活動の意義と機能 言語活動である聞く、話す、読む、書くという四つの様態を知り、それらが自分と社会に果たす役割を具体的な事例に基づいてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキストp25-p34の下調べ及び確認テストの見直し (60分)	
第4回	乳幼児の注意をひきつける言葉の力 人間が話す言語音は様々な音の中の一つであるが、機械音、自然の音、動物や昆虫の立てる音及び音楽の非言語音と比べて最も注意をひきつけることを知るとともに、聞きなれない外国語と聞きなれた国語の聞き取りにも注意力に差があることを理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp35-p39の下調べ及び確認テストの見直し (60分)	
第5回	言葉以前の言葉に関わる発達 言葉の発達は言葉だけの範疇だけで見られるものではなく、1人の乳幼児において運動、情操、認識、思考等々の全体的な発達の中において見られるものであることを理解し、特定の音声と特定の対象との結びつき及びその後の展開を事例に基づいてディスカッションし、特に共鳴動作の様々な様子と三項関係の成立を理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp40-p49の下調べ及び確認テストの見直し (60分)	
第6回	三歳未満児の言葉の発達 1歳未満児では、食事やおむつ替え、衣服の着脱等のときに保育士が声掛けをして気持ちを通わせられることを理解するとともに、1歳を過ぎる頃から発音、語彙、文法、相手意識、言語活動から言語の発達が捉えられることを知り、象徴機能の成立までの特徴的な現象についてディスカッションし、表にまとめる。表	テキストp50-p56の下調べ及び確認テストの見直し (60分)	

第7回	は確認テストとして扱う。 三歳以上児の言葉の発達 象徴機能の成立後から、内言の成立までの特徴的な現象についてディスカッションし、表にまとめる。表は確認テストとして扱う。	テキスト p57-p61の下調べ及び前回授業でまとめた表の見直し (60分)
第8回	言葉遊び1 (しりとりや回文の遊びの意義) 国語 (日本語) の音韻の特性を利用した様々な言葉遊びを知るとともに、しりとり遊びでは実践を通してその遊びが音節の明確な把握に導くことを理解し、回文では音節や単語への関心を高めることを理解するとともに、それらの遊びが可能となる条件 (発達過程) や遊び方について討議する。また1歳未満児では、見つめ合いや喃語等に対する保育者の反応の大切さをディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキスト p62-p70の下調べ及び前回授業でまとめた表の見直し (60分)
第9回	言葉遊び2 (なぞなぞ遊びの意義) 国語 (日本語) の音韻の特性を利用した様々ななぞなぞを収集し、なぞなぞが言葉の意味と形式とを使い分けて回答者の抱くイメージとのずれを楽しむ遊びであることを理解し、なぞなぞ遊びが可能となる条件 (発達過程) や効果的な遊び方について討議する。確認テストを時間内に行う。	テキスト p71-p78の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第10回	言葉遊び3 (かるた) いろはかるたや教師自作の単語かるたを使ったかるた遊びの面白さや単語かるたを使った神経衰弱の面白さについて遊びの活動を体験して味わうとともに、それらの遊びが幼児の文字への関心を高めることを具体的に理解する。確認テストを時間内に行う。	テキスト p79-p85の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第11回	児童文化財1 (幼児の言葉と童謡の言葉) 童謡、唱歌及びわらべ歌のいくつかを取り上げて、その物語性、会話や問答、具体的事物と抽象的概念、オノマトペ等々の観点で話し合い、幼児に理解されやすい言葉の特徴をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキスト p86-p97の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第12回	児童文化財2 (お話の意義) 口承文芸としてのお話が物語であることを理解するとともに、説明と物語の構成や文体を比較して、物語文が幼児や児童に魅力的に感じられることをディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	テキスト p98-p106の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第13回	児童文化財3 (お話の技術) 落語「牡丹灯籠 お札はがし」の一節を聞いて語りの魅力と語る技術について話し合い、「たぬきと山伏」(木下順二) や「茨海小学校」・「ガドルフの百合」(宮沢賢治) から一つを選択してテンポ、間、独白、心内語等々に注意して朗読する。朗読はグループ学習で代表をきめるとともに、その朗読を聞いて評価票に評価する。朗読の評価票を確認テストとして扱う。	テキスト p107-p118の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第14回	児童文化財4 (絵本の意義と幼児にとっての魅力) 絵本の意義を理解するとともに、『そらいろのたね』などの絵本について、幼児のもつ協調性 (親和性)、自己中心性、空想力などについてディスカッションし、想像における現実的な事象の用いられ方について考える。確認テストを時間内に行う。	テキスト p119-p130の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
第15回	児童文化財5 (紙芝居の意義と幼児にとっての魅力) いくつかの作品をもとに、絵本と比較しながら紙芝居の特徴を理解し、その選択と扱い方をについて話し合う。またパネルシアター、エプロンシアター、人形劇なども、お話という聴覚情報を補う視覚的情報という共通性があることを理解する。確認テストを時間内に行う。	テキスト p131-p137の下調べ及び確認テストの見直し (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	

フィードバックの方法: 確認テストはA, B, Cの三段階で評価して次回授業日に返却する。B, Cの評価を受けたものは書き直して再提出すれば評価も見直す。第2回から15回まで同様に行う。

テキスト：『幼児と言葉 言葉をつくる』（神谷爲義著 貞静学園短期大学）
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）『子どもことば』（岡本夏木 岩波新書）
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点60％ ②授業で作成した提出物や授業の確認テスト30％ ③授業態度10％
実務家教員による授業科目：初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状（国語）と高等学校教諭2級免許状（国語）も有し、長年小学校教諭として勤務した。また小学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。その経験を生かし、幼児と言葉を担当する。

授業科目名：2311213612 幼児と表現		必修：卒・幼・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
1 年後期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：①幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。②表現を生成する過程について理解する。③様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。④幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。⑤身の周りのものを五感で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。⑥表現の楽しさを実感し、その楽しさとは何かを分析することができる。⑦グループで演奏することを通して他者の表現を受け止め共感し、豊かな表現につなげることができる。⑧様々な表現の基礎的な知識を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。				
【テーマ】①幼児の表現②幼児期の音楽的発達③音楽教育に影響を及ぼした理論④幼児の遊びと音楽⑤障がいを持つ子どもと音楽⑥音楽教育のメソッド⑦わらべうた⑧唱歌と童謡⑨器楽⑩教育評価				
授業の概要：本授業は、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿や発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成などの専門的事項について、討論・実技演習を通して知識・技能・表現力を身につけさせる。具体的にはテーマに挙げた幼児の音楽的な成長の理解からはじめ、幼児と音楽の視点から討論を取り入れながら理解を深める。さらにわらべうた、唱歌と童謡、器楽の実技演習を通して表現力を養い、他者の表現に共感し創造的な表現活動を展開する。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1回	第 1 回 幼児の表現 幼児の音楽的活動を実践していくために必要なポイントについて考える。聴く、歌う、動く、奏でる、作るという体験は相互に関連しているため、これらを総合的に展開していく方法について考える。その際、保育者がどのような役割を果たすのかについても考える。テキスト、参考資料から学んだ内容をもとに自分自身の音楽体験から、音楽の教師がどのような実践をしていたか思い浮かべ、その実践から学んだことについて話し合う。			
第 2回	幼児期の音楽的発達 乳幼児期の音楽的発達に焦点をあて音楽的発達について考える。マクドナルド、サイモンの理論から音楽性が遺伝と環境の二つの側面から育まれること、からだの発達と音楽の関連、聴取スキル、歌唱行動とリズム行動の発達について理解する。さらにキース・スワンウィックの理論（マスタリー、模倣、想像的な遊び、メタ認知）というスパイラルな音楽的発達の成長過程について理解する。これらに基づいて音楽体験を振り返り、音楽的に影響を受けたエピソードを紹介し合い、乳幼児の身長や体重を調べ、音楽的な成長と重ね合わせてみる。			乳幼児の身長や体重を調べ音楽的な成長と重ね合わせレポートする。(60分)
第 3回	音楽教育に影響を及ぼした理論 モンテッソーリ(感覚教育)、ペスタロッチ(基礎陶冶の理念)、ピアジェ(同化と調節による認知能力の発達)、ブルーナー(行為的表象、映像的表象、象徴的表象)を取り上げそれぞれの教育において何を目的とし、どのような特徴があったのか理解する。具体的には、モンテッソーリの感覚教具の体験、ペスタロッチのコレギウム＝ムジクにおける活動への影響についての討論、ピアジェによる思考の発達段階における音楽的行為の事例の追体験、ブルーナーの教育理論から考えられる音楽への動機付けについての討論である。			コレギウム＝ムジクとは何か調べる。討論のための調査(60分)
第 4回	幼児の遊びと音楽			遊びとは何か調べる。また伝承遊びの具体

	ホイジンガ、カイヨワの文献から遊びの定義について理解し、日本の伝承遊びがどのようなものであったか考える。また実際の伝承遊び（わらべうた）の実践を通して、わらべうたの特性を理解する。 これらのことから生活と音楽、自然と音楽が深くつながっていることを理解する。	例を3つ調べる。 (60分)
第5回	障がいをもつ子どもと音楽 障がいを持つ人々は音楽とどのようなかわりを持っているのか、音楽と関わることでどのようなメリットがあるのか、さらに障がい者が音楽参加するために、私たちはどのような態度が必要なのか考える。障がいの種類、認知的な限界、発達の要因について理解する。DVD映像資料として映画「耳をすます」を視聴し、障がい者にとって音がどのような意味を持っているのか討論し考える。	障がい者にとって音楽はどのような意味を持つかレポートにまとめる。(120分)
第6回	音楽教育のメソッド エミール＝ジャック・ダルクローズ、カール・オルフ、ゾルタン・コダーイ、鈴木鎮一、マリーシェイファーの音楽の特徴を理解する。さらにジョンペインターが提唱する創造的音楽づくりの実際から活動内容や評価方法について理解する。これらの比較を通して幼児教育にとってどのような音楽が必要であるか討論する。	音楽教育のメソッドについて調べる。 (120分)
第7回	わらべうた わらべうたの構造について理解する。また日本の音楽の音階や構造と西洋の音楽の音階の違いについて理解する。わらべうたによる伝承遊びの実技演習を通して、わらべうたが育む子どもの感性とはどのようなものか考える。またわらべうたの楽しさを生み出す要因について討論しまとめる。	自分が経験したことのあるわらべうたをまとめる。(60分)
第8回	唱歌と童謡その1 唱歌 唱歌の歴史を概観し、幼稚園創設と唱歌教育、音楽取調掛の創設、保育唱歌の特徴、小学校唱歌集、西洋音楽の移入、幼稚園唱歌集、幼年唱歌、文部省唱歌について理解を深める。また実際の歌唱活動を通してどのような歌が歌われてきたか理解する。	唱歌についてまとめ表にする。(60分)
第9回	唱歌と童謡その2 童謡 明治期以降の童謡の歴史を概観する。大正期の童謡運動、「赤い鳥」童謡運動からこれらの運動を推進した人々が目ざしたものは何だったのか考える。また文学運動からどのように音楽運動へとつながっていったのか理解する。	童謡について調べる。 (60分)
第10回	器楽1 オルフの教育理念にもとづいた合奏 カール・オルフは以下5つの観点について述べている。①人音楽教育は母国語と共に母国語によって始まる。②音楽、踊り、言葉そしてその他の芸術を1つの分野として認知する。③音楽教育において全ての音楽的パラメーターを体験する為に楽器の演奏も学ぶべきである。④「音楽を楽しむ」ということは、個人的な体験だけでなく、グループ体験でもあるべきである。⑤音楽教育では誰でもが創造的に音楽に取り組んでいけるようにしなければならない。これらオルフの音楽教育の理念に基づいた器楽のアンサンブルを通して、音楽表現の生成について理解する。また音楽表現の構造について反復と対照という視点から構造的に分析する力を養う。	
第11回	器楽2 合奏の構造 リズム、旋律、ハーモニーの視点から楽器の役割を理解し、幼児の器楽表現において留意する点について考える。また実際の演	

第12回	奏を通して、幼児にとってどのような演奏が楽しい表現となるのかその要因について話し合う。 器楽3 合奏の楽しみ方 任意の曲を選曲し、合奏表現を練り上げる過程を通して、幼児がどのような点に興味を持ち楽しむことができるのか考える。またその際の指導上の留意点についても検討する。	
第13回	器楽4 発表会に向けて 学芸会での発表を設定し、選曲、役割分担、プログラム作成、ステージ設置、環境整備を行い、発表会に必要な様々な仕事やその過程についての理解を深める。またグループ活動におけるリーダーシップの発揮や協調性、活動を推進する力を身につける。	それぞれの役割で必要なものを準備作成する。(60分)
第14回	器楽5 発表会 聴衆と演奏者に分かれ、学芸会発表の迫体験を通して、お互いの表現を受け止めて、共感し、より豊かな表現につなげる。お互いの発表を批評文としてまとめる。	事後課題として発表に向けての過程を振り返り、よかった点、改善すべき点についてレポートにまとめる。(60分)
第15回	教育評価 評価の定義、評価方法の計画、幼児の音楽的成長の評価について理解を深める。これまで行ってきた器楽の映像をもとに評価基準を設定し、グループごとに評価分析を行う。	
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：レポート・ノートに評価・コメントし返却します。		
テキスト：神原雅之（2014）『幼児教育要論』開成出版、『幼稚園教育要領解説』、『保育所指導指針解説』		
参考書・参考資料等：マクドナルド、DT サイモンズ、GM 著神原雅之訳（1999）『音楽的成長と発達』キース・スワニック著、野波健彦他共訳（1992）『音楽と心と教育』音楽の友社 ホイジンガ（1938）『ホモ・ルーデンス』中央文庫、ロジェ・カイヨワ（1958）『遊びと人間』講談社 小泉文夫（1986）『子どもの遊びとうた わらべうたは生きていた』草思社 小泉恭子（2000）『いろんな音をさがしてあそぼう』明治図書出版 DVD 資料映画 谷川俊太郎（1982）「耳をすます」福音館書店 モンテッソーリ著、中村勇訳（2003）『子どもの発見』日本モッテソーリ教育研究所 ペスタロッチ著（1780）『隠者の夕暮れ』岩波文庫 ブルーナーJS 著、鈴木祥蔵・佐藤三郎訳（1986）『教育の過程』岩波書店 L.チョクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ著、板野和彦訳（1994）『音楽教育メソードの比較 コダーイ、ダルクローズ、オルフ、CM』 菊池雅春編曲・監修（2005）『器楽合奏でディズニー』YAMAHA 株式会社テプロ MP（2009）『こどもの器楽大全集スタジオジブリ』1～3 株式会社テプロ MP 株式会社テプロ MP（2012）『こどもの器楽合奏ポップス2』株式会社テプロ MP		
学生に対する評価：子どもと表現について討論を通して基礎的な知識や指導上の留意点が理解できたかどうか、試験の記述内容から評価（50%） 毎授業での取り組む姿勢・意欲について、意見発表、演奏等から評価（25%） 準備学習として毎回配布するプリントの発達に関すること、楽器に関すること、楽譜に関すること、和声に関すること、それぞれの問題を解いてくること。（25%）		

授業科目名：2311113721 健康指導法 2 年前期		必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：1・2・3・4・7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「健康」のねらい、内容及び内容の取扱いと、養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれ関連を持つことを合わせて理解する。②短期の指導案を作成できる。③模擬授業とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。④運動指導場面における安全に配慮した環境設定を理解する。⑤乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた乳児の発達の3つの視点を理解し保育構想の重要性を理解している。⑥領域「健康」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑦幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解する。⑧領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向に気づき、保育構想の向上に取り組むことができる。 【テーマ】乳幼児の発達段階をとらえながら、保育現場で運動あそびの活動が展開できる力を養う。「楽しい！」を創り出すにはどのような準備が必要か、グループで考え取り組むことで、保育の基礎的技能を高めていく。また小学校教育とのつながりをふまえた乳幼児期の運動の見方・とらえ方など観察や体験を通じて理解する。				
授業の概要：この授業では、演習形式により領域「健康」の見方・捉え方・援助方法について学ぶ。そのために、学生自身が保育現場で行える運動あそびについて調べ、そのあそびを提供する場合にどのような準備が必要かを考え、指導計画案を立てる。それらをもとに、グループで話し合いよりよい活動内容になるよう練り上げる。グループでまとめあげた指導計画案をもとに、学生を幼児に見立て実際に指導（ロールプレイ）を行う。指導の様子はビデオに記録し、指導後に振り返りをしてその反省を次にいかせるようにしていく。指導法の授業は、指導する側と指導される側として展開されるが、それぞれの指導の良い点、改善点などは全員が振り返りを行い、記録としてノートにまとめる。 また、保育現場で運動遊びに使われる施設・設備・遊具の種類に応じた活動の援助方法や管理などについても学ぶ。具体的活動内容として、伝承遊び、ボール運動など小型遊具を使ったあそび、ゲーム・ダンスなど用具を使わない遊びなどを取り上げる。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	指導計画や指導案作成について 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。その上で長期・短期の指導計画や指導案作成について学ぶ。		準備学習：『幼稚園教育要領解説』また『保育所保育指針解説書』に書かれた、領域「健康」のねらい及び内容に目を通す（30分）	
第 2回	模擬保育準備及び領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知る 個人の指導案を持ち寄り、より具体的な保育を想定した指導案をグループで作成する。 また、領域「健康」の特性に応じた現代的課題（自ら健康で安全な生活を作り出す力の基盤づくり）や保育実践の動向を観察や体験を通じて理解する。		準備学習：領域「健康」に関する指導案を個別に作成する（90分） 事後学習：ダンスの復習（15分）	
第 3回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける①保育者の適した立ち位置 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。また乳幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活		準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル（60分） 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グルー	

第 4回	用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第3回は特に保育者の適した立ち位置の理解を深める。模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける②集団の動かし方 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。また幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第4回は特に集団の動かし方について理解を深める。	ブは発表映像をみて指導を振り返る (45分) ダンスの復習 (15分) 準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル (60分) 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る (45分) ダンスの復習 (15分)
第 5回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける③乳幼児の興味関心を引く環境づくりと言葉がけ 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。また幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第5回は特に乳幼児が興味や好奇心を持って関わることできるような環境づくりや言葉がけについて理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル (60分) 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る (45分) ダンスの復習 (15分)
第 6回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける④空間構成について 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。また乳幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第6回は特に空間構成について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル (60分) 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る (45分) ダンスの復習 (15分)
第 7回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑤安全に配慮した環境 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意点や評価の考え方の理解を深めていく。また幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第7回は特に安全に配慮した環境について理解を深める。	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル (60分) 事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る (45分) ダンスの復習 (15分)
第 8回	模擬保育と振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける⑥乳幼児の心情を汲む保育 具体的な模擬保育と終了後の振り返りを通じて指導上の留意	準備学習：発表グループは模擬保育のリハーサル (60分)

	意点や評価の考え方の理解を深めていく。また乳幼児の心情・認識・思考及び動き等を視野に入れる保育構想の重要性を理解する。模擬保育を通じては音楽機器の操作や効果的な活用方法などを学ぶ。また、模擬保育の様子はすべて学生が交替でビデオ撮影する。その映像資料は指導した学生の振り返りのために活用する。これらの模擬保育の良かった点や改善点はすべてノートに記録し、保育を改善する視点を身に付ける。第8回は特に受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係の構築など、人と関わる力の基盤を培うため、乳幼児の心情を汲む保育について理解を深める。	事後学習：授業内容や発表の感想をノートにまとめる。発表グループは発表映像をみて指導を振り返る（45分） ダンスの復習（15分）
第9回	小学校体育科学習とのつながり①支持力を必要とする教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第9回は支持力を必要とする教材の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：支持系の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第10回	小学校体育科学習とのつながり②投運動の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第10回は投補運動の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：投運動の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第11回	小学校体育科学習とのつながり③跳躍の教材のレディネス 乳幼児期は小学校に上がるまでのレディネスを整える時期であることを考慮し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に幼稚園の領域「健康」の具体的な指導内容について体験する。第11回は跳躍の前段階をテーマに取り上げる。	準備学習：跳躍の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第12回	動きを引き出す環境①大型遊具 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。12回は大型遊具をテーマに取り上げる。	準備学習：大型遊具の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第13回	動きを引き出す環境②小型遊具 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。13回は小型遊具をテーマに取り上げる。	準備学習：小型遊具の遊びの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第14回	動きを引き出す環境③鬼ごっこ 遊びや生活の場面において動きを引き出す様々な環境や動線に配慮した環境を構成したりするためにこれらを体験しながら理解する機会を設ける。14回は鬼ごっこ及び身近なものを用いた遊びをテーマに取り上げる。	準備学習：鬼ごっこの下調べ（15分） 事後学習：授業内容のノートまとめ（30分） ダンスの復習（15分）
第15回	ダンス・表現 授業の準備運動で行ったダンスの復習とテスト、また保育現場において活用するために場面と年齢に合わせたアレンジ方法を学ぶ。	準備学習：前期に行ったダンスの復習をする（60分）
定時試験	第3回～第8回に行われる模擬保育、第15回に行われるダンステスト、およびノート提出を定時試験とする。	
※ 毎回の授業時のはじめに準備運動として幼児ダンスを踊る。 フィードバックの方法：模擬保育については発表後、学生同士ディスカッションし良かった点と改善点について発表する。また、教員からもコメントしフィードバックする。		

テキスト：なし

参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（株）フレーベル館，2018、『保育所保育指針解説』（株）フレーベル館，2018、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（株）フレーベル館，2018
『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008.
『身体表現遊びプレイソング2』田中（賀来）良江・豊田泰代，チャイルド本社，2005

第3～8回の授業では学生が作成した指導案を配布

第1～15回の授業では内容に合わせた自作資料も使用

学生に対する評価：保育現場における指導力の向上がみられたかをはかるために以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。①模擬保育発表内容（40%）②授業に関するノート・提出物等（20%）③授業の取り組み（20%）④ダンステスト（20%）

授業科目名：2311113812 人間関係指導法 1 年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名： 小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒： 専門教育科目 保育の内容・方法 幼： 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保： 保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：2. 3. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」に示されるねらいと内容を理解する。②子どもたちの自己の確立や他者との関わりを支え、育みたい資質能力に向けた保育を構想し、実践する力を身につける。③乳幼児の発達を捉え、乳児保育における3つの視点と、領域「人間関係」における主体的、対話的で深い学びが実現する指導場面を想定し、環境の構成、教材や遊具の活用と工夫、計画・実践・観察・記録・評価について実践的に学ぶ。 【テーマ】子どもの人間関係の発達と援助のあり方を中心テーマとし、①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいと内容、②乳幼児期の人間関係の発達、③「人とのかかわる力」を育てるための保育実践を取り上げる。			
授業の概要：幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。乳幼児期にどのような経験や関わりが必要なのかを考え、「人と関わる力」を育成する保育者の援助のあり方を、事例を通して具体的に学ぶ。また、保育者を目指す自らが、自己の確立と他者への共感的理解、人とかかわりの重要性を十分に理解することで、子どもの人間関係を支える保育者としての資質向上につなげる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	<u>領域「人間関係」の意義</u> 人間関係に関わる現代社会を概観し、領域「人間関係」の役割を理解する。乳幼児が育つ家庭・社会環境を学生自身の育ちや経験をもとに話し合い、領域「人間関係」の役割について考えていく。	テキスト p 10-23の通読 (30分))夏のボランティアの振り返りシートの記入 (30分)	
第 2回	<u>保育における「人間関係」(0・1・2 歳児クラス)</u> 保育所保育指針の乳児期の領域「人間関係」のねらい・内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。「振り返りシート」(提出)をもとに夏のボランティアで観察した子どもの言葉・遊び・生活と人間関係について実践事例から考える	テキスト p 24-26. p34-40. p50、保育所保指針解説 p 101-109. p135-144の通読 (60分)	
第 3回	<u>保育における「人間関係」(3・4・5 歳児クラス)</u> 幼稚園教育要領・保育所保育指針の幼児期における領域「人間関係」のねらい・内容の取扱いを読み、幼児期の発達を理解する。	テキスト p 41～45. p50～51. 保育所保指針解説 p 204-227・幼稚園教育要領解説p167-192の通読 (60分)	
第 4回	<u>安心できる人との関わりの中で育つ 0 歳児</u> 母子の共感性や保育者の応答的関わりなど 0 歳児の発達と保育について説明する。乳児保育の 3 つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」を理解する。	テキスト p24-25. p34-37. 保育所保指針解説 p 89-120 の通読 (60 分)	
第 5回	<u>周囲のもの・人への興味が広がる1歳児</u> 探索活動・遊びや生活を通した人間関係の育ちと保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキスト p26. p38-41. 保育所保指針解説 p 135-139の通読 (60分)	
第 6回	<u>「わたし」が芽生え自己主張が強くなる 2 歳児</u> 自我の芽生え・自己主張、人や物との関わり、保育者	テキスト p25-26. 保育所保指針解説 p 135-139 の通読 135-	

の援助の基本と配慮事項を理解する。		139 (60 分)
第 7回	「私」が育ち、自立に向かう 3 歳児 自立心と協働性の芽生え、子ども同士の関わり、保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキスト p27-28. p41-42. p50. 保育所保育指針解説 p 204～227 の通読 (60分)
第 8回	保育の構想 いくつかの具体的事例を挙げて 4 歳児クラスの指導案を作成する。準備学習で作成した指導案を検討、手直しをする。次回の模擬保育の計画を立てる。	期日までに領域「人間関係」をねらいとする指導案を作成する (90分)
第 9回	4歳児の保育実践 模擬保育、模擬保育の振り返りを通して評価から改善の一連の作業を経験し、領域「人間関係」の理解を深めていく。模擬保育の振り返りシートを作成する。	役割に応じた模擬保育の準備 (60 分) 復習：模擬保育の振り返りシートを仕上げ (30分)
第10回	「私たち」の意識が芽生え、協調性が育つ 5 歳児 集団の中で育まれる「協同性」について、遊びや生活を通した人間関係の育ち、保育者の援助の基本と配慮事項を理解する。	テキスト p27-31. p51. p58-64. 保育所保育指針解説 p62-83 の通読 (60分)
第11回	実際の子どもの生活(グループワーク) 幼稚園実習で観察した子どもの言葉と人間関係・遊びと人間関係・生活と人間関係について実践事例から考える。「振り返りシート」を作成する。	幼稚園実習などで気付いたこと・感じたこと・学んだこと・疑問点等を振り返りシートに記入する (60分)
第12回	「個性」と「人間関係」「気になる子ども」 保育現場における気になる子の環境状況や背景を検討しクラス運営をする中で人間関係に関するねらいと保育内容を踏まえ、家庭との連携や保育者の援助などを考えていく。レポートを題材にグループワークを行う	幼稚園実習などの体験や文献から、気になる子の事例(レポート)をまとめる (60分)
第13回	幼保小連携(小学校への円滑な接続) 幼児教育と小学校教育の段差を乗り越えるための取り組み・接続期カリキュラム等、幼児期の学びを考える。	テキスト p 96- p 110. 保育所保育指針解説 p288-292 の通読 (60分)
第14回	多様な人との関わり(グループワーク) 現代社会と子どもとの関わり、地域の中で育まれる子ども同士の関わり、高齢者との交流、地域で支える子育て支援について理解する。グループ発表を行う。	テキスト p 96- p 110. 保育所保育指針解説 p329-342 の通読 (60分)
第15回	めざす保育者像(保育者が作る「人間関係」) 子どもとの関係を築く・保護者との関係を築く・保育者同士の関係を築く・地域や専門機関などとの関係を築く・学び続ける保育者像について理解する。	テキスト p32-. p52. p128-132. 保育所保育指針解説 p345-347 の通読 (60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を実施する		
フィードバックの方法：フィードバックとして、振り返りシートにコメントを記入し返却する。		
テキスト： 「実践から学ぶ子どもと人間関係」 浅見 均 編著 大学図書出版		
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』(文部科学省 フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省 フレーベル館) 適宜プリントを配布 『子どもと保育者でつくる人間関係』横山 真貴子編著 保育出版社		
学生に対する評価： 定時試験50%・授業への取り組み20%・課題(30%を総合的に評価する		

授業科目名2311113922 環境指導法 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：笹川 康子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：2. 4. 6. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指す。領域「環境」のねらい及び内容はそれ単一で成立するものではない。養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性をもつことを理解し、総合的に保育を展開できるよう、乳幼児の発達を理解し、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを到達目標とする。乳児保育における3つの視点と1歳以上児の五領域の視点から、発達に応じて主体的・対話的で深い学びが実現するよう、環境の構成、教材・遊具の活用と工夫、計画・実践・配慮すべき事項を理解する。 【テーマ】「科学的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとし、乳児期から「環境にかかわる力」を習得させる方法論について、幼小接続まで視野に入れ、実践的に学ぶ。			
授業の概要：幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいを着実に保育現場で実践していくため実践力を高め、乳幼児に「科学的なものの見方や考え方」の育成を行うことができる知識・技術・指導法の習得を行う。さらに他領域と併せた総合的保育活動へ発展させ、幼小接続まで視野に入れた指導ができるよう、様々な教材開発・指導法開発を行い、卒後も保育者として研究を続けられる素地をつくる。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について、「幼児と環境」での学びを基礎とし、小学校生活科・理科等教科への接続を見据え、乳幼児期の子どもが周囲の様々な環境に好奇心・探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験の重要性を反映した保育活動について学ぶ。	幼稚園教育要領、保育所保育指針 領域「環境」のねらいと内容を再読(45分)	
第2回	自然・周囲の環境との関わり 乳児期から周囲の環境と深く関わり、子どもが「健やかに伸び伸びと育つ」ことを目指す。子どもが健康的に安全に快適に過ごすことのできる環境に配慮し、自然・周囲の環境に興味や好奇心をもって関わる体験ができるよう保育活動を構想できる。季節の自然を取り入れた活動を直接体験し自然の不思議を感じる。	準備学習 A：56～61頁(20分) 事後学習 演習内容の保育現場での活用を考える(20分)	
第3回	周囲の環境との関わり・生命尊重 乳幼児の「環境に関わる活動」の際、保育者として子どもの感情や気付きを受容し、「科学するところ」の萌芽を育成する指導上の留意点を理解する。視聴覚教材等も活用して保育場面での具体例から原体験を積む活動を学ぶ。	準備学習 B：6～17頁 A：38～41(45分)	
第4回	現代社会の環境課題について学ぶ① 視聴覚教材使用。限定された系をモデルとして生態系を学び、地球規模での生態系理解へと発展させる。SDG s に対する理解を深める。	準備学習 A：34～35頁(15分) 事後学習 課題についてレポート作成(45分)	
第5回	現代社会の環境課題について学ぶ② ①での手法をもとに現代社会の環境課題についてテーマ別に理解を深める。SDG s に対する理解を深める。	準備学習 環境課題を見つける(15分) 事後学習 課題についてまとめる(45分)	

第6回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続① 「科学的ものの見方や考え方」指導力育成のため、映像資料も活用し、乳幼児の発達を見据えた指導方法を学ぶ。小学校生活科への円滑な接続を視野に入れた保育活動の提案、教材開発、指導法を考える。	準備学習 A : 68～78頁(45分)
第7回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続② 数量・図形、文字等への関心・感覚。領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、図形を素材として、日常の保育活動における積み上げ型、保幼小接続型の教材開発と指導法習得に取り組む。	準備学習 幼児と環境 第4回、第5回 授業内容復習(45分)
第8回	「科学的な物の見方や考え方」における保幼小接続③ 前回扱った内容をさらに発展させ、保育者自身、科学的なものの見方や考え方を身に着けるための取り組みを行う。	準備学習 事前配付課題について調べ学習を行う(45分)
第9回	環境に関わる体験と指導法①「思考力の芽生え」 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえた保育活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むことのできる指導力を身につける。	準備学習 幼児と環境 第3回の復習 (15分)
第10回	環境に関わる体験と指導法② 森林素材や生態系を用い、幅広く数量・図形との関わりも含んだ発展的活動を行い、幼児に「科学する心」の芽生えをもたせ、さらに「科学的探究心」へと育成していくための保育・教育活動とは何かを考える。	準備学習 (45分)
第11回	環境に関わる体験と指導法③ 森林とその材を加工する施設を主題に選び、材の一部を用いた幼児玩具（木楽舎製楽つみ木）を用い、グループ単位による模擬保育活動を体験する。視聴覚教材も併用し、幼児の認知的発達に合わせた教材の活用、科学するところを受け止められるよう基礎知識と技能を身に付ける。	準備学習 (45分)
第12回	環境に関わる体験と指導法④ 領域「環境」の具体的な指導場面を想定し、子どもの好奇心を育てる保育方法を身に付ける。日常の保育活動の中で法則性や因果関係に気づかせるための保育構想の重要性を知る。「空気・風」及び「水」をテーマに教材開発を実施し、発達段階に応じた遊びを考え、その指導法を学ぶ。	準備学習 A : 84～85頁、B : 14頁～16頁、19～23頁、29頁(45分)
第13回	環境に関わる体験と指導法⑤ 第12回授業で扱ったテーマは小学校理科へ接続する大切な課題であることを知る。領域「環境」のねらい及び内容を踏まえた保育活動を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むことのできる指導力・評価の考え方を習得する。教材を開発し指導法を学ぶ。	準備学習 模擬授業実施のための準備を行う(45分)
第14回	現代社会の課題と保育構想の向上① 幼児の生活や環境に関係の深い情報を得る手段、及び利用可能な施設について学ぶ。WEB環境、幼児の身の回りの視聴覚情報の利用並びに水族園(館)、植物園、動物園、科学博物館等様々な施設と教育活動事例を学ぶ。	準備学習 A : 90～94頁、各自調べた施設の資料等(45分)
第15回	現代社会の課題と保育構想の向上② 現代社会における諸外国の保育実践の取り組みについて学び、保育構想の向上に取り組むための資質を養う。保育現場を想定し、授業で開発した教材のまとめを行う。	準備学習 配付資料を読んてくる(45分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	

フィードバックの方法： 第4回、5回提出課題のフィードバックを行い、添削後学生に返却する。
テキスト： A『保育実践に生かす 保育内容「環境」』（高内正子監修 上中修編著 保育出版社）B『こどもの世界Ⅲ こどもと自然／科学』（矢野博之編著 大学図書出版）
参考書・参考資料等： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館） 自作資料・教材を配付
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点70％ ②授業内課題20％ ③準備学習への取り組み及び授業態度10％

授業科目名：2311114021 言葉指導法		必修：卒・幼・保	単位数： 1単位	担当教員名：朴木 一史 担当形態：演習 単独
2 年前期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：2				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】生活における言葉使用の能力を高めるための、領域「言葉」の指導法について具体的な指導場面を構想する方法を身につける。①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを理解している。②幼児教育と小学校教育との繋がりを理解するとともに、幼児教育における評価の考え方を理解している。③乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。④領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。⑤長期・短期の指導計画や指導案を作成できる。⑥模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。⑦領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向に気づき、保育構想の向上に取り組むことができる。 【テーマ】①領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い、②非言語コミュニケーション、③指導援助の方法（聞く力・話す力・考える力・文字への関心等）、④言語障害、⑤オノマトペとなぞなぞ、⑥小学校国語科とのつながり、⑦絵本の読み聞かせ計画の作成と実践				
授業の概要：初めに幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱い等を確認して、言葉指導の基盤である信頼関係の醸成とともに、聞く力、話す力、考える力を高めたり、文字への関心を高めたりする方法を概観する。その後、言語障害、オノマトペ、小学校国語科の導入等の題材を取り上げて幼児の言語使用の特色を理解する。最後に絵本の読み聞かせの実践を通して児童文化財の具体的な取り扱い方を学ぶ。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1 回	幼稚園教育要領領域「言葉」 領域「言葉」のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、その大要を理解する。確認テストを時間内に行う。		テキストp. 5-p. 14の下調べ（60分）	
第 2 回	保育所保育指針領域「言葉」 領域「言葉」について、三歳未満児のねらい、内容及び内容の取扱いを読んで話し合い、大要を理解する。確認テストを時間内に行う。		テキストp. 15-26の下調べ及び確認テストの見直し（60分）	
第 3 回	非言語コミュニケーション 乳幼児と親しい大人との間で行われる「見つめ合い」、「いないいないばあ」、「おもちゃを用いた遊び」、「物のやりとり」など1歳未満の乳児では、その動きや発声に注意して保育者が応答的にかかわったり、語り掛けや歌いかけを行ったりして気持ちの通じ合うことが言葉の発達に必要であることを話し合いによって気付くようにする。確認テストを時間内に行う。		テキストp. 27-p. 33の下調べ及び確認テストの見直し（60分）	
第 4 回	指導援助の方法1（聞く力、話す力） 聞く力を育てる具体的な場や指導事項を調べたり、表現を豊かにする具体的な場や指導事項を調べたりして日常活動の中にインタビューの時間を設定することの重要性を理解するとともに、子どもが答えやすいインタビューの内容及び実施上の留意点を表にまとめる。まとめた表は、確認テスト兼ミニレポートとして扱う。		テキストp. 34-p. 42の下調べ及び確認テストの見直し（60分）	
第 5 回	指導援助の方法2（考える力） 考える力・想像する力を育む具体的な場である生活や遊び、児童文化財の鑑賞等に関わる指導事項を調べる。確認テストを時間内に行う。		テキストp. 43-p. 48の下調べ及び確認テストの見直し（60分）	
第 6 回	指導援助の方法3（記号・文字への関心） 記号への関心を育む具体的な場である生活や遊びの中の指導事項を調べて話し合う。また、落書きなどの遊びが自己表現として考えられることを知り		テキストp. 49-p. 58の下調べ及び確認テストの見直し（60分）	

第7回	、その落書きの中に出ている文字、語、文の発達の様子と指導法について話し合う。確認テストを時間内に行う。 指導援助の方法4（言葉の発達と環境） 人との係わり、生活や遊び、絵本等の言葉が幼児に移される様子について資料をもとに話し合うとともに、経験する事象の認識、相手意識及び語彙の獲得等が、鬼ごっこなどの遊びの基礎になっていることを理解する（色鬼の成立には色の知識があることやその知識獲得を行う効果的な指導場面を話し合ってまとめる）。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 59-p. 71の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第8回	言語障害 言語障害の症状、原因、治療等について、テキストや図書館資料やインターネットで調べた結果を発表し合うとともに、当該幼児の保育方針について話し合い、言語障害の保育についての理解を深める。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 72-p. 77の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第9回	感覚的言語（オノマトペ1） 童謡、唱歌及びわらべ歌に使われている擬音語や擬態語の効果について、それらの擬音語や擬態語を他の一般的な言葉に置き換えた事例と比較を通して、幼児が理解しやすいかどうかという観点で話し合う。自作資料「もし、こんな言葉にかわったら」確認テストを時間内に行う。	テキストp. 78-p. 95の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第10回	感覚的言語（オノマトペ2） 擬音語を含んだ文からその基となる事物や動物を当てなぞなぞをつくったり、特定の動物についてその鳴き声が英語ではどのように発音されているかをインターネットで調べて一覧表にまとめたりし、そのオノマトペの指導が適当な発達過程を話し合い、長期の指導計画を作成する。作成した指導計画は、ミニレポートとして扱う。	テキストp. 96-p. 103の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第11回	小学校国語科学習とのつながり 小学校1年用（上）の国語教科書を用いて、その4月・5月の学習内容を調べるとともに、幼稚園教育要領総則「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（8）（9）」を基に幼稚園の領域「言葉」の具体的な指導事項について話し合う。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 104-p. 116の下調べ及び前回授業で作成した指導計画の見直し（60分）
第12回	生活の中の言葉指導計画、遊びの中の言葉指導計画及び絵本の読み聞かせ計画の事例の仲から、絵本の読み聞かせ計画の例を取り上げて、その計画作成の方法を理解する。確認テストを時間内に行う。	テキストp. 117-p. 128の下調べ及び確認テストの見直し（60分）
第13回	絵本の読み聞かせ1 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。13回は、特に絵本の持ち方・見せ方に注意する。評価表を確認テストとして扱う。	テキストp. 129 第13・14・15回の準備学習として夏休み中に絵本の選択と読み聞かせ計画の作成を課す。読み聞かせ計画の見直し及び評価表による評価基準の見直し（各60分）
第14回	絵本の読み聞かせ2 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。14回は、特に会話と地の文の読み分けと声量に注意する。評価表を確認テストとして扱う。	同上
第15回	絵本の読み聞かせ3 順番に教室の前で絵本の読み聞かせを行い、聞き比べて読み方の優れた点に気付くように評価をする。15回は、特に問の取り方を重点とする。評価表を確認テストとして扱う。	同上
定時試験	筆記試験を行う	
フィードバックの方法：「まとめ」は前回授業の小テストである。A，B，Cの三段階で評価して次回授業日に返却する。B，Cの評価を受けたものは書き直して再提出すれば評価も見直す。第2回から第15回まで同様に行う。		
テキスト：『領域言葉Ⅱ 言葉指導法』（神谷爲義著 貞静学園短期大学）		

参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）

『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）

『子どもとことば』（岡本夏木 岩波新書） 毎時間、授業内容に合わせた自作資料を活用

学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点60% ②レポートや授業で調べた内容等の記録30% ③授業態度10%

実務家教員による授業科目：初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状（国語）と高等学校教諭2級免許状（国語）も有し、長年小学校教諭として勤務した。また全国小学校国語研究会の理事を経て会長を務めており、日本国語教育学会の理事も務めた実績がある。その経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。

授業科目名：2311114121 表現活動指導法（リトミック） 2 年前期	必修：卒・幼・保	単位数：1 単位	担当教員名：桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 保：保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】①幼稚園教育要領に示された、領域「表現」のねらい及び内容と全体構造を理解する。②保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりを理解する。③幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。④領域「表現」のねらいと内容を踏まえ幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。⑤指導案の構造を理解し、活動の導入、展開を考慮した手遊び歌の指導案を作成することができる。⑥幼稚園教育における評価の考え方を理解する。（小学校との違い）⑦模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。⑧領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。⑨領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育に活用することができる。			
【テーマ】 ①領域「表現」のねらい、内容と全体構造 ②幼児の表現（音楽教育） ③援助やかかわりとしての音楽 ④模擬保育の実際 ⑤総合的な表現（オペレッタ） ⑥保育における評価と小学校音楽科における評価			
授業の概要：幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いについて理解させる。また、保育所保育指針に示された、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」としての保育について理解させる。具体的には、リズム遊戯曲を数多く学ぶ中で、リズムカルな身体の動きを身につけ、音楽に対する感性を高める。グループでの演習を通してリトミック教育が音楽性ととともに社会性を育てること、保育者と子ども、子どもどうしの相互作用によって高められることを理解する。これらの活動の総合的な表現として、音楽劇[オペレッタ]を作り発表させる。事前課題として、学生が授業までに手遊び歌を練習し発表を通していろいろな実践の場面に適した指導法を習得する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	幼稚園教育要領「表現」の理解。保育所保育指針における「養護」と「教育」の視点から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための具体的な方法や技術、子どもの実態に即した援助やかかわりの理解。領域「表現」のねらい、内容、内容の取り扱いを読み、その概要を理解する。領域「表現」におけるリトミックの位置づけの理解。身近なものに関わり感性が育つリトミックの展開の理解。		
第 2 回	乳児、幼児の表現その 1 身近な人と気持ちが通じ合うリトミックの活動、創造性を豊かにするリトミックの活動、強弱を使った活動 ゴウとりすの動き、ダンプとミニカーの動き、対照的な強弱の変化、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	準備学習・テキスト NO. 1－4 手遊び歌の予習 (60 分)	
第 3 回	乳児、幼児の表現その 2 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動カノンを使った活動 カエルのうた、フレールジャック、コーコケ コッコー夜が明けた等の輪唱と動きのカノン、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキスト NO. 5－8 手遊び歌の予習 (60 分)	
第 4 回	乳児、幼児の表現その 3 創造性を豊かにするリトミックの活動フレーズを使った活動 フレーズごとにボール回し、フレーズ受け渡し、フレージング、時間・空間・エネルギーの関係を体	テキスト NO. 9－12 手遊び歌の予習 (60 分)	

第5回	験する。 乳児、幼児の表現その4 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動リズムの縮小と拡大を使った活動 二分音符と四分音符で蝶々の羽根の動きを模倣、四分音符と八分音符に分かれて手拍子や足拍子、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキスト NO.13-16 手遊び歌の予習(60分)
第6回	幼児の表現その5 創造性を豊かにするリトミックの活動 音の長短を使った活動 八分音符、四分音符、二分音符、それぞれで歩く、音価の理解、時間・空間・エネルギーの関係を体験する。	テキスト NO.17-20 手遊び歌の予習(60分)
第7回	乳児、幼児の表現その6 身近な環境に興味や関心をもって関わり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動音の高低を使った活動 高い音、低い音に反応して歩いたり止まったりする。	テキスト NO.21-24 手遊び歌の予習(60分)
第8回	幼児の表現その7 感じたことや考えたことを自分なりに表現する活動 音階と調を理解する活動 上行形音階を前に歩き、下行形音階を後ろに下がり表現する。半音と全音。	テキスト NO.25-28 手遊び歌の予習(60分)
第9回	模擬保育の実際 幼児の表現その1からその7までの活動を元にグループで幼児活動の指導案を作成し、模擬保育を行う。指導案の作成と模擬保育の準備	テキスト NO.29-32 手遊び歌の予習(60分)
第10回	模擬保育各グループの発表と振り返り	テキスト NO.33-36 手遊び歌の予習(60分)
第11回	オペレッタの準備①昔話を素材とした脚本の選択	あらかじめ配布された脚本を読んでおく。(60分)
第12回	オペレッタの準備②物語に合う選曲とおどりの創作、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。	・配役、役割分担に基づいてピアノ練習、歌と台詞の練習(120分)
第13回	オペレッタの準備③舞台配置、照明、衣装(リハーサル)	各グループで準備、練習する。(60分) 各グループの発表を振り返りまとめる。(60分)
第14回	オペレッタの準備④発表に向けての練習、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。GP	
第15回	オペレッタの発表と鑑賞、時間・空間・エネルギーの関係を活用する。(課題・オペレッタの制作を振り返り、①練習への取り組む姿勢、②協力、③リーダー性の発揮、④創造性の工夫という観点別に記述する。	
定時試験	毎授業後の振り返りと最終オペレッタ発表及びその感想を定時試験の代わりとする。	
フィードバックの方法： 手遊びの予習は発表後評価解説を行います。オペレッタの準備は発表内容から推測し評価解説を口頭で行います。記述内容にはコメントし返却します。		
テキスト：『うたっておどっておもちゃ箱 PART2』鈴木恵津子編著、教育芸術社出版 『保育者のためのマーチ集』津布楽杏里・桑原章寧編著、東京国際芸術協会出版		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説（最新版）』、『保育所保育指針解説（最新版）』、『ダルクローズのリトミック』ドレミ出版、『リズムと音楽と教育』全音楽譜出版社、『リズム・インサイド』西日本法規出版、『こどものミュージカル竹取物語・ありときりぎりす・サンドリヨン』ドレミ出版、『体を楽器にした音楽表現リズム&ゲームにどっぷりリトミック 77 選』明治図書、『いっしょに歌おうエリックカール絵本うた』コンセル		
学生に対する評価：課題として事前に与えられた手遊びの発表（テキスト使用）における指導内容（20%）、毎回の授業への取り組み（10%）、ノート提出時のノートのまとめ方（50%）、オペレッタの発表内容（20%）の4項目から評価する。なお、ノートについては、活動の流れ、活動の詳細な記述、活動における言葉がけとかかわり方、活動を通して感じた内容、予想される子どもが感じ取る内容を観点として評価する。		

授業科目名：2300214221 器楽合奏（選択） 2 年前期	必修：	単位数： 1単位	担当教員名： 桑原 章寧 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 2. 4. 6. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】 ○ 幼児に楽器の演奏活動をさせる際に必要な楽器の構造や奏法について理解する。 ○ 実際の合奏活動を通して各楽器の響きや合奏中の役割を理解する。また指揮活動を通してアゴーギク（速度法）、デュナーミク（強弱法）の重要性を理解する。 【テーマ】 幼児の器楽合奏における奏法やその他指導法について学ぶ。			
授業の概要： 旋律楽器とリズム楽器を分担し、合奏活動を通してその指導法を理解する。 鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴、アコーディオン等、旋律を担当する楽器の奏法理解とその習得。 タンブリン、トライアングル、スネアドラム（小太鼓）、ボンゴ等リズムを担当する楽器の奏法理解とその習得。リズム譜の読譜。指揮者として指導する際の指導のポイントとして、はじめの合図の出し方、音のそろえ方、強弱の出し方を理解する。練習した曲（各グループ2曲）は、最終授業でその成果を演奏発表する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	幼児教育指導法のねらいと進め方について説明・個別音楽経験実態調査、シラバスを読んで疑問に思ったことやわからないことの質疑応答	シラバスに目を通し疑問点を質問できるようにする。 (6 0分)	
第 2回	旋律楽器の奏法その1 鍵盤ハーモニカ、アコーディオン・楽譜の読み方、準備学習で練習した課題曲を実際の楽器鍵盤ハーモニカとアコーディオンで練習する。事前練習が十分でない学生はピアノで練習する。鍵盤ハーモニカではタンギングで音を切る方法と指のタッチで音を切る方法があることを理解する。	事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(6 0分)	
第 3回	旋律楽器の奏法その2 木琴、鉄琴 準備学習で練習した課題曲を実際の楽器木琴と鉄琴で練習する。トレモロや鉄琴のサスティーンペダルの使い方を理解する。	事前に配布した楽譜を見て演奏できるようにピアノで練習する。(6 0分)	
第 4回	リズム楽器の奏法その1 スネアドラム、大太鼓・リズム譜の読み方 スティックを使う前に実際手で叩いて触覚で感じる大切さを理解する。スティックの持ち方や打楽器の基本的な練習方法について理解する。事前に配布したリズム譜を用いて実際の楽器スネアドラム、大太鼓でリズム奏の練習をする。	事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する。(6 0分)	
第 5回	リズム楽器の奏法その2 ボンゴ、タンブリン、トライアングル それぞれの楽器の奏法や名称について調べてきたことをもとに発表する。その後各楽器の奏法について解説し事前に配布したリズム譜を用いて各楽器の練習をする。	事前に配布したリズム譜を見てリズム打ちができるように練習する、各楽器の名称と奏法について調べる。(6 0分)	
第 6回	指揮法（合図の出し方） 調べたことをもとに指揮についてその役割りや方法、テクニックについて発表しあう。その後実際の指揮法について実践練習する。	指揮法について調べる。 (6 0分)	
第 7回	指揮法（速度法と強弱法） アゴーギグ(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べたことを発表しあう。実際の指揮でどのように応用するか練習する。	アゴーギグ(速度法)とデュナーミク(強弱法)について調べる。(6 0分)	
第 8回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その1 始まりと終	指揮法で演奏する課題曲を練	

	わり 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	習する。(90分)
第9回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その2 速度法と強弱法 実際の演奏を練習する中で指揮者を交代しながら適切なアドバイスができたか振り返る。	指揮法で演奏する課題曲を練習する。(90分)
第10回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その3 各楽器パートのバランス 準備学習で行ったワークシートを元に各楽器の音量バランスを指示する。またその理由についても述べる。	各楽器の音量バランスについてワークシートにまとめる。(60分)
第11回	指揮及び指導者としての合奏の進め方その4 全体的な流れ出だしの音量、各楽器の音量バランス、アゴーギグ、デュナーミクについて適切な指示を与えながらよりよい演奏をめざす。 実技試験(指揮法)	配布された楽譜をもとに全体的な流れをワークシートにまとめる。(60分)
第12回	任意の楽器の演奏 パート (リズム・旋律) 選曲した曲の理由を発表し合い、その曲の特徴やよさを確認する。	グループで演奏した曲を選曲(60分)
第13回	任意の楽器の演奏 パート (リズムパートと旋律パート) 練習	個人練習(60分～90分)
第14回	任意の楽器の演奏 合奏練習	パート練習(60分～90分)
第15回	任意の楽器の演奏 各グループの合奏発表と鑑賞 実技試験 (演奏)	楽曲の特徴とよき演奏の留意点をまとめる。(60分)
定時試験	あり	
フィードバックの方法：準備学習として毎回配布するプリントの楽器に関すること、楽譜に関すること、和声に関することそれぞれの問題を解いてきたものに対して回答と解説を行う。また練習課題は発表の観察から評価し、どのような練習をするとさらによりよい演奏となるのか助言する。		
テキスト：楽譜、資料に関しては随時プリント配布		
参考書・参考資料等：こどもの器楽合奏ポップス1, 2, 3 (株式会社テプロMP、器楽合奏アルバム1 (教育研究社)、幼児の器楽合奏曲 (音楽の友社)、器楽合奏でディズニー (Yamaha music media)		
学生に対する評価： 基本的な楽器の奏法、音楽用語、コードネームについての筆記による定時試験 (50%)、 実技として指定した曲の指揮のテストを行い評価 (25%)、 毎授業、準備学習での取り組む姿勢、意欲について発表、演奏から評価 (25%)		

授業科目名：2301214321 表現活動指導法（創作活動）Ⅰ 2年前期		必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法														
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7																
授業の到達目標及びテーマ：授業の到達目標は下記5項目である。 ①幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」のねらい、内容、指導法について理論的に理解し、実践することができるようになる。 ②表現活動指導の留意点として、道具の使い方・素材の安全性を理解し、乳幼児・子どもの心や身体の安全を配慮した上で、指導を計画・実践できるようになる。 ③乳幼児・子ども一人一人が、いろいろなものから感じたこと・考えたことを創造性豊かに表現が出来るように表現の発達段階や個性について理解した上で指導法を構想し、保育現場で計画・実践できるようになる。 ④表現活動指導において、絵本・紙芝居・劇等を教材として用いたり、電子機器・PC等を使用したりして、発展的な指導ができるようになる。 ⑤乳幼児・子どもの表現の取り組み方や表現した内容を、領域「表現」のねらい、発達段階、一人一人の個性や心身の状況を考慮した上で、評価することができるようになる。 ※遠隔（WEB）授業となった場合は、グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。																
授業の概要： 最初に、幼稚園教育要領及び保育者保育指針の領域「表現」のねらい・内容・指導法を学び、グループディスカッションを通して考察を深めた後、到達目標についての具体的な講義を行う。その後、以下3項目のテーマに取り組み、実践力を身につける。 テーマ①お話・絵本・紙芝居・劇等を使ってイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する活動の指導。 テーマ②身近にある材料（素材）の色・形・手触りなどに気づき、それを使って楽しんだり遊んだりすることや、材料（素材）を工夫して作ることを楽しむ活動の指導。 テーマ③季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導について、PDCA（計画・実行・検証・改善）を行う。 具体的には、表現活動指導を行うために必要な4つの観点を踏まえた上で指導案を作成し、ロールプレイ（模擬指導）を行う。その後、検証し、理解を深め、改善を行い保育構想の向上に取り組む。 観点①乳幼児・子どもの発達段階の理解、 観点②指導対象人数を踏まえた表現活動内容の計画、 観点③活動空間の設定、 観点④道具の使用法、材料（素材）の特性と安全性 ※遠隔（WEB）授業となった場合は、グループディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。																
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第1回</td><td>第1回：幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点についてグループによる分析と考察を行う。</td><td>※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)</td></tr><tr><td>第2回</td><td>乳幼児・子どもは表現活動にどのように取り組み「自ら表現したもの」「他者が表現したもの」をどのように捉えるか映像（幼児・子どもの表現活動の現場）を通して観察し、発達段階や感情表現をテーマにグループディスカッションを行う。また、発達が進むにつれてどのような表現活動ができるようになるかについて考察する。</td><td>※準備学習 自分の幼児・子どもの頃に表現したものを回想し、発表準備をする。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)</td></tr><tr><td>第3回</td><td>表現活動指導の現場を想定し、指導の要点として、年齢・対象人数・場所・道具・材料等を踏まえ、ねらい</td><td>※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・雑誌・WEB等でリサーチしておく。(30分)</td></tr></table>					回数	内容	準備学習	第1回	第1回：幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点についてグループによる分析と考察を行う。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)	第2回	乳幼児・子どもは表現活動にどのように取り組み「自ら表現したもの」「他者が表現したもの」をどのように捉えるか映像（幼児・子どもの表現活動の現場）を通して観察し、発達段階や感情表現をテーマにグループディスカッションを行う。また、発達が進むにつれてどのような表現活動ができるようになるかについて考察する。	※準備学習 自分の幼児・子どもの頃に表現したものを回想し、発表準備をする。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)	第3回	表現活動指導の現場を想定し、指導の要点として、年齢・対象人数・場所・道具・材料等を踏まえ、ねらい	※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・雑誌・WEB等でリサーチしておく。(30分)
回数	内容	準備学習														
第1回	第1回：幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点についてグループによる分析と考察を行う。	※準備学習 幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」を読み、内容について全体像を把握する。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)														
第2回	乳幼児・子どもは表現活動にどのように取り組み「自ら表現したもの」「他者が表現したもの」をどのように捉えるか映像（幼児・子どもの表現活動の現場）を通して観察し、発達段階や感情表現をテーマにグループディスカッションを行う。また、発達が進むにつれてどのような表現活動ができるようになるかについて考察する。	※準備学習 自分の幼児・子どもの頃に表現したものを回想し、発表準備をする。(30分) ※復習学習 授業内容（グループによる分析と考察）を文章にまとめる。(30分)														
第3回	表現活動指導の現場を想定し、指導の要点として、年齢・対象人数・場所・道具・材料等を踏まえ、ねらい	※準備学習 指導案の様々なモデルを書籍・雑誌・WEB等でリサーチしておく。(30分)														

	と評価の仕方を設定した指導案の作成方法を学ぶ。	※復習学習 学んだ指導案の作成方法を振り返り、作成方法を記憶する。(30分)
第4回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」① 指導案を作成する。	※準備学習 お話・絵本・紙芝居・劇を調べ、自分がテーマとしたものを決定しておく。(30分) ※復習学習 作成した指導案の模擬指導ができるように練習する。(30分)
第5回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」② 指導案に基づきグループ内で模擬指導を行う。その後、幼児が豊かな感性や創造力を育むための指導をテーマにグループ全員の模擬指導を振り返る。グループから1名の全体での発表者を選ぶ。	※準備学習 自分の作成した指導案による模擬指導の練習を行ってくる。(30分) ※復習学習 グループの振り返りから学んだことを指導案に取り入れ、記述する。(30分)
第6回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」③ グループ代表者による模擬指導を行う。模擬指導者以外は、幼児役として指導を受ける。終了後に振り返り(検証)と改善を行う。	※準備学習 模擬指導の発表準備を行う。(30分) ※復習学習 模擬指導の振り返り(検証)と改善点を文章にまとめる。(30分)
第7回	「乳幼児・子どもが、お話・絵本・紙芝居・劇等でイメージを豊かにし、感じたり考えたりしたことを表現する」④ グループ代表者の模擬授業から学んだことを自分の指導案に取り入れ、実践的なものとする。保育現場で行われている実践指導、幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教科とのつながり等の実例を講義によって学び、指導案に反映させる。	※準備学習 保育実践の事例、表現活動における小学校教科とのつながりについてリサーチする。(30分) ※復習学習 自分が作成した指導案を再検討し、完成させる。(30分)
第8回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」① 乳幼児・子どもの発達段階、指導対象人数、活動空間、使用する道具と材料(素材)を設定して作品創作の表現活動指導法を構成する。	※事前課題 幼児・子どもが表現に使いやすい身近にある素材をリサーチし、持参する。(30分) ※復習学習 自分が選んだ身近にある素材をテーマとした指導案を構想する。(30分)
第9回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」② 対象年齢・ねらいを決め、素材・道具の安全性を踏まえて作品創作を行う。	※準備学習 自分が使用する素材・道具の不足分を再検討し、持参する。(30分) ※復習学習 自分が行っている創作活動の手順を文章にする。(30分)
第10回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」③ 作品創作活動を行う。また、作品と創作過程を振り返り、指導案を作成する。	※準備学習 指導案の原案を作る。(30分) ※復習学習 創作が未完成であれば完成させる。指導案を推敲する。(30分)
第11回	「乳幼児が身近にある材料の色・形・手触りなどに気づき、それを使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現」④ 全員の作品を鑑賞し、創作・表現活動が幼児にどのような発達を促すか、幼児の成長と発達がどのような小学校の教科につながるか等についてディスカッションする。	※準備学習 幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりについてリサーチし、発表準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容を踏まえて指導案を完成させる。(30分)
第12回	「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」① 構想。季節の変化や自然の美しさを感じる心、年中行事で体感する伝統・文化について準備学習のリサーチ内容を発表し、テーマを広げると共に授業目的を全員で共有する。	※準備学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事についてリサーチする。(30分) ※復習学習 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自分の指導したいテーマを絞る。(30分)

第13回	季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」② 季節の変化・自然の美しさ・年中行事から自分のテーマを決定し、指導法を構想し、指導案を作成する。	※準備学習 保育現場で行われている季節の変化・自然の美しさ・年中行事の指導のResearch。 (30分) ※復習学習 授業内容を踏まえ指導案の内容を深める。(30分)
第14回	「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」③ 作成した指導案に基づき、表現・創作活動を行う。	※準備学習 素材と道具を選定し、持参する。(30分) ※復習学習 表現・創作活動を振り返り、指導案を推敲する。(30分)
第15回	「季節の変化や自然の美しさを感じることを、行事に親しむことを通して感情や感覚を豊かにする表現活動の指導」④ 全員による指導案及び表現・創作活動の合評を行い、季節の変化や自然の美しさを感じることや行事に親しむ表現活動が感情や感覚を豊かにすることについて、また、そのことが小学校の教科とどのようなつながっていくかといったことについてディスカッションする。	※準備学習 表現・創作活動を振り返り、合評準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容を振り返り指導案を完成させる。(30分)
定時試験	定時試験を行う。(内容は、製作・表現)	
フィードバックの方法：		
第7回：お話・絵本・紙芝居・劇等の演習を振り返り、要点や注意点を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。		
第11回：乳幼児が身近にある材料を使って遊んだり、描いたり作ったりすることを楽しむ表現の授業を振り返り、要点や注意点を示したあるいはWEB資料を配布する。		
第15回：季節・自然・行事に親しむことを通して行う表現活動の指導の振り返り、要点や注意点を示したあるいはWEB資料を配布する。		
テキスト：自作によるテキスト		
参考書・参考資料等： 「幼稚園教育要領解説」(文部科学省フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(厚生労働省フレーベル館) 授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き		
学生に対する評価： 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①提出作品(表現・創作作品) 30% ②提出された指導案やレポート、構想スケッチ 30%。授業態度 10%		
実務家教員による授業科目： 絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。		

授業科目名：230124422 表現活動指導法（創作活動）Ⅱ 2年後期	必修：幼	単位数： (2単位)	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 表現活動指導法（創作活動）Ⅱでは、表現活動指導法（創作活動）Ⅰの授業到達目標5項目（※表現活動指導法（創作活動）Ⅰシラバス参照）の習熟度を再確認しながら内容を「発展」させ「深める」ことを目的とする。 到達目標「発展」への具体的な取り組みでは、保育現場を想定した保育者共同活動を想定して、グループ活動を通し連携して表現活動の計画・指導ができる力、共同して作業ができる力、展示会・お祭り・行事の保育現場における計画と実践が行える力を育成する。 到達目標「深める」への具体的な取り組みでは、保育実践の動向をリサーチし、保育構想向上に取り組む力、幼児が経験し身につけていく内容及び小学校の教科との接続を理解し、自ら指導法や教材研究に取り組む力、電子媒体を積極的に使うことができる力を育成する。 また、授業で作成した指導法や指導案を保育実習・教育実習において実践的に使用することも目的とする。 ※遠隔（WEB）授業となった場合、グループ活動はWEB上での意見交換とする。			
授業の概要： 授業の最初に、幼稚園教育要領及び保育者保育指針の領域「表現」のねらい、内容、指導法についての理解を確認する。その後の授業では、表現活動指導法（創作活動）Ⅰで取り組んだテーマ3項目①②③（※表現活動指導法（創作活動）Ⅰシラバス参照）を保育現場で実践するために、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）の3分類に発展させ、本授業テーマである2項目、共同指導や共同作業を通してコミュニケーションを楽しみ、交流の中で互いに創造性を豊かにしていく指導法を展示と発表によって探求する。領域「表現」における表現活動指導法（創作活動）のまとめとして保育教材研究及び指導法研究を行い、保育構想の向上に取り組むことのできる力を育成する。 ※遠隔（WEB）授業となった場合は、グループ活動はWEB上での意見交換とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1回：幼稚園教育要領及び保育者保育指針に示されている領域「表現」創作活動のねらい、指導の留意点について再確認する。また、幼稚園責任実習（年齢・時間・人数・場所等）を想定した表現活動の指導内容を考え、指導案を作成する。	※準備学習 自分が実習を行う保育現場を想定し、責任実習に使う指導案を数パターン考えてくる。(30分) ※復習学習 自分が作成した指導案に沿った指導の練習を行う。(30分)	
第2回	④-1 保育現場における、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）をテーマとした表現活動について映像を見て、幼児の心情・認識・思考及び動きについて講義で学ぶ。情報機器及び保育教材の活用についての方法と技術を学ぶ。	※準備学習 保育現場で実践されている、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）について調べる。(30分) ※復習学習 楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）について、自分が取り組みたい内容を書き出す。(30分)	
第3回	④-2 「展示・発表会を企画・運営すること」について共有した後、企画・運営リーダーが司会となり展示・発表会の全体デザイン・実行計画を立てる。その後、グループを構成し、グループごとのミーティングを行い、「楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）」の表現活動、指導内容を発想する。	※準備学習 幼児を対象とした、楽しむ（ゲーム・レクリエーション）・遊ぶ（工作・立体・遊び場）・飾る（絵画・壁面）を調べ、発表できるようにしておく。(30分) ※復習学習 グループで共有した表現活動、指導内容についてまとめる。(30分)	
第4回	④-3 展示・発表の全体デザインとして、各グループの計画書に基づき学内の展示・発表場所を選定し、作	※準備学習 グループの材料と必要経費についてリサーチする。(30分)	

第5回	品サイズ等を決定する。各グループ一人一人の役割を分担し、日程・進行の計画案を作成し、使用する材料(素材)についてリサーチする。 ④-4 共同作業の効率と役割分担を考え、分業による構想・試作・練習を行う。	※復習学習 グループで共有している展示・発表の構想を文章にまとめる。(30分) ※準備学習 グループで計画したテーマの道具・材料・機材を準備する。(30分) ※復習学習 分担された構想・試作・練習を行う。(30分)
第6回	④-5 分業による製作物を合体させ共同作業を行う。その際、展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性等の再検討を行う。	※準備学習 乳幼児・子どもの行動の危険・安全対策の事例を調べる。(30分) ※復習学習 展示・発表空間の安全性、展示物の耐久性・安全性について指導案に記述する。(30分)
第7回	④-6 グループによる展示物の設置・発表(楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面))を行い、乳幼児、子どもの参加(大学祭を想定)、実践的な表現活動・指導・遊びの補助を行う。また、乳幼児や子どもの感情や思考がどう動くか、年齢による発達段階の違いについて観察を行う。	※準備学習 発表、指導、遊びの補助の準備を行う。(30分) ※復習学習 発表、指導、遊びの補助の振り返りを文章にまとめる。(30分)
第8回	④-7 展示・発表会の合評を行い、テーマであった楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面)展示・発表についてと観察した内容について発表を行う。	※準備学習 グループで発表準備を行う。(30分) ※復習学習 授業内容(グループによる分析と考察)を文章にまとめる。(30分)
第9回	④-8 展示・発表空間の後片付け。(表現活動においては、後片付けまで指導の一部と考える。)発表・展示空間の解体、ゴミの分別・清掃を役割分担して行う。展示・発表の鑑賞及び合評をおこなう。	※準備学習 指導の内容を推敲する。(30分) ※鑑賞・合評の振り返りを行う。(30分)
第10回	⑤-1 領域「表現」のまとめとして。保育構想の向上を目標として保育教材及び指導法研究を行う。創作活動のねらい・指導の留意点・小学校との教科とのつながり・現代の保育実践の動向・幼稚園教育における評価の考え方といった領域「表現」についてWEBを利用して総合的にリサーチし、自分が保育現場で活用する保育教材の作成及び指導法を構想する。初回は、WEBを利用した講義とリサーチを行う。	※準備学習 現代の保育実践の動向について、WEBを利用してリサーチを行う。(30分) ※復習学習 自分の働く現場を想定し、そこで使用できる領域「表現」の教材、指導法を構想する。(30分)
第11回	⑤-2 図書館・WEBを利用して保育教材及び指導法研究についてリサーチを行う。領域「表現」のねらい・内容を再確認した上で保育教材作成の道具と素材を集める。	※準備学習 前回、WEBを利用してリサーチした内容を深める。(30分) ※復習学習 保育教材あるいは指導法の構想・試作を深める。(30分)
第12回	⑤-3 自分が使用する保育教材の製作あるいは指導法の構想を行う。	※準備学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法の方方向性を絞っておく。(30分) ※復習学習 自分が現場で使用する保育教材あるいは指導法を決定する。(30分)
第13回	⑤-4 自分が使用する保育教材の製作あるいは指導法の構想を進める。	※準備学習 構想・試作・練習を行う。製作・指導法の構想を進める。(30分) ※復習学習 保育教材製作・指導法の構想を進める。(30分)
第14回	⑤-5 作成した保育教材の展示・指導法の製作・発表を行う。	※準備学習 作成した保育教材の展示・指導法の発表準備を行う。(30分)

第15回 ⑤-6 保育教材・指導法研究の合評を行う。合評においての気づきを基に保育教材・指導法・指導案を改善し、完成させる。 定時試験 定時試験を行う。(内容は、製作・表現) フィードバックの方法： 第5回 共同作業の効率と役割について、改善提案を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。 第9回 楽しむ(ゲーム・レクリエーション)・遊ぶ(工作・立体・遊び場)・飾る(絵画・壁面)展示・発表について分析し、要点や注意点を示したプリントあるいはWEB資料を配布する。 第11回 保育現場における教材・指導法について総括的なプリントあるいはWEB資料を配布する。	分) ※復習学習 発表内容の振り返りを基に指導案を作成する。 (30分) ※準備学習 合評の準備を行う。 (30分) ※復習学習 合評内容を基に指導案を完成させる。 (30分)
テキスト：自作のテキスト	
参考書・参考資料等：「幼稚園教育要領解説」(文部科学省フレーベル館)・「保育所保育指針解説」(厚生労働省フレーベル館)・授業内容に合わせた参考資料・自作による表現の手引き	
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①提出作品(絵画・造形) 40% ②提出した指導案やレポート、構想スケッチ 40%。授業態度 20%	
実務家教員による授業科目：絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。	

授業科目名：2300014512 保育教材演習(エプロンシアター)（選択） 1 年後期		必修：	単位数： 1 単位	担当教員名：小山 玲子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 4				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】 子どもの遊びや造形表現を豊かに展開するために必要な知識や技術を習得し、教育実習・保育実習に役立つオリジナルエプロンシアターを製作する 【テーマ】 幼児教育・保育における方法と技術について基礎知識を身につけるために、エプロンシアターを取り上げる。実習園・就職後の活用を念頭に置き製作・上演等をする。				
授業の概要：				
・ 幼児教育 保育の方法及び技術に関する基礎的な考え方とその重要性について学ぶ。 ・ 演習形式 いくつか絵本・物語を選び、エプロンシアター実演のための脚本を作成する。 ・ 保育教材の重要性 実際の活用方法を念頭においた教材製作について学ぶ。 (教育実習・保育実習や保育現場で役立つエプロンシアターの製作及び上演、活用等、実践を学ぶ。)				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1 回	オリエンテーション 幼児の遊びと造形活動について・授業の計画・進め方・評価の仕方 エプロンシアターの紹介			
第 2 回	絵本・物語・歌等の選定。各自選んだ内容を発表。内容を吟味する			絵本・物語・歌等の選定 (60 分)
第 3 回	シナリオ作成または内容を発表 エプロンシアター実演用に選んだ物語の脚本の作成、内容の検討			シナリオ作成準備 (60 分)
第 4 回	エプロンシアター作成についての説明・型紙作り			シナリオ作成・型紙準備 (60 分)
第 5 回	エプロンシアター製作① 型紙作り・型紙に合わせてフェルトや布を切る			型紙作成 (60 分)
第 6 回	エプロンシアター製作② 縫製 中心人物を作る			中心人物作成準備 (60 分)
第 7 回	エプロンシアター製作③ 縫製 その他の人物を作る			その他の人物作成準備 (60 分)
第 8 回	エプロンシアター製作④ 縫製 背景や小物を作る			背景や小物の作成準備 (60 分)
第 9 回	エプロンシアター製作⑤ しかけ作り・装飾等			しかけ・装飾原案作成 (60 分)
第 10 回	エプロンシアター製作⑥ 仕上げ・BGMなどの工夫			仕上げ・BGM準備 (60 分)
第 11 回	エプロンシアター製作⑦ 製作物の追加・シナリオ修正			人形作成等 (60 分)
第 12 回	エプロンシアターの演じ方 練習			エプロンシアター練習 (60 分)
第 13 回	実演① 発表① お互いの作品を見せ合う。作品の修正を行う			エプロンシアター練習 (60 分)
第 14 回	実演② 発表② お互いの作品を見せ合い、講評			エプロンシアター練習 (60 分)
第 15 回	まとめ・レポート 保育者の豊かな表現と子どもの遊びとの関連性を考える グループワークとグループ発表 実技試験(エプロンシアターの実演)			レポート作成 (60 分)
定時試験 レポートを提出する (詳細は授業内で告知)				
フィードバックの方法：フィードバックとして提出課題にコメントを返す。				
テキスト：なし (必要に応じてプリント・資料配布) 図書館の蔵書を参考にする				
参考書・参考資料等：				
尾崎富美子「簡単たのしいエプロンでつくるポケットシアター」トロール出版 2010 年 中谷真弓 「楽しいエプロンシアター3」アド・グリーン企画出版 2011 年				
【留意事項】 土台となるエプロン代、約 2500 円に加えて、エプロンシアターに使うフェルトなどの材料は別途各自で購入します。				
学生に対する評価：以下の 3 点を総合的に評価する。 ①製作 4 0 %、②実演 4 0 %、③レポート 2 0 %				

授業科目名：2300014621 保育教材演習（紙芝居・絵本）（選択） 2年前期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：別府 浩実 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】 乳児・幼児・子どもの心（感じ方・考え方・喜怒哀楽など）への理解を深め、発達段階やテーマに合った紙芝居や絵本を選び、読み聞かせや演じる表現ができるようになる。また、紙芝居や絵本を自分で製作することができ、作り方の指導ができるようになる。 ・年齢や発達段階に合った絵本や紙芝居を選ぶことができる。 ・ジャンルを理解し、対象や目的に応じたテーマを選ぶことができる。 ・日本および世界の絵本に触れ、様々な視点や考え方を保育・教育現場に活かすことができる。 ・紙芝居・絵本の仕組みや構造を理解し、自ら製作でき、子どもに作り方を指導できる。				
【テーマ】 保育・教育教材としての紙芝居・絵本の理解、実践技術の習得、感性育成、計画と振り返り ※遠隔（WEB）授業となった場合も到達目標及びテーマは同じとする。				
授業の概要：				
・紙芝居・絵本の構造と表現形式を理解し、様々な絵本や紙芝居に接し、その内容や表現を分析する。 ・様々なジャンルの紙芝居や絵本の読み聞かせや演じ方を、実践を通して習得する。 ・自分で作りたい紙芝居や絵本のテーマを見つけ、それに合った物語と演じ方を考え、製作する。 ・習得した技術・知識・経験をどのように現場で生かせるかを考え、表現活動の演習を行う。 ※遠隔（WEB）授業となった場合は、ディスカッションは記述（WEB）での意見交換とする。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	「紙芝居と絵本、どこが違う？」 初回は、シラバスを説明した後、絵本と紙芝居の構造・演じ方・環境構成・対象の年齢・人数について理論の講義を行う。 ・紙芝居と絵本の特徴や表現方法の違いについて学ぶ。 ・切り紙（物語の素材）を作る演習。		※準備学習 シラバスを読んで授業構成の全体像を把握する。 （30分） ※復習学習 紙芝居・絵本の構造と演じ方について学んだ内容をノートにまとめる。（30分）	
第 2回	「紙芝居を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）紙芝居を準備し、演じる。演者と観客を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って、小さな本を作る演習。		※準備学習 自分の好きな（思い出の）紙芝居を探し、演じる練習をする。（30分） ※復習学習 全員の演じた内容の振り返り、自分の演技の改善（PDCA）を行う。（30分）	
第 3回	「絵本を演じてみよう！」 ・自分の好きな（思い出の）絵本を準備し、読み聞かせをする。読み手と聞き手を経験した上で、持参した絵本と紙芝居について、作者・画家について、物語・内容について、対象年齢についてディスカッションを行う。 ・切り紙（物語の素材）を使って作った小さな本を演じる演習。		※準備学習 自分の好きな（思い出の）絵本を探し、読み聞かせの練習をする。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。（30分）	
第 4回	赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん絵本の特性や表現について分析し、乳幼児の発達段階への理解を深める。		※準備学習 あかちゃん絵本を選び、読み聞かせの練習をする。 （30分） ※復習学習 自分とグループの演	

第 5回	・オノマトペ（擬音）やゼスチャー（身振り・手振り）を使った表現を演じる。 赤ちゃん絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん（乳幼児）向けの絵本・紙芝居を作る。 ・シンプルな色や形・安全な素材による造形を行う。	じた内容を振り返り、改善（PDCA）を行う。（30分） ※準備学習 あかちゃん絵本・紙芝居製作に必要な素材・画材を探してくる。（30分） ※復習学習 自作のあかちゃん絵本・紙芝居の表現の練習を行う。（30分）
第 6回	赤ちゃん・乳幼児対象の絵本・紙芝居（乳幼児の発達段階への理解を深める） ・赤ちゃん（乳幼児）向けの絵本・紙芝居を作る。 ・赤ちゃん（乳幼児）向けの自作を演じる。	※準備学習 あかちゃん絵本・紙芝居製作に必要な素材・画材を探してくる。（30分） ※復習学習 自作のあかちゃん絵本・紙芝居の表現の練習を行う。（30分）
第 7回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本（自己実現に向き合う） ・様々な子どもから大人まで対象の紙芝居・絵本を分析し、ディスカッションを行う。 ・表情（喜怒哀楽）の造形表現の演習。（特徴を捉え、デザインして描く演習）	※準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。 表情（喜怒哀楽）の造形表現のできなかった演習を補う。（30分）
第 8回	子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本（自己実現に向き合う） ・様々な視点から子どもから大人まで対象の絵本を分析し、読み聞かせを行う。 ・植物（木・草・花）の表現（特徴を捉え、デザインして描く演習）	※準備学習 自分が興味を持った子ども・ヤングアダルト・高齢者の紙芝居・絵本の読み聞かせ練習を行う。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。（30分） 木・草・花（植物）の造形表現のできなかった演習を補う。
第 9回	（1）「どんなジャンルがあるのか？」（人間の歴史） ・昔話・神話・伝説・創作系のジャンルについて分析と考察し、ディスカッションを行う。 ・動物表現（特徴を捉え、デザインして描く演習）	※準備学習 自分が興味を持った昔話・神話・伝説・創作系のジャンルの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。動物表現の造形表現のできなかった演習を補う。（30分）
第10回	（2）「どんなジャンルがあるのか？」（環境への意識） ・自然・科学・道徳・教育のジャンルについて分析と考察し、ディスカッションを行う。 ・建物・人工物（特徴を捉え、デザインして描く演習）	※準備学習 自分が興味を持った自然・科学・道徳・教育のジャンルの紙芝居・絵本を見つけ、発表準備を行う。（30分） ※復習学習 読み聞かせとディスカッションを振り返り、改善（PDCA）を行う。 建物・人工物表現の造形表現のできなかった演習を補う。（30分）
第11回	（1）自作の絵本・紙芝居を作る演習（構想をする） 授業の知識と表現演習を生かして、自作の絵本・紙芝居を作る。 テーマ・対象の年齢・絵本と紙芝居の構造・演技方といった授業で学んだ内容を踏まえ、テーマを決め、構想をする。	※準備学習 自分の作りたいテーマをいくつか選んでくる。（30分） ※復習学習 自分の作りたいテーマと同じ絵本や紙芝居をリサーチする。（30分）

第12回	(2) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 (絵コンテを描く) 物語あるいは内容の絵コンテを作成する。	※準備学習 自分の作りたい物語・内容のキャラクターを構想する。(30分) ※復習学習 絵コンテを推敲し、深める。(30分)
第13回	(3) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 (描く・作る) 製作を行う。	※準備学習 素材・資料を準備する。(30分) ※復習学習 自作を振り返り推敲し、製作を進める。(30分)
第14回	(4) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 ・製本・紙芝居の仕上げをする	※準備学習 製作を進める。(30分) ※復習学習 製作・製本の未完成分を補う。(30分)
第15回	(5) 自作の絵本・紙芝居を作る演習 ・自作の読み聞かせと合評	※準備学習 読み聞かせ、発表の準備を行う。(30分) ※復習学習 合評を振り返り、改善(PDCA)を行う。(30分)
定時試験	定時試験を行う。(内容は、製作・表現)	
フィードバックの方法： 第6回：提出された自作あかちゃん絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等についてのアドバイスパ rintを渡す。 第10回：提出された表情(喜怒哀楽)・植物(木・草・花)動物・建物・人工物の表現について、具体的なアドバイスパ rintを渡す。 第15回：提出された自作の絵本・紙芝居に、物語・絵・製本・読み聞かせ方等についてアドバイスパ rintを渡す。		
テキスト： 保育所保育指針解説(最新版)、幼稚園教育要領解説(最新版)		
参考書・参考資料等： 授業計画によって準備した絵本・紙芝居・画集を参考資料とする。		
学生に対する評価： ・授業の事前準備・授業態度 20% ・作品・発表(授業の目的を理解して制作しているか・創意工夫・完成度の高さ) 70% ・提出プリント等(基礎造形の知識を習得できているか・素材や道具を理解しているか) 10%		

授業科目名：2311014712 教育課程と教育方法 1年後期		必修：卒・幼	単位数： 1単位	担当教員名：濱中 啓二郎 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
学習成果該当番号：1. 2. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【教育の到達目標】 幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成する教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。またこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 【テーマ】 教育課程の意義・変遷・編成・実施・評価、指導計画の意義・様式・作成方法・作成の観点・実施・評価・改善				
授業の概要：幼稚園教育における教育課程、指導計画（長期・短期）の意義と作成・評価・改善のあり方を学ぶ。その過程で今回の幼稚園教育要領改訂の主体的・対話的で深い学びを実現するという主旨を明らかにし、学級や教材のあり方を中心に環境を通して行う教育を理解させる。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	【教育課程・教育方法の意義・歴史・語源】 教育課程の目的と意義について、法令による幼稚園教育の位置づけや適切な教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。 教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。		保育所保育指針解説p2～p9、幼稚園教育要領解説p74～p77の通読。様々な幼稚園の教育課程を調べる。（60分）	
第2回	【教育の内容・方法・計画・評価】 幼稚園教育においてこれからの子どもに求められる資質・能力の育成について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程の相関性、主体的・対話的で深い学びについて考察する。また、幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。		幼稚園教育要領解説p. 96～123、保育所保育指針解説p. 13～25の通読。（60分）	
第3回	【教育課程・教育方法を考える上での社会的事象】 教育課程・教育方法を学ぶ上での社会の変化について学ぶ。子どもを取り囲む社会の変化を理解し、現代の社会で必要な教育課程のあり方、保育における計画と評価について理解する。教育課程が社会において果たしている役割・機能についても触れる。		日本の現代社会の変化に関して、社会、学校、家庭のあり方の着目し、自分の考えをまとめる。（60分）	
第4回	【教育課程・教育方法の歴史・思想的変遷（西洋）】 教育課程・教育方法の歴史的変遷について、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、デューイらを取り上げ考察していく。		西洋における近代以降の歴史について、高等学校日本史・世界史の教科書を用いて復習する。（60分）	
第5回	【教育課程・教育方法の歴史・思想的変遷（日本）】 幼稚園教育要領、学習指導要領、保育所保育指針の成り立ち、内容について理解し、如何なる変遷をたどり現在に立ったのか、現在何が必要とされているのか具体的に理解する。先人の教育思想として、倉橋惣三についても触れる。		日本の教育課程・教育方法の歴史的変遷を教育原理のテキストや高等学校日本史の教科書から復習する。（60分）	
第6回	【教育課程編成と教育方法の実際（1）：行事のあり方】 教育課程を考える上で、「行事」は如何なる役割を持っているのか、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い		幼稚園で実際に行っている行事について調べる。幼稚園教育要領解説p. 114「行事	

第7回	学びの視点から考える。教育課程編成の基本原則を理解する。 【教育課程編成と教育方法の実際（2）：様々な環境】 保育・教育現場の様々な環境について理解し、それが子どもに与える影響、さらには単元、学期、学年をまたいだ長期的視野から指導計画を検討することの重要性を理解する。	の指導」の通読（60分） 長期指導計画の意義について、様々な幼稚園の実際の内容について自分で調べておく（60分）。
第8回	【教育課程編成と教育方法の実際（3）：いのちの教育】 「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」の「道徳性、違反意識の芽生え」「自然との関わり、生命尊重」に関わり、その意義、計画、実践、評価について理解する。	命の教育を展開している幼稚園について、インターネットや書籍で探し、自分の考えをまとめる（60分）
第9回	【教育課程編成と教育方法の実際（4）：幼児文化教材】 教育の目的に適した指導技術について学ぶ。特に、教育課程における幼児文化教材の意味を説明し、とりわけ絵本・紙芝居、ペープサート、素話などを取り上げ、保育を行う上で基礎的な技術を身に着ける。	絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアターなどの意義を調べまとめる（60分）
第10回	【教育課程編成の教育方法の実際（5）年間計画と人権教育】 3年間を見通した長期の指導計画作成の観点について幼稚園教育要領解説 p105～p120を基にディスカッションし年間の行事を中心にして長期の指導計画を考える。その際、人権教育について取り上げ、その意味を考察する。	長期指導計画について、テキストを通読。（60分）
第11回	【情報機器（ICT）の活用と教育実践】 ICT機器を活用した効果的な保育や教材の作成について理解し、子どもの興味・関心を高める教育方法を考察する。その際、子どもたちの情報活用能力（情報モラル）の育成についても理解を深める。	幼稚園教育要領解説p115の通読。（60分）
第12回	【指導計画の作成と保幼小の連携】 指導計画の作成について、保幼小の連携の中で考えるようにする。スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムについて、実際の指導計画をみながら、その本質を理解する。保幼小連携における注意点、要録などの内容にも触れる。	幼稚園教育要領解説p90～95の通読。（60分）
第13回	【日案（1日指導計画）の作成】 長期の指導計画をもとに1日を単位とした指導計画の様式や保育活動の実施についてディスカッションし、学級、幼児、教材等の保育を構成する基本的な要件を理解する。その際、幼児期からの情報活用能力を育成するための指導法についても理解する。	グループ毎に日案（1日指導計画）ならびに提示教材を完成させ、第14回授業に備える。（60分）
第14回	【日案（1日指導計画）の共有】 第13回授業において作成した日案についてグループ発表を行い、ワークシートを用いて評価を行い、指導計画を検討することの重要性を理解する。カリキュラム評価の基本的な考え方を理解する。	グループ毎に日案（1日指導計画）の発表の練習を行う。（60分）
第15回	【日案（1日指導計画）の評価と改善：全体的なまとめ】 日案（1日指導計画）について、幼児理解がなされていたか、教師の指導法や教材が適切であったか等、評価のあり方についてディスカッションし理解を深める。	幼稚園教育要領に即した書き方ができているか、確認する。（60分）
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：提出された課題及び指導案などは返却し、フィードバックを行う。		
テキスト：		
垂見直樹・池田竜介 著『幼児教育・保育のための教育方法論』ミネルヴァ書房、2021年。		
参考書・参考資料等：		
文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館 内閣府「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」フレーベル館		
学生に対する評価：試験、提出物、取り組みなど総合的に評価する。具体的には次の通り。①定時試験の得点：70％、②課題の提出：20％、③指導案（日案）：10％		

授業科目名：2300114822 社会的養護Ⅱ 2年後期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：笹尾 雅美 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 社会的養護Ⅱ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【目標】			
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。			
2. 施設養護及び家庭養護の実践について学ぶ。			
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について学ぶ。			
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。			
5. 社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。			
【テーマ】			
社会的養護の現状や課題をふまえて、施設養護や里親制度における支援の実践を理解する。			
授業の概要：社会的養護の現状として、入所児童の特徴や傾向を把握する。特に、被虐待児や障がいのある児童の増加が背景にあることから、施設養護である乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設と、等の家庭養護に焦点をおき、子どもたちや保護者が抱える社会的、心理的課題に対する専門的支援についての理解を深める。この授業では事例を用いながらワークシート、グループ学習、発表などを通して、保育士として必要とされる知識及び援助の在り方を学び、実践力を習得することを目指す。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子どもの権利擁護について理解する。 ・里親家庭や施設など、組織として子どもの権利擁護を図る取り組みや運営について学び、子どもの権利擁護の質の向上を図るための方法についてグループ学習をする。	社会的養護Ⅰを振り返り、教科書pp.1-12を読み、子どもの権利擁護の基本について、下調べをする（60分）。	
第 2回	社会的養護における子どもの背景や特徴を理解する。 ・子どもの理解を深めていくための理解の仕方やアプローチについて学ぶとともに、社会的養護のもとで生活する子どもやその家庭環境などについて理解を深める。	教科書pp.13-24を読み、社会的養護のもとで生活する子どもの心身や学業の状況について、下調べをする（60分）。	
第 3回	社会的養護の内容①日常生活支援について理解する。 ・日常生活支援に関する事例を分析することを通して、日常生活での支援のあり方についてグループディスカッションを行う。	教科書pp.25-36を読み、衣食住や生活環境の整備などの日常生活支援について、下調べをする（60分）。	
第 4回	社会的養護の内容②心理的支援について理解する。 ・社会的養護における子どもの心理的支援の特徴や養育者支援について、実践例を読み、グループディスカッションを行う。	教科書pp.37-48を読み、多職種や他機関とのチーム連携を取り入れた心理的支援について、下調べをする（60分）。	
第 5回	社会的養護の内容③自立支援について理解する。 ・社会的養護の子どもの退所後の進路や自立についての理解を深め、さまざまな「居場所」や切れ目ない支援についてレポートを作成する。	教科書pp.49-60を読み、社会的養護から巣立つ子どもの自立支援について下調べをして、多様な「自立」を知る（60分）。	
第 6回	乳児院等の生活特性および実際について理解する。 ・法令や統計などをもとに各施設の生活の特性についてグループ学習をして、援助内容や今後の方向性と課題について、ディスカッションを行う。	教科書pp.61-72を読み、乳児院や児童養護施設および母子生活支援施設の生活特性について、下調べする(60分)。	
第 7回	障害児施設の生活特性および実際を理解する。 ・障害児施設等の定義、子どもの特徴、施設の機能・支援の内容について、ワークシートを用いてまとめ、プレゼンテーションをする。	教科書pp.73-84を読み、児童心理治療施設、児童自立支援施設および障害児施設の特性について、下調べをする（60分）。	
第 8回	家庭養護の生活特性および実際を理解する。	教科書pp.85-96を読み、養育里親や養子縁組などの家庭養護の	

第9回	・実親家庭と養育里親家庭の違いについて、ワークシートを用いてまとめ、プレゼンテーションをする。 アセスメントと個別支援計画の作成を体験する。 ・自立支援計画が何のためにあるのかを考え、事例をもとに、実際に自立支援計画の策定を体験し、「自立」についての理解を深める。	制度について、下調べをする(60分)。 教科書pp.97-108を読み、アセスメントとは何かを理解し、「自立」について、説明が出来るようにする(60分)。
第10回	記録および自己評価について理解する。 ・記録の意義と役割、自己評価について学修する。さらにグループディスカッションを通じて、社会的養護の現場で保育士に求められる記録について、理解を深める。	教科書pp.109-120を読み、社会福祉の現場における「記録」と「評価」について下調べをする(60分)。
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践について学修する。 ・社会的養護系児童福祉施設の支援における保育士の専門性について理解を深め、実践力について意見交換する。	教科書pp.121-132を読み、児童福祉施設と保育士の配置と現場での対応について、下調べをする(60分)。
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について学修する。 ・日常生活のケアや課題解決・ニーズ充足のための支援として、相談援助の展開過程を学ぶ。	教科書pp.133-144を読み、相談援助（ソーシャルワーク）の定義や体系について、下調べをする(60分)。
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）を学修する。 ・社会的養護におけるソーシャルワークの意味とその必要性を理解し、演習によりソーシャルワークに触れる。	教科書pp.145-156を読み、ソーシャルワークにおける支援方法の基本やスキルについて下調べをする(60分)。
第14回	社会的養護における家庭支援についての理解を深める。 ・社会的養護が代替的養育の提供だけではなく、子どもとその保護者・家庭を支援することを踏まえ、実際の支援場面での対応を学修する。	教科書pp.157-170を読み、「家庭を支援する」ことについて下調べをして、「幸せな子育て家庭」をイメージする(60分)。
第15回	今後の社会的養護の課題と展望について学修する。 ・厚生労働省の「社会的養護の課題と将来像」および「新しい社会的養育ビジョン」の報告書をふまえて、保育士の役割についてプレゼンテーションを行う。	教科書pp.171-182を読み、これまでの授業を振り返り、社会的養護における保育士の役割について自分の意見を話せるようにする(60分)。
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う		
フィードバックの方法： 第6回に、第5回で提出されたレポートにコメントを返す。第8回と第15回のプレゼンテーションのあとに講評をする。		
テキスト： 公益財団法人児童育成協会（監修）相澤仁、村井美紀、大竹智（編集）「社会的養護Ⅱ」中央法規、2019		
参考書・参考資料等： 厚生労働省の「社会的養護の課題と将来像」および「新しい社会的養育ビジョン」の報告書		
学生に対する評価： 準備学習及び授業への取り組み（聞く態度も含む）（20%）、課題（小レポートとリアクションペーパー）の提出状況と内容（20%）、定時試験（60%）を総合して評価する。		

授業科目名：2300114922 子育て支援 2年後期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：大城 恵子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 子育て支援		
学習成果該当番号：1. 3. 5. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育所における保護者に対する子育て支援の基本的事項を踏まえ、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を学ぶ。また、様々な場や対象に即した支援内容と方法及び関係機関との連携と協働について実践事例を通して学び、保護者の子育て力の向上を目指した具体的な支援への理解を深める。 【テーマ】 保育士の専門性を生かした保護者に対する子育て支援の実際とその役割について学ぶ。また、孤立感や子どもの接触経験の少なさから起こる育児不安等に対して、保護者が持つ力を引き出すことや子育てを保護者と共有することで、お互いに成長できるような具体的な支援を考えていく。			
授業の概要：子どもの保育を通した保護者への支援のあり方について、事例や視聴覚教材等を題材として検討する。その際、グループワークやグループディスカッションなどを取り入れて、自分の考えをもとに他者と意見を交し合いながら学びを深めていく。また、子育て全般に関わる相談に対して適切なアドバイスを行うにあたり、親子を取り巻く地域資源や社会資源との関連を考えた上で専門機関との連携や役割について具体策を見出していく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援① -家庭生活を取り巻く社会的状況について知る- 視聴覚教材を用いて現代の子育て家庭の問題や課題を知る。	保育所保育指針解説書 第4章 「子育て支援」を読んでおく pp328-342 (60分)テキスト 第1講「子どもの保育とともに 行う保護者の支援」 を読んでおく (60分)	
第 2回	子育ての負担や不安を抱えている保護者への支援② -多面的な視点でとらえたニーズの理解- 視聴覚教材を用いて、現代の子育て家庭の問題や課題解決に向けた方法を考える。リアクションペーパーの提出を求める。	保育所保育指針解説書 第4章 「子育て支援」を読んでおく pp328-342 (60分)テキスト 第2講「日常的・継続的な 関わりを通した保護者との 相互理解と信頼関係の 形成」を読んでおく (60分)	
第 3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解 ー子育て家庭のニーズと生活課題、子育て支援場面についてー (第2回のリアクションペーパーをもとに問題と課題を共有 化できるように提示する)	保育所保育指針解説書 第4章 「子育て支援」を読んでおく pp328-342 (60分)テキスト 第3講を読んでおく (60分)	
第 4回	子ども及び保護者の状況・状態の把握 ーソーシャルワークの基本的支援プロセス及び子育て支援の特徴を 踏まえた適切な支援についてー	テキスト第4講を読んでおく (60分)	
第 5回	支援計画と環境の構成 ー支援目標の設定及び支援内容や方法の計画、環境構成について考 えるー	テキスト第5講を読んでおく (60分)	
第 6回	支援の実践と記録及び評価とカンファレンスについて ー支援プロセスの理解と事例を読みワークに取り組むー (授業内に取り組んだワーク課題の提出を求める)	テキスト第6講を読んでおく (60分)	
第 7回	職員間の連携と協働 ー視聴覚教材を通して職員間の連携と協働の 意味について理解するー (第6回ワーク課題の解説をする)	テキスト第7講を読んでおく (60分)	
第 8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 ー子育て支援に関連の深い社会資源を通してー 視聴覚教材を用いて関係機関や専門職との連携・協働について	テキスト第8講を読んでおく (60分)	

第9回	理解する。 保育所における支援について事例を通して考える ー保育所を利用する保護者の子育ての悩みや相談内容についてー	テキスト第9講を読んでおく (60分)
第10回	ひとり親家庭に対する支援について事例をもとに考える ー子どもと保護者のニーズ把握と支援方法について知るー	テキスト第10講を読んでおく (60分)
第11回	障害のある子ども及びその家族に対する支援 ー事例をもとにロールプレイを行うー リアクションペーパーの提出を求める。	テキスト第11講を読んでおく (60分)
第12回	特別な配慮を要する子ども及びその家族に対する支援 ー事例をもとにロールプレイを行うー リアクションペーパーの提出を求める。	テキスト第12講を読んでおく (60分)
第13回	子ども虐待の予防と対応事例 ー事例をもとにロールプレイを行うー リアクションペーパーの提出を求める。	テキスト第13講を読んでおく (60分)
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援事例をもとに保護者の心身の健康課題と子育てへの支援を考える ー事例をもとにグループディスカッションを行いグループごとに意見をまとめるー まとめた意見の提出を求める。(第13回にまとめた意見の振り返りを行う)	テキスト第14講を読んでおく (60分)
第15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭への理解 ー事例をもとにグループディスカッションを行いグループごとに意見をまとめるー まとめた意見の提出を求める。(第14回にまとめた意見の振り返りを行う)	テキスト第15講を読んでおく (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：		
第6回：フィードバックとしてワーク（課題）を回収後、解答の解説を行います。		
第2, 11, 12, 13回フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返します。		
テキスト： 新刊 『基礎から学ぶ 子育て支援の実際』 大学図書出版		
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）		
学生に対する評価： 以下の4点を総合的に評価する		
①授業で調べた内容等の記録 (15%) ②ワーク（課題）・リアクションペーパー (15%) ③定時試験 (40%) ④平素の学習状況及びグループワーク・グループディスカッション・ロールプレイ (30%)		

授業科目名：2300115011 乳児保育 I 1 年前期		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の内容・方法に関する科目 乳児保育 I		
学習成果該当番号：1. 3. 4				
授業の到達目標及びテーマ：【授業の到達目標】 ・ 保育所保育指針に示されている乳児保育に関わる配慮事項及び 3 歳未満児の保育に関する配慮事項の内容や援助の在り方を理解するとともに乳児の月齢の発達及び保育内容を理解する。 ・ 乳児の生活・遊びを豊かにするために保育者に必要とされている知識を学ぶ。 ・ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係期間との連携について理解する。 【テーマ】 3 歳未満児の発達過程と生活と遊びを理解する				
授業の概要：乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について学び、乳児保育の現状と課題について子育て支援、入所施設、子どもを取り巻く環境等多方面から理解する。3 歳未満児の発育・発達及び自我の芽生え・信頼関係の構築・生活リズムの獲得・言葉の獲得・基本的生活習慣を理解し、保育者としての具体的な関わり方や配慮の仕方を学び、職員間の連携や協働、保護者や地域との連携の重要性についても深く学ぶ。				
授業計画：				
回数	内容			準備学習
第 1 回	<u>乳児保育について</u> 乳児に対するイメージを話し合う。実際の保育所等で行われている乳児保育とは何か、乳児保育の意義・目的と役割を理解する。			教科書pp.8～21の通読(60分)
第 2 回	<u>乳児保育の歴史</u> 保育施設の誕生、法的位置づけ、乳児保育が一般化するまでの道のり、乳児保育の現状を理解する。 事前学習の内容を発表する。			教科書pp.24～29の通読(30分)、 教科書pp.30演習問題 1 「自分で調べよう」をまとめる。(30分)
第 3 回	<u>乳児保育の基礎知識 1</u> 乳幼児の心の発達理論、発達の特徴を理解する。 事前学習の内容を発表する。 課題：教科書pp.41演習問題 2 「町で観察してみよう」			教科書pp.32～40の通読(40分)、 教科書pp.41演習問題 1 「思い出してみよう」をまとめる。(20分)
第 4 回	<u>乳児保育の基礎知識 2</u> 乳幼児の心の発達が着目された歴史、ボウルビイの理論、愛着理論と乳児保育の特性について理解する。 第3回課題の内容を発表する。			教科書pp.42～46の通読(30分)、 第3回課題発表の準備をする。(30分)
第 5 回	<u>乳児保育の基礎知識 3</u> 乳児保育の実施における配慮事項を学び、理解する。			教科書pp.48～55の通読(40分)、 自身の予防接種歴を確認する。(20分)
第 6 回	<u>保育所・認定こども園における乳児保育 1</u> 認定こども園の特徴を知る。 教科書pp.65演習問題「ディスカッション」をグループワークで実施する。			教科書pp.58～64の通読(40分)、
第 7 回	<u>保育所・認定こども園における乳児保育 2</u> 保育所・認定こども園における生活活動を知る。 事前学習の内容を発表する。			教科書pp.66～71の通読(60分)、 教科書pp.72演習問題「認定こども園の実際を調べてみよう①」をまとめる。(20分)
第 8 回	<u>乳児院における乳児保育</u> 乳児院とは。近年の乳児院の現状と課題を学び理解する。 事前学習の内容を発表する。			教科書pp.74～80の通読(40分)、 乳児院のイメージをまとめる。(20分)
第 9 回	<u>家庭的保育等における乳児保育</u> 2009年に法定化された家庭的保育事業とは。家庭的保育室における保育の特徴と実際を学び、理解する。			教科書pp.82～86の通読(30分)、 教科書pp.87演習問題「家庭的保育について調べてみよう①」をま

第10回	事前学習の内容を発表する。 <u>乳児保育が行われるそのほかの保育</u> 子ども・子育て支援新制度における保育施設の位置づけを学び、理解する。 教科書pp.93演習問題「小規模保育について理解を深めよう」をグループワークで実施し発表する。	とめる。(30分) 教科書pp.88～92の通読(60分)
第11回	<u>子育て支援における乳児保育</u> 子育て支援に関する基本を学び、保護者それぞれの生活形態及び生活状況への配慮を理解する。 教科書pp.101演習問題「子育て支援について自分で考えてみよう」をグループワークで実施し発表する。	教科書pp.94～100の通読(60分)
第12回	<u>保護者とのパートナーシップ 1</u> 保護者の生活環境と乳児保育における支援を学び、理解する。保護者との情報共有方法を知る。 課題：教科書pp.108.109演習問題「ある親子の1日から考えてみよう」	教科書pp.102～115の通読(60分)
第13回	<u>保護者とのパートナーシップ 2</u> 保護者との連携について深く学ぶ。 第12回課題と教科書pp.117演習問題「保護者との連携についてさらに深く学ぼう2」をグループワークでまとめ、発表する。	教科書pp.116.117演習問題「保護者との連携についてさらに深く学ぼう1」をまとめる。(60分)
第14回	<u>職員間・地域の関係機関との連携</u> 乳児保育における保育者の義務と役割、チームで進める保育、子どもや保護者との信頼関係づくり、異職種、関係機関との連携について理解する。	教科書pp.118～123の通読(60分)
第15回	<u>乳児保育の現状と課題</u> 保護者、保育者それぞれの視点からの現状と課題を知る。 保育現場における実際の事故事例から課題を学ぶ。	教科書pp.126～131の通読(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す。 フィードバックの方法：事前学習、課題の発表は授業内で実施し、コメントする。グループワーク実施時には事前解説後にグループ内で検討しまとめたものを発表後に回収しコメントを付けて返却する。		
テキスト：「乳児保育 演習ブック [第2版]」ミネルヴァ書房 適宜授業で資料を配布		
参考書・参考資料等：保育所保育指針解説書…フレーベル館、「はじめて学ぶ乳児保育」…同文書院		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定時試験 50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		

授業科目名：2300115112 乳児保育Ⅱ 1年後期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 乳児保育Ⅱ		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解し、援助及び実際の技術を身につける。 ・乳児保育の計画を作成し、保育内容や方法・環境構成や観察・記録などを理解する。 【テーマ】 3歳未満児の発達を理解し、保育者としての関わり方や援助の具体的な方法・内容を学ぶ。			
授業の概要：人間形成にとって重要な愛着関係の必要性を理解し、3歳未満児の発育・発達の特徴や保育者としての役割を学ぶ。ビデオ視聴や保育現場での事例・演習を通してグループワーク等で理解を深め、保育に必要な知識や技術を身につける。手遊びや絵本の読み聞かせ等の実技や保育現場の事例を通して保育者の関わりかたを身につける。乳児保育における指導計画（長期・短期、個別・集団）の作成について具体的に学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	<u>6か月未満の子どもの育ちと保育内容1</u> 6か月未満児の心身と表現の育ちを理解し、保育の留意点を学ぶ。原始反射の映像教材を授業内で視聴し、pp.141演習課題に取り組む。	教科書134～139の通読(30分) 新生児、未熟児、低体重児について、定義を調べる。(30分)	
第2回	<u>6か月未満の子どもの育ちと保育内容2</u> 6か月未満児の生活と援助－睡眠・栄養・排泄・衣服・安全など環境整備、保育者としての関わり方を具体的に演習で学ぶ。事前学習の内容を発表する。	教科書pp.142～148の通読(40分) 自分の着替えの手順を実施して、気づいたことをメモする。(20分)	
第3回	<u>6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容1</u> 6か月以上1歳未満児の運動発達、手指の発達、言語発達、対人関係を理解し、保育の留意点を学ぶ。事前学習の内容を発表する。	教科書pp.150～154の通読(40分) 自身や周囲の人の一人立ち、初語について調べる。(20分)	
第4回	<u>6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容2</u> 6か月以上1歳未満児の生活と援助－睡眠・栄養・排泄・衣服・遊び・安全など環境整備、保育者としての関わり方を具体的に演習で学ぶ。乳児期後期の環境についてグループワーク。	教科書pp.156～162の通読(60分)	
第5回	<u>1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容1</u> 1歳以上2歳未満の子どもの身体、心と言葉の育ちを理解し、保育の留意点を学ぶ。グループワークで事前学習内容を発表し、演習課題：pp.169に取り組む、発表する。	教科書pp.164～168の通読(40分) 2歳未満児のおもちゃ、遊び、絵本について調べる。(20分)	
第6回	<u>1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容2</u> 1歳以上2歳未満児の生活と援助－睡眠・栄養・排泄・衣服・遊び・安全など環境整備、保育者としての関わり方を具体的に学ぶ。グループワークで演習課題 pp.175に取り組む。	教科書pp.170～174通読(40分) 自身や周囲の人の初めての友達、遊び相手について調べる。(20分)	
第7回	<u>2～3歳の子どもの育ちと保育内容1</u> 2～3歳の子どもの身体、心と言葉の育ちを理解し、保育の留意点を学ぶ。事前学習の内容を発表する。	教科書pp.176～182の通読(40分) 自身のお気に入りだった遊び、記憶に残る友達の事を思い出してみる。(20分)	
第8回	<u>2～3歳の子どもの育ちと保育内容2</u>	教科書pp.184～188の通読(30分)	

第9回	2～3歳児の生活と援助ー睡眠・栄養・排泄・衣服・遊び・安全など環境整備、保育者としての関わり方を具体的に学ぶ。 事前準備を基に「布のおもちゃ」を作る。 課題：布のおもちゃを完成させる。	演習課題pp.189の原案を考え、材料をそろえる。
第10回	<u>乳児保育における指導計画</u> 計画の必要性、全体的な計画・年間指導計画・毎月の指導計画・週案・個別指導計画の種類及び内容を理解する。 グループワークで演習課題pp.194.195に取り組み発表する。	教科書pp.192～199、「保育所保育指針」第1章-3の通読(60分)
第11回	<u>観察・記録及び自己評価</u> 観察・記録のポイントを理解し、自己評価の姿勢を学ぶ。PDCAサイクルの流れを知る。授業内で映像教材を視聴し、観察・記録を実施する。 課題：pp.206.207「観察・記録及び自己評価」	教科書pp.202～205の通読(60分)
第12回	<u>子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境1</u> 子どものための魅力的環境構成とは何かを理解し、適切な環境作りについて学ぶ。 グループワークで演習課題pp.213に取り組み発表する。	教科書pp.208～218の通読(60分)
第13回	<u>子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境2</u> 子どものための魅力的環境構成とは何かを理解し、保育所で人気の遊びについて具体的に演習で学ぶ。 事前学習の手遊びを発表する。準備した材料を使用して手作りおもちゃに挑戦する。 課題：おもちゃを完成させる。	廃材を利用した乳児に向けた手作りおもちゃを考え、材料を準備する。教科書に載っている手遊びを1つ覚える。(60分)
第14回	<u>集団での生活における配慮</u> 子どもに合った環境構成、配慮について理解し、個に振り回されない「集団」の重要性を学ぶ。 グループワークで演習課題pp.225に取り組み、発表する。	教科書pp.220～224の通読(40分) 自身が集団生活で嫌だった事、嬉しかった事をメモする。(20分)
第15回	<u>環境の変化や移行に対する配慮</u> 子どもの環境の変化や移行に対する配慮の重要性を理解し、事例から具体的配慮方法を学ぶ。 グループワークで演習課題pp.230に取り組み発表する。	教科書pp.226～229の通読(40分)短大入学時の気持ちを思いだしメモする(20分)
第16回	<u>まとめ</u> 授業内全体の振り返りと確認。 グループ毎に手遊びと歌遊びを手作りおもちゃも用いて発表する。	グループ発表の準備(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す。 ・グループワーク(ディスカッション)とグループ発表を行う。		
フィードバックの方法：フィードバックとして提出課題にコメントを返す。		
テキスト：「乳児保育演習ブック〔第2版〕」 ミネルヴァ書房 適宜授業でプリント・資料を配布、		
参考書・参考資料等：保育所保育指針解説書…フレーベル館」、「はじめて学ぶ乳児保育」…同文書院		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定時試験 50% ②課題・レポート30% ③授業態度20%		

授業科目名：2300115212 子どもの健康と安全 1年後期		必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の内容・方法に関する科目 子どもの健康と安全		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 8				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】「子どもの保健」で学んだことを踏まえて、子どもの健康と安全を守る実践的な技術を習得する。 【テーマ】子どもと保育者が安心して過ごすための保健技術について取り上げる。				
授業の概要：子どもが安心して毎日を過ごすには、保育者の保健的視点が求められる。保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、安全管理の実施体制、体調不良時の適切な対応を、演習を通して具体的に学ぶ。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	第1章 保育環境と援助 第2章 保育における健康と安全の管理① 1.衛生管理—嘔吐シミュレーションと吐物処理の方法、手袋の取扱い。		テキスト第1章・2章—1.衛生管理の項を読む(60分)	
第2回	第2章 保育における健康と安全の管理② 2. 事故防止と安全管理-1) 保育中の事故防止の取り組み テキスト付録ワークシート「①誤飲防止ルーラー・チャイルドマウスを作ろう」		テキスト第2章-2事故防止と安全管理の1. 保育中の事故防止の取り組みを読む(60分)	
第3回	第2章 保育における健康と安全の管理③ 2. 事故防止と安全管理-2) 施設内外の安全管理-3) 保育中の事故報告 テキスト付録ワークシート「②保育環境」		テキスト第2章-2の2施設内外の安全管理、3. 保育中の事故報告を読む(50分) 学校のAEDの設置場所を確認する(10分)	
第4回	第2章 保育における健康と安全の管理④ 3. 危機管理 4. 災害への備え 災害時の持ち出し品を発表する。 避難時に備えて、晒(サラシ)で赤ちゃん人形をおんぶしてみる		テキスト第2章-3危機管理と4. 災害への備えを読む(50分) 災害時の持ち出し品を5つ考える(10分)	
第5回	第3章 子どもの体調不良などへの対応① 1. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 バイタルサイン測定／薬の取り扱い		テキスト第3章-1体調不良や傷害が発生した場合の対応を読む(40分) 体温、脈拍、呼吸数を測ってみる(20分)	
第6回	第3章 子どもの体調不良などへの対応② 2. 応急手当 止血法／包帯法／その他の応急手当 一番痛かったケガについて発表する		テキスト第3章-2. 応急手当を読む(40分) 今までに負ったケガの中で、一番痛かった事を思い出しメモをする。いつ頃、どうして、体のどこに？(20分)	
第7回	第3章 子どもの体調不良などへの対応③ 3. 一次救命処置 心肺蘇生法練習用マネキン、AEDトレーナー、気道異物除去法練習用マネキンを使用し一次救命処置技術を学ぶ。		テキスト第3章-3. 一次救命処置を読む(30分) 2019-2020年に起きた子どもの水の事故(溺水・溺死)を調べ、実際の事故を知る。(30分)	
第8回	第4章 子どものかかりやすい感染症対策 テキスト付録ワークシート「自分の感染症罹患歴&予防接種ノートを作ろう③」 手洗いチェッカーで正しい手洗いを身につける		テキスト第4章を読む(50分) 今日1日何回手を洗ったか思い返す。何を使って？何で拭いた？(10分)	
第9回	第5章 保育における保健的対応① 1. 保育における保健的対応の基本的な考え方		テキスト第5章-1. 保育における保健的対応の基本的な考え方を読む(40分)	

	テキスト付録ワークシート「発育の様子をみてる④」	体重、頭囲、胸囲を測ってみる(20分)
第10回	赤ちゃん人形の身長・体重・頭囲・胸囲を測定 第5章 保育における保健的対応②	テキスト第5章-2. 3歳未満児への対応を読む(50分)
第11回	2. 3歳未満児への対応—おむつ交換／着替え 赤ちゃん人形を使っておむつ交換と着替えの練習 第5章 保育における保健的対応③	2枚重ねの洋服の着脱をやってみる(10分) テキスト第5章-2の子どもの生活に対する援助(3) 沐浴の方法を確認する(50分)
	2. 3歳未満児への対応—沐浴・シャワー浴・清拭 赤ちゃん人形を沐浴してみる	自身の入浴時間、洗体方法・順序を思い出す(10分)
第12回	第5章 保育における保健的対応④ 2. 3歳未満児への対応—歯みがき・爪切り・耳・鼻のケア	テキスト第5章-2の歯みがき、爪切り、耳・鼻のケアを読む(50分)
	テキスト付録ワークシート「歯磨き・磨き残しチェック⑤」／ハミガキ上手をつかってみる	歯みがきをする(5分)、歯みがきの順序を思い返しメモをする。(5分)
第13回	第5章 保育における保健的対応⑤ 2. 3歳未満児への対応—睡眠・排泄・食事 授乳と排気	テキスト第5章-2の子どもの生活習慣を読み、チャイルドデスレビューについて調べたことをまとめる(60分)
	事前学習の内容をグループ内で発表し、レポートにまとめる	
第14回	第5章 保育における保健的対応⑥ 3. 個別的な配慮が必要な子どもへの対応—アレルギー疾患・慢性疾患・先天異常	テキスト第5章-3 個別的な配慮が必要な子どもへの対応を読む(60分)
	エピペン® トレーナーを使用し自己注射を体験する。	
第15回	第5章 保育における保健的対応⑦ 4. 障害のある子どもへの対応	テキスト第5章-4. 障害のある子どもへの対応、第6章健康及び安全の管理の実施体制を読む(60分)
定時試験	第6章 健康及び安全の管理の実施体制 定時試験期間中に筆記試験を課す。	
フィードバックの方法：第7・13回のレポートは授業内グループワーク後に回収しコメントをつけて返却する。		
※授業内で実施したテキスト付録のワークシートは授業後に復習(10分)し、次回授業時に回収しコメントをつけて返却する。		
テキスト：「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全」 創成社		
参考書・参考資料等：「授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全テキスト」 診断と治療社 「なぜ起こる 乳幼児の致命的な事故」 学建書院 「小さいのち」 朝日新聞出版		
学生に対する評価：定時試験50% 演習への取り組み30% 授業内課題・小テスト20%		

授業科目名：2300115311 障害児保育Ⅰ 1 年前期	必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の内容・方法に関する科目 障害児保育		
学習成果該当番号：1. 3. 7			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・様々な障害について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた支援や配慮について学ぶ。 【テーマ】 障害児保育全般についての基礎的知識の習得を目指す。また、多様な障害種別について理解したうえで、一人一人のニーズに応じた保育実践のあり方を学習する。			
授業の概要：近年、保育施設においては障害児及びその他の特別な配慮を要する子どもの数が増加している。本講義では、「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷、ソーシャル・インクルージョン及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本を学び、障害児保育を支える理念を理解する。さらに、障害の保育における支援について学習し、一人一人の発達に応じた支援・配慮の方法を身につけることを目的とする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	ガイダンス：障害児保育の基本理念とは	シラバスと教科書に目を通し、授業内容を理解する。(約60分)	
第 2回	障害の概要と保育・教育の基本	教科書p1～16までを読み、障害の概念と保育・教育の基本について理解する。(約60分) レポート課題①指導計画例の問題点を指摘し、改善の方法を考える。	
第 3回	知的障害児の理解と援助	教科書p47～62までを読み、知的障害についての理解を深める。(約60分)	
第 4回	発達障害児の理解と援助①－注意欠陥多動性障害、学習障害	教科書 p71～79 までを読み、注意欠陥多動性障害、学習障害についての理解を深める。(約 60 分)	
第 5回	発達障害児の理解と援助②－自閉スペクトラム症	教科書p63～71までを読み、自閉スペクトラム症についての理解を深める。(約60分)	
第 6回	障害児保育の歴史的変遷	レポート課題②障害児支援にかかわる法制度や出来事について調べてくる。(約120)	
第 7回	ソーシャル・インクルージョン及び合理的配慮の理解	教科書p8～10、61を読み、ソーシャル・インクルージョン、合理的配慮についての理解を深める。(約60分)	
第 8回	聴覚障害児の理解と援助	教科書p33～40を読み、聴覚障害についての理解を深める。(約60分)	
第 9回	視覚障害児の理解と援助	教科書p17～24を読み、視覚障害についての理解を深める。(約60分)	
第10回	言語障害児の理解と援助	教科書p41～46を読み、言語障害についての理解を深める。(約60分)	
第11回	肢体不自由児の理解と援助	教科書p25～31を読み、肢体不自由児について理解を深める。(約60分)	
第12回	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	教科書p81～88を読み、重症心身障害児、医療的ケア児について理解を深める。(約60分)	
第13回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書 p89～108 を読み、虐待を受けた	

第14回 障害児保育の実際 子どもの姿を記録する 第15回 事例演習 定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う	子ども、多国籍の子どもについての理解を深める。(約 60 分) レポート課題③夏季ボランティアを通して「気になる子ども」の具体的な姿を記録し、指導計画案を立案する。記録した内容をもとにグループワークを行い、多様な子どもの姿についての理解を深める。(約120分) 教科書p163～171までを読み、授業に備える。(約60分)
フィードバックの方法： 第2回において作成した指導計画について、授業内で学生にフィードバックする。 第6回において各自調べてきた法制度や出来事をもとに、授業内で年表を作成し学生にフィードバックする。 第14回において作成したレポート課題のうち、数点を授業内で取り上げ、学生へのフィードバックとする。	
テキスト：武藤久枝編，2018，『コンパス障害児の保育・教育』	
参考書・参考資料等：必要に応じて資料を配布する。	
学生に対する評価：定時試験（60%）、レポート（20%）、グループワーク（10%）、平素の学習状況（10%）を目安に総合的に判断する。	

授業科目名：2300115412 障害児保育Ⅱ 1年後期		必修：（卒）・保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の内容・方法に関する科目 障害児保育		
学習成果該当番号：1. 3. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育計画を作成し、個別の支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。 ・ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や、関係機関との連携について理解する。 ・ 障害のある子どもの保育に関わる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 【テーマ】 障害児保育の実際として、保育現場で必要となる実践力を身につける。また、障害児その他の特別な配慮を要する子どものおかれている現状や課題についての知見を深める。				
授業の概要： 障害児保育Ⅰでの学びを基盤とし、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの個別の支援計画、指導計画を実際に作成する。また、各関係機関との連携、就学、家庭への支援等事例を通して理解し、具体的な援助方法を考えることを目指す。インクルーシブな保育の推進とは何かを考え、現状と課題を理解し健常児と共に育ち合う環境構成について深く学ぶ。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	授業ガイダンス、特別支援教育・保育の現状		シラバスを読み、授業の内容を把握する。障害児保育Ⅰの定時試験の復習を行う。教科書p10～13までを読み特別支援教育・保育について理解を深める。(約60分)	
第 2回	障害の診断と受容 レポート課題① 授業で取り上げた内容のうち、特に興味をもった課題について、さらに詳しく調べ提出する。作成したレポートは、添削し学生へフィードバックする。		教科書p109～115までを読み、発達の評価について理解する。(約60分)	
第 3回	保護者や家庭に対する支援① 保護者への支援		教科書p135～139までを読み、保護者への支援について理解する。(約60分)	
第 4回	保護者や家庭に対する支援② 家族への支援、保護者間交流		教科書p139～145までを読み、きょうだい児への支援や保護者間の交流について理解する。(約60分)	
第 5回	保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価 ①年間、月間の指導計画の作成		教科書p125～134までを読み、指導計画について理解する。(約60分)	
第 6回	保育課程に基づく指導計画の作成と記録および評価 ②週間の指導計画の作成		年間、月間、週間の指導計画については、未完成部分を事後学習とする。提出した指導計画については、添削し学生にフィードバックする。(約60分)	
第 7回	個別の教育支援計画の作成		教科書p12～13、156～157までを読み、個別の教育支援計画について理解する。(約60分)	
第 8回	職員間の協働と保育環境		教科書p116～113までを読み、職員間の協働と保育環境について理解する。(約60分)	
第 9回	クラス子どもたちへの支援とその方法		教科書p120～122までを読み、ク	

第10回	障害児・者の一生涯について	ラスの子どもたちへの支援とその方法について理解する。(約60分) 配布資料を読み、障害児・者の一生涯についての理解を深め授業に臨む。(約60分)
第11回	個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書p116～120までを読み、個々の発達を促す生活や遊びの環境について理解する。(約60分)
第12回	地域の専門機関等との連携 レポート課題② 地域にある専門機関について、どのような支援を行っているかについて調べる。提出した課題は、グループでの発表を通して、様々な専門機関があることを知り、理解を深める。	教科書p144～146までを読み、地域の専門機関との連携について理解を深める。(約60分)
第13回	小学校への就学支援について	教科書p147～149までを読み、就学先の小学校についての理解を深める。(約60分)
第14回	福祉・教育における現状と課題	教科書151～162までを読み、福祉・教育における現状と課題について理解する。(約60分)
第15回	事例検討と総まとめ	教科書164～171に取り上げられている事例を読み、授業前に自分の意見をまとめる。(約60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う		
テキスト：武藤久枝，2018，『コンパス障害児の保育・教育』，建帛社		
参考書・参考資料等：必要に応じて資料を配布する。		
学生に対する評価：定時試験（60％）、レポート（20％）、グループワーク（10％）、平素の学習状況（10％）を目安に総合的に判断する。		

授業科目名：2311215511 幼児理解 1 年前期	必修：卒・幼・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：小山 玲子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育の内容・方法 幼：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 幼児理解の理論及び方法		
学習成果該当番号：2. 3			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができることを目指す。 【テーマ】 理解の多義性、幼児理解の意義、幼児理解の内容と方法、保育の観察と記録、つまずきからの幼児理解、理解した内容の共有			
授業の概要： 幼児の心身の状況を理解することの重要性を講義に抛り理解させる。その後、理解しなければならない内容とその方法、及び理解のための観察と記録の重要性を講義する。また、特に問題となる現象を取り上げてその要因を考えることを通して、保育者としてのできる方策を考えるように働きかける。その事例として、最後に保護者との連携や園教職員との連携を取り上げる。			
授業計画：			
回数	内容		準備学習
第 1回	<u>理解の多義性</u> 人を理解する意味について、人柄や能力の理解、気持ちへの同情及び共感という理解があることを知り、保育活動に必要な幼児理解の内容について話し合う。		
第 2回	<u>幼児理解の意義</u> 幼児教育における幼児理解の必要性とその内容について、幼稚園における教育を効果的に推進するために大切なことを理解する。		「幼児理解に基づいた評価」p2～p26の通読（60分）
第 3回	<u>幼児理解の内容と方法（1）</u> 領域「健康」と関連する身体や運動能力の発達の観点から、提示された事例を話し合い、幼児理解のあり方を理解する。（課題1）公園や町で見かけた幼児の行動を記録する		「幼稚園教育要領解説」p145～p166の通読（60分）
第 4回	<u>幼児理解の内容と方法（2）</u> 領域「人間関係」と関連する情操や道徳性、自己の自立と他者との協調などの心の観点から、提示された事例を話し合い、幼児の心にそう幼児理解のあり方を理解する。		「幼稚園教育要領解説」p167～p192の通読、「課題1」作成(60分)
第 5回	<u>幼児理解の内容と方法（3）</u> 領域「環境」「言葉」「表現」と関連する身の回りの様々な事象や文字や数字などの記号等に関する興味関心の観点から、家庭や幼稚園での提示された事例を話し合い、長期的展望に立つ幼児理解のあり方を理解する。 （課題2）幼児理解と6領域のまとめ		「幼稚園教育要領解説」p193～p247の通読（60分）
第 6回	<u>幼児理解の内容と方法（4）</u> 幼児の心身の発達や成長を他者との比較によって把握する方法と、以前の状態からの変化によって把握する方法があることを知り、授業という共通の到達目標を定めなくて個々の幼児が発達する姿をとらえる幼児理解の重要性を理		第5回授業配布プリント「課題2」作成(60分)

	解する。	
第7回	<u>保育の観察と記録（１） 観察について</u> 日常の保育が、幼稚園という場でのあり方、幼児と教師や幼児相互のあり方と深く影響されることを知り、常に場や人間関係を省みつつ教育活動が行われることを、提示された事例をもとに理解する。	「幼児理解に基づいた評価」 p30～p37の通読（60分）
第8回	<u>保育の観察と記録（２） 記録について①</u> 保育の場、教師及び幼児やその集団は自然と一定の傾向を持つものと考え、その傾向を把握するためには、日常の保育に見られる現象を記録し、分析することが大切であることを、提示された事例をもとに理解する。 (課題3)事例について考え、自分の考えをまとめる	「幼児理解に基づいた評価」 p38～p58の通読（60分）
第9回	<u>保育の観察と記録（３） 記録について②</u> 幼児の言動だけでなく、製作した製作物、絵、歌や楽器の扱い方、文字や数字等々の活動の結果の記録の仕方について、個々の幼児の発達や環境や成育歴の違いから事例をもとに理解する。 (課題4)事例について考え、自分の考えをまとめる	第8回授業配布プリント「課題3」作成(60分)
第10回	<u>保育の観察と記録（４） 記録について③</u> 週の保育活動や連続する主要な題材の保育活動の区切り、または日常の保育活動の終了後に行うエピソード記録について、事例をもとにその特徴と記録の仕方を理解する。	第9回授業配布プリント「課題4」作成(60分)
第11回	<u>保育の観察と記録（４） 指導要録④</u> 指導要録の意義を理解するとともに、日常のエピソード記録を整理して指導要録に記入する手順や文章表現などの方法を、事例をもとに理解する。 (課題5)エピソード記録を作成する	p55～p69の通読（60分）
第12回	<u>つまずきからの幼児理解（１）</u> 登園しぶり、孤立、生活自立の未熟などの問題行動の現象を知るとともに、その要因として当人、集団、教師の指導、家庭環境等々から考えられる様々な要因を理解する。 (課題6)幼児の問題行動と解決策を調べる。	第11回授業配布プリント「課題5」作成「幼稚園教育要領解説」p124～p128の通読（60分）
第13回	<u>つまずきからの幼児理解（２）</u> けんか、乱暴な行動、習癖などの問題行動の現象を知るとともに、その要因として当人、友達（学級）、教師の指導、家庭環境等々から考えられる様々な要因を理解する。	第12回授業配布プリント「課題6」作成(60分)
第14回	<u>理解した内容の共有（１）</u> 当該幼児の成長のために、保護者が理解している子どもの様子と教師が理解した幼児の様子を共有することの重要性について理解を深め、幼児の発達や成長をうながす観点から共有するための方法や留意事項を理解する。	「幼児理解に基づいた評価」 p64～p70の通読（60分）
第15回	<u>理解した内容の共有（２）</u> 当該幼児の理解や指導方針を話し合っって検証するための、	グループワークの準備及び課題のまとめ(60分)

園教職員の日常の話し合いや定期的な話し合いの重要性を理解する。グループ発表 定時試験 定期試験期間中に筆記試験を実施する ・ 毎回授業内で2～4人でのディスカッションを行う。 フィードバックの方法：フィードバックとして提出課題にコメントを返す。	* 定時試験に備え、毎回の授業で取り扱った内容を復習しておくこと。(60分)
テキスト： 毎回授業でプリント・資料を配布、「幼児理解に基づいた評価」文部科学省「幼稚園教育要領解説（最新版）」（文部科学省 フレーベル館）	
参考書・参考資料等：「子どもの理解と援助」萌文書林	
学生に対する評価：①定時試験として筆記試験を実施（50％）、②課題の提出、グループ発表（30％）、③授業態度・グループディスカッション（20％）	

授業科目名：2411115611 発達心理学 1 年前期		必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		卒：専門教育科目 保育の対象・理解 幼：教育の基礎的理解に関する科目 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 保：保育の対象の理解に関する科目 保育の心理学		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 7				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 乳幼児の心身の発達及び学習の過程について基礎的な心理学的知識を身につけ、発達を捉える視点について理解する。 2. 各発達段階における心理的特性を踏まえ、養護及び教育の一体性を目的とした援助の基礎となる考え方を理解する。 3. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践に活かせるように理解を深める。 【テーマ】①発達の理解と意義、②子どもの発達と環境、③愛着の発達、④情緒の発達と自我、⑤認知の発達、⑥ことばの発達、⑥社会性の発達 ⑦児童期以降の発達をとりあげる。				
授業の概要：生涯発達の観点から、対人関係・情緒と自我・知覚と認知・ことば・愛着・社会性についての心理的特性についての基礎知識を習得し、子どもの理解と発達支援に活かしていく。特に、子どもが家庭においては養育者や家族、保育所や幼稚園においては仲間や保育者等の人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解し、生活や遊びを通した学びの過程を保育実践と関連づけて支援について考えていく。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	子どもの発達の理解とその意義 生涯発達心理学の視点から発達段階やエリクソンの提唱する発達課題について学び、子どもの発達を捉える視点や枠組みについて学ぶ。また、子ども観や保育観が子どもの個人差の理解や保育実践に影響することと、保育現場における評価の意義と取り組みについて理解して保育の質を高める必要性を理解する。		発達の側面から子どもと大人の違いについて考えてくる (60分)	
第 2回	子どもの発達と環境 発達の原理と発達を規定する要因について理解する。遺伝と環境の両要因がそれぞれ発達に影響を与えているという輻輳説や、互いに影響しあいながら発達を規定しているという相互作用説について学ぶ。また、ピアジェの発生的認識論やヴィゴツキーの文化的・歴史的発達論やBronfenbrennerの生態学的システム理論をもとに子どもを取りまく環境についての理解を深め、現在の環境の特徴と、それらが運動発達や心理面の発達に及ぼす影響について考える。 数人で構成されるグループ内で、毎回 1 名ずつ、興味のある子どもに関する新聞記事を紹介して感想を述べる。		自分なりの子ども観や保育観の形成に向けて、平素より子どもに関する話題に関心を寄せて、子どもを取りまく環境情報をまとめたり考えたりする (60分)	
第 3回	愛着の発達 (1) 母子相互作用 ボウルビイの愛着理論をもとに、養育者が子どものシグナルを積極的に読み取り、応答することで、養育者に対して子どもは愛着を築いていくことを学ぶ。また、愛着対象に対して安心感が得られる拠点として子どもが確信することで、行動範囲を拡大させ、認知発達や社会性の発達等へも影響を及ぼすことを理解する。		テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。学生自身が幼児期に身近な人とのような遊びをしたり、どのようなかかわりをしたかについて写真等を見たり、直接会って話を聞いたりして幼児期をふりかえる (60分)	
第 4回	愛着の発達 (2) 他者とのかかわり エインズワースの愛着理論から愛着のタイプを学び、個人差をもたらす要因について考える。安定した健全な愛着を形		電車内や近隣で見かける1・2歳前後の子どもと親とのやりとりを何組か観察して、その	

	成するためには、子どもの動きに敏感かつ適切な応答的環境が必要であることを理解する。また、愛着をもとに自己と他者の関係性に影響を及ぼす内的ワーキングモデルが作られることを学び、愛着形成のための具体的支援について理解を深める。	やりとりには親子によって違いがみられるかどうかを観察する (60分)
第5回	情緒の発達と自我 (1) 情緒の発達 子どもの情緒の発達過程をDVDの映像を通して学び、プリントにまとめて理解を深める。自分の行動が他者にどのように受けとめられているかを意識する自己意識が発達し、ルール等の評価基準が理解できるようになると、他者を意識したより複雑な情緒が芽生えてくることや、安定した情緒発達は乳幼児との応答的な関係性の中で育まれることを理解し、適切な支援のあり方について考える。	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。学生自身が最近感じた情緒をふりかえり、情緒にはどのような種類があるか、大人と子どもにはその種類にどのような違いがあるかについて考える (60分)
第6回	情緒の発達と自我 (2) 自我の発達 自我の芽生えによる第一反抗期の発達の意義を理解し、その時期のかかわり方について考える。また、自己と他者の区別が可能となり、自己意識や所有意識が芽生えていく過程についての理解を深める。さらに、幼児期に自己主張や自己抑制が育っていくことによって、状況に応じて自己の感情や行動を制御できる自己制御が発達する過程と支援について理解する。	乳幼児期の第一反抗期と青年前期にみられる第二反抗期の発達の違いについて調べてノートにまとめる (60分)
第7回	知覚と認知の発達 知覚や認知の発達に関する基礎知識を学習する。幼児の特徴である「自己中心性」についてピアジェの発達理論を中心に学び、幼児と大人の認知の違いについて理解する。子どもが環境との相互作用を通して発達していく過程を映像で学び、プリントにまとめる。 第6回までの理解度確認テストを実施する。フィードバックとして学生相互で採を行い、回答の解説を行う。各自、間違えた箇所をテキストとノートで確認を行う。	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。実習等で幼児から受けた質問内容を思い出してノートに箇条書きにして、子どものものの見方や考え方の特徴と大人との違いについてまとめる。第6回までの範囲の小テストを実施するので、テキストや配布プリント、ノートをまとめて理解を深めておく (60分)
第8回	認知の発達 児童期以降の認知発達の特徴を理解し、乳幼児の認知発達の特性についての理解を深める。それぞれの子どもの認知特性に応じた保育者のかかわり方の基本について理解を深める。動機づけのあり方について発達の特徴と関連づけて理解する。	認知発達のテキストを読み、幼児期の特徴とされる用語を書き出し、用語の説明をノートにまとめる (60分)
第9回	「心の理論」 誤信念課題を使い、他者の視点に立ち、見える行動の背後に心が存在することを理解する「心の理論」が獲得される過程を学ぶ。自分が見て知っている事実と、それを見ていなかった人にとっての真実の違いを区別して考えられることが嘘をつく行動と関連していることを理解する。 第9回までのノートを提出する。	子どものつく嘘の種類と場面をあげ、嘘をつく理由について考える。第9回までのノートを提出できるようにまとめておく (60分)
第10回	ことばの発達 (1) 話しことばの発達 乳児はことばを話す以前から周りの人とのコミュニケーションを始めるが、周りの大人の適切なかかわりによって、語彙を増やし多語文が出現していく過程を理解する。また、助詞や助動詞の誤用を繰り返すが、大人からのフィードバックを受けながら正しい統語を獲得していくことを学び、言語環境のあり方について考える。 学生が見聞きした幼児語の具体例をグループ内で発表しあい、幼児語の特徴について話し合い全体で発表する。ノートを返却し、講義内容について、学生自身が必要に応じて調べ	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く (60分)

	て補足しているかどうか、また準備学習への取り組みを確認してフィードバックを行う。模範的なノートについては全員に紹介する。	
第11回	ことばの発達 (2) 思考と行動調整 コミュニケーションの道具としてことばを使い始めた子どもは、次第に思考を深めたり行動を方向づけたりする行動調整の道具としてことばを用いることをルリアの理論から学ぶ。また、幼児期までのことばの発達を基礎として児童期以降は読み書きのことばを習得し、ことばによる学習が進められていくことを理解し、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	自分が自分自身に向けて発することばを列挙し、それぞれが思考を深める役割か、あるいは自分を奮い立たせる役割を果たしていたかについて考え、ことばの働きについて考える (60分)
第12回	社会性の発達 子どもが仲間との相互作用を通して社会性を習得していく過程について学ぶ。遊びへの仲間入りやいざこざの経験は、相手の気持ちを理解し、自分の気持ちをコントロールする機会となり、ルールを守る大切さや仲間を思いやる行動に発展することを理解して、保育者の支援のありかたについて考える。グループワークとグループ発表を行う。	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。幼児期に見られるいざこざについて調べ、対立が生じやすい原因と理由について考える。きょうだいがいる場合は、子どものときのきょうだいげんかをふりかえり、仲間との対立との違いについて考える (60分)
第13回	乳幼児期の学習のメカニズムと動機づけ 新たな行動パターンを形成する過程において、さまざまな学習を経験していることを理解する。学習のメカニズムと具体的な学習方法について学び、子どもの自発的な発見や活動を支える環境のあり方や、子どもの心理的特性を踏まえた指導についての考え方を理解する。 グループ内で練習することによってできるようになった学習の具体例を発表しあう。また練習したものの成果が上がらなかった理由についてもグループ内で討論し、代表者が全体に発表して動機づけを高めるかわりについて考える。	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。どのような場面であればやる気が出るか、どうしたらやる気が継続するかについて、自身の経験から考えてノートにまとめる。くり返し練習することでできるようになった学習の具体例をあげる (60分)
第14回	児童期以降の発達 児童期・青年期における認知や人間関係等の発達特性について理解し、乳幼児期の発達の意義について考えると共に自己理解に役立てる。また、成人期以降の発達特性について理解することで、保護者との適切な関係づくりと支援のあり方について考える。	テキストの指定されたキーワードに関する箇所を読み、大切だと思う部分に下線を引く。児童期以降の発達課題を調べ、自己の達成度について判断する (60分)
第15回	まとめ 発達に応じた乳幼児の理解や学びの過程について全回をふりかえり、養護及び教育の一体性を目指した保育実践の指導の基礎となる考え方を理解する	配布資料と配布プリントを活用したノートを完成させて、疑問に感じたところを明確にする (60分)
定時試験	筆記試験あり	
フィードバックの方法：第1～6回までの確認テストの実施と解答の解説を行う。		
テキスト：「保育の心理学Ⅰ」 萌林書林 井戸ゆかり編著 園田 巖 紺野道子		
参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
学生に対する評価：定時試験成績60%、確認テスト20%、ノート提出10%、授業への参加度（態度、グループワーク等）10%で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2400115712 子ども家庭支援の心理学		必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
1 年後期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等		保：保育の対象の理解に関する科目 子ども家庭支援の心理学		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 5. 7				
授業の到達目標及びテーマ：				
【授業の到達目標】				
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。				
2. 家族・家庭の意義や機能を理解すると共に、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。				
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。				
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
【テーマ】①家庭支援、②発達課題、③基本的信頼関係と愛着、④システムとしての家庭、④子育ての経験と養育態度、⑤発達障害、⑥心の健康と問題行動、⑦保育の場内外の連携				
授業の概要：				
子どもとその家庭への支援をおこなうために、子どもの生涯発達を心理学の視点から乳幼児期、学童期の前・後期に分けて概観し、各時期の経験の意味と発達課題、及び、精神保健に関する知識を学習する。また、子どもを取り巻く家族や家庭がシステムとしてどのように機能しているかを検討することにより、効果的な支援の方法が示唆されることを理解する。さらに、家庭の多様性、家庭が直面している社会的状況、そして子どものさまざまな発達の様相に関する諸問題を検討することによって、親としての育ちを支援する視点を深める。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	子ども家庭支援を学ぶ意義 子どもたちの問題が彼ら自身のみから起こっているのではなく、家庭というシステムとそれを取り巻く社会状況に大きく影響されているかについて理解する。心理学が蓄積してきたエビデンスを基に理解することが、保育における子どもと家庭支援に及ぼす意義について取り上げる。		家庭で繰り返されている習慣が他の家庭とは異なると感じた体験についてふりかえる (60分)	
第 2回	生涯発達 (1) 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、乳幼児期から学童期前期にかけての発達特徴について理解する。特に初期経験がその後の発達に及ぼす影響や発達課題について学び、愛着や基本的信頼関係、あるいは自律性などの重要なテーマの心理学的意味と支援の方法について学ぶ。		発達の心理学で学んだ「愛着の4タイプ」の特徴をノートにまとめておく (60分)	
第 3回	生涯発達 (2) 学童期後期から青年期にかけての発達 学童期における認知や社会性などの発達の様相と、モラトリウムとしての青年期におけるアイデンティティの確立の過程について取り上げる。また、この時期に直面する問題を乗り越えるための 乳幼児期と学童期前期にかけての発達課題の意味と家庭・保育の役割について再考する。青年期の不安や悩みとその解決方法についてグループ・ディスカッションと発表を行い、レポートを作成して提出する。		現在、特に不安に感じていることと解決の方法を挙げる (60分)	
第 4回	生涯発達 (3) 成人期・老年期における発達 成人期以降の発達特性について理解することで、子育てに関わる保護者や祖父母が置かれている心理的・社会的状況を踏まえて、保育者との適切な関係づくりと支援のあり方について考える。 グループワークとグループ発表を行い、レポートを作		子育て体験者から子育ての大変さと喜びについて話を聞いておく (60分)	

	成して提出する。	
第5回	家族・家庭の理解 (1) 家族・家庭の意義と機能 現代の家族は血縁や同居などの外的な条件に限定されない現状を踏まえて、多様化している家族の形態について概観し、家族や家庭の意義と機能について考える。	自分にとっての家庭はどのような意味を持っているかについて考える (60分)
第6回	家族・家庭の理解 (2) 親子関係・家族関係の理解 子どもの成長発達において多大な影響を及ぼす養育環境を構成する親子関係・家族関係について理解を深める。とくに、家族療法や生態学的アプローチなどの視点から、親子や家族関係が子どもの発達と問題に及ぼす影響について考える。	自分の育った家庭が自分の長所形成に影響を与えた要因について考える (60分)
第7回	家族・家庭の理解 (3) 子育ての経験と親としての育ち 核家族化や少子化に伴い、親は子育てを祖父母や他の年長者からモデリングによって学ぶ経験が少なくなっており、親としての育ちが未熟なまま子どもの成長に向き合わなければならない。虐待の問題が生じる過程や、養育態度や父親の子育て意識の希薄さがもたらす影響を取りあげ、保育者としての家庭支援の可能性について検討する。	乳幼児への虐待が起こる際に、保護者と子どもの関係で欠如するものについて箇条書きにする (60分)
第8回	子育て家庭に関する現状と課題 (1) 子育てを取り巻く社会的状況 都市化、核家族化、少子化、晩婚化、単身化、そして離婚率の増加などの社会状況の複雑化によって、子育てがますます困難になっている。孤立化が進む子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題についての理解を深め、子ども・子育て応援プランも含めた保育者としての役割について考える。	家庭の内外で保護者が孤立する原因について整理しておく (60分)
第9回	子育て家庭に関する現状と課題 (2) ライフコースと仕事・子育て 少子化や平均寿命の伸び、高学歴化に伴う晩婚化や未婚化が加速し、平均的なライフコースが描きにくくなっている。結婚・出産後も仕事を続けながら子育てをすることが困難になっているが、子育て家庭を取り巻く現状と保育者にとっての支援課題について理解を深める。	大学入学前に描いていた自分のライフコースを入学後のものと比較しておく (60分)
第10回	子育て家庭に関する現状と課題 (3) 多様な家庭とその理解 社会的状況の変化により家族の形態や機能も変化し、多様な家族が共存する時代になっている。近年増加している「ひとり親家庭」と「ステップファミリー」を中心に、最新の調査や研究からその実態を把握し、それぞれの保護者が感じているストレスや子どもとの関わりについて理解を深め、保育者としての支援のあり方を考える。	「多様な家庭」と思われる例をあげる (60分)
第11回	子育て家庭に関する現状と課題 (4) 特別な配慮を要する家庭 近年、発達に障害のある子どもとその家庭のストレスへの支援が切に求められている。また、障害が疑われる子どもも含めて、発達上の特徴と支援法を把握して、保護者の子育て支援と障害受容の促進のための保育者にとっての配慮についてグループ・ディスカッションを行う。発達障害の行動特徴について確認テストを行い、フィードバックとして解答の解説を行う。	発達障害の種類と特徴についてまとめておく (60分)
第12回	子どもの精神保健とその課題 (1) 子どもの生活・生育環境とその影響	「早寝・早起き・朝ごはん」が奨励される理由について考える (60分)

	少子化、都市化や世帯構成人員の減少などにより人間関係の希薄化が進むに伴い、子どもの食生活・睡眠・遊びなどが変化し、心理学的発達に必要な体験の機会が不足して大幅に偏る状況になっている。これらの問題が青年期に至る過程で発現する精神障害の遠因となっているだけでなく、子どものこころの健康を保持・向上させるためにどのような阻害要因となっているかを知る。 グループワークとグループ発表を行う。	
第13回	子どもの精神保健とその課題 (2) 子どもの心の健康にかかわる問題	子どもの問題行動にはどのようなものがあるか、調べておく (60分)
第14回	子どもの精神保健とその課題 ストレスなどが原因となって身体症状として現れる心身症や、行動上の様々な問題として出現する問題行動や神経性習癖について整理し、事故の予防と症状への対処方法など実践的な判断力をつける。	
第15回	子どもの精神保健とその課題 子どもの発達障害も含めて、こころの健康を維持するための保育の職場での情報共有の方法と他の専門機関との効果的な連携のあり方について考える。	居住している市区町村にある子どもの精神保健に関連する機関を調べる (60分)
第15回	まとめ 子どもを支援するためには家庭というシステムがどのように機能しているかを把握する必要があることと、単に家庭や社会の表面的な状況を捉えるだけでなく、発達や保護者の役割の心理学的意味を考える必要があることを総合的に整理する。	子ども家庭支援において最も印象的な心理学的概念とその理由をまとめる (60分)
定時試験	筆記試験あり	
フィードバックの方法：毎回授業終了時に小テストの実施と、リアクションペーパーの提出を求める。次回の授業開始時に小テストの解説とリアクションペーパーを基にしたふりかえりを行う。第3回、4回の提出レポートにはコメントを付して解説を行う。		
テキスト：子ども家庭支援の心理学 原信夫・井上美鈴編著 北樹出版		
参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
学生に対する評価：定時試験成績60%、確認テスト20%、授業への参加度（態度、グループワーク等）20%で判断し評価する。		

授業科目名：2400115821 子どもの理解と援助 2 年前期	必修：保	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独									
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの理解と援助											
学習成果該当番号：1. 3. 4. 6. 8												
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 【テーマ】①子ども理解の視点、②発達と学習、③子どもと環境：生活・保育者・仲間集団・保護者、④理解の方法：行動観察、職員・保護者との連携、⑤発達課題と援助、⑥特別な配慮を要する子ども												
授業の概要： 1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 2. 子どもを理解する視点 (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互のかかわりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち (5) 葛藤やつまづき (6) 保育の環境の理解と構成 (7) 環境の移行や変化 3. 子どもを理解する方法 (1) 観察 (2) 記録 (3) 省察・評価 (4) 職員間の対話 (5) 保護者との情報の共有 4. 子どもの理解に基づく発達援助 (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (3) 発達の連続性と就学への支援												
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第 1回</td><td>子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 1 － (1) 保育における子どもの理解の意義 保育者が子どもの援助を行うにあたって、発達や学びを正確に把握するために、彼らを取り巻く環境が子どもに与える影響と、子ども自身の個人的な特性を考慮しなければならない必要性を理解する。</td><td></td></tr><tr><td>第 2回</td><td>子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 2 － (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子どもの行動の背景に目を向け、養護と教育が一体となった生態学的な保育展開について学ぶ。子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境のありかたについて考え、子どもの生きる喜びと力を育むための愛着・信頼</td><td>実習中に観察した保育者の養護的な関わりと教育的な関わりについて書き出す。(60分)</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第 1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 1 － (1) 保育における子どもの理解の意義 保育者が子どもの援助を行うにあたって、発達や学びを正確に把握するために、彼らを取り巻く環境が子どもに与える影響と、子ども自身の個人的な特性を考慮しなければならない必要性を理解する。		第 2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 2 － (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子どもの行動の背景に目を向け、養護と教育が一体となった生態学的な保育展開について学ぶ。子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境のありかたについて考え、子どもの生きる喜びと力を育むための愛着・信頼	実習中に観察した保育者の養護的な関わりと教育的な関わりについて書き出す。(60分)
回数	内容	準備学習										
第 1回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 1 － (1) 保育における子どもの理解の意義 保育者が子どもの援助を行うにあたって、発達や学びを正確に把握するために、彼らを取り巻く環境が子どもに与える影響と、子ども自身の個人的な特性を考慮しなければならない必要性を理解する。											
第 2回	子どもの実態に応じた発達や学びの把握－ 2 － (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 (3) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子どもの行動の背景に目を向け、養護と教育が一体となった生態学的な保育展開について学ぶ。子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境のありかたについて考え、子どもの生きる喜びと力を育むための愛着・信頼	実習中に観察した保育者の養護的な関わりと教育的な関わりについて書き出す。(60分)										

第 3回	関係に基づいた共感的理解について考える。 子どもを理解する視点－1－ (1) 子どもの生活・遊び (2) 人的環境としての保育者の役割と子どもの発達 子どもの生活において心身の成長発達に影響する重要な役割を果たす遊びについての理解を深める。さらに、遊びの活動を保障し、より豊かな発達を支える人的環境としての保育者の援助のありかたを子どもの発達の視点からとらえ直す。レポート課題①夢中になった遊びとその理由についてグループワークを行い、保育者の援助のありかたについてまとめる。	幼児期を振り返り、夢中になった遊びとその理由について考える。(60分)
第 4回	子どもを理解する視点－2－ (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち 集団場面において展開される子ども相互の関わりに注目し、社会性を育むために必要な集団における経験と育ちの観点から保育者にとっての関係作りの意義と方法についての理解を深める。	同年齢の子ども集団の活動を観察し、対立や協調している場面のエピソードをまとめる。(60分)
第 5回	子どもを理解する視点－3－ (5) 葛藤とつまづき 子どもは仲間との集団活動を進める中で、さまざまないざこざを経験する。自分の思い通りにはならない葛藤やつまづきの原因と発達の意義についての理解を深め、葛藤やつまづきが成長の機会となるための保育者の介入のありかたについて考える。また、愛着対象とのかかわりを通して育まれた自己受容と自己肯定感がさまざまな困難を乗り越える力になることを理解する。	自分の成長の過程で感じた葛藤やつまづきを思いだし、どのように向き合ったかと、今の自分にとっての意味を見直す。(60分)
第 6回	子どもを理解する視点－4－ (6) 保育の環境の理解と構成 (7) 環境の移行と変化 子どもは周りの環境から多様な情報や刺激を受け、新たな発見をすることによって豊かな感性と共に好奇心、探究心や思考力が養われていく。環境が変化することによる子どもへの影響を知り、子どもの能動的な取り組みにつながる保育環境がどのようなものかについて理解を深める。	子どもの頃の自分や身近な子ども達が興味を持つ保育環境の物や出来事について思い出してまとめる。(60分)
第 7回	子どもを理解する方法－1－ (1) 観察 子どもの観察の方法を概観し、信頼性と妥当性の観点からエビデンス確保に優れた心理学的行動観察法を取りあげ、その有効性と限界について学び、援助への活かし方についての理解を深める。特に、保育は子どもの行動と保育者の行動の相互作用であることに注目して、どのような対応が子どもの言動に影響を及ぼすかを関与しながらの観察の視点から学習する。	身の周りの人々の行動について、意図や原因について自分がどのような材料を基にして判断しているか、箇条書きにしてまとめる。(60分)
第 8回	子どもを理解する方法－2－ (2) 記録 保育実践における記録の目的と方法について理解を深める。子ども側に問題を委ねるだけでなく、保育者の働きかけと子どもの行動との間の力動的な関係を客観的に記録することが、発達援助に不可欠であることを理解する。	実習先で観察された子どもの問題行動が、どのような場面で生じ、周りにはどのような対応をしていたかについて過去の実習日誌を見直して、ノートに書き出す。(60分)
第 9回	子どもを理解する方法－3－ (3) 省察・評価 子どもの発達の援助のためには、客観的な行動観察に基づ	子どもとの関わりが問題解決や発達援助を促していたかどうかを確認する

	いて作成された指導案の実施後に、その関わりが適切であったかどうかの検討、すなわち評価が必要となる。保育実践現場で用いられる評価の方法について学習する。 レポート課題②子どもの行動への応答的なかわり方について、行動分析の視点からまとめる。	ための手がかり(視点)が、過去の実習日誌の中にあつたかどうかをチェックする。(60分)
第10回	子どもを理解する方法－4－ (4) 職員間の対話 子どもは場面や相手によって行動を変えるために、保育者によってはその一面しか見ていないことがある。職員間の情報共有を図ることによって、より適切な子ども理解と、保育援助が可能となる。ここでは、職員間の情報共有の場と円滑な連携の方法について学習する。	友人との会話の際に、気まづくなった場合と、物事が円滑に行われた場合との違いを整理してみる。(60分)
第11回	子どもを理解する方法－5－ (5) 保護者との情報の共有 子どもの家庭での行動と保育の場で示す行動とは当然のことながら異なっている。発達援助を考える際には、家庭での行動と、それを維持・強化している保護者の行動を把握しておく必要がある。家庭での行動を観察することが困難である以上、保護者の発言や態度から子どもを理解する情報を入手する方法について検討する。	保護者の立場から、信頼して相談しやすい保育者の態度や傾聴のありかたについて考えて書き出す。(60分)
第12回	子どもの理解に基づく発達援助－1－ (1) 発達の課題に応じた援助と関わり 生涯発達の視点からエリクソンやハヴィガーストらの提唱する発達課題について学び、子どもの発達をとらえる枠組みについて学ぶ。また、子ども観や保育観が子どもの個人差の理解や保育実践に影響することを確認する。	幼児期、児童期、思春期、そして青年期に達成しておかなければならない発達課題をひとつずつ挙げておく。(60分)
第13回	子どもの理解に基づく発達援助－2－ (2) 特別な配慮を要する子どもと家庭の理解と援助 発達障害の種類・特徴ならびに援助の方法を学習することにより、より適切な発達援助が可能となる。また、これらの子どもの家庭が直面する問題のみならず、近年、顕著に複雑化する家庭構造がもたらす発達への影響を知ることによって、保育による援助の可能性について検討する。	基本的な発達障害の種類と行動の特徴、また、いろいろな家庭の構成と問題について整理しておく。(60分)
第14回	子どもの理解に基づく発達援助－3－ (3) 発達の連続性と就学への支援 就学前後では子どもを取り巻く環境や生活が大きく変化する。発達の連続性という視点から学童期の子どもの姿を見据えて援助する内容と必要性を理解する。保育と学校教育の違いと関連性を理解して、乳幼児期の発達と援助の視点を再確認する。	就学前と就学後の生活の違いを思い出し、保育所・幼稚園と小学校1・2年生の学習内容の共通点と相違点について箇条書きにする。(60分)
第15回	まとめ：子どもの理解に基づく援助のために 保育の場において、子どもの発達援助をおこなうために必要な理解の視点と方法について討論を行い、実践者としての資質の向上をはかる。	これまでの14回の学習で大切だと思ったことと、疑問に思ったことを整理する。(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法：毎回授業終了時に小テストの実施と、リアクションペーパーの提出を求める。次回の授業開始時に小テストの解説とリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う。提出レポートにはコメントを付して解説を行う。		
テキスト：「子どもの理解と援助」清水益治・森俊之 編集 中央法規		
参考書・参考資料等：参考書は授業中にその都度紹介し、テーマに合わせた資料を配布する。		
学生に対する評価：①定時試験成績70%、②提出レポート・小テスト20%、③準備学習・授業への参加度（態度、グループワーク等）10%で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2401015922 教育相談論 2年後期	必修：幼	単位数： 2単位	担当教員名：豊田 賀子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】保育や幼児教育の中で出会う様々な問題について検討し、子どもが集団の中で適応し、個性を伸長する支援を行うために必要な心理学の基礎知識と技法を学習する。保育・幼児教育の現場での子どもたちと保護者の悩みや問題の事例を通して、発達状況や心理的特性と課題をとらえる適切な視点をもって、支援に必要なカウンセリングを中心とした知識の習得と技法を身につける。 【テーマ】①教育相談の意義 ②ストレス・マネジメント ③子ども理解の意味と方法 ④不適応や問題行動の理解 ⑤子どもの気になる行動・発達障害の理解と支援 ⑥教育相談の基本的な方法（心理療法） ⑦子育て支援と保護者対応 ⑧地域社会・外部専門機関との連携を取りあげる。			
授業の概要： 現代の子どもと親を取り巻く社会的環境が子育ての困難性を生み出している現状を見据えて、幼児教育者・保育者に求められる相談・支援についての基礎的な理論と方法について学習する。子どもの「気になる行動」や発達障害などの行動特徴とその背景および対応についての理解を深める。また、相談事例を通して、保育・幼児教育臨床と相談・支援活動の考え方や、面接と心理療法の基礎知識・技法を習得すると共に、地域や外部専門機関との連携のあり方について学習する。さらに学習した知識や技法を活用して学生同士で模擬相談のロール・プレイを行ったり、調べて発表する等のグループワークを実施したりすることによって、主体的な学習技能を身につけていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	幼稚園・保育園における教育相談の意義 社会的環境の変化に伴い、家庭で子育ての中心的な役割を担う母親の責任と精神的負担が増加している。子育てが困難な現状を最新の調査結果から理解し、子育てをめぐる状況と幼稚園・保育園における教育相談の意義と課題について考える。		
第 2回	子ども理解の意味と方法 幼児教育や保育の場面で見られる子どもの発達する姿を理解するために、保育者に求められている態度と具体的な方法について学ぶ。不適応のシグナルに気づき把握する方法と、気になる行動だけではなく長所や可能性にも目を向けて子どもの全体的な成長を視野に入れて行動観察を行い、行動の背景について考える必要性を理解する。また心理テストで測定する目的と結果の解釈と支援への活用方法について理解を深める。	子どもの行動を観察するときに注意していることを挙げ、その目的について考える。（60分）	
第 3回	不適応や問題行動の理解 幼児教育や保育の場面で観察される問題行動を、ABC機能分析の視点で、問題行動を生じた状況と関連づけて理解する。言語による指示や説得による方法ではなく、子どもの特性に応じて適切な行動を起こしやすくなるような、わかりやすい環境を整えてスモールステップで進め、子どもが達成感を体験して持続できるような対応について理解を深める。	実習先で観察された問題行動が、どのような場面で生じ、周りにはどのような対応をしていたかについて過去の実習日誌を見直して、ノートに書きだす。（60分）	
第 4回	教育相談の理論 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を紹介し、基本的な考え方を理解する。無意識の世界に焦点をあてた古典的心理療法の理論と、多くの心理療法の基礎となる受容や傾聴などの概念を築いたロジャーズのクライエント中心療法の理論と、観察可能な行動に着目して治療を行う行動療法と、その展開技法である認知行動療法の理論と適応範囲について解説して支援に活用できる考え方を理解する。	事前に配布した資料から心理療法についてのキーワードを挙げ、語句の理解をする。（60分）	

第5回	教育相談の方法 (1) カウンセリングの基本的な考え方をもとに、子どもや保護者と信頼関係をつくり、共感的に寄り添い、自立や成長への支援となるカウンセリングマインドの重要性を学ぶ。また、相談を受ける側として、指示や説得ではなく、受容や傾聴の態度を重視した相談方法を理解する。	自己理解を進めるうえで、他者に配慮してほしい態度について自らの経験を通して考える。(60分)
第6回	教育相談の方法 (2) 受容、傾聴、共感的理解のカウンセリングの基礎的な技法を、実際のロール・プレイによる経験を通して理解する。傾聴するための質問技法と伝え返し技法を実際に経験し、相談をする側に立った適切な方法についての理解を深め、教育相談の進め方に役立てる。 レポート課題：ロール・プレイの感想をグループごとに発表し、カウンセリングマインドについてまとめる。	前回のカウンセリングの基本的な考え方を復習する。(60分)
第7回	幼児理解と発達理論 自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠如多動性障害等の発達障害が気になる子どもの特徴を理解し、障害の種類や程度に応じた保育方法について事例を通して学習する。	学習済みの障害児を扱った授業関連科目のテキストやノートを参考に発達障害の種類と行動特徴についてノートにまとめる。(60分)
第8回	幼児理解と保育計画 幼児理解から評価を行うことの基本的な考え方と、評価を生かした保育計画の立て方について、言語能力に発達の問題はないが緊張する集団場面で話せない緘黙の子どもや、仲間とうまく遊べない子どもの事例を中心に理解を深める。	言葉や社会性の発達過程について、すでに学習済の発達の心理学のテキストを参照して復習しておく。(60分)
第9回	幼児理解と保護者への教育相談の方法 (1) 基本的な生活習慣と神経性習癖 食事、排泄、清潔等の基本的な生活習慣と、チック等の神経性習癖の事例を挙げて、個々の発達の状況や心理的特質を踏まえた具体的な環境構成と対応について考える。また保護者からの相談に対して不安を軽減し、支援する方法について学ぶ。	子どもの日常生活において特別な配慮を必要とする場面や、不安や緊張する場面で生じる身体的変化や心理的变化を想起して、一人称でその子どもの気持ちを推察する。(60分)
第10回	幼児理解と保護者への教育相談の方法 (2) 母子分離不安と登園しぶり 保護者から離れがたい子どもに対して、仲間場面での緊張を和らげて集団に参加しやすいかかわりと支援について理解する。集団への参加を促す方法を理解し、そのための保護者支援の方法について学習する。	実習場面をふりかえり、保育者の働きかけや仲間のかかわりについてまとめる。(60分)
第11回	保護者支援 (1) 保護者が子育ての中でどのような悩みや困難、そして視点をもつようになるのかを理解する。子育てに奮闘している養育者の中には、育児にストレスを感じる人がいる。ストレス理論を通してストレスが心身に与える影響とストレスのメカニズムについて理解し、ストレスを適切に対処して解決する方法を学び、学生自身も日常生活で実践することで子育て支援に役立てる考え方を学ぶ。	小学校入学までの子どもを持つ保護者の不安や悩みについて調べる。(60分)
第12回	保護者支援 (2) 保護者とのかかわりと、保護者の子育ての観察から保護者自身の持つこころの問題について、不安障害とうつ病について基礎的な理解を深める方法について学び、保護者支援に役立てる。	不安障害とうつ病についてその特徴的な行動を調べる。(60分)
第13回	園内の協力体制 園内での模擬事例研究会を想定したロール・プレイを実施する。園長、副園長、主任、担任、他の担任等の役割を決め、虐待が疑われる事例について、子どもや保護者への多面的な理解と	幼稚園・保育園内の組織における職員の役割について調べる。(60分)

第14回	共通理解を図り、協力体制をとることの重要性を理解する。 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 地域社会・外部専門機関との連携の意義や必要性について理解する。コミュニティにおける子ども支援センター、教育支援センター、児童相談所、スクールソーシャルワーカー等の機関の業務内容を紹介し、連携の意義や必要性について理解する。 レポート課題：準備学習で調べた専門機関との連携のありかたについてまとめる。	学生が居住する地域社会で子育てを支援する関係機関を調べる。(60分)
第15回	まとめ 幼稚園・保育園における教育相談のあり方について全回をふりかえり、今後の課題を明確にする。	今までの学習をふりかえり、幼稚園・保育園における教育相談の意義と方法についてまとめ、疑問点を明確にする。(60分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を行う フィードバックの方法：レポート課題についてはコメントを付して返却し、解説を行う。		
テキスト：特になし テーマに合わせた資料を配布する。 配布した自作プリントに学生は受講しながら記入し、テーマごとにまとめる。		
参考書・参考資料等：『保育のためのカウンセリング入門』 福島脩美 一藝社		
学生に対する評価：定時試験成績(60%)、レポート提出(20%)、授業への参加度(態度、グループワーク等)(20%)で総合的に判断し評価する。		

授業科目名：2400116011 子どもの保健 1 年前期	必修：（卒） ・ 保	単位数： 2単位	担当教員名：推野 万里子 担当形態：講義 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健		
学習成果該当番号：1. 3. 4. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 子どもの発育と発達及び健康状態を把握して、保健的な対応を習得する。 【テーマ】 「子どもの保健をどう保育に活かすか」について取り上げる。			
授業の概要：子どもの心身の健康増進を図るために、子どもの健康と保健活動の意義を、現代社会における現状と課題を踏まえて理解する。子どもの身体発育や生理機能の発達及び子どもの疾病と対応について学び、子どもの健康状態とその把握方法について理解を深める。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	第 1 章 子どもの心と体の健康と保健の意義① 保健活動の意義と目的 自身の健康観と子どもの心身の健康について考え、子どもの保健の意義を知る。	テキスト p 1-5 を読む (20 分) 自分の健康への意識を文章にしてみる。(40 分)	
第 2 回	第1章 子どもの心と体の健康と保健の意義② 現代における子どもの健康と保健活動 事前学習について発表し事例検討し、レポートを作成	テキスト p6-22 を読む (30 分) 虐待に関するニュースを調べ、印象に残った事例をまとめる。(30分)	
第 3 回	第2章 子どもの発育・発達と保健① わたしたちの体と身体発育	テキスト p 24-33を読み、付録ワークシート「子どもの発育・発達1-①」を実施 (60分)	
第 4 回	第2章 子どもの発育・発達と保育② 運動機能・生理機能の発達 自転車に乗れた日のことを発表する	テキスト p 33-46を読む(50分)、 初めて自転車に乗れた日のことを思い出しメモする。(10分)	
第 5 回	第2章 子どもの発育・発達と保育③ 感覚機能・精神機能の発達	テキスト p 47-54を読み、付録ワークシート「子どもの発育・発達1-②」を実施 (60分)	
第 6 回	第3章 子どもの心と体の健康状態の把握① 発育・発達の把握と健康診断／保護者との情報共有	テキスト p 56-76を読む(50分)、 今年の健康診断結果を確認する(10分)	
第 7 回	第3章 子どもの心と体の健康状態の把握② 健康状態の観察と体調不良児への対応 テキスト付録ワークシート「子どもの健康観察のポイント2-①②」を実施	テキスト p 76-89を読む(40分) 自身の健康状態について気になることをメモしておく。(20分)	
第 8 回	第4章 子どもの病気の予防と適切な対応① 子どものかかりやすい感染症-(1) 子どもの頃の発熱の思い出を発表する	テキスト p 91-111を読む(50分)、 子どもの頃に発熱したときのことを思いだし、辛かったこと、うれしかったことをメモする。(10分)	
第 9 回	第4章 子どもの病気の予防と適切な対応② 子どものかかりやすい感染症-(2) テキスト付録ワークシート「子どもの病気4-②」を実施	テキスト付録ワークシート「子どもの病気4-①」を実施する(60分)	
第 10 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応③ 感染症の予防と対応 テキスト付録ワークシート「子どもの病気5-①②」を実施	テキスト p 111-128を読む(50分) 自分の予防接種歴を調べる。(10分)	
第 11 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応④ その他の子どもの病気-(1) 食物アレルギー	テキスト p 129-145を読む(60分)	
第 12 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑤	テキスト付録ワークシート「アレルギー	

第 13 回	その他の子どもの病気-(2) その他のアレルギー 第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑥ その他の子どもの病気-(3) その他の病気 乳幼児突然死症候群について調べたことを発表する	疾患6-①②」を実施する(60分) テキスト p 146-153を読む(20分) 乳幼児突然死症候群について調べる (40分)
第 14 回	第4章 子どもの病気予防と適切な対応⑦ 先天異常 先天異常について調べたことを発表する	テキスト p 153-155を読む(10分) 先天異常について調べる(50分)
第 15 回	第5章 保育における保健 総まとめ/テキスト付録ワークシートの解説	テキスト p 158-163を読む(20分) テキスト付録ワークシート1. 2. 4. 5. 6を 見返す(40分)
定時試験 定時試験期間中に筆記試験を課す。 フィードバックの方法：第2回のレポートは授業内で発表後に回収し、コメントをつけて返却する。 ※事前学習・授業内で実施したワークシートは復習(15分)し、次回授業時に回収しコメントをつけて返却する。第15回授業内で、実施した全ワークシートの解説をする。		
テキスト：「これだけはおさえない！保育者のための子どもの保健」 創成社		
参考書・参考資料等：「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」 診断と治療社		
学生に対する評価：定時試験60% 授業態度20% 授業内課題20%		

授業科目名：2400216112 子どもの健康と運動（選択） 1年後期		必修：	単位数： 1単位	担当教員名：豊田 泰代 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1・2				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】動くことの本質的な「楽しさ」を理解し、指導者としてその楽しさを創り出すための工夫ができるようになることを目標とする。 【テーマ】さまざまなうごきの感覚が乏しくなっている子どもたちに、身体感覚を呼び覚ますためには・・・学生自らが様々な感覚を伴うあそびを体験する。また、遊具を作り遊びこむ体験を積む。				
授業の概要:子どもたちを取り巻く環境の変化から、遊びが乏しくなってきた。この授業では数々の具体的な遊びを取り上げ、実際に遊んでみることを通して、「遊びはおもしろい！」ことを実感し、遊び込むことでその深さに触れる。具体的内容としては身体感覚を呼び覚ますうごきの体験、個々に行う・集団で行う伝承あそびの体験、鬼ごっこなどのあそびの体験を積む。グループで取り上げた遊びについて教えあう。				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第1回	第1回	感覚遊び①ころがること 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：ころがりのあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第2回		遊び用具①なわとび 幼児ダンス	準備学習：なわとびあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第3回		感覚遊び②とびのる・とびおりる なわとび遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：鬼ごっこのあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第4回		遊び用具②竹落とし・竹とんぼ 幼児ダンス	準備学習：竹細工のあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第5回		感覚遊び③つっぱること 竹けん玉遊び 竹落とし 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：支持あそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第6回		遊び用具③ぼっくり・竹馬 幼児ダンス	準備学習：バランスあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第7回		感覚遊び④バランス ぼっくり・竹馬遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：バランスあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第8回		遊び用具④吹き矢 幼児ダンス	準備学習：呼吸を用いるあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第9回		感覚遊び⑤呼吸法 吹き矢遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：呼吸を用いるあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第10回		遊び用具⑤手回しこま 幼児ダンス	準備学習：こまあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第11回		感覚遊び⑥こま回し遊び ぶらさがること 鬼ごっこ 幼児ダンス	準備学習：ぶらさがりあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）	
第12回		遊び用具⑥凧作り 幼児ダンス	準備学習：たこあげあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）	

第13回	感覚遊び⑦走る 凧あげ遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：たこあげあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）
第14回	遊び用具⑦リングホッケー 幼児ダンス	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：ホッケーあそびの種類・内容・方法について調べる（30分）
第15回	感覚遊び⑧すべること リングホッケー遊び 鬼ごっこ 幼児ダンス 総復習：遊んで得られたことについて 振り返りシートに記入	事後学習：行ったダンスの復習（30分） 準備学習：ホッケーあそびの種類・内容・方法について調べる（30分） 事後学習：行ったダンスの復習（30分）
定時試験	振り返りシートの提出を定時試験とする	
フィードバックの方法：事前学習で行った調べ学習について授業内にてプリントを配布してフィードバックする。		
テキスト：なし		
参考書・参考資料等：『0歳からはじめるうごきづくり』太田昌秀・豊田泰代・久保景子著，幻冬舎ルネッサンス，2008. 自作プリント資料		
学生に対する評価：遊びの体験の深まりがみられたかをはかるために以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。授業での取り組み（60％）、授業内で作成した教材（20％）、振り返りシート（20％）		

授業科目名：2400116210 子どもの食と栄養 1年通年	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：橋詰 奈々世 担当形態：演習 単独												
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養														
学習成果該当番号：2. 6															
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。 以上の到達目標を実現するために、前期は食生活の意義や栄養に関わる基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関連についての理論を学ぶ。後期は子どもの発達段階に応じた食生活の実習を行うことにより理論の定着を図るとともに、実践応用力を身に付けること目標にする。 【テーマ】 本講義全般に渡るテーマは「人間生活の中の食について考える」ことである。単なる栄養知識の習得に終わるのではなく、人間らしい食べ方とは何か、子どもの食生活を考える際に一番大切にすべきことは何か等、保育士としての心得を学び、子どもが心身共に健やかな成長を援助できるようにしたい。人間らしい食生活が展開できるような食育実践能力を身に着けたい。															
授業の概要： 第1回～第15回は小児栄養の意義・目的、小児栄養を取り巻く現状、現代の食に関わる諸問題を概説し、食環境への関心を高め、食育の重要性を学ぶ。更に栄養の循環過程、栄養素、食品の種類・特徴、食品衛生、調理・献立を学び、乳幼児の発達段階に応じた小児栄養の特徴を理解する。 第16回～第30回は前期の基礎的知識を応用した調理実習を行い、実践力を養う。調乳方法、離乳食の月齢に応じた調理方法や与え方を学ぶ。さらにアレルギー、行事なども考慮に入れながら、発達段階毎に3歳未満児・3歳以上の幼児食・学童食・成人食（妊娠期）などの調理実習を行う。 健康な生活の基本として子どもの食と栄養の意義・目的、食生活の現状、現代の食に関わる諸問題を学び、食育の重要性を理解する。栄養に関する基本的知識を学び、乳幼児の発達段階に応じた食と栄養の特徴と食生活を理解する。調乳、月齢に応じた離乳食について実践的に学ぶ。さらに特別な配慮を要する子どもへの対応や家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題についても理解する。															
授業計画： <table><tr><th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第1回</td><td>子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の特徴や食生活の特徴を学ぶ。</td><td>事前学習 テキスト pp2～4 を読む(15分) 事後学習 「自分自身の食生活の問題点と改善方法について」のレポート作成(45分)</td></tr><tr><td>第2回</td><td>子どもの食生活の実態、抱える諸問題 食生活や生活環境がからだに与える影響を学ぶ。 また、レポートを基にディスカッションを行う。</td><td>事前学習 テキスト pp5～10 を読む(15分) 事後学習 9つの“こ食”を整理する(45分)</td></tr><tr><td>第3回</td><td>栄養の基礎的知識① 食物中の栄養素のはたす役割について学ぶ。 また、必要な栄養素の摂取量について、食事摂取基準を用いて学び、1日に必要なエネルギーや栄養素を計算する。</td><td>事前学習 生活記録を作成する(30分) 事後学習 消費エネルギーの計算をする(30分)</td></tr></table>				回数	内容	準備学習	第1回	子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の特徴や食生活の特徴を学ぶ。	事前学習 テキスト pp2～4 を読む(15分) 事後学習 「自分自身の食生活の問題点と改善方法について」のレポート作成(45分)	第2回	子どもの食生活の実態、抱える諸問題 食生活や生活環境がからだに与える影響を学ぶ。 また、レポートを基にディスカッションを行う。	事前学習 テキスト pp5～10 を読む(15分) 事後学習 9つの“こ食”を整理する(45分)	第3回	栄養の基礎的知識① 食物中の栄養素のはたす役割について学ぶ。 また、必要な栄養素の摂取量について、食事摂取基準を用いて学び、1日に必要なエネルギーや栄養素を計算する。	事前学習 生活記録を作成する(30分) 事後学習 消費エネルギーの計算をする(30分)
回数	内容	準備学習													
第1回	子どもの健康と食生活の意義 子どもの心身の特徴や食生活の特徴を学ぶ。	事前学習 テキスト pp2～4 を読む(15分) 事後学習 「自分自身の食生活の問題点と改善方法について」のレポート作成(45分)													
第2回	子どもの食生活の実態、抱える諸問題 食生活や生活環境がからだに与える影響を学ぶ。 また、レポートを基にディスカッションを行う。	事前学習 テキスト pp5～10 を読む(15分) 事後学習 9つの“こ食”を整理する(45分)													
第3回	栄養の基礎的知識① 食物中の栄養素のはたす役割について学ぶ。 また、必要な栄養素の摂取量について、食事摂取基準を用いて学び、1日に必要なエネルギーや栄養素を計算する。	事前学習 生活記録を作成する(30分) 事後学習 消費エネルギーの計算をする(30分)													

第 4回	栄養の基礎的知識② 主な栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質） の特徴と働きについて学ぶ。	事前学習 テキスト pp16～30 を読む(30 分) 事後学習 「自分自身のある一日の食事を すべて記録する」のレポート作成(45分)
第 5回	栄養の基礎的知識③ 主な栄養素（ミネラル、ビタミン、水）の 特徴と働きについて学ぶ。 また、レポートを基に自身の食事バランス を簡易的に調べる。	事前学習 テキスト pp32～43 を読む(30 分) 事後学習 主な栄養素（5大栄養素）の働きをまとめ る(30分)
第 6回	栄養の基礎的知識④ 献立作成と調理の基本について学ぶ。	事前学習 テキスト pp49～58 を読む(30 分) 事後学習 テキスト p54表2-27、 p52図2-15,16を読む(30分)
第 7回	栄養の基礎的知識⑤ 食品の安全性、食中毒の実態と予防法 から、衛生管理について学ぶ。	事前学習 テキスト pp59～65 を読む(30 分) 事後学習 p63表2-41を読む(30分)
第 8回	子どもの発育・発達の基本 発育・発達の特徴や、発育に影響を与える 要因について学ぶ。	事前学習 テキスト pp68～77 を読む(30 分) 事後学習 テキスト p74 発育曲線の見方を再確認す る(30 分)
第 9回	胎児期（妊娠期）の食生活 妊娠期の母体の変化や、胎児の発育、 さらに栄養・食生活について学ぶ。	事前学習 テキスト pp78～90 を読む(30 分) 事後学習 テキスト pp78、85～90を再読 する(30分)
第10回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活① 乳汁栄養の母乳栄養、人工乳栄養について 学ぶ。	事前学習 テキスト pp91～113 を読む(30 分) 事後学習 テキスト p113表3-28を読む(30分)
第11回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活② 離乳の必要性、離乳食の進め方について学 ぶ。	事前学習 テキスト pp114～121 を読む (30 分) 事後学習 配布プリント「離乳の進行別 食品の 使い方」を再読する(30分)
第12回	幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の食生活と問題点を学び、幼児期の 好き嫌いについてディスカッションを行 う。	事前学習 テキスト pp122～135 を読む(30 分) 事後学習 テキスト pp132～135を再読し、これらの 問題の対策を考える (30分)
第13回	食育の基本と内容および家庭や児童福祉 施設における食と栄養 食育の意義・目的を学び、郷土料理につい てグループ学習を行う。	事前学習 テキスト pp154～188 を読む(30 分) 事後学習 テキスト p156表4-1、pp230～231 を読む(30分)

第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーについて学ぶ。	事前学習 テキスト pp200～207 を読む(30 分) 事後学習 食物アレルギーについて再確認する (30分)
第15回	学童期以降の発達と食生活 学童期以降の食生活の特徴を学ぶ。	事前学習 テキスト pp136～152 を読む(30 分) 事後学習 自身の食生活を振り返り、対策を考える (30分)
定時試験	あり（定時試験期間中に筆記試験を行う）	
第16回	調理実習オリエンテーション 実習目的の確認、実習予定日、服装の注意 家政学実習室の使用法、調理器具確認	
第17回	母乳栄養・調乳 理論編 母乳栄養・人工乳栄養について復習し、 調乳の方法を学ぶ。	事前学習 第 10 回のノートを読む(15 分) 事後学習 無菌操作法についてプリントを作成する (45分)
第18回	調理実習① 調乳 人工乳を調製し、試飲する。	事前学習 第 17 回のプリントを読む(15 分) 事後学習 調乳レポートを作成する(45分)
第19回	離乳食 理論編 離乳食の進め方について復習し、 離乳食の形状を学ぶ。	事前学習 第 11 回のノートを読む(30 分) 事後学習 離乳の進め方を読む(30 分)
第20回	調理実習② 離乳食 離乳開始～離乳完了までの食事 を作り、その特徴を学ぶ。 またベビーフードとの比較を行う	事前学習 第 19 回のプリントを読む(15 分) 事後学習 離乳食レポートを作成する(45 分)
第21回	幼児食・学童食 理論編 幼児期・学童期の食生活の特徴を復習し、 1 日の食事摂取量の適量を学ぶ。	事前学習 第 12・15 回のノートを読む(30 分) 事後学習 幼児食・学童食の調味料の計算をする (30 分)
第22回	調理実習③ 幼児食 幼児食を作り、その特徴を学ぶ。	事前学習 第 21 回のプリントを読む(15 分) 事後学習 幼児食レポートを作成する(45 分)
第23回	調理実習④ 学童食 学童食を作り、その特徴を学ぶ。	事前学習 第 21 回のプリントを読む(15 分) 事後学習 学童食レポートを作成する(45 分)
第24回	食育 物語メニューの献立作成 絵本を基に、各班で献立を考える。	事前学習 第 13 回のノートを読む(15 分) 事後学習 物語メニューの作業分担をする(45 分)

第25回	調理実習⑤ 食育 物語メニューを調理し、そのメニューの プレゼンを行う。	事前学習 物語メニューの買い出し準備をする (15分) 事後学習 物語メニューレポートを作成する(45分)
第26回	成人食 理論編 妊娠期の食生活の特徴を復習し、1日の食事摂取量の適量を学ぶ。	事前学習 第9回のプリントを読む(15分) 事後学習 妊娠期の食事の調味料および材料の計算をする(45分)
第27回	調理実習⑥ 妊娠期 妊娠기에適した食事を作り、その特徴を学ぶ。	事前学習 第26回のプリントを読む(15分) 事後学習 妊娠期の食事レポートを作成する(45分)
第28回	食物アレルギーについて 食物アレルギーの頻度の高い食品を復習する。 また、アレルギー代替食品について学ぶ。	事前学習 第14回のノートを読む(30分) 事後学習 食物アレルギーについて再確認する(30分)
第29回	調理実習⑥ アレルギー対応おやつを調理する。	事前学習 第28回のプリントを読む(15分) 事後学習 アレルギー対応おやつレポートを作成する(45分)
第30回	小児栄養のまとめ、家政学実習室の清掃	
定時試験	各回のレポートにより評価を行う	
フィードバックの方法： フィードバックとして第1,4,18,20,22,23,25,27,29回のレポートにコメントを返す		
テキスト：「最新 子どもの食と栄養」 学建書院		
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。		
学生に対する評価： 前期評価は第1～15回分で行い以下の3項目を考慮して総合的に評価する。 ①授業態度 20%、②課題レポート 20%、③定期試験 60% 後期評価は16～30回分で行い以下の2項目を考慮して総合的に評価する。 ①授業態度 30%、②レポート成績 70%（調理実習レポート、課題レポート） 通年評価は前期・後期の成績の平均とする。		

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：朴木 一史 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習		
学習成果該当番号：3. 4. 5. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】 保育の重要な概念である発達、環境、遊び等の意味を確認するとともに、感情労働と職務専念義務という仕事の性格やあり方を具体的に理解できる。また、保育の仕事には、乳幼児に直接働きかける仕事のほかに、それを支える様々な仕事を組織的、計画的に行っていることを具体的な事務処理のあり方を通して理解するとともに、その事務処理技術を学ぶことができる。 【テーマ】 保育という仕事、行事、保育を支える諸活動の三つのテーマを柱として、保育に関する運営面を考究する。			
授業の概要： 保育教育実践演習は、2人の教員が分担して指導する。神谷の分担は、「保育という仕事」で保育を考える基本的な概念を再考させ、「経営・運営の計画と実践」で行事や保育を支える諸活動の経営的な側面や運営上の留意点などを話し合っていくものである。なお、授業は、課題を把握した後、資料をもとに討議を重ね、最後に授業の主旨に基づいて自分の考えをまとめるという展開を基本にする。資料の朗読や意見の発表は、そのまま実践的な演習としてとらえ、学生には主体的な授業態度を重視していることを伝えるとともに、学びが充実するように特に授業記録の整理や提出物の確実な提出と返却物の確実な保管を指導する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1回 保育という仕事1 『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』の保育の基本をもとに幼児教育における幼児観、教育観をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p12-p14の下調べ（60分） また教科書資料集pp150-153には授業ごとのまとめの問題を掲載しているので、準備学習として資料を読むとともに問題も予習するように指示する。	
第2回	保育という仕事2 資料集の「感情労働」をもとに保育者の仕事の特徴を討議し、仕事を通じた成長の重要性を理解する。確認テストを時間内に行う。	同資料集p15-p20の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第3回	保育という仕事3 資料集の「職務専念義務」をもとに仕事の意味を理解して、仕事と人間の生き方についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p21-p25の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第4回	行事1 資料集の「行事」をもとに行事が生活に変化と潤いをもたらすものであることを理解して、運動絵画果たす役割を討議する。確認テストを時間内に行う。	同資料集p92-96の下調べ及び返却された確認テストの見直し（60分）	
第5回	行事2 園外保育を実施する場合の下見の重要性を理解し、園外保育下見のフィールドワークを行う。下見のメモを確認テストとして扱う。	同資料集p96-p97を読んで、教育の森公園の位置を確認おく（60分）	
第6回	行事3 下見した結果グループで出し合い、同資料集の下見報告書の様式にしたがって活動可能な場所や危険箇所などに注意して下見報告をまとめる。下見報告書を確認テストとして扱う。	同資料集p98を見て、さまざまな報告書の書き方をインターネットとの違いなどを調べておく（60分）	
第7回	行事4 下見メモや下見報告書をもとに目標と活動と準備の関係に注意しながら、グループで相談して園外保育（遠足）実施計画書を作成する。作成した実施計画書を確認テストとして扱う。	同資料集p99を見て、実習で作成した全日実習指導案との共通点や相違点を調べておく（60分）	
第8回	安全教育・安全管理1 学校安全構造図をもとに、幼稚園教育要領、同解説、安全計画、日常の安全管理について	同資料集p101-p105の下調べ及び返却された確認テストの	

	、指導や点検のあり方を討議する。確認テストを時間内に行う。	見直し (60分)
第9回	安全教育・安全管理2 乳幼児に多い事故と病気、及びその原因について資料をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p104-p109の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第10回	家庭との連携1 家庭との連携が必要な理由を幼稚園教育要領や同解説から理解し、家庭訪問、降園時の連絡、学級懇談、個人面談等の目的や方法についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p110-p114の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第11回	家庭との連携 学級だよりの目的、内容、方法、作成上の留意点について具体的な学級便りの例をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p115-p121の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第12回	障害がある乳幼児への対応 幼児に多く見られる達生涯について理解を深めるとともに、さまざまな障害の把握の方法や個別の支援計画及び個別の指導計画の意義を理解し、障害をもった幼児に対する接し方の事例についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p122-p126の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第13回	学級経営 学級経営の意義、学級経営案の作成の方法を理解し、具体的な保育所や幼稚園に就職した場合を仮定して、学級経営案の一部を書く。実習の経験や資料をもとに障害をもった幼児への支援のあり方をディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p127-p130の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第14回	日常の保育と指導要録 指導要録の意義を理解するとともに、エピソードを整理し指導要録にまとめるまでの方法について事例をもとにディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p131-p134の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
第15回	幼小連携 幼稚園・保育所と小学校の連携の必要性について幼稚園教育要領総則などの記述をもとに話し合い、とくに就学前教育のあり方についてディスカッションする。確認テストを時間内に行う。	同資料集p135-p140の下調べ及び返却された確認テストの見直し (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：確認テストはA、B、Cの三段階で評価して次回授業日に返却する。B、Cの評価を受けたものは書き直して再提出すれば評価も見直す。第2回から15回まで同様に行う。		
テキスト：『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』（神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学）		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 フレーベル館）『幼稚園教育指導資料集1・2・3・4集』（文部省・文部科学省）		
学生に対する評価：次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の成績60% ②授業のまとめ等の提出物30% ③授業態度10% ②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了時の確認テスト等々である。その評価基準は、A：問題を正対してとらえ、解決を目指している。 B：ある程度問題を理解し、対応を自分で考えることができる。 C：指導助言により、問題をとらえて具体的な取り組みへの構想をもつことができる、とする。なお成績については、神谷・竹田で50%ずつとし、合わせて1科目として評価をする。		
実務家教員による授業科目：保育教育実践演習の授業は複数の視点から捉えるためにも、2名で分担して授業を行う。2名の教員それぞれの経験を生かして、2年後期に開講される演習授業を実践的に行う。		

授業科目名：2511116322 保育教育実践演習 2年後期	必修：卒・幼・保	単位数： 2単位	担当教員名：竹田 恵 担当形態：演習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	卒：専門教育科目 保育教育実践演習 幼：教育実践に関する科目 教職実践演習 保：総合演習 保育実践演習		
学習成果該当番号：1. 3. 4			
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】発達段階を踏まえた幼児の保育活動について、指導計画と幼児理解の両面から理解するとともに、保育理論や保育技術を実践の場で具体化できるようになる。具体的には、保育計画の具体化と実践について目的・内容・方法・留意点を理解すること、また幼児の言葉や行動を取り上げてその発達の様子を多面的に捉えることが本授業の目標である。 【テーマ】履修履歴の把握、教育計画の編成、指導計画の作成と展開、幼児一人ひとりへの応じ方			
授業の概要：まず、学生が自分の履修履歴を確認して、保育者となるための課題を把握する学習を行う。次に、指導計画の作成の観点について、指導計画の具体例を取り上げ考察する。そして、幼児の行動の様々な具体例を取り上げて、それについて観点をきめて話し合いや発表を行う。科目名の通り、保育や教育に関する具体的な場面を取り上げた上で、演習を行っていく。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	第1回 履修履歴の把握 履修履歴に基づいて、各自の履修状況を捉えて課題を把握する。	短期大学生のための保育教育実践演習資料集資料集』p5-p11を読んでおくこと（60分）	
第2回	教育課程の編成 教育課程や長期指導計画について資料集をもとにディスカッションする。実習先の教育方針、特色などについてまとめる。	実習先の教育方針、特色等を調べる。同資料集p25-p32を読んでおくこと（60分）	
第3回	指導計画の作成と展開1 指導計画におけるPDCAサイクルについて実習先の指導計画や資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p33-p35を読んでおくこと（60分）	
第4回	指導計画の作成と展開2 短期の指導計画が前週の活動の実態把握から導かれる様子について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p36-p41を読んでおくこと（60分）	
第5回	指導計画の作成と展開3 生活記録や実践記録をもとに活動や生活の記録の仕方について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p42-p46を読んでおくこと（60分）	
第6回	指導計画の作成と展開4 研究会の指導計画を見て、その特徴や優れた点について資料集をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p51-p54を読んでおくこと（60分）	
第7回	幼児の育ちの理解 映像を通して幼児の発達過程について学び気づいたことについてディスカッションし、幼児の育ちの理解につなげる。確認課題を時間内に行う。	幼児の発達（3歳児、4歳児、5歳児）について復習をしておくこと（60分）	
第8回	幼児の育ちの理解1 幼児の生活する姿とそのとらえ方について資料集の事例1をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p55-56を読んでおくこと（60分）	
第9回	幼児の育ちと理解2 幼児と心をつなぐ接し方について資料集の事例3～4をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p57-p59を読んでおくこと（60分）	
第10回	幼児の育ちと理解3 集団の中にいる子どもの心の捉え方について資料集の事例7～10をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p60-p63を読んでおくこと（60分）	
第11回	幼児の育ちと理解4 幼児が自分を発見する姿を空間から捉えることについて資料集の事例11～12をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集p63-65を読んでおくこと（60分）	

第12回	幼児の育ちと理解5 自我を発達させる様子を過去の記憶について料集の事例15～16をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 67-69を読んでおくこと (60分)
第13回	幼児の育ちと理解6 自我を発達させる様子が言葉の発達などから捉えられることについて料集の事例17～20をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集 p 69-71を読んでおくこと (60分)
第14回	泣くこと 泣きが言葉と同じ機能を果たすことや泣きに対する日仏の保育士の相異について資料集台V章をもとにディスカッションする。確認課題を時間内に行う。	同資料集第V章を読んでおくこと (60分)
第15回	子育て悩み相談 子育て不安が増大している原因や相談のやり方について資料集台VIII章をもとにディスカッションするとともに、自分の保育者を観点に従って自己評価する。確認課題を時間内に行う。	同資料集第VIII章と関連教科のテキストを読んでおくこと (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：確認課題は評価して返却する。返却時に解答の解説を行う。第2回授業から第15回まで同様に行う。		
テキスト： 『短期大学生のための保育教育実践演習資料集』（神谷爲義 学校法人貞静学園短期大学）		
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説書 厚生労働省編		
学生に対する評価：次の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の成績60%、②授業のまとめ等の提出物30%、③授業態度10%、②③の評価は、授業における発表や討論への参加態度、授業で作成した様々な文書、各授業終了後のまとめ等とする。		
実務家教員による授業科目：保育教育実践演習の授業は複数の視点から捉えるためにも、2名で分担して授業を行う。2名の教員それぞれの経験を生かして、2年後期に開講される演習授業を実践的に行う。		

授業科目名：2601016413 教育実習 1 年後期	必修：（卒）・幼	単位数： 全部で5単位	担当教員名：実習幼稚園、 朴木 一史、竹田 恵、濱中 啓二郎 担当形態：実習 複数	
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習			
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ：幼児教育の場としての幼稚園のあり方やそこで活動する幼児の様子から、 幼児の発達過程と幼児が主体的に活動する幼児教育のあり方を追求する。				
授業の概要： (1) 実習内容は、幼児の様子と幼稚園のあり方を中心に、次の事項を取り上げる。 ア 幼稚園の役割について、体験を通して理解する。 イ 幼稚園の1日の流れを理解し、保育に参加する。 ウ 幼児の観察やそれとの関わりを通して、幼児の発達過程を理解する。 エ 保育者の援助や指導の内容と方法を学ぶ。 オ 職員の役割分担とチームワークについて理解する。 カ 家庭や地域社会に対する子育て支援や預かり保育について理解する。 キ 保育者の業務内容と職業倫理を具体的に学ぶ。 ク 疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。 ケ 幼稚園周辺の環境整備について学ぶ。 コ 実習前後の事務処理を通して迅速正確な処理能力を高める。 (2) 実習は、見学実習、観察実習及び参加実習とし、それぞれ次の具体的な目標の達成を目指す。 ア 見学実習及び観察実習の具体目標 (ア) 幼稚園の沿革・教育方針・運営等について理解する。 (イ) 保育の1日の流れ（預かり保育を含む）を全体的に理解する。 (ウ) 建物の構造（園舎や教室の配置、園庭の施設や遊具など）や環境を理解する。 (エ) 園長、主任及び教諭等の業務内容を理解する。 (オ) 室内外の教材・教具・園具などについて把握する。 (カ) 幼児一人一人の遊びや集団の一員としての行動等を把握する。 (キ) 幼稚園と家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との連携を理解する。 イ 参加実習の具体目標 (ア) 幼稚園の教育方針とその具体化された目標や指導の重点等を理解する。 (イ) 学級の指導計画を理解した上で保育に参加し、1日の流れ、生活のリズムを体得する。 (ウ) 多くの幼児と関わる中で、各年齢の特徴や個人差の理解を深める。 (エ) 担任の助手的立場で教材開発や環境設定、生活や遊びの方法、安全への配慮などを具体的に学ぶ。 (オ) 保育時間の内外を通じて、担任の業務内容を具体的に学ぶ。 (カ) 職員間の役割分担、チームワーク等の組織的な活動のあり方や、家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との関わりかたを学ぶ。 (キ) 実習日誌に観察や参加の記録を的確に記入し、保育への理解を深める。 (ク) 担任の指導の下に絵本の読み聞かせ、手遊び、その他の部分的な指導を行い、幼児全体への働きかけ方を学ぶ。				
授業計画：				
実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
第Ⅰ期教育実習	56 時間	幼稚園	見学・観察、参加	1 年 11 月
※実習時間 56 時間は、実習日数 7 日間である。なお、56 時間(7 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。				
テキスト：石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院				
参考書・参考資料等：特になし				

学生に対する評価：

教育実習等	単位認定のデータ	評価におけるデータの得点割合			単位
		①：②	実習Ⅰ：Ⅱ	実習：前後	
第Ⅰ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	7：15	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
第Ⅱ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3			
	実習報告書、実習日誌 ②				
教育実習事前事後の指導	試験成績、提出物、授業態度等				

- (1) 実習の評価は、実習評価票の得点に実習報告書 20 点、実習日誌 10 点を加算して得点とする。
- (2) 実習に係る提出物は期限を過ぎた場合でも提出を求めるが、締め切った後に提出されても加算はしない。

授業科目名：2601016413 教育実習 2年後期	必修：（卒）・幼	単位数： 全部で5単位	担当教員名：実習幼稚園、 朴木 一史、竹田 恵、濱中 啓二郎 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：幼児理解を一層深めて幼児が主体的に活動する指導計画を作成し、実践することを通して、環境を通して行う幼児教育のあり方を追求する。			
授業の概要： (1) 実習内容は、幼児の様子と幼稚園のあり方を中心に、次の事項を取り上げる。 ア 幼稚園の役割について、体験を通して理解する。 イ 幼稚園の1日の流れを理解し、保育に参加する。 ウ 幼児の観察やそれとの関わりを通して、幼児の発達過程を理解する。 エ 担任等の指導の下に自分で指導計画を作成し、実践し、評価することを通して指導の内容と方法を学ぶ。 オ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 カ 家庭や地域社会に対する子育て支援や預かり保育について理解する。 キ 保育者の職業倫理を具体的に学ぶ。 ク 疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。 ケ 幼稚園とその他関係機関との連携について学ぶ。 コ 実習前後の事務処理を通して迅速正確な処理能力を高める。 (2) 実習は、参加実習及び責任実習とし、それぞれ次の具体的な目標の達成を目指す。 ア 参加実習の具体目標 (ア) 幼稚園の沿革・教育方針・運営等について理解する。 (イ) 園長、主任及び教諭等の業務内容を理解する。 (ウ) 保育の1日の流れ（預かり保育を含む）を理解して保育に参加し、生活のリズムを体得する。 (エ) 担任の助手的立場で子どもが主体的に活動できるように環境や施設設備の整備をしたり、生活や遊びを指導したり、安全への配慮を行ったりする。 (オ) 担当教師に承認された範囲で直接子どもの遊びに加わったり、保育活動の一部を分担したりしながら、積極的に参加活動を行う。 (カ) 幼児一人一人の遊びや集団の一員としての行動等を観察して、発達の様子や一人一人の特長を把握する。 (キ) 幼稚園と家庭・地域社会及び保育所・認定こども園・小学校との連携を理解する。 イ 責任実習の具体目標 (ア) 保育者としての態度、保育技能・技術を身につける。 (イ) 担当教師の補佐として環境構成、教材の準備や後片付け、クラス運営の事務処理、その他の業務を行う。 (ウ) 一人一人の子どもの個別指導を実践しながら、その具体的な指導技術の習得を図る。 (エ) 担当教師等の指導や助言を受けて指導計画を作成し、それに基づいて実践し、指導方法や指導技術を習得する。			

授業計画：

実習名	実習時間	実習場所	実習形態	備考（実施時期等）
第Ⅱ期教育実習	120時間	幼稚園	見学・観察、参加	2年10月

※実習時間 120 時間は、実習日数 15 日間である。なお、120 時間(15 日間)は最低基準であり、実習期間内においてそれを超えて実習しても差し支えない。

テキスト：石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：

教育実習等	単位認定のデータ	評価におけるデータの得点割合			単位
		①：②	実習Ⅰ：Ⅱ	実習：前後	
第Ⅰ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3	7：15	4：1	5
	実習報告書、実習日誌 ②				
第Ⅱ期教育実習 (幼稚園)	実習園からの「実習成績評価表」 ①	7：3			
	実習報告書、実習日誌 ②				
教育実習事前事後の指導	試験成績、提出物、授業態度等				

- (1) 実習の評価は、実習評価票の得点に実習報告書 20 点、実習日誌 10 点を加点して得点とする。
- (2) 実習に係る提出物は期限を過ぎた場合でも提出を求めるが、締め切った後に提出されても加点はしない。

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 1年通年（前期）	必修：（卒）・幼	単位数： （5単位）	担当教員名：竹田 恵
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】目標は二点ある。一つめは、第Ⅰ期教育実習に臨むにあたって必要な基礎的な知識や技術について理解したり、身につけたりすることである。二つめは、実習生としての実習に必要な準備を遅滞なく進めることである。 【テーマ】教育実習の意義、目的、方法、幼稚園の様子、実習の実際、実習の準備等々、実習に必要な事項を具体的に取り上げていく。			
授業の概要：この授業では、教育実習が必要な理由とその方法を明確に捉えることが大事である。従って、はじめにテキスト等を用いて講義形式で理解を図る。その後、必要な書類の作成を行ったり、日誌の書き方について実践的に理解したり、円滑に実習を行うために必要な準備を行う。なお、夏休みに行われるボランティア実習を視野に入れ、その準備を行うことを通じて、上記の内容の一部の学習を行う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	幼稚園、保育所、認定こども園についてテキスト p 12～ p 15 をもとにディスカッションし理解する。	テキスト p 12～p15を 読んでおくこと（30分）	
第2回	教育実習の意義と流れについてテキスト p 8～11をもとに ディスカッションし理解する。	テキスト p 8～p11を 読んでおくこと（30分）	
第3回	実習園の一日についてテキスト及びDVDの視聴をもとに ディスカッションし理解する。	テキストp76～77を 読んでおくこと（30分）	
第4回	保育実技についてテキストp48～p59をもとに ディスカッションし理解する。	テキストp48～p59を 読んでおくこと（30分）	
第5回	夏休みボランティア実習の概要について ディスカッションし理解する。	テキストp22～p23を 読んでおくこと（30分）	
第6回	夏休みボランティア実習のオリエンテーションの留意点に ついて自宅付近の保育所や幼稚園の例をもとに ディスカッションし理解する。	自宅近隣の保育所、幼稚園 について調べてくること（30分）	
第7回	夏休みボランティア実習において必要な履歴書等の書類の 作成を行う。作成した書類は提出する。提出後、教師が確 認して不備や誤りがあった場合は返却するので、新しく書 き直して再提出する。	書類作成に必要な事項に ついて調べておくこと 不備な書類の書き直しを すること（30分）	
第8回	実習日誌を書く意義についてテキスト② p 12～ p 17をもと にディスカッションし理解する。	テキスト② p 12～ p 17を 読んでおくこと（30分）	
第9回	実習日誌を書くときの基本事項についてテキスト② p 20～ p23をもとにディスカッションし理解する。	テキスト②p20～p23を 読んでおくこと（30分）	
第10回	保育の様子に関するビデオ①を見ながら実習日誌（記録部 分）を下書きする。	第8回、9回の授業内容を まとめておくこと（30分 ）	
第11回	再度保育の様子に関するビデオ①を見ながら前回の授業で 下書きした実習日誌（記録部分）を完成させる。完成した 実習日誌の記録は確認テストとして提出する。	第10回で作成した下書き を読み返し、誤字脱字等 がないか調べて訂正して おくこと（30分）	
第12回	実習日誌の考察や感想の書き方についてテキスト②p48～ p 57をもとにディスカッションし理解するとともに、テキス ト p 26～ p 29をもとに夏休みボランティア実習における課 題設定を行う。設定課題が確認テストである。	テキスト②p48～ p 57、 テキスト p 26～ p 29を 読んでおくこと（30分）	

第 13 回	夏休みボランティア実習に向けた心構えについてテキストp18～p21をもとにディスカッションし理解する。	テキストp18～p21を読んでおくこと (30分)
第 14 回	夏休みボランティア実習の実習日誌の記録をもとに社会人として日々心がけた事項をプレゼンテーションし、大事なことは何かをディスカッションしてまとめる。教師は実習評価票の評価項目の観点を参考に必要事項を助言する。まとめは確認テストとして扱う。	ボランティア実習における実習日誌の記録を作成すること (3時間)
第 15 回	夏休みボランティア実習の実習日誌の記録をもとに保育者の専門性として日々心がけた事項をプレゼンテーションし、大事なことは何かをディスカッションしてまとめる。教師は実習評価票の評価項目の観点を参考に必要事項を助言する。まとめは確認テストとして扱う。実習日誌は、この回の授業の終了時に提出し、ミニレポートとして扱う。	同上
定時試験	あり	
フィードバックの方法：提出された書類、保育のビデオを見ての実習日誌及び確認テスト等に必要な指導・助言を書いてフィードバックする。		
テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ②小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定時試験の得点50% ②課題や提出物の提出状況や内容40% ③授業態度10%		
実務家教員による授業科目：長年幼稚園教諭として勤務し、その経験を踏まえ、幼稚園教諭を目指す学生の教育実習事前事後の指導を担当する。観察方法・日誌・指導案・教材開発等多岐にわたって事前事後の指導を行う。		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 1年通年（後期）	必修：（卒）・幼	単位数： （5単位）	担当教員名：竹田 恵 担当形態：（実習） 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教育実践に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【到達目標】目標は二点ある。一つめは、第Ⅰ期教育実習に臨むにあたって実習生としての実習に必要な準備を遅滞なく進めるとともに、意義ある実習とするために問題意識・課題意識を持つことである。二つめは、自らの実習をふり返り成果と課題を見いだすことである。 【テーマ】実習の準備、実習後の事務処理、実習のふり返りの三つの内容により行われる。			
授業の概要：この授業ではまず、実習のために必要な準備を行い、実習における留意点等について学習するまた、充実した実習を行うために実習における自らの課題を明確にする学習を行う。その後、第Ⅰ期教育実習が行われるが、実習後には、実習や事後の事務処理を行うとともに、自らの実習をふりかえり、次回の実習や保育者になるに向けての課題を抽出する学習を行う。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	実習園のオリエンテーションの受け方、オリエンテーション報告書の作成について理解する。	前期に配布したオリエンテーション関連のプリントを熟読しておくこと（30分）	
第2回	実習日誌の自分のプロフィールや実習園の概要等について実習前に書き上げること理解する。授業当日に配布された資料及び解説した内容を参考に、各自で実習日誌の概要その他指定された頁の記述をすすめ、第4回の授業までに提出する。	配属先の実習園の概要について調べておくこと テキスト p 58～p61を読んでおくこと 教育実習日誌 p 1～p 2 を読んでおくこと（30分）	
第3回	実習日誌の書き方について、幼児の活動、環境構成、保育者の動き、気づいたことなどのポイントを理解する。（観察のポイント、考察について、まとめの書き方について）	テキスト②p24～p27、p62～p64を読んでおくこと 教育実習日誌 p 4 を読んでおくこと（30分）	
第4回	実習課題の設定、日々のねらいの立て方について理解するとともに、手遊び、なぞなぞ、読み聞かせ絵本などの準備をする。	テキストp82～p 83を読んでおくこと（30分）	
第5回	手遊びやなぞなぞの出し方についてモデルをみて話し合うとともに実習の心構えや留意点について理解する。	教育実習日誌 p 3 を読んでおくこと（30分）	
第6回	礼状の書き方について理解し学んだことについて一言を入れた礼状を作成する。礼状は確認テストとして扱う。	時候の挨拶について調べておく。テキスト p 130～p 131を読んでおくこと（30分）	
第7回	実習報告書の書き方について理解し、実習報告書を作成する。実習報告書は確認テストとして扱う。	予め配布した、実習報告書の下書き用紙に必要事項を記入しておくこと（30分）	
第8回	実習をふりかえる1（実習日誌の日々のまとめや全体のまとめをもとに実習全般に関する自己評価を行う）自己評価シートは確認テストとして扱う。	実習日誌を読み返しておくこと（30分）	
第9回	実習をふりかえる2（次回の実習や保育者になるにあたっての課題について考える。グループ討議を通して異なった視点から実習に関する考えを深める。	テキスト p 132～134を読んでおくこと（30分）	
第10回	実習をふりかえる3（実践した保育内容をふりかえり、今後の課題と目標について考える）	集団討議で話し合われた内容をまとめておくこと（30分）	
第11回	責任実習指導案の立て方について、テキスト②p66～p 70をもとにディスカッションする。	テキスト②p66～p 70を読んでおくこと（30分）	

第12回	4歳児対象の部分実習指導の様子をDVDで視聴しディスカッションする。 ※ 定時試験はレポートの提出であることを告げ、その課題を提示する。学生は定められた期日までにレポートを提出する。	指導案の立て方についてまとめておくこと（30分）
第13回	5歳児対象の部分実習指導の様子をDVDで視聴しディスカッションする。4歳児、5歳児対象の部分実習指導について気づいたを文書にまとめて提出する。提出物は確認テストとして扱う。	4歳児対象の部分実習についてまとめておくこと（30分）
第14回	4歳児あるいは5歳児の部分実習を想定して、具体的な指導計画を策定する。	部分実習で指導したい具体的な内容について考えておくこと（30分）
第15回	1年間の学びをふりかえり、第Ⅱ期教育実習に向けて備える。	第Ⅰ期教育実習日誌を読み返して第Ⅱ期に向けた自己課題を考えておくこと。（30分）
定時試験	レポートを課す（詳細については第12回の授業時に告知する）。	
フィードバックの方法：オリエンテーション報告書、実習日誌、準備として行った計画を示す書類、実習報告書、礼状等のチェックをして、不備があるものは返却し、再提出を求める。		
テキスト：①小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ②小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 石橋裕子・林幸範『幼稚園・保育所・児童福祉施設 実習ガイド』同文書院 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①レポート（定時試験期間中）評価40％ ②課題や提出物の提出状況や内容45％ ③授業態度15％		
実務家教員による授業科目：長年幼稚園教諭として勤務し、その経験を踏まえ、幼稚園教諭を目指す学生の教育実習事前事後の指導を担当する。観察方法・日誌・指導案・教材開発等多岐にわたって事前事後の指導を行う。		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 2年通年（前期）	必修：幼	単位数： （5単位）	担当教員名：濱中 啓二郎 担当形態：（実習） 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 4. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達度】第Ⅰ期教育実習の経験や保育実習Ⅰ・Ⅱの実習における学びも取り入れて指導案の立て方や記録の仕方を工夫して、実習目的に合った実習の準備ができるようになる。 【テーマ】実習前のテーマなので実習に向かったの準備を取り上げるのはもちろんであるが、責任実習なので部分実習や全日実習などの指導案の作成を中心的なテーマとする。なお、実習の記録も、自分の実践についての記録を重視することを取り上げる。			
授業の概要：第Ⅱ期教育実習は、責任実習といわれるように自ら指導案を作成して、実施し、反省する、という過程を繰り返す実習である。そこで、指導案の立て方を授業の中心的なテーマに取り上げて、実際にそれを書くという体験を積んで行くことにする。また、実習に入るためのさまざまな事務手続きを遅滞なく進めるように、授業の中できめ細かく指導して行くものとする。 この授業を受けている間には、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲが10日間ずつ実施されるが、その実習の経験を生かすとともに、教育実習の内容や事務手続きが混乱しないように注意を払って授業する。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	部分実習と責任実習 実習の核心は自らの計画立案、実施、反省であることを理解する。	配付資料『フィールドで学ぼう』（pp74-77）の下調べ（30分）	
第2回	指導案の書き方 1日の生活の流れを踏まえて、資料から必要な部分や事項を抜き出す。	『同』pp77-82・全日実習指導案の感想（30分）	
第3回	部分実習の教材研究「絵本の選択」 発達過程にあった絵本の選択し、一覧表にまとめる。表は時間内で作成し、確認テストとする。	絵本10冊の選択（30分）	
第4回	部分実習指導案① 紙芝居「ばいきんバイバイ」の指導案に倣って絵本の読み聞かせの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	読み聞かせる絵本の選択（30分）	
第5回	部分実習指導案② 帰りの会の指導案に倣って「歌・手遊び・絵本の読み聞かせ」が入った指導案を相談して書く。	手遊びをネットで検索しておく。（30分）	
第6回	部分実習指導案③ 外遊びの指導案を参考にして外遊びの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	配付資料pp1-4の下調べ（30分）	
第7回	部分実習指導案④ 室内遊びの指導案を参考にして室内遊びの指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	配付資料pp7-12の下調べ（30分）	
第8回	部分実習指導案⑤ 製作の指導案を参考にして製作の指導案を相談して書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	配付資料pp13-18の下調べ（30分）	
第9回	部分実習指導案⑥ 製作から遊びへ展開する指導案を参考にして製作の指導案を書く。指導案は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	配付資料pp18-20の下調べ（30分）	
第10回	幼稚園の一日の流れを確認して、幼稚園の日課を話し合う。	第Ⅰ期教育実習日誌で1日の流れを確認（30分）	
第11回	書類作成 第Ⅱ期教育実習用の「履歴書」を作成する。履歴書は時間内で書き上げて、確認テストとして扱う。	家族の年齢確認等の必要項目について調べておくこと（30分）	
第12回	実習課題の明確化① 保育技術をお話、ピアノ、絵本、手遊びの観点からABCで自己評価をして、自己の課題をとら	保育実習で実践した題材一覧（30分）	

第13回	える。 実習課題の明確化② 第Ⅰ期教育実習日誌をもとに実習課題についてディスカッションし、第Ⅰ期教育実習との違いを明確にする。	実習日誌 (pp1-3) の実習目標や実習内容の下読みと課題の原案作成 (30分)
第14回	実習課題の明確化③ 実習を期間全体、第1週、第2週、第3週に分けて、それぞれの課題をディスカッションし、自己の課題を整理する。	第4～9回で作成した指導案を整理して持参する (30分)
第15回	指導案のねらいについて、幼稚園教育要領や活動の特性を生かした書き方の観点から書き方を検討する。	幼稚園教育要領第2章を読んでおくこと (30分)
定時試験	定期試験期間中に提出する部分実習指導案・責任実習指導案に関するレポートをもって定時試験とする。	
フィードバックの方法：第4～9回の授業で提出された指導案については、それぞれ作成した次回の授業時にフィードバックし、再度書き方のポイントを助言する。また第11回の履歴書の不備については書き直しを指示したり、第12回の自己の課題では夏季休業中の練習計画を助言したりする。		
テキスト：小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 フレーベル館）『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（同文書院）		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定時試験期間中に提出するレポートの内容：60% ②授業のまとめ、レポート、事務的な書類の提出：30% ③授業への参加・態度：10%		

授業科目名：（教育実習） 教育実習事前事後の指導 2年通年（後期）	必修：幼	単位数： （5単位）	担当教員名：濱中 啓二郎 担当形態：（実習） 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	幼：教職に関する科目 教育実習		
学習成果該当番号：1. 2. 3. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：【授業の到達度】第Ⅱ期教育実習について振り返り、実習後の事務的な書類を作成したり、体験を話し合ったりする中で、理想の一日の生活、理想の幼稚園のあり方、理想の幼稚園教諭について考え、具体的な指導案や感想としてまとめることができる。 【テーマ】実習後のテーマは、大きくまとめると①実習後の事務的な整理、②園生活の理想の一日「修正全日実習指導案」、③理想の幼稚園「実習園の印象調査」 ③保育現場の新しい動き、④理想の保育者像、の四つである。			
授業の概要：授業は 50 分授業なので、テーマの四つについて各時間の授業内容が明確になるように 1 コマごとのテーマを小さく分けて提示するとともに、具体的な作業や話し合い・発表を取り入れて授業を進める。また、本学は EXPO TEISEI を単なる大学祭ではなく授業の一環として重視しているので、そこを実習の成果を発表する機会として位置付け、園生活の理想として考える修正全日指導案を作成して掲示したり理想の保育者像の発表会を開いたりして、授業が具体的な行動に結びつくようにする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1 回	実習準備学習 第Ⅱ期教育実習に関する予定を知らせ、実習不安の解消を図る。本時は、第Ⅱ期教育実習前の授業である。	日誌p10までの記入 （3時間）	
第 2 回	実習整理1 実習幼稚園長宛てのお礼状を書いて提出する。お礼状には、実習で学んだ具体的で大事と思う事柄を一言でもよいから入れる。礼状は確認テストとして扱う。本時から第Ⅱ期教育実習後の授業となる。	手紙例文資料を読んでおく こと（30分）	
第 3 回	実習整理2 第Ⅱ期教育実習報告書「1 実習概要」・「2 実習園から大学への要望」を記入して提出する。実習報告書は、ミニレポートとして扱う。	事前に下書き用紙を配布するので、内容を整理しておくこと（30分）	
第4・5回	園生活の理想の一日 理想の一日の生活を考えて、第Ⅱ期教育実習の指導案をもとに、領域のねらいや内容と関連させて修正した全日実習指導案を作成する。全日実習指導案はミニレポートとして扱い、優れたものは学園祭で掲示する。	実習中の指導案を整理しておくこと（30分）	
第 6 回	実習園の保育内容について振り返りのグループディスカッションを行い、そのまとめを発表する。	実習中の保育内容について整理しておくこと（30分）	
第 7 回	理想の幼稚園① 理想の幼稚園を考える視点（内容面で就学準備ー遊び、方法面で教師主導ー幼児主体）を決めて、アンケート用紙のXY座標に実習先幼稚園の座標に示すとともに、その幼稚園の特色ある活動を洗い出してアンケート用紙に書く。	テキストp150～p151を読んでおくこと（30分）	
第8・9 回	理想の幼稚園② アンケートの集計結果を見て学生が捉えた幼稚園の現状を概観するとともに、自分が回答したアンケートをもとに実習先の幼稚園の様子についての報告会を開き、理想に近い幼稚園を選択する。	回答の確認と報告準備をすること（30分）	
第 10 回	理想の幼稚園③ 前2回の授業で選んだ理想の幼稚園の集計結果を概観して現実と理想の差異に気づくとともに、現実に行われている特色のある活動についてその教育的価値を一つずつ確認する。	第22回授業のアンケート用紙の確認をしておくこと（30分）	
第 11 回	資料により今日の幼児教育の課題を確認するとともに、その課題について実習幼稚園で実践していたり見聞したりした事項をまとめ、今日的課題に対処する教育動向をとらえ	今後の自己課題および目標について考えておくこと（30分）	

第12回	る。実践や見聞のまとめは、確認テストとして扱う。 理想の保育者像① 実習経験をもとに自分の理想の保育者像を発表の原稿として600字程度にまとめる。まとめは次回以降のプレゼンテーション後に返却する。	実習日誌で指導教員の確認をしておくこと（30分）
第13・14 ・15回	理想の保育者像②③④ 実習で指導を受けた教員の中から、専門的な知識、優れた技術、広い視野等々の具体的な事例をもつ理想の保育者について、自分が学んだことをプレゼンテーションする。 聞き手の学生は、その内容を簡潔に記録し、感想を付して提出する。この聞き取りの記録は確認テストとして扱う。	順番ごとのスピーチの練習をしておくこと（30分）
定時試験	定時試験期間中に提出する「理想の幼稚園」「保育者の専門性」についてのレポートの提出をもって、定時試験とする。	
フィードバックの方法：実習報告書や理想の全日実習指導案は、提出させて評価し、その後優れたものは本人だけでなく他の学生や下学年の学生に閲覧できるようにする。またアンケートによる現実の幼稚園の姿や理想の姿は集計して全体像が把握できるようにする。理想の保育者の原稿はプレゼンテーションやその聞き取り記録によって学生にフィードバックする。		
テキスト：小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社		
参考書・参考資料等：『保育・教育実習 フィールドで学ぼう』（同文書院）		
学生に対する評価：以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。 ①定時試験期間中にレポートを提出：60% ②授業のまとめ、レポート、事務的な書類の提出：30% ③授業への参加・態度：10%		

授業科目名：2600116513 保育実習Ⅰ（保育所） 1年後期・2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：実習先保育所、 保育実習担当教員
			担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】			
1・保育所の役割や機能を具体的に理解する。			
2・観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。			
3・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。			
4・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。			
5・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。			
【テーマ】			
保育所の生活に参加し保育所の役割や機能を具体的に理解し、観察・子どもとのかかわりから乳幼児への理解を深める。既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。実習から保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。			
実習の概要：			
1・保育所の役割と機能			
（1）保育所の役割と機能について、体験を通して理解する。			
（2）保育所の生活と一日の流れを理解し、保育に参加する。			
2・子ども理解			
（1）子どもへの援助やかかわりを通して、子どもの発達過程を理解する。			
3・保育内容・保育環境			
（1）保育の計画に基づく保育内容の実際を理解する。			
（2）子どもの疾病予防及び安全対策について具体的に学ぶ。			
4・保育の計画、観察、記録			
（1）保育課程と指導計画の理解と活用について理解する。			
（2）実習日誌に観察記録を的確に記入し、保育への理解を深める。			
5・専門職としての保育士の役割と職業倫理			
（1）保育士の業務内容を理解する。			
（2）職員間の役割分担や連携について学ぶ。			
（3）保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。			
準備学習			
保育実習指導Ⅰの履修			
部分実習指導案を作成し提出する。その際、修正あるいは再提出を求める。必要に応じて個別指導を行う			
「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p9）までを仕上げておく			
事後学習			
保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有化を図り、次回保育実習への課題を明確にする。保育実習報告書については期日までに提出し、内容によっては修正及び再提出を求める			
事前：オリエンテーション(実習園)・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など			
事後：実習日誌・実習報告書			
テキスト：① 高玉和子編 改訂『実践力がつく 保育実習』 大学図書出版			
② 河原紀子監修・執筆 『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』 学研教育出版			
参考書・参考資料等：田中亮胤監修 『実習の記録と指導案』 ひかりのくに			
学生に対する評価：実習園での評価(70%) 実習後の提出書類(30%)			

授業科目名：2600116613 保育実習Ⅰ（施設） 1年後期・2年前期	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：実習先施設、 保育実習担当教員 担当形態：実習 複数
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ：			
【授業の到達目標】			
1・児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。			
2・観察やかかわりを通して子どもへの理解を深める。			
3・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験する。			
4・職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。			
【テーマ】			
習得した知識や技術を実践に移し、児童福祉施設の役割や機能、現状を具体的に理解し、既習の教科の内容を踏まえ、施設の生活を通して子どもの保育及び保護者への支援について総合的に体験し、子どもへの理解と施設利用者への理解を深める。保育士の業務内容と職業倫理と、指導員及びその他の職員の役割と連携のあり方を学び理解する。			
実習の概要：			
1・施設の役割と機能			
（1）当該施設の生活と一日の流れを理解して生活する。			
（2）当該施設の役割と機能について理解する。			
2・利用者理解			
（1）利用者とのかかわりを通して理解を深める。			
（2）個々の状態や障がいの特性に応じたかかわりとそれに基づいた支援をする。			
（3）子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解する。			
3・養護内容・生活環境			
（1）利用者の年齢・障がいの程度・家庭環境・生育歴・自立の方向性などの背景に応じた支援計画が作成されているか、総合的に学ぶ。			
（2）施設の人的環境、物的環境及び地域環境を理解する。			
4・計画と記録			
（1）さまざまな支援がどのように計画され、その計画が無理のない適切なものなのか学ぶ。			
（2）記録がどのように作成されているか、後で読み返した際に、知りたい情報が記載されているか学ぶ。			
5・専門職としての保育士の役割と倫理			
（1）職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。			
準備学習			
保育実習指導Ⅰの履修			
「保育所保育指針」の熟読 保育実習日誌のオリエンテーション記録（p9）までを仕上げておく			
部分実習指導案や日誌の書き方など必要に応じて個別指導を行う			
事後学習			
保育実習からの学びの確認及び学生間で学びの共有化を図り、次回保育実習への課題を明確にする。			
保育実習報告書については期日までに提出し、内容によっては修正及び再提出を求める。			
事前：オリエンテーション(実習園)・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など			
事後：実習日誌・実習報告書			
テキスト：① 高玉和子 編 改訂『実践力がつく 保育実習』 大学図書出版			
②松本峰雄監修 『より深く理解できる 施設実習』 萌文書院			
参考書・参考資料等：			
学生に対する評価：実習園での評価(70%) 実習後の提出書類(30%)			

授業科目名：2600116710 保育実習指導Ⅰ 1年通年（前期）	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導Ⅰ		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】①保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ②保育士の職務内容を理解し、保育士として必要な知識・技術を習得する。③子どもの人権の尊重、守秘義務について理解する。④実習施設の役割や機能を理解する。 【テーマ】保育実習の意義や目的、実習施設やそこに勤める保育士の役割、子ども理解などが中心テーマとなる。			
授業の概要：保育士の職域は保育所をはじめ児童養護施設や乳児院など多岐におよぶ。保育実習Ⅰでは保育所と保育所以外の児童福祉施設の実習が実施される。本授業前期は、保育所実習を中心に、保育実習（保育所）の意義・目的を理解し、実習の内容と課題を明確にしていく。さらに、実習に際しての留意事項として子どもの人権と最善の利益の配慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成していく。部分実習の指導計画・観察の視点・日誌の書き方などについては保育実習の取り組みの実際を想定し具体的に習得していく。事後指導では保育実習の総括と自己評価を行い今後の課題を明確にしていく。DVDの活用やグループ討議、ワークシートの作成などを取り入れ、理解を深めていきたい。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第1回	授業の進め方や評価の仕方など授業概要を説明する。保育士の仕事についてDVDを活用して説明をしていく。保育所の役割は子どもの保育の他、地域の子育て家庭の支援など多岐にわたること、及び国家資格である保育士資格の意義を確認していく。	テキスト①p6～13までを読んでおく。 (60分)	
第2回	保育所実習の意義・目的・内容 保育実習は机上の学びを現場保育所の営み理解へと繋ぐ重要な取り組みであることを踏まえ、保育実習の必要性を討議し、まとめとして保育実習の意義や目的を説明し、保育実習ⅡⅢまでの実習過程や内容を説明していく。	テキスト①p14～23までを読んでおく。 (60分)	
第3回	実習施設（保育所）の役割や機能・基準などを理解する：準備学習で調べてきた保育所の保育理念やクラス配置などの各補遺期初の相違を討議する。討議のまとめとして討議資料を具体的事例として、設置基準や保育所の役割などの説明をする。授業始めに復習で作成したワークシートの確認テストを実施し、見直しをする。	保育所を選び、保育時間などを調べてくる。（60分） 復習：ワークシートを仕上げてくる。 (60分)	
第4回	保育士の職業倫理：保育士の社会的役割及び義務 保育実習は実習生であっても、子どもへの影響を及ぼし、守秘義務などを保育士と同様に遵守することが必要である。保育士が遵守する守秘義務や子どもの人権の保障など、具体的事例を交えて説明する。実習生として臨む際の態度や姿勢を討議する。	保育所・保育士に関する法令を調べてくる。（60分）	
第5回	保育所における生活と遊び①：3歳未満児の保育と子どもの発達について検討していく。保育所は0歳児から5歳児までを対象とする施設であるため、0歳児からの子どもの発達を理解していることが保育内容の実習の視点となる。準備学習で課したレポートの見直しを交え、3歳未満児の発達の特徴に応じた保育内容を検討する。	テキスト②を参考に3歳未満児までの発達の特徴をレポートにまとめて提出する。 (90分)	
第6回	保育所における生活と遊び②：3歳以上児の保育計画と子どもの発達について検討する。3歳以上児における個と集団の発達、クラス運営などを準備学習で作成したレポートの見直しを含め検討する。	テキスト②を参考に3歳事以上の子どもの発達の特徴をレポートにまとめてくる。 (90分)	

第7回	保育所の環境：保育における環境に役割について検討していく。実際の保育所や幼稚園の環境構成のスライドを活用して説明し、環境を構成する保育者の意図、保育における環境の意味を討議する。	テキスト p 56～67を 読んでくる。 (60分)
第8回	保育の計画：保育のねらいと内容を理解し、保育者としての視点を持つ。保育所における保育の営みは子どもの発達を踏まえ、保育のねらいをもって進められていることを理解し、指導案の立案から、評価・改善に至る過程を理解し、ねらい、保育者の援助等の持つ意味を検討していく。	テキスト p 92～101を 読んでくる。 (60分)
第9回	実習日誌の書き方①：実際に日誌を書いたり文章表現を検討したりして書き方を学ぶ。 事例を基に、保育実習日誌の書き方を討議していく。討議のまとめとして、望ましい日誌の書き方、文章表現や日誌を書く視点を確認する。	テキスト p 80～91を 読んでくる。 (60分)
第10回	実習日誌の書き方②：準備学習でまとめた個々の日誌を討議し、相手に伝わった内容、表現不足、あるいは不適切な表現等を検証していく。討議を振り返り、気づきをまとめ提出する。提出後、コメントを加え、返却する。	ワークシート1日日記 を仕上げてくる。 (70分)
第11回	保育技術の実践：保育者役と子ども役の学生に分かれグループで絵本の読み聞かせをする。保育者役の学生は読み聞かせの振り返り、子ども役の学生は子どもの立場になり、無記名の読み聞かせの評価を行い、それぞれの振り返り、評価を提出する。学生個々に整理し、返却する。	絵本を選び、読み聞 かせの準備をする。 (60分)
第12回	子どもの発達と遊び：子どもにとって遊びは、発達に必要な学びをもたらす、重要な活動である。発達に合った遊びについて討議し、保育所における「遊び」の意味を理解していく。	テキスト p 44～55を 読んでくる (60分)
第13回	部分実習指導案作成：保育所実習に向けて、部分実習の指導案を作成する。準備学習を参考に、部分実習に取り組む年齢や活動を討議する。その後、部分実習指導案を個々に作成する。作成中は個々の学生に活動内容や配慮事項など個々に指導をしていく。	部分実習に向けて各 年齢の絵本や取り組 みたい活動をまとめ てくる。(60分) 復習：部分指導案の作 成
第14回	保育者の視点：保育者の視点からDVDを活用して子どもへの援助、環境など保育者の意図や願いを討議する。保育実習に取り組む中での学びの視点を確認していく。	テキスト p 68～79ま でを読んでくる。 (60分)
第15回	保育所実習における課題の明確化：準備学習を参考に、保育所実習における日々の課題を作成する。保育所実習の全体を見通し、まず、何を学び、次へと繋ぐかを討議する。保育所実習全体の学びを日々の学びへと具体化し整理していく。	保育所実習で学びたい ことや観察したいこと をまとめてくる。 (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
夏休みに向けた課題：保育実習で使用するエプロン（2枚）を作成し、9月最初の授業に提出をする フィードバックの方法： レポートについては添削及び採点をする。その際、内容によっては再提出を求める。部分実習指導案は添削し修正していく。ワークシート・授業内で回収したプリントなどは添削、解説し返却する。		
テキスト：① 高玉和子編 改訂『実践力がつく 保育実習』 大学図書出版 ② 河原紀子監修・執筆 『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』 学研教育出版		
参考書・参考資料等：保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説		
学生に対する評価：以下の4点を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験 40% ②レポート及び小テスト 40% ③平素の学習状況 10% ④実習準備のための提出物 10%		
実務家教員による授業科目：長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600116710 保育実習指導 I 1 年通年（後期）	必修：（卒）・保	単位数： 2単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等	保：保育実習 保育実習指導 I		
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： ①保育実習の意義・目的及び保育内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。②保育士の職務内容を理解し、実習生として必要な知識・技術を習得する。③子どもの人権の尊重、守秘義務について理解する。④実習施設の役割や機能を理解する。 【テーマ】保育実習の意義や目的、実習施設の役割やそこに勤める保育士の職務内容、利用者及び子ども理解が主なテーマとなる。			
授業の概要： 保育士の職域は保育所をはじめ児童養護施設や乳児院など多岐におよぶ。保育実習Ⅰでは保育所と保育所以外の児童福祉施設の実習が実施される。本授業前期は、保育所以外の児童福祉施設を中心に、保育実習（施設）の意義・目的を理解し、実習の内容と課題を明確にしていく。さらに、実習に際しての留意事項として子どもの人権と最善の利益の配慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成していく。保育実習での観察の視点・日誌の書き方などについては保育実習の取り組みを想定し、事例などを通して具体的に学んでいく。事後指導では保育実習の総括と自己評価を行い今後の課題を明確にしていく。DVDの活用やグループ討議、ワークシートの作成などを取り入れ、理解を深めていきたい。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	施設実習の目的と意義：施設実習は通所だけではなく、宿泊の実習になることもある。児童福祉施設の種類や目的を理解した上で実習に臨むことが必要である。児童福祉施設の概要を学び、施設実習の目的や内容を説明する。授業内に、第 3 回目から第 6 回目までのグループワークの発表担当を決める。	テキスト p 102～113を読んでくる。(60分)	
第 2回	施設実習と子どもの人権：児童福祉施設の利用対象者の年齢は幅広く、利用理由も様々である。実習であっても子どもの人権に配慮し、実習に取り組むことが大切である。子どもの人権やプライバシーについて説明し、実習生としてどのような心構えが必要かを討議していく。	テキスト p 114～121を読んでくる。(60分)	
第 3回	実習施設を学ぶ①－児童養護施設の役割や機能、事例を担当グループが発表する。 授業後は発表の振り返りと児童養護施設について発表の補足を行う。	養護施設について調べる。発表担当者は発表の準備をする。発表の際配布する資料がある場合は授業 2 日前までに教員に提出をする。(60 分) 復習：児童養護施設に関するワークシートを仕上げてくる。(60分)	
第 4回	実習施設を学ぶ②－乳児院の役割や機能、担当するグループが発表を行う 授業始めにワークシートの見直しをする。見直しをしたワークシートは提出し、添削返却する（以降6回目まで同様）	乳児院について調べる。発表担当者は発表の準備をする。発表の際配布する資料がある場合は授業 2 日前までに教員に提出をする。(70 分) 復習：乳児院に関するワークシートを仕上げてくる。(70分)	
第 5回	実習施設を学ぶ③－障がいのある子どもの施設の役割や機能、事例を担当グループが発表をする	障がいのある子どもの施設について調べる。発表担当者は発表の準備をする。発表の際配布する資料がある場合は授業 2 日前までに教員に提出をする。(60 分) 復習：障がいのある子どもの施設	

第 6回	実習施設を学ぶ④ー母子生活支援施設の役割や機能、事例を担当グループが発表する。	に関するワークシートを仕上げてくる。(70分) 母子生活支援施設について調べる。発表担当者は発表の準備をする。発表の際配布する資料がある場合は授業 2 日前までに教員に提出をする。(70分) 復習：母子生活支援施設に関するワークシートを仕上げてくる。(70分)
第 7回	実習施設を学ぶ⑤ー第3回目から6回目のワークシートの確認テストを行い、見直しをする。施設の役割や機能の相違や、施設保育士の職務について検討する。また今回、実習対象とならなかった児童福祉施設についても説明する。	テキスト p 112～131までを読んでくる。(60分)
第 8回	保育実習Ⅰに向けて書類作成ー履歴書など実習に向けて必要な書類などの準備をする ＊施設概要確認テスト	第 3 回から 6 回目でのワークシートを見直してくる。(60分)
第 9回	保育実習日誌作成 保育実習日誌の扱い方や書き方を説明する	テキスト①p78～88 まで読んでくる。(60分)
第10回	オリエンテーションや日誌・部分指導案：実習オリエンテーションに向けた施設への連絡の仕方やオリエンテーションの内容を説明する。更に、日誌の提出について、特に施設実習については日誌に提出の仕方は施設によって異なるため、ワークシートの作成をしながら説明をしていく	テキスト①P23～25を読んでくる。(25分)
第11回	施設実習日誌の書き方①：施設の特徴を踏まえ、準備学習で配布した日誌の事例を基に日誌を書く視点などを検討していく。	配布した施設実習日誌の事例を読んでくる。(60分)
第12回	施設実習日誌の書き方②：DVDを視聴し、その内容を日誌に書き、グループ討議をする。気づかなかった点や不足などを確認し、改善点を明確にしていく。	復習：第 11 回目の改善点などの振り返りをまとめ提出する。
第13回	毎日の「実習のねらい」を設定する 保育所と施設実習との相違点や実習への取り組み内容について討議を行い、それぞれの実習の目的・内容を確認していく。	保育実習日誌の実習の目的を読んでくる。(60分)
第13回	部分実習指導案作成	部分実習指導案の素案を考えてくる。(60分)
第14回	実習における留意事項：保育実習の取り組みに向けて諸注意を説明する。また、それぞれの提出する書類を確認し、部分実習指導案などの個人指導を行う。	実習に向けたチェックシートを仕上げてくる。(60分)
第15回	実習後の振り返りと評価：子どもとの関わりや施設的环境などカテゴリーに分け実習の振り返りを討議する。また、次回の保育実習に向けて改善点を明確にする。	保育実習振り返りシートを作成してくる。(80分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：ワークシートはグループワークに活用あるいは、評価し解説を加え返却する。ワークシートの確認として小テストを実施、採点及び解説をする。		
テキスト：① 高玉和子 編 改訂『実践力がつく 保育実習』 大学図書出版 ②松本峰雄監修 『より深く理解できる 施設実習』 萌文書院		
参考書・参考資料等：『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』		
学生に対する評価：以下の4点を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験 40% ②レポート及び小テスト 40% ③平素の学習状況 10% ④実習準備のための提出物 10%		
実務家教員による授業科目：長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600216821 保育実習Ⅱ 2年前期	必修：（卒）・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：実習施設、 保育実習担当教員 担当形態：実習（複数）
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める 2. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める 3. 既習の教科や実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する 6. 保育士としての自己の課題を明確化する 【テーマ】 保育所の役割や機能について、養護と教育の一体化、保育士の業務内容、職業倫理等について具体的な実践を通して理解を深めていく。実習においては、保育実習Ⅰ（保育所）で学んだことを踏まえて保育を実践することで、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。更に、保育士としての資質、能力、技術の向上を目指すとともに、家庭や地域社会で果たす保育所や保育士の役割について理解を深め、保育士としての識見や判断力を養う。			
保育所実習の概要： 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育について理解を深める (2) 保育所の社会的役割と責任について学ぶ 2. 観察・参加に基づく保育理解 (1) 子どもの観察・かかわりを通して、子どもにふさわしい生活・発達の展開を学ぶ (2) 多くの子どもとかかわる中で、各年齢の特徴や個人差の理解を深める (3) 保育士の援助や指導の内容と方法を学び、部分実習や責任実習に生かす (4) 保育所の一日の流れを理解し、保育に参加する 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解を深める (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ (3) 地域社会との連携の大切さを理解する 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解を深める (2) 指導計画を立案して保育を実践し、保育技術を習得するとともに自己評価をする 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 保育士の助手的立場で、保育準備、環境設定、生活・遊びの指導の方法、安全への配慮等を具体的に学ぶ (2) 保育士の職業倫理を具体的に学ぶ 6. 自己の課題の明確化			
準備学習 ・保育実習指導Ⅱの履修 ・「保育所保育指針」の熟読 ・保育実習日誌のオリエンテーション記録（P9）まで仕上げておく ・責任実習に取り組むにあたり、実習指導案を事前に作成しておく。その際、内容によっては修正及び再提出を求める。また、実習日誌等記録方法についても必要に応じて個別指導を行う。			
事後学習 ・実習報告書を作成 ・保育実習指導Ⅱの授業内において報告書をもとに更に振り返りを行う（個人・グループ発表） ・自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する			

*保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済の者が履修対象となる
事前： オリエンテーション（実習園）・オリエンテーション報告書・健康管理書類提出など
事後： 実習日誌・実習報告書
テキスト： 『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』（小櫃智子編 わかば社）
参考書・参考資料等： 『保育所保育指針解説』（厚生労働省 フレーベル館）
学生に対する評価： 実習園での評価(70%) 実習後の提出書類（30%）

授業科目名：2600216921 保育実習指導Ⅱ 2年前期	必修：（卒）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 保育実習Ⅰ（保育所）の学びの上に、保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について保護者支援も含め総合的に学ぶ。また、子どもの状況に応じた適切な関わりや保育実践ができるよう、保育の実践力を育成する。責任実習を見据えた実習指導案については授業内で事前に立案して実習に備えるとともに、保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善が出来るようにする。更に、保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるように理論及び技術の習熟を目指す。事後指導においては、実習の総括と自己評価を行い、自己の課題を明確にしていく。 【テーマ】 保育実習Ⅱの意義と目的の理解を進めながら保育について総合的に学ぶ。子どもの発達に関する知識をもとに保育現場における保育の観察や記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実習における実践や事例を通して学ぶ。保育所の実際と実習にあたっての留意点及び実習指導案の立案について学ぶとともに、自己評価として振り返りを行い自己の課題を明確化する。			
授業の概要： 保育実習Ⅰ（保育所）をもとに保育所において保育全般に参加し、保育技術の習得を目指す。さらに実習指導案を立案し、現場での保育者の指導・援助のもと、部分実習及び責任実習を行うことで保育所保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理を習得し、保育現場に出られるよう理論及び技術の習熟を目的とする。1. こども理解 2. 保護者とのコミュニケーション 3. 実習指導案を立案し、実習先での実践に備える 4. 職業倫理を理解する 5. 保育士に求められている資質・能力・技術を照らし合わせて、自己の課題を明らかにする。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	保育実習Ⅱの意義と目的及び保育所保育における「養護」「保護者支援」について理解する 小テスト（第 1 回から第 5 回までは保育用語を基本とした漢字テストを行う）	保育所保育指針解説書 p13-20, 30-37を読んでおくこと（60分）	
第 2回	保育実習Ⅱにおける実習課題とねらいの設定及び記録方法（実習日誌の書き方）について理解する 小テスト（第1回から第5回までは保育用語を基本とした漢字テストを行う）	テキストp12-p35, p36-p47を読んでおくこと（60分）	
第 3回	事実収集型及びエピソード記述型による考察の方法について理解する 小テスト（第1回から第5回までは保育用語を基本とした漢字テストを行う）	テキストp48-p57を読んでおくこと（60分）	
第 4回	保育環境の観察と記録のポイントについて整理する 小テスト（第1回から第5回までは保育用語を基本とした漢字テストを行う）	保育所保育指針解説書 p24-p26, 及びテキスト p58-p61を読んでおくこと（60分）	
第 5回	子どもの発達に応じた適切な関わりについて事例をもとに学ぶ① -3歳未満児- 小テスト（第1回から第5回までは保育用語を基本とした漢字テストを行う）	保育所保育指針解説書 p91-p181を読んでおくこと（60分）	
第 6回	保育実習Ⅰの学びを振り返り、改めて保育実習Ⅱの意義と目的を理解したうえで、保育と保護者支援について整理する（保育実習Ⅰの振り返りを中心に行う）	配布資料を読んだうえで要点を確認しておくこと（60分）	
第 7回	子どもの発達に応じた適切な関わりについて事例をもとに学ぶ② -3歳以上児- （第7回から第9回までは実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習）	保育所保育指針解説書 p182-p284を読んでおくこと（60分）実習園の保護者支援・子育て支援につ	

第 8回	実習指導案を立案する意義について理解を深め、実習園の子どもの発達に合った活動案を作成する① (第7回から第9回までは実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習)	いて調べ学習 (30分) テキストp66-p135を読んでおくこと (60分) 実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習 (30分)
第 9回	実習指導案を立案する意義について理解を深め、実習園の子どもの発達に合った活動案を作成する② (第7回から第9回までは実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習)	実習園の子どもの発達に合った実習指導案の作成を進める (60分) 実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習 (30分)
第10回	実習指導案を立案する意義について理解を深め、実習園の子どもの発達に合った活動案及び実習園の保護者支援・子育て支援について発表する	実習園の子どもの発達に合った実習指導案の作成を進める (60分) 実習園の保護者支援・子育て支援について調べ学習 (30分)
第11回	保育実習Ⅱの振り返りをし、自己の課題を明らかにする (保育実習Ⅱの振り返りを中心に行う)	保育実習Ⅱの振り返り (自己評価・実習報告) に関する整理をしておく (60分)
第12回	保育実習Ⅱを通して保育士の専門性についてまとめる (復習として第11回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	保育所保育指針解説書 p14-p16, 及び配布資料を読んでおくこと (60分)
第13回	保護者とのコミュニケーションの大切さを学ぶ (復習として第12回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	保育所保育指針解説書 p328-p342を読んでおくこと (60分)
第14回	保育所が担う社会的な役割について整理し、討論をする (復習として第13回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	保育所保育指針解説書 p26-p29及び配布資料を読んでおくこと (60分)
第15回	保育士の業務内容について整理し、保育士の職業倫理について討議する (復習として第14回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行う)	保育所保育指針解説書 p344-p354及び配布資料を読んでおくこと (60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法：フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。 フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返す。 保育実習指導Ⅱにおいて課した実習指導案を回収後添削し、コメントを返す。 また、実習日誌等記録方法についても必要に応じて個別指導を行う。		
テキスト：『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』（小櫃智子編 わかば社）		
参考書・参考資料等：『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 フレーベル館） 『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（長島和代編 わかば社） 『DVD ある認定こども園の挑戦Ⅲ 創る・織りなす保育 都市部での保育のこころみ』（株）岩波映像		
学生に対する評価：以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。①指導案及び実習に必要な事務的書類の提出(10%) ②授業で調べた内容等の記録及び発表 (20%) ③小テスト及びリアクションペーパー(20%) ④定時試験(40%) ⑤授業態度(10%)		
実務家教員による授業科目：長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2600217021 保育実習Ⅲ 2年前期	必修：（卒）・（保）	単位数： 2単位	担当教員名：実習施設、 保育実習担当教員 担当形態：実習（複数）
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 1. 現場実習を通して児童福祉施設の役割や機能について理解を深める 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解とともに、保護者支援や家庭支援の知識、技術、判断力を養う 3. 保育士の業務内容や子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を体験させるとともに職業倫理について具体的に結びつけて理解する 4. 保育士としての自己の課題を明確化する 【テーマ】 保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえて養護全般に参加し、援助技術を習得するとともに、個別支援計画を作成、実践、評価をもとにして児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉や社会的養護、障害児支援などに対する理解を進めながら、保護者支援や家庭支援の知識・技能・判断力を養い、施設保育士としての総合的な能力の向上を目指す。			
保育所実習の概要： 1. 施設の役割と機能 （1）施設の生活（24時間）と一日の流れを理解し、支援員と一緒に養護活動に参加し、援助技術を習得する。 （2）施設の役割と機能について体験を通して理解し、深める。 2. 施設における支援の実践 （1）子どもの障がいや特性を理解し、受容的応答関係を築いていく。 （2）子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に障がいのある子どもや家庭環境をとまなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 （3）支援計画を理解した上で養護活動に参加し、援助技術を習得する。 （4）子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 （5）職員間の役割分担、チームワーク等の組織的な活動のあり方や家庭・地域社会との関係調整の役割を理解する。 （6）親元を離れて生活する子どもの現状からその子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。 3. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）職員の業務内容と職業倫理について具体的に学ぶ。特に保育士の業務内容を理解する。 4. 施設保育士としての自己課題を明確にしていく。			
準備学習 ・保育実習指導Ⅲの履修 ・実習先の施設概要をまとめておく ・テキスト「施設実習 パーフェクトガイド」の熟読 ・施設実習日誌のオリエンテーション記録（P9）まで仕上げておく ・実習施設に取り組むにあたり支援計画案を作成しておく。その際、内容によっては修正及び再提出を求める。また、実習日誌等記録方法についても必要に応じて個別指導を行う。			
事後学習 ・実習報告書を作成 ・保育実習指導Ⅲの授業内において報告書をもとに振り返りを行う（個人・グループ発表） ・自己評価をもとに今後の自己課題を明確化する			
*保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済の者が履修対象となる			

事前：オリエンテーション（実習先施設）・オリエンテーション報告書・健康管理書類
事後：実習日誌・実習報告書
テキスト：『施設実習 パーフェクトガイド』（守 巧 ・小櫃智子 編著 わかば社）
参考書・参考資料等：『福祉施設実習』（ミネルヴァ書房）よくわかる社会的養護』（ミネルヴァ書房）
学生に対する評価：実習施設での成績(70%)・実習報告書・実習日誌・出勤簿（30%）

授業科目名：2600217121 保育実習指導Ⅲ		必修：（卒）・（保）	単位数： 1単位	担当教員名：瀬川 千津子 担当形態：演習 単独
2年前期				
施行規則等に定める 科目区分又は事項等				
学習成果該当番号：1. 5. 7. 8				
授業の到達目標及びテーマ： ・ 保育所を除く児童福祉施設等の役割や機能について実習を通して理解を深める ・ 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解とともに、保護者支援・家庭支援のための知識・技術・判断力を養う ・ 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する ・ 保育士としての自己の課題を明確化する				
授業の概要： ・ 保育所を除く児童福祉施設の役割と機能 ・ 施設における支援の実際 (1) 信頼関係を築くために (2) 個人差や生活環境に伴う利用者のニーズの把握と利用者 (3) 個別支援計画の作成の仕方 (4) 利用者の家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 ・ 保育士の多様な業務と職業倫理				
授業計画：				
回数	内容		準備学習	
第 1回	保育実習Ⅲの意義と目的及び実習課題の設定・実習日誌の書き方についてー		テキストp8-p27, p44-47, p90-101を読んでおくこと（60分）	
第 2回	リアクションペーパーの提出を求める（第 15 回まで同様） 児童福祉施設（養護系）-乳児院の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める-		テキストp29, p66-67 及び配布資料を読んでおくこと（60分）	
第 3回	（復習として第 1 回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、保育実習Ⅲの意義と目的について確認する） 児童福祉施設（養護系）-児童養護施設の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める-		テキストp28, p64-p65 及び配布資料を読んでおくこと（60分）	
第 4回	（復習として第2回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、乳児院の保育士としての役割について確認する） 児童福祉施設（障害系）-福祉型障害児入所施設の保育士としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める-		テキストp32, p72-p75 及び配布資料を読んでおくこと（60分）	
第 5回	（復習として第3回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、児童養護施設の保育士としての役割について確認する） 社会福祉施設（障害者支援施設）-障害者支援施設の支援員としての役割（利用者の家族への支援と対応を含む）について視聴覚教材を用いて学びを深める-		テキストp34, p82-83 及び配布資料を読んでおくこと（60分）	
第 6回	（復習として第4回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、福祉型障害児入所施設の保育士としての役割について確認する） 実習先の特徴や機能について調べる		保育実習Ⅰの振り返り（自己評価・実習報告）に関する整理をしておく（60分）	
第 7回	（復習として第5回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、障害者支援施設の支援員としての役割について確認する） 保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを整理したうえで実習先が抱える社会的問題について探求し、問題解決学習（利用者の家族への支援と対応を含む）を進める		各自問題解決の方法を考えておく（60分）	

第8回	(復習として第6回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱える諸問題について考える)	各自問題解決の方法を見出し発表出来る状態に仕上げておく(60分)
第9回	(復習として第7回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱える諸問題について理解を深める)	テキストp102-p122及び配布資料を読んでおくこと(60分)
第10回	支援内容の実際について整理しながら個別支援計画を作成する (復習として第8回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先が抱えている諸問題について確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第11回	個別支援計画作成を通して学習者間で積極的に発表し合い、意見交換をする (復習として第9回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先で行う予定の支援内容について確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第12回	保育実習Ⅲの振り返りをし、自己の課題を明らかにする (復習として第10回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、実習先における個別支援計画の実際について振り返り要点を確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第13回	生活環境に伴う利用者のニーズの把握ー利用児(者)に寄り添うとはー (復習として第11回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、自己なりの課題を明らかにする)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第14回	家族支援とその対応について学ぶ (復習として第12回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、生活環境に伴う利用者のニーズの把握について確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第15回	多様な専門職とのチームワークの大切さと連携の方法について学ぶ (復習として第13回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、家族支援とその対応について確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
第15回	各施設での保育士としての業務内容と職業倫理について話し合う (復習として第14回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りを行い、多様な専門職とのチームワークの大切さと連携の方法について確認する)	配布資料を読んでおくこと(60分)
定時試験	定時試験期間中に筆記試験を行う	
フィードバックの方法： フィードバックとしてリアクションペーパーにコメントを返します。		
テキスト： 『施設実習 パーフェクトガイド』(守 巧・小櫃智子 編著 わかば社) 適宜プリント配布		
参考書・参考資料等： 『よくわかる社会的養護』(ミネルヴァ書房) 乳児院・児童養護施設運営ハンドブック 『保育実習指導のミニマムスタンダード』一般社団法人 全国保育士養成協議会編集 中央法規出版		
学生に対する評価： 以下の5項目を総合的に評価して成績を判定する。①指導案及び実習に必要な事務的書類の提出(10%) ②授業で調べた内容等の記録及び発表(10%) ③リアクションペーパー(30%) ④定時試験(40%) ⑤授業態度(10%)		
実務家教員による授業科目： 長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。		

授業科目名：2700217220 ゼミナール	必修：	単位数： 2単位	担当教員名：保育学科専任教員
2年通年			担当形態：演習 分担
施行規則等に定める 科目区分又は事項等			
学習成果該当番号：4. 6			
授業の目的・目標：本学のゼミナールは、「保育者」を目指す全学生が2年間の集大成として、保育に関する専門分野の中からテーマを見出して取り組むものである。 ゼミナールでは、自分が調べてみたいこと、学んで来たことの中からさらに深く掘り下げて研究してみたいことに、一人ひとり、別々に取り組むことができる。つまり自分だけの研究を行う科目である。ゼミナールは指導教員がついて、助言をしたり、一緒に調査をしたり、研究についての指導を受けたりすることができる。一緒に学んできたとはいえ、一人ひとりの興味・関心は異なり、また、先生方とディスカッションをしていく間に自分のやりたいことがはっきりしてくると思われる。以下に研究の対象となる8分野をあげる。これらの分野で「論文」または「小論文と作品」に取り組もう。			
領域「健康」分野 健康の領域では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことをねらいとする。健康であるためには、幼児期に正しい生活習慣を身につけることや自ら進んで全身を使って運動することが重要である。この領域の研究テーマとしては、生活習慣面（食育、睡眠や排泄、衣類の着脱など）や運動面（戸外や室内での遊び、遊具や道具を使った遊びなど）、安全面（病気の予防、安全）などの分野が考えられる。			
領域「人間関係」分野 人とかかわりに関する領域「人間関係」は「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことをねらいとする。保育に於いては、子どもが保育者との信頼関係を基盤として、様々なことを自分の力で行う満足感や充実感を味わうことが大切である。子どもの豊かな人間関係を育てるために、子ども一人ひとり、あるいは集団・家庭・社会など多方面から着目し、テーマを絞り研究を進める。			
領域「環境」分野 領域「環境」は、子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとする。子どもが身近な環境に親しみ、自然と触れあい、自ら試行錯誤しながら発見を楽しんだり、考えたりする過程を大切に考える。自然の大きさ、美しさ、不思議さ、季節の変化、行事、動物・植物、空気・水・光などを対象とする諸現象、数量や図形、動物園・水族館・植物園・博物館等諸施設、科学的なものの見方や考え方を育てるための保育教材のあり方等子どもを取り巻く全ての環境が研究対象になる。			
領域「言葉」分野 言葉は生活の中で聞いたり話したりして発達しますが、その言葉をとらえて研究することはとても難しくてかなわない。そこでその幼児の言葉を発達させることに大いに役立つ児童文化財としての言葉に着目して研究を行う。絵本や紙芝居の物語（昔話・民話・童話）、唱歌や童謡やわらべ歌、手遊びや様々な劇等々の児童文化財には、すべて磨かれた言葉としての作品が存在している。研究はそこから一つを選んで、学問的に分析する。			
領域「表現」分野 表現の領域では、子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や			

表現する力を養い、創造性を豊かにすることをねらいとする。生活の中で美しいものにこころを動かし、音、形、色、手触り、動きなどに気付き、感じたことを音・動き・造形・描画・演技など様々な手法で表現して感動したことを伝え合う楽しさを味わう。表現には様々な素材や表現方法があり、それらに親しみ、工夫して遊ぶことで創造性が豊かになっていく。そうした中に研究テーマをみつけ、学問的に取り組むことができる。

心理関係分野

私たちの心は複雑で揺れ動きやすいものであり、何気ない一言で寂しくなったり、ふと見つけた優しい眼差しに勇気づけられたりする。日頃、見過ごしてきた自分と周りの人々の行動を心理学の視点から見直すと、新しい発見があるものである。乳幼児の心理発達、きょうだいや仲間関係、子どもの気になる行動、青年期の不安、そして子育ての悩みなどの心理学のテーマの中から、各自が興味を持ったり、問題を感じていたりするものを取りあげ、子どもや保護者の支援と、何よりもこれらの問題と関わる自分自身の明日に繋がる生き方について考えていく。

福祉関係分野

福祉の価値は、人の命や生活を守り、その人らしさを尊重することにある。社会福祉が充実する方法として、生活における困難な問題が解決・緩和されること、困難な状態に陥らないように予防すること、そして人々の生活の質の向上が挙げられる。この領域の研究テーマは、児童福祉（被虐待児童、貧困児童、待機児童、子育て不安など）、障がい者福祉（就労支援）に加えて、グローバルな視点から国際社会福祉の分野を扱う。

保育関係分野

ルソーの子どもの発見以降、子どもに対する考え方や教育の方法が変わってきました。「子どもとは・・・」そういった問いかけが、様々な教育思想を生み、教育の方法を構築して来ました。この分野では、こうした教育思想や思想家、子ども観、教育の方法そして、教育史がテーマとなる。諸外国の保育・教育を含め研究の対象として扱う。

授業計画：

- 第1回 ゼミナール学習の意義と内容について
- 第2回 ゼミナール学習で各自が取り組むテーマについての調査
- 第3回 ゼミナール学習におけるテーマについてのまとめ
- 第4回 ゼミナール学習で取り組むテーマの決定
- 第5回～第27回 テーマに沿って各自、指導教官と相談しながら個別に研究を進める
- 第28回・第29回 ゼミナール発表会での研究成果報告
- 第30回 振り返りと総まとめ
- 定時試験 論文等の期限までの提出と研究成果報告をもって定時試験とみなす。

*論文または作品の提出日は1月下旬を予定

準備学習として、次回授業までに各自研究を進めておくこと。
フィードバックは、毎回の授業時に研究の進め方やまとめ方等について指導や助言を直接行う。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：各自のテーマに沿うもの

学生に対する評価：取組状況20% 提出された研究成果70% まとめ・成果報告発表10%

2021年度 貞静学園短期大学保育学科シラバス

補足資料

実務経験のある教員等による授業科目の配置

科目名称	単位	開講 学年	担当教員		授業内容
表現活動指導法(創作活動)Ⅰ	1	2年	別府 浩実	教授	絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。
表現活動指導法(創作活動)Ⅱ	1	2年	別府 浩実	教授	絵本・アートブック・紙芝居の作家であり、幼児から大人対象の創作表現ワークショップを長年行ってきた実務経験から五領域「表現」の創作活動分野を実践的に指導・教授する。
教育実習事前事後の指導	(5)	1年	竹田 恵	准教授	長年幼稚園教諭として勤務し、その経験を踏まえ、幼稚園教諭を目指す学生の教育実習事前事後の指導を担当する。観察方法・日誌・指導案・教材開発等多岐にわたって事前事後の指導を行う。
保育・教職論	2	1年	竹田 恵	准教授	長年幼稚園教諭として勤務し、その経験を踏まえ、保育現場の実例も含め幼稚園教諭並びに保育士の職の在り方について実践的に教授する。
保育教育実践演習	2	2年	朴木 一史 竹田 恵	准教授	保育教育実践演習の授業は複数の視点から捉えるためにも、2名で分担して授業を行う。2名の教員それぞれの経験を生かして、2年後期に開講される演習授業を実践的に行う。
言葉指導法	1	2年	朴木 一史	准教授	初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状(国語)と高等学校教諭2級免許状(国語)も有し、長年小学校教諭として勤務した。また全国小学校国語研究会の理事を経て会長を務めており、日本国語教育学会の理事も務めた実績がある。その経験を生かして、領域言葉の指導法について実践的に教授する。
幼児と言葉	1	1年	朴木 一史	准教授	初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状(国語)と高等学校教諭2級免許状(国語)も有し、長年小学校教諭として勤務した。また小学校就学前の言葉の教育について実践研究を行っている。その経験を生かし、幼児と言葉を担当する。
保育の環境(言語表現)	1	1年	朴木 一史	准教授	初等教育教員養成課程の卒業を修め、中学校教諭1級免許状(国語)と高等学校教諭2級免許状(国語)も有し、長年小学校教諭として勤務した。東京都教育委員会研究開発委員会 国語部会 委員長も経験しており、それらを踏まえ、保育の環境(言語表現)を担当する。
保育の計画と評価	2	2年	瀬川 千津子	講師	長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。
保育内容総論	1	2年	瀬川 千津子	講師	長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。その経験を踏まえ、実践的に教育を行う。
保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	1 1 1	2年	瀬川 千津子	講師	長年保育現場で活躍をしたのち、大学院において子ども人間学を専攻し、他学で実習に関する相談や実習先開拓、実習指導を担当してきた実績がある。保育所や保育所以外の児童福祉施設における実習のための事前事後指導を実践的に行う。

専攻科

介護福祉専攻

授業科目名：生活と福祉 前期	単位数：2単位	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：講義 単独																											
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 個人の自立した生活の営みを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会という単位で人間を捉える視点を身につけ、人の生活との関わりを理解する。介護福祉を支える制度として、社会保障制度、介護保険制度、障害者総合支援法、介護実践に関する諸制度の基本的な仕組み、制度の目的と意義を理解する。 【テーマ】 社会構造や児童、障害者、高齢者それぞれのライフステージに応じた社会保障制度について歴史的背景を踏まえて学ぶ。また、介護保険制度や障害者総合支援法を始め、様々な課題を抱える利用者が活用できる諸制度について学ぶ。																													
授業の概要： 社会福祉、社会保障関連の制度について学ぶ。自身の居住地の市役所等でパンフレットを収集してくることや、制度の適用を身近な家族におきかえて考えてみることを通して制度について学んでいく。 ①家族の形態やライフスタイルの変遷に伴い、社会生活の中で生じる様々な課題や問題の原因を知り、それらの課題に対して支援を行う上での根拠となる、社会保障制度を学ぶ。 ②介護福祉士の業務に関連する、介護保険法や障害者総合支援法などが成立するまでの歴史的背景を学び、現在の制度の意義と目的を正しく理解する。 ③人々の権利を擁護する制度を中心に住まいや健康に関する諸制度の理解を深める。																													
授業計画： <table border="1" data-bbox="159 963 1436 1881"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>第1回 生活と社会福祉①家庭生活の基本機能・家族の概念の変化</td><td>教科書1章1節～3節 自分の生活記録を作成してくる。(20分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>生活と社会福祉②地域・社会や組織の機能、社会構造とライフスタイルの変化</td><td>教科書1章4節～6節 育児休業制度について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>社会保障制度①社会保障制度の基本的な考え方・日本の社会保障制度の変遷</td><td>教科書2章1節～2節 社会保障の定義・目的・機能についてまとめてくる。(30分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>社会保障制度②社会扶助・社会保険・社会保障基礎構造改革・現代の社会保障制度</td><td>教科書2章3節～4節 社会保障給付費について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>介護保険制度①介護保険制度開始までの背景・制度の目的と意義</td><td>教科書3章1節～2節 自分の居住地の市役所等で、介護保険制度に関するパンフレットを収集してくる。授業内で確認し、使用する。</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>介護保険制度②介護保険制度の利用方法、サービス内容・国及び地方自治体の役割</td><td>教科書3章3節～5節 介護支援専門員と地域包括ケアシステムについて調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>障害者の支援を担う法制度 障害者総合支援法開始までの背景・制度の目的と意義</td><td>教科書4章1節～4節 日本における障害者福祉施策の流れ、障害者総合支援法における障害者の定義についてまとめてくる。(90分) 授業内で確認をする。</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>介護実践に関連する制度 個人情報保護法・成年後見制度などの個人の権利を守る制度</td><td>教科書5章1節～5節 生活保護制度、成年後見制度の目的について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。</td></tr> </tbody> </table> 定時試験 筆記試験を行う ※準備学習として、次回授業までに教科書の指定部分を予習し予習ノートに用語整理をしてくる。(60分) 授業時に提出し、後日コメントをつけて返却する。			回数	内容	準備学習	第1回	第1回 生活と社会福祉①家庭生活の基本機能・家族の概念の変化	教科書1章1節～3節 自分の生活記録を作成してくる。(20分) 授業内で確認をする。	第2回	生活と社会福祉②地域・社会や組織の機能、社会構造とライフスタイルの変化	教科書1章4節～6節 育児休業制度について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。	第3回	社会保障制度①社会保障制度の基本的な考え方・日本の社会保障制度の変遷	教科書2章1節～2節 社会保障の定義・目的・機能についてまとめてくる。(30分) 授業内で確認をする。	第4回	社会保障制度②社会扶助・社会保険・社会保障基礎構造改革・現代の社会保障制度	教科書2章3節～4節 社会保障給付費について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。	第5回	介護保険制度①介護保険制度開始までの背景・制度の目的と意義	教科書3章1節～2節 自分の居住地の市役所等で、介護保険制度に関するパンフレットを収集してくる。授業内で確認し、使用する。	第6回	介護保険制度②介護保険制度の利用方法、サービス内容・国及び地方自治体の役割	教科書3章3節～5節 介護支援専門員と地域包括ケアシステムについて調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。	第7回	障害者の支援を担う法制度 障害者総合支援法開始までの背景・制度の目的と意義	教科書4章1節～4節 日本における障害者福祉施策の流れ、障害者総合支援法における障害者の定義についてまとめてくる。(90分) 授業内で確認をする。	第8回	介護実践に関連する制度 個人情報保護法・成年後見制度などの個人の権利を守る制度	教科書5章1節～5節 生活保護制度、成年後見制度の目的について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。
回数	内容	準備学習																											
第1回	第1回 生活と社会福祉①家庭生活の基本機能・家族の概念の変化	教科書1章1節～3節 自分の生活記録を作成してくる。(20分) 授業内で確認をする。																											
第2回	生活と社会福祉②地域・社会や組織の機能、社会構造とライフスタイルの変化	教科書1章4節～6節 育児休業制度について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。																											
第3回	社会保障制度①社会保障制度の基本的な考え方・日本の社会保障制度の変遷	教科書2章1節～2節 社会保障の定義・目的・機能についてまとめてくる。(30分) 授業内で確認をする。																											
第4回	社会保障制度②社会扶助・社会保険・社会保障基礎構造改革・現代の社会保障制度	教科書2章3節～4節 社会保障給付費について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。																											
第5回	介護保険制度①介護保険制度開始までの背景・制度の目的と意義	教科書3章1節～2節 自分の居住地の市役所等で、介護保険制度に関するパンフレットを収集してくる。授業内で確認し、使用する。																											
第6回	介護保険制度②介護保険制度の利用方法、サービス内容・国及び地方自治体の役割	教科書3章3節～5節 介護支援専門員と地域包括ケアシステムについて調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。																											
第7回	障害者の支援を担う法制度 障害者総合支援法開始までの背景・制度の目的と意義	教科書4章1節～4節 日本における障害者福祉施策の流れ、障害者総合支援法における障害者の定義についてまとめてくる。(90分) 授業内で確認をする。																											
第8回	介護実践に関連する制度 個人情報保護法・成年後見制度などの個人の権利を守る制度	教科書5章1節～5節 生活保護制度、成年後見制度の目的について調べてくる。(60分) 授業内で確認をする。																											
テキスト： 『最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解』（中央法規）																													
参考書・参考資料等： 『最新 介護福祉全書 第2巻 社会の理解』（メヂカルフレンド社） 適宜、資料を配布する。																													

学生に対する評価：社会保障制度の、医療保険・年金保険・様々な福祉制度は、将来にわたり自分自身の生活に密接に関係するものである。事前に書籍などで制度の概要を調べ、一定の理解をして授業に臨むことが求められる。

(授業態度10% 提出物・予習ノート20% 定時試験70%)

授業科目名：介護概論A		単位数：8単位	担当教員名： 吉藤 郁
通年(前期)			担当形態： 講義 単独
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標・テーマ】 介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士が誕生した背景と介護福祉士の社会的役割を理解し、個人を尊重した支援の基本となる考え方や姿勢、具体的な支援方法を身につける。			
授業の概要： ①介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士誕生の背景と社会的役割を理解する。 ②介護を受ける人々の生活や環境を理解し、個人を尊重した支援方法の基盤となる考え方を学ぶ。 ③介護職が実践する、援助方法とその意義を学ぶ。 ④個人の尊厳や自立支援など、介護を実践する上で必要な概念を学ぶ。 ⑤リハビリテーションの重要性を学ぶ。			
授業計画：			
回数	内容	準備学習	
第 1回	第 1回 日本における介護の成り立ち	教科書 p 2～7 老人福祉法制定まで(30分)	
第 2回	介護の概念の変化：施設ケアから個別ケア、在宅へ	教科書p7～13 施設・居宅での介護の役割の違いについて考えてみる。(30分)授業時に確認する。	
第 3回	介護の概念の変化：介護の定義、捉え方・考え方の変化	教科書p13～17 (30分)	
第 4回	介護の概念の変化：介護問題の背景	教科書p18～23 現代社会においてどのような介護問題があるか書き出してくる。(30分) 授業時に確認する。	
第 5回	自立に向けた介護①：介護の専門性とは何か	教科書p24～36 (30分)	
第 6回	自立に向けた介護②：利用者に合わせた支援	教科書p37～45 個別ケアを構成する要素について考えてくる。(30分) 授業時に確認する。	
第 7回	自立に向けた介護③：介護における自立支援の意味	教科書p45～54 (30分)	
第 8回	自立に向けた介護④：自立に向けた介護サービスのあり方	教科書p54～64 レポート課題 障害をもつ人にとっての自立とはどのようなことか考えをまとめる。(90分)授業時に提出。後日コメントをつけて返却する。	
第 9回	自立を妨げる介護について考える。グループワークを行なう	教科書p66～78 (30分)	
第10回	生活支援の理解①：生活の特性	教科書 p66～78 事前にワークシートを作成してくる。(60分) 授業内のグループワークで使用する。	
第11回	生活支援の理解②：生活の理解・グループワーク	教科書 p 79～87 (30分)	
第12回	介護を必要とする人の生活理解①：高齢者の生活	教科書 p 87～94 (30分)	
第13回	介護を必要とする人の生活理解②：障害のある人の生活	教科書p95～100 (30分)	
第14回	その人らしさを大切にしたい支援①：『その人らしさ』の理解	教科書p100～104 (30分)	
第15回	その人らしさを大切にしたい支援②：『その人らしさ』を支える介護	教科書p104～110 (30分)	
第16回	その人らしさを大切にしたい支援③：生活ニーズの把握と介護福祉士の役割	教科書p111～120 (30分)	
第17回	生活障害の理解：生活障害の捉えかた	教科書 p 121～136 (30分)	
第18回	生活環境の重要性の理解①：安全で居心地の良い生活環境の整え方	教科書 p 121～136 事前にワ	
第19回	生活環境の重要性の理解②	教科書 p 121～136 事前にワ	

	事例を通して考える・グループワーク	ークシートを作成してくる。 (60分) 授業内のグループワークで使用する。
第20回	介護を必要とする人の全体像をとらえる①	
第21回	介護を必要とする人の全体像をとらえる②: ICFの考え方と意義	教科書p173～179 「障害の理解」のICFの部分を復習してくる。 (90分)
第22回	介護を必要とする人の全体像をとらえる③: ICFにおける活動と参加の理解	教科書p173～179 (30分)
第23回	介護を必要とする人の全体像をとらえる④: ICFにおける個人因子と環境因子の考え方	教科書p173～179 (30分)
第24回	介護を必要とする人の全体像をとらえる⑤: ICFの視点にもとづくアセスメント	教科書p179～183 (30分)
第25回	ICFの視点に基づく生活支援	教科書p184～185 (30分)
第26回	介護に求められる自立、個別支援①: 高齢者の事例をもとに考える	
第27回	介護に求められる自立、個別支援②: 障害者の事例をもとに考える	
第28回	介護をめぐる課題①: 高齢者を取り巻く課題について取り上げる	
第29回	介護をめぐる課題②: 障害者を取り巻く課題について取り上げる	
第30回	前期まとめ	
定時試験	筆記試験を行う	
※準備学習として、毎回教科書の指定箇所を予習してくる。 (60 分)		
*適宜、小テストを行なう。解答時に解説を行なう。		
テキスト:『最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I』 中央法規		
参考書・参考資料等:『最新 介護福祉全書 第3巻 介護の基本』 (メヂカルフレンド社) 『新・介護福祉士養成講座 障害の理解』中央法規		
学生に対する評価:介護福祉士としての基本知識や、支援の根拠となる知識を学ぶ教科であるため、理想の介護福祉士とは何か、自分自身でもイメージを持ち、積極的に参加することが求められる。授業への参加態度を重視する。評価は定時試験の結果と授業参加態度および課題提出状況・内容の総合評価となる。(定時試験70% 授業態度10% 課題10% 小テスト10%)		

授業科目名：介護概論A 通年(後期)	単位数：(8単位)	担当教員名： 吉藤 郁 担当形態： 講義 単独																																																			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標・テーマ】 介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士が誕生した背景と介護福祉士の社会的役割を理解し、個人を尊重した支援の基本となる考え方や姿勢、具体的な支援方法を身につける。																																																					
授業の概要： ①介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士誕生の背景と社会的役割を理解する。 ②リハビリテーションの重要性を学ぶ。 ③介護福祉士を支える制度や、介護保険制度の仕組みを学ぶ。 ④介護福祉士を取り巻く現状の問題と課題を学び、今後の展望を考える。 ⑤高齢者虐待問題の現状を理解し、介護福祉士としての対応方法を学ぶ。																																																					
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第31回</td><td>介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義①食事・排泄・清潔</td><td>教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)</td></tr> <tr> <td>第32回</td><td>介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義②休息・睡眠・移動</td><td>教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)</td></tr> <tr> <td>第33回</td><td>生活援助とその意義：生活支援における自立</td><td>教科書p147～149 家族が行なう家事と介護職が行なう家事支援の違いについて考えてくる。 (30分)</td></tr> <tr> <td>第34回</td><td>介護福祉士が行なう相談援助①：生活支援における相談援助の意義と方法</td><td>教科書p150～152 (30分)</td></tr> <tr> <td>第35回</td><td>介護福祉士が行なう相談援助②：家族に対する精神的支援</td><td>教科書p152～153 (30分)</td></tr> <tr> <td>第36回</td><td>介護福祉士が行なう相談援助③：地域で自分らしく暮らし続けるための援助</td><td>教科書 p 153～157 (30分)</td></tr> <tr> <td>第37回</td><td>尊厳を支える介護①：尊厳とは何か</td><td>教科書p158～162 (30分)</td></tr> <tr> <td>第38回</td><td>尊厳を支える介護②：介護現場における尊厳</td><td>教科書p162～165 実習での「尊厳を守る介護」と「尊厳が守られていない介護」について例をあげてくる。 (60分)</td></tr> <tr> <td>第39回</td><td>尊厳を支える介護③：尊厳と自立支援の関係について考える。</td><td></td></tr> <tr> <td>第40回</td><td>尊厳を支える介護④：尊厳を支える上で介護福祉士に求められること</td><td>教科書p165～172 (30分)</td></tr> <tr> <td>第41回</td><td>介護におけるリハビリテーション①：リハビリテーションの定義</td><td>教科書p186～191 (30分)</td></tr> <tr> <td>第42回</td><td>介護におけるリハビリテーション②：リハビリテーションと自立支援</td><td>教科書p191～195 (30分)</td></tr> <tr> <td>第43回</td><td>介護におけるリハビリテーション③：リハビリテーション専門職との連携</td><td>教科書p195～200 リハビリテーション専門職種について資格と役割についてまとめてくる。(60分)授業時に確認する。</td></tr> <tr> <td>第44回</td><td>介護における課題①：ダブルケアとヤングケアラーの現状と支援</td><td></td></tr> <tr> <td>第45回</td><td>介護における課題②：地域で暮らす認知症高齢者と家族への支援（鉄道事故から考える）</td><td></td></tr> <tr> <td>第46回</td><td>介護における課題③：障害のある人の人権擁護と介</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第31回	介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義①食事・排泄・清潔	教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)	第32回	介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義②休息・睡眠・移動	教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)	第33回	生活援助とその意義：生活支援における自立	教科書p147～149 家族が行なう家事と介護職が行なう家事支援の違いについて考えてくる。 (30分)	第34回	介護福祉士が行なう相談援助①：生活支援における相談援助の意義と方法	教科書p150～152 (30分)	第35回	介護福祉士が行なう相談援助②：家族に対する精神的支援	教科書p152～153 (30分)	第36回	介護福祉士が行なう相談援助③：地域で自分らしく暮らし続けるための援助	教科書 p 153～157 (30分)	第37回	尊厳を支える介護①：尊厳とは何か	教科書p158～162 (30分)	第38回	尊厳を支える介護②：介護現場における尊厳	教科書p162～165 実習での「尊厳を守る介護」と「尊厳が守られていない介護」について例をあげてくる。 (60分)	第39回	尊厳を支える介護③：尊厳と自立支援の関係について考える。		第40回	尊厳を支える介護④：尊厳を支える上で介護福祉士に求められること	教科書p165～172 (30分)	第41回	介護におけるリハビリテーション①：リハビリテーションの定義	教科書p186～191 (30分)	第42回	介護におけるリハビリテーション②：リハビリテーションと自立支援	教科書p191～195 (30分)	第43回	介護におけるリハビリテーション③：リハビリテーション専門職との連携	教科書p195～200 リハビリテーション専門職種について資格と役割についてまとめてくる。(60分)授業時に確認する。	第44回	介護における課題①：ダブルケアとヤングケアラーの現状と支援		第45回	介護における課題②：地域で暮らす認知症高齢者と家族への支援（鉄道事故から考える）		第46回	介護における課題③：障害のある人の人権擁護と介	
回数	内容	準備学習																																																			
第31回	介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義①食事・排泄・清潔	教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)																																																			
第32回	介護職が行なう生活支援：身体介護とその意義②休息・睡眠・移動	教科書p138～147 「生活支援技術・身体」で学んだ該当箇所を復習してくる。 (60分)																																																			
第33回	生活援助とその意義：生活支援における自立	教科書p147～149 家族が行なう家事と介護職が行なう家事支援の違いについて考えてくる。 (30分)																																																			
第34回	介護福祉士が行なう相談援助①：生活支援における相談援助の意義と方法	教科書p150～152 (30分)																																																			
第35回	介護福祉士が行なう相談援助②：家族に対する精神的支援	教科書p152～153 (30分)																																																			
第36回	介護福祉士が行なう相談援助③：地域で自分らしく暮らし続けるための援助	教科書 p 153～157 (30分)																																																			
第37回	尊厳を支える介護①：尊厳とは何か	教科書p158～162 (30分)																																																			
第38回	尊厳を支える介護②：介護現場における尊厳	教科書p162～165 実習での「尊厳を守る介護」と「尊厳が守られていない介護」について例をあげてくる。 (60分)																																																			
第39回	尊厳を支える介護③：尊厳と自立支援の関係について考える。																																																				
第40回	尊厳を支える介護④：尊厳を支える上で介護福祉士に求められること	教科書p165～172 (30分)																																																			
第41回	介護におけるリハビリテーション①：リハビリテーションの定義	教科書p186～191 (30分)																																																			
第42回	介護におけるリハビリテーション②：リハビリテーションと自立支援	教科書p191～195 (30分)																																																			
第43回	介護におけるリハビリテーション③：リハビリテーション専門職との連携	教科書p195～200 リハビリテーション専門職種について資格と役割についてまとめてくる。(60分)授業時に確認する。																																																			
第44回	介護における課題①：ダブルケアとヤングケアラーの現状と支援																																																				
第45回	介護における課題②：地域で暮らす認知症高齢者と家族への支援（鉄道事故から考える）																																																				
第46回	介護における課題③：障害のある人の人権擁護と介																																																				

	護
第47回	介護における課題④：生活の場での看取り
第48回	介護における課題⑤：介護福祉士に求められる倫理 (介護職による虐待事件から考える)
第49回	介護における課題⑥：介護人材の確保
第50回	介護に関する様々な取り組み①：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(準備)
第51回	介護に関する様々な取り組み②：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。
第52回	介護に関する様々な取り組み③：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(全体討議)
第53回	介護に関する様々な取り組み④：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(準備)
第54回	介護に関する様々な取り組み⑤：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。
第55回	介護に関する様々な取り組み⑥：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(全体討議)
第56回	介護に関する様々な取り組み⑦：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(準備)
第57回	介護に関する様々な取り組み⑧：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。
第58回	介護に関する様々な取り組み⑨：個々に介護に関する 話題を新聞、書籍から取り上げまとめたものをクラ スで発表。(全体討議)
第59回	介護福祉士に求められること
第60回	1年のまとめ
定時試験	筆記試験を行う

※準備学習として、教科書の指定箇所を予習してくること。

*適宜、小テストを行なう。解答時、解説をする。

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ』 中央法規

参考書・参考資料等：『最新 介護福祉全書 第3巻 介護の基本』(メヂカルフレンド社)
適宜、資料を配布する。

学生に対する評価：介護福祉士としての基本や、支援の根拠となる知識を学ぶ教科であるため、理想の介護福祉士とは何か、自分自身でもイメージを持ち、積極的に授業に参加することが求められる。授業への参加態度を重視する。評価は定時試験の結果と授業態度および課題提出状況・内容の総合評価となる。(定時試験70% 授業態度10% 課題10% 小テスト10%)

授業科目名：介護概論B 通年(前期)	単位数：4単位	担当教員名： 吉藤 郁 担当形態： 講義 単独																																										
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護福祉士を取り巻く状況を踏まえた上で、介護福祉士とは何か、また介護福祉士のあるべき姿について理解できる。高齢者や障害者などに対する各種サービスについて、目的やサービス内容を理解できる。事故防止や感染対策など、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解できる。 【テーマ】 介護福祉士として仕事に従事するにあたり、必要な知識・技術を習得することをテーマとし、①社会福祉士及び介護福祉士法、②職業倫理、③各種介護サービス、④多職種連携・地域連携、⑤リスクマネジメント、⑥介護従事者の健康管理などについて取り上げる。																																												
授業の概要： ①社会福祉士及び介護福祉士法、その他関連法を学び、介護福祉士の役割や職業倫理について学ぶ。 ②介護サービスの特性を学ぶ。居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス等の内容を理解する。																																												
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>介護福祉士を取り巻く状況・求められる介護福祉士</td><td>教科書 p2～12 現在、どのような介護問題が生じているか考えてくる。授業時に確認する。(30分)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>社会福祉士及び介護福祉士法①</td><td>教科書 p12～17 (30分)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>社会福祉士及び介護福祉士法② 介護福祉士の定義規定、義務規定を理解する。</td><td>教科書 p17～21 介護福祉士資格の養成課程 介護福祉士取得方法や養成カリキュラムが変更となった背景について考えてみる。授業時に確認する。(30分)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>介護における専門職能団体 専門職能団体とその役割</td><td>教科書 p22～32 (30分)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>介護福祉士の倫理①倫理判断の視点</td><td>教科書 p33～43 「全国保育士会倫理綱領」を見直してくる。(30分)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>介護福祉士の倫理②日本介護福祉士会倫理綱領 課題をもとにグループワークを行なう。課題は授業後に提出する。後日、コメントをつけて返却する。</td><td>教科書 p44～51 保育士の倫理綱領と介護福祉士の倫理綱領の違いについてまとめてくる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>介護サービスの特性</td><td>教科書 p54～59 介護サービスの意味と特性を整理する。(30分)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>ケアマネジメントとは ケアマネジメントの流れとしくみを理解する。</td><td>教科書 p62～67 (30分)</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>介護サービスの歴史的変遷 介護サービスの歴史的変遷と介護福祉士の役割を理解する。</td><td>教科書 p68～74 (30分)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>介護サービスの理解 グループワーク・介護保険制度と障害者総合支援法のサービスの違いについてグループで意見を出し合う。</td><td>教科書 p74～85 (30分)</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>介護保険サービス① 訪問系サービスの種類について理解する。</td><td>教科書 p86～92 (30分)</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>介護保険サービス② 通所系サービス、短期入所系サービス、複合型サービスの特性と違いについて理解する。</td><td>教科書 p92～100 居住地の介護保険制度に関するパンフレットをもらってこること。授業内で使用するため、授業時に持参すること。(90分)</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>介護保険サービス③</td><td>教科書 p101～114 入地域密着型</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	介護福祉士を取り巻く状況・求められる介護福祉士	教科書 p2～12 現在、どのような介護問題が生じているか考えてくる。授業時に確認する。(30分)	第2回	社会福祉士及び介護福祉士法①	教科書 p12～17 (30分)	第3回	社会福祉士及び介護福祉士法② 介護福祉士の定義規定、義務規定を理解する。	教科書 p17～21 介護福祉士資格の養成課程 介護福祉士取得方法や養成カリキュラムが変更となった背景について考えてみる。授業時に確認する。(30分)	第4回	介護における専門職能団体 専門職能団体とその役割	教科書 p22～32 (30分)	第5回	介護福祉士の倫理①倫理判断の視点	教科書 p33～43 「全国保育士会倫理綱領」を見直してくる。(30分)	第6回	介護福祉士の倫理②日本介護福祉士会倫理綱領 課題をもとにグループワークを行なう。課題は授業後に提出する。後日、コメントをつけて返却する。	教科書 p44～51 保育士の倫理綱領と介護福祉士の倫理綱領の違いについてまとめてくる。(60分)	第7回	介護サービスの特性	教科書 p54～59 介護サービスの意味と特性を整理する。(30分)	第8回	ケアマネジメントとは ケアマネジメントの流れとしくみを理解する。	教科書 p62～67 (30分)	第9回	介護サービスの歴史的変遷 介護サービスの歴史的変遷と介護福祉士の役割を理解する。	教科書 p68～74 (30分)	第10回	介護サービスの理解 グループワーク・介護保険制度と障害者総合支援法のサービスの違いについてグループで意見を出し合う。	教科書 p74～85 (30分)	第11回	介護保険サービス① 訪問系サービスの種類について理解する。	教科書 p86～92 (30分)	第12回	介護保険サービス② 通所系サービス、短期入所系サービス、複合型サービスの特性と違いについて理解する。	教科書 p92～100 居住地の介護保険制度に関するパンフレットをもらってこること。授業内で使用するため、授業時に持参すること。(90分)	第13回	介護保険サービス③	教科書 p101～114 入地域密着型
回数	内容	準備学習																																										
第1回	介護福祉士を取り巻く状況・求められる介護福祉士	教科書 p2～12 現在、どのような介護問題が生じているか考えてくる。授業時に確認する。(30分)																																										
第2回	社会福祉士及び介護福祉士法①	教科書 p12～17 (30分)																																										
第3回	社会福祉士及び介護福祉士法② 介護福祉士の定義規定、義務規定を理解する。	教科書 p17～21 介護福祉士資格の養成課程 介護福祉士取得方法や養成カリキュラムが変更となった背景について考えてみる。授業時に確認する。(30分)																																										
第4回	介護における専門職能団体 専門職能団体とその役割	教科書 p22～32 (30分)																																										
第5回	介護福祉士の倫理①倫理判断の視点	教科書 p33～43 「全国保育士会倫理綱領」を見直してくる。(30分)																																										
第6回	介護福祉士の倫理②日本介護福祉士会倫理綱領 課題をもとにグループワークを行なう。課題は授業後に提出する。後日、コメントをつけて返却する。	教科書 p44～51 保育士の倫理綱領と介護福祉士の倫理綱領の違いについてまとめてくる。(60分)																																										
第7回	介護サービスの特性	教科書 p54～59 介護サービスの意味と特性を整理する。(30分)																																										
第8回	ケアマネジメントとは ケアマネジメントの流れとしくみを理解する。	教科書 p62～67 (30分)																																										
第9回	介護サービスの歴史的変遷 介護サービスの歴史的変遷と介護福祉士の役割を理解する。	教科書 p68～74 (30分)																																										
第10回	介護サービスの理解 グループワーク・介護保険制度と障害者総合支援法のサービスの違いについてグループで意見を出し合う。	教科書 p74～85 (30分)																																										
第11回	介護保険サービス① 訪問系サービスの種類について理解する。	教科書 p86～92 (30分)																																										
第12回	介護保険サービス② 通所系サービス、短期入所系サービス、複合型サービスの特性と違いについて理解する。	教科書 p92～100 居住地の介護保険制度に関するパンフレットをもらってこること。授業内で使用するため、授業時に持参すること。(90分)																																										
第13回	介護保険サービス③	教科書 p101～114 入地域密着型																																										

	所系サービス、地域密着型施設について理解する。	施設の概要についてまとめる。 (60分) 授業時に確認する。 教科書p115～112 (30分)
第14回	障害者総合支援法① 障害福祉サービスの概要を理解する。	
第15回	障害者総合支援法②	教科書p122～128 障害福祉サービス、高齢者介護と障害者介護の共通点と相違点についてまとめる。 (90分) 授業後に提出。後日、コメントをつけて返却する。
定時試験 筆記試験を行う		
※次回の講義までに該当箇所を読んでおくことを準備学習として位置づける。(30分)		
*適宜、小テストを実施する。解答後、解説を行なう。		
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』 中央法規		
参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。『最新介護福祉全書3 介護の基本』 メヂカルフレンド社		
学生に対する評価： 授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。 そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績70%、授業態度10%、授業内でのワークシート等の成果物10% 小テスト10%		

授業科目名：介護概論B 通年(後期)	単位数：(4単位)	担当教員名： 吉藤 郁 担当形態： 講義 単独																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護福祉士を取り巻く状況を踏まえた上で、介護福祉士とは何か、また介護福祉士のあるべき姿について理解できる。高齢者や障害者などに対する各種サービスについて、目的やサービス内容を理解できる。事故防止や感染対策など、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解できる。 【テーマ】 介護福祉士として仕事に従事するにあたり、必要な知識・技術を習得することをテーマとし、①社会福祉士及び介護福祉士法、②職業倫理、③各種介護サービス、④多職種連携・地域連携、⑤リスクマネジメント、⑥介護従事者の健康管理などについて取り上げる。																																			
授業の概要： ①多職種連携、地域連携の意義と目的、方法について学ぶ。 ②介護実践における安全の確保と、事故防止、感染対策などのリスクマネジメントについて学ぶ。 ③介護に携わる上で必要な介護従事者の健康管理の方法や関連制度について学ぶ。																																			
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第16回</td><td>多職種連携の意義と目的</td><td>教科書p130～135 (30分)</td></tr> <tr> <td>第17回</td><td>多職種連携の意義と目的 協働職種の理解と連携のあり方①</td><td>教科書p135～146 関連職種について書かれている書籍に目を通しておくこと。 関連協働職種について役割と働く場についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。</td></tr> <tr> <td>第18回</td><td>協働職種の理解と連携のあり方② 多職種連携の実際・事例についてグループワークを行なう。</td><td>教科書p146～153 (30分)</td></tr> <tr> <td>第19回</td><td>地域連携① 地域連携の意義と目的、介護福祉士の役割</td><td>教科書p154～159 (30分)</td></tr> <tr> <td>第20回</td><td>地域連携②</td><td>教科書p160～166 地域連携に関わる機関の概要についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。</td></tr> <tr> <td>第21回</td><td>地域連携③ 地域連携の実際・事例についてグループワークを行なう。</td><td>教科書p166～173 (30分)</td></tr> <tr> <td>第22回</td><td>介護における安全の確保 介護における安全確保の重要性を理解する。</td><td>教科書p176～187 事前ワークシートを作成してやる。(30分) 授業時に確認する。</td></tr> <tr> <td>第23回</td><td>介護におけるリスクマネジメント① 事故防止、安全対策</td><td>教科書p188～199 (30分)</td></tr> <tr> <td>第24回</td><td>介護におけるリスクマネジメント② 防火、防災対策について理解する。</td><td>教科書p199～203 大地震が起きたとき、高齢者施設ではどのような問題が生じるか考えてくる。授業時に確認する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第25回</td><td>感染管理のための方策① 生活の場での感染対策</td><td>教科書p204～215 保育士養成課程の授業や、『</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第16回	多職種連携の意義と目的	教科書p130～135 (30分)	第17回	多職種連携の意義と目的 協働職種の理解と連携のあり方①	教科書p135～146 関連職種について書かれている書籍に目を通しておくこと。 関連協働職種について役割と働く場についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。	第18回	協働職種の理解と連携のあり方② 多職種連携の実際・事例についてグループワークを行なう。	教科書p146～153 (30分)	第19回	地域連携① 地域連携の意義と目的、介護福祉士の役割	教科書p154～159 (30分)	第20回	地域連携②	教科書p160～166 地域連携に関わる機関の概要についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。	第21回	地域連携③ 地域連携の実際・事例についてグループワークを行なう。	教科書p166～173 (30分)	第22回	介護における安全の確保 介護における安全確保の重要性を理解する。	教科書p176～187 事前ワークシートを作成してやる。(30分) 授業時に確認する。	第23回	介護におけるリスクマネジメント① 事故防止、安全対策	教科書p188～199 (30分)	第24回	介護におけるリスクマネジメント② 防火、防災対策について理解する。	教科書p199～203 大地震が起きたとき、高齢者施設ではどのような問題が生じるか考えてくる。授業時に確認する。(60分)	第25回	感染管理のための方策① 生活の場での感染対策	教科書p204～215 保育士養成課程の授業や、『
回数	内容	準備学習																																	
第16回	多職種連携の意義と目的	教科書p130～135 (30分)																																	
第17回	多職種連携の意義と目的 協働職種の理解と連携のあり方①	教科書p135～146 関連職種について書かれている書籍に目を通しておくこと。 関連協働職種について役割と働く場についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。																																	
第18回	協働職種の理解と連携のあり方② 多職種連携の実際・事例についてグループワークを行なう。	教科書p146～153 (30分)																																	
第19回	地域連携① 地域連携の意義と目的、介護福祉士の役割	教科書p154～159 (30分)																																	
第20回	地域連携②	教科書p160～166 地域連携に関わる機関の概要についてまとめる。(90分) 授業時に確認する。授業後に提出し、後日コメントをつけて返却する。																																	
第21回	地域連携③ 地域連携の実際・事例についてグループワークを行なう。	教科書p166～173 (30分)																																	
第22回	介護における安全の確保 介護における安全確保の重要性を理解する。	教科書p176～187 事前ワークシートを作成してやる。(30分) 授業時に確認する。																																	
第23回	介護におけるリスクマネジメント① 事故防止、安全対策	教科書p188～199 (30分)																																	
第24回	介護におけるリスクマネジメント② 防火、防災対策について理解する。	教科書p199～203 大地震が起きたとき、高齢者施設ではどのような問題が生じるか考えてくる。授業時に確認する。(60分)																																	
第25回	感染管理のための方策① 生活の場での感染対策	教科書p204～215 保育士養成課程の授業や、『																																	

第26回	感染管理のための方策② 個々の感染対策の基礎知識	医療的ケア』など他の教科で学んだ感染管理の方法について復習しておくこと。(30分)
第27回	介護に携わる人の健康管理① 健康管理の意義と目的	教科書p215～227 (30分)
第28回	介護に携わる人の健康管理② こころとからだの健康管理 燃え尽き症候群の予防と対策についてグループワークを行なう。	教科書p230～240 (30分) 教科書p241～248 事前にワークシートを作成してくる。(60分)
第29回	介護に携わる人の健康管理③ 安心して働ける環境づくり	教科書p249～256 (30分)
第30回	まとめ レポート作成「現代社会で求められる介護福祉士について」授業終了時に提出。後日、コメントをつけて返却。	
定時試験	筆記試験を行う	
※使用テキストの指定箇所を予習してくること。		
※適宜、小テストを行なう。採点后、解説をする。		
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』 中央法規		
参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。『最新介護福祉全書 3 介護の基本』 メヂカルフレンド社		
学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。		
定時試験成績70%、授業態度10%、授業内ワークシート等の成果物10% 小テスト10%		

授業科目名：人間関係の基礎と応用 通年（前期）	単位数：2単位	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：演習 単独																					
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーションの意義を理解し、コミュニケーション技術の基礎を習得する。利用者や利用者の家族とのコミュニケーションや、多職種協働におけるコミュニケーション能力を習得する。 【テーマ】 人間関係形成の基礎となるコミュニケーション技術の習得をテーマとし、①人間関係の形成、②コミュニケーション技術の基礎、③介護実習生としてのコミュニケーション、④話を聞く技法などについて、演習を通して体験しながら学んでいく。人間と社会の領域の、『人間の理解』テキスト内のコミュニケーション該当部分については、保育学科の読み替えにより本学課程には組み込まれていないが、国家試験該当範囲であるため、本授業内で学習する。																							
授業の概要： ①介護福祉士として、人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎技術を学ぶ。 ②コミュニケーション技術の基礎を理解し実践出来るために、演習を通して体験しながら学ぶ。 ③介護実習生として利用者と関わる際に求められるコミュニケーションの基礎について、演習を通して学ぶ。																							
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>人間関係とコミュニケーション① オリエンテーション 他己紹介をやってみよう 2人1組での演習。会話から収集した情報をもとに全体に他己紹介する。ワークシートを記載し提出する。</td><td>保育学科で学んだコミュニケーション技術を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>人間関係とコミュニケーション② 対人関係・コミュニケーションの定義 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。言葉のみで伝える難しさ体験。 ワークシートを記載し提出する。</td><td>保育学科で学んだコミュニケーションの基礎技術を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>人間関係とコミュニケーション③ 自己覚知、他者理解、ラポール 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ワークシートを記載し提出する。</td><td>自己覚知、他者理解、ラポールについて用語の定義を調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>人間関係とコミュニケーション④ コミュニケーションの技法 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ジェスチャーでの伝達。ワークシートを記載し提出する。</td><td>テキストp2～p17を読む。欄外に出ていない用語でわからないものは調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>コミュニケーションの基本① 開かれた質問・閉じられた質問 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。</td><td>テキストp84～p85を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 6回</td><td>コミュニケーションの基本② 自分の思う自分・他者から見た自分 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。</td><td>自分の長所は何か、クラスメイトの長所は何か考察する。(60分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	人間関係とコミュニケーション① オリエンテーション 他己紹介をやってみよう 2人1組での演習。会話から収集した情報をもとに全体に他己紹介する。ワークシートを記載し提出する。	保育学科で学んだコミュニケーション技術を復習する。(60分)	第 2回	人間関係とコミュニケーション② 対人関係・コミュニケーションの定義 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。言葉のみで伝える難しさ体験。 ワークシートを記載し提出する。	保育学科で学んだコミュニケーションの基礎技術を復習する。(60分)	第 3回	人間関係とコミュニケーション③ 自己覚知、他者理解、ラポール 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ワークシートを記載し提出する。	自己覚知、他者理解、ラポールについて用語の定義を調べる。(60分)	第 4回	人間関係とコミュニケーション④ コミュニケーションの技法 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ジェスチャーでの伝達。ワークシートを記載し提出する。	テキストp2～p17を読む。欄外に出ていない用語でわからないものは調べる。(60分)	第 5回	コミュニケーションの基本① 開かれた質問・閉じられた質問 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp84～p85を読む。(60分)	第 6回	コミュニケーションの基本② 自分の思う自分・他者から見た自分 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。	自分の長所は何か、クラスメイトの長所は何か考察する。(60分)
回数	内容	準備学習																					
第 1回	人間関係とコミュニケーション① オリエンテーション 他己紹介をやってみよう 2人1組での演習。会話から収集した情報をもとに全体に他己紹介する。ワークシートを記載し提出する。	保育学科で学んだコミュニケーション技術を復習する。(60分)																					
第 2回	人間関係とコミュニケーション② 対人関係・コミュニケーションの定義 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。言葉のみで伝える難しさ体験。 ワークシートを記載し提出する。	保育学科で学んだコミュニケーションの基礎技術を復習する。(60分)																					
第 3回	人間関係とコミュニケーション③ 自己覚知、他者理解、ラポール 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ワークシートを記載し提出する。	自己覚知、他者理解、ラポールについて用語の定義を調べる。(60分)																					
第 4回	人間関係とコミュニケーション④ コミュニケーションの技法 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。ジェスチャーでの伝達。ワークシートを記載し提出する。	テキストp2～p17を読む。欄外に出ていない用語でわからないものは調べる。(60分)																					
第 5回	コミュニケーションの基本① 開かれた質問・閉じられた質問 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp84～p85を読む。(60分)																					
第 6回	コミュニケーションの基本② 自分の思う自分・他者から見た自分 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。	自分の長所は何か、クラスメイトの長所は何か考察する。(60分)																					

第 7回	ワークシートを記載し提出する。 コミュニケーションの基本③ かかわりの基本動作（SOLER）、ジョハリの窓 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp12～p17、p31～36を読む。(60分)
第 8回	介護福祉士に必要なコミュニケーション技術 利用者との関係づくり 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。実習時のコミュニケーション。 ワークシートを記載し提出する。	利用者との関わり方について、他授業で学んだことを復習する。(60分)
第 9回	介護実習生のコミュニケーション① 実習に向けた自己紹介 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 実習生として利用者および実習指導者等に自己紹介する内容を考え、ワークシートを記載する。 全体で発表し、共有する。	これまでの実習（保育学科での実習も含む）を踏まえ、介護実習での自己紹介においてどのようなことを伝えるべきか考えまとめる。(60分)
第10回	介護実習生のコミュニケーション② 利用者や職員とのコミュニケーション、敬語 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 実習生として利用者および実習指導者とのコミュニケーションの事例について、ワークシートを記載する。全体で発表し、共有する。	基本的な敬語表現について書かれている書籍を読む。(60分)
第11回	話を聞く技法① 受容、傾聴、共感、相手の納得と同意を得る技法 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp52～p77を読む。(60分)
第12回	話を聞く技法② 質問の仕方、相談の技法 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp81～p99を読む。(60分)
第13回	話を聞く技法③ 意欲を引き出す、利用者と家族の意向の調整 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキストp105～p130を読む。(60分)
第14回	チームのコミュニケーション① 記録の意義と目的、書き方、管理方法 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 2人1組での演習。 ワークシートを記載し提出する。	テキスト p209～p235 を読む。 『介護過程』で学んだ記録の書き方について復習する。(60分)
第15回	チームのコミュニケーション② 報告・連絡・相談、会議の方法と留意点 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価	テキストp200～p208を読む。(60分)

価で個別に返却後全体で学びの共有。	
定時試験	筆記試験を実施
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』 中央法規	
参考書・参考資料等：『新・介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規については、重要な内容は整理して授業内で学習出来るように、教員作成のプリント等により十分学習出来るようにする。その他、適宜、資料を配布する。	
学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績70%、授業態度10%、ワークシート等の成果物20%	

授業科目名：人間関係の基礎と応用 通年（後期）	単位数：（2単位）	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：演習 オムニバス																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーションの意義を理解し、前期に学習したコミュニケーション技術の基礎を応用することが出来る。コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、介護過程を展開する際に適切なコミュニケーションを実践できるようになる。また、レクリエーション援助における基礎を学び、介護実習においてレクリエーションの企画及び実施・評価を一人で行うことが出来るようになる。利用者や利用者の家族、多職種協働におけるコミュニケーション技術を実践することが出来る。 【テーマ】 人間関係形成の基礎となるコミュニケーション技術の応用をテーマとし、介護福祉士として従事する際に求められる、①利用者の状況や状態に応じたコミュニケーション技術、②レクリエーションの企画・実施・評価などを取り上げる。																																			
授業の概要： ①利用者一人ひとりに合わせたコミュニケーションが実施出来るよう、利用者の状況や状態に応じたコミュニケーション技術について学ぶ。 ②利用者のQOLを高める手段としてのレクリエーションについて、企画・実施・評価の方法を学ぶ。 ③介護実習において、介護過程を展開する際に求められる利用者や家族、多職種とのコミュニケーションの実践について、演習を通し学ぶ。																																			
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第16回</td><td>レクリエーションの実践① レクリエーションの意義・方法・留意点</td><td>高齢者対象のレクリエーションについて書かれている書籍や雑誌を読む。前期15回の最後に、『レクリエーション企画用紙』作成の課題を出すため、その課題に取り組み、記載したワークシートを持参する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第17回</td><td>レクリエーションの実践② レクリエーション発表会（全員発表） 『レクリエーション企画用紙』に基づき、実習生役になりレクを全体にプレゼンテーションする。実施後、ワークシートを記載する。</td><td>第16回に提出したワークシートを踏まえ、発表時間に合わせた圧縮版の予定表を作成し指示された日までに提出しておく。(60分)</td></tr> <tr> <td>第18回</td><td>介護過程展開のためのアセスメント 利用者や家族、多職種とのコミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 学生の気づきと教員のコメントを全員に個別に返却しフィードバックする。</td><td>テキストp105～p118、p200～p207を読み前期の学習内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第19回</td><td>コミュニケーション障害の理解と対応① さまざまなコミュニケーション障害の理解</td><td>テキストp136～p147を読む。 『障害の特性と支援』で学習した知識を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第20回</td><td>コミュニケーション障害の理解と対応② コミュニケーション障害のある利用者への対応</td><td>テキストp148～p159を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第21回</td><td>状況・状態に応じたコミュニケーション① 聴覚障害のある利用者への対応（手話）① 講義</td><td>聴覚障害について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第22回</td><td>状況・状態に応じたコミュニケーション② 聴覚障害のある利用者への対応（手話）② 演習</td><td>第21回の授業を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第23回</td><td>状況・状態に応じたコミュニケーション③ 視覚障害のある利用者への対応（点字）① 講義</td><td>視覚障害について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第24回</td><td>状況・状態に応じたコミュニケーション④ 視覚障害のある利用者への対応（点字）② 演習</td><td>第23回の授業を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第25回</td><td>状況・状態に応じたコミュニケーション⑤</td><td>テキストp161～p164を読む。</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第16回	レクリエーションの実践① レクリエーションの意義・方法・留意点	高齢者対象のレクリエーションについて書かれている書籍や雑誌を読む。前期15回の最後に、『レクリエーション企画用紙』作成の課題を出すため、その課題に取り組み、記載したワークシートを持参する。(60分)	第17回	レクリエーションの実践② レクリエーション発表会（全員発表） 『レクリエーション企画用紙』に基づき、実習生役になりレクを全体にプレゼンテーションする。実施後、ワークシートを記載する。	第16回に提出したワークシートを踏まえ、発表時間に合わせた圧縮版の予定表を作成し指示された日までに提出しておく。(60分)	第18回	介護過程展開のためのアセスメント 利用者や家族、多職種とのコミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 学生の気づきと教員のコメントを全員に個別に返却しフィードバックする。	テキストp105～p118、p200～p207を読み前期の学習内容を復習する。(60分)	第19回	コミュニケーション障害の理解と対応① さまざまなコミュニケーション障害の理解	テキストp136～p147を読む。 『障害の特性と支援』で学習した知識を復習する。(60分)	第20回	コミュニケーション障害の理解と対応② コミュニケーション障害のある利用者への対応	テキストp148～p159を読む。(60分)	第21回	状況・状態に応じたコミュニケーション① 聴覚障害のある利用者への対応（手話）① 講義	聴覚障害について復習する。(60分)	第22回	状況・状態に応じたコミュニケーション② 聴覚障害のある利用者への対応（手話）② 演習	第21回の授業を復習する。(60分)	第23回	状況・状態に応じたコミュニケーション③ 視覚障害のある利用者への対応（点字）① 講義	視覚障害について復習する。(60分)	第24回	状況・状態に応じたコミュニケーション④ 視覚障害のある利用者への対応（点字）② 演習	第23回の授業を復習する。(60分)	第25回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑤	テキストp161～p164を読む。
回数	内容	準備学習																																	
第16回	レクリエーションの実践① レクリエーションの意義・方法・留意点	高齢者対象のレクリエーションについて書かれている書籍や雑誌を読む。前期15回の最後に、『レクリエーション企画用紙』作成の課題を出すため、その課題に取り組み、記載したワークシートを持参する。(60分)																																	
第17回	レクリエーションの実践② レクリエーション発表会（全員発表） 『レクリエーション企画用紙』に基づき、実習生役になりレクを全体にプレゼンテーションする。実施後、ワークシートを記載する。	第16回に提出したワークシートを踏まえ、発表時間に合わせた圧縮版の予定表を作成し指示された日までに提出しておく。(60分)																																	
第18回	介護過程展開のためのアセスメント 利用者や家族、多職種とのコミュニケーション 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 学生の気づきと教員のコメントを全員に個別に返却しフィードバックする。	テキストp105～p118、p200～p207を読み前期の学習内容を復習する。(60分)																																	
第19回	コミュニケーション障害の理解と対応① さまざまなコミュニケーション障害の理解	テキストp136～p147を読む。 『障害の特性と支援』で学習した知識を復習する。(60分)																																	
第20回	コミュニケーション障害の理解と対応② コミュニケーション障害のある利用者への対応	テキストp148～p159を読む。(60分)																																	
第21回	状況・状態に応じたコミュニケーション① 聴覚障害のある利用者への対応（手話）① 講義	聴覚障害について復習する。(60分)																																	
第22回	状況・状態に応じたコミュニケーション② 聴覚障害のある利用者への対応（手話）② 演習	第21回の授業を復習する。(60分)																																	
第23回	状況・状態に応じたコミュニケーション③ 視覚障害のある利用者への対応（点字）① 講義	視覚障害について復習する。(60分)																																	
第24回	状況・状態に応じたコミュニケーション④ 視覚障害のある利用者への対応（点字）② 演習	第23回の授業を復習する。(60分)																																	
第25回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑤	テキストp161～p164を読む。																																	

第26回	高次脳機能障害のある利用者への対応 ワークシートを記載する。 状況・状態に応じたコミュニケーション⑥ 失語症のある利用者への対応 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価 で個別に返却後全体で学びの共有。ワークシートを記載する。	『障害の発達と支援』で学んだ ことを復習する。(60分) テキストp165～p167を読む。 『障害の発達と支援』で学んだ ことを復習する。(60分)
第27回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑦ 構音障害のある利用者への対応 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価 で個別に返却後全体で学びの共有。ワークシートを記載する。	テキストp167～p171を読む。コ ミュニケーションボードについ て調べる。(60分)
第28回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑧ 認知症のある利用者への対応 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価 で個別に返却後全体で学びの共有。ワークシートを記載する。	テキストp171～p187を読む。 『認知症概論』で学んだことを 復習する。(60分)
第29回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑨ 知的障害のある利用者への対応 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価 で個別に返却後全体で学びの共有。ワークシートを記載する。	テキストp187～p191を読む。 『障害の発達と支援』で学んだ ことを復習する。(60分)
第30回	状況・状態に応じたコミュニケーション⑩ 精神障害のある利用者への対応 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価 で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp191～p196を読む。 『障害の発達と支援』で学んだ ことを復習する。(60分)
定時試験 筆記試験を実施		
*第21回～第24回の手話と点字は、専門講師による授業とする。		
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』 中央法規		
参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。 そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績70%、授業態度10%、ワークシート等の成果物20%		

授業科目名：生活支援技術（身体） 通年	単位数：4単位	担当教員名：小林 久美子 担当形態：演習 単独																																							
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 利用者の尊厳の保持と自立した生活を支えるための生活支援の意義を理解する。ICFの視点に基づくアセスメントを踏まえ、利用者に必要な支援の根拠を把握し、安全で適切な生活支援技術の基礎技術を実践できるようになる。 【テーマ】 身体援助に関する生活支援の基礎技術及び実践態度を中心テーマとし、①移動 ②身じたく ③排泄 ④入浴・清潔の保持 ⑤休息・睡眠 ⑥観察 ⑦褥瘡の予防を取り上げる。																																									
授業の概要： 身体援助に関する生活支援の基礎技術について、講義と演習から学ぶ。利用者の居室等の場面を設定し、生活支援技術の実践場面のデモンストレーションを見学し、留意点や支援の根拠を理解する。利用者役と介護者役を交互に体験する演習を通し、生活支援の基礎技術と専門職としての態度を身につける。																																									
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>オリエンテーション 【講義】基礎介護技術とは何か</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ・Ⅱに目を通し、内容の全体像をイメージする。</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>生活支援の理解：【演習】老人体験</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉高齢者にインタビューをし、心身の変化をイメージする〈課題〉老人体験後の感想等をワークシートにまとめ、次回提出</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>休息・睡眠の介護①：【講義・演習】ベッドメイキング1：意義・目的、寝具のたたみ方広げ方、コーナーの作り方</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p227～241を読む。</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>休息・睡眠の介護②：【演習】ベッドメイキング2：ベッドメイキング（2人で行う）技術の自己評価。 ・技術習得レベル確認試験1（ベッドメイキング）の説明</td><td>準備学習(60分)：〈復習〉技術の練習をする。</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>休息・睡眠の介護③：【技術習得レベルの確認試験1】ベッドメイキング3：試験内容（ベッドメイキング〈2人で行う〉）、評価、ふりかえり</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>移動の介護①：【講義】意義と目的、ボディメカニクス、アセスメント</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（ボディメカニクスの応用）、p82～90を読む。〈復習〉授業内容のふりかえり。</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>移動の介護②：【講義・演習】体位変換1：体位、基本的な視点、起居動作、良肢位</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（主な姿勢）、p91～96を読む。</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>移動の介護③：【演習】体位変換2：上方移動・水平移動の介助、技術の自己評価</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p91～98、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>移動の介護④：【演習】体位変換3：仰臥位から側臥位の介助、技術の自己評価</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p104～112、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>移動の介護⑤：【演習】体位変換4：起き上がりから端座位の介助・端座位から立位への介助、技術の自己評価</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p112～117・p118～119を読む。 〈復習〉技術の練習をする。</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>移動の介護⑥：【講義・演習】歩行・杖歩行の介助、道具・用具、技術の自己評価</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p174～186を読む。 〈復習〉技術の練習をする。</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>移動の介護⑦：【演習】体位変換5：授業内容のふりかえり、技術の繰り返し練習</td><td>準備学習(60分)：授業内容のふりかえり、技術の練習をする。</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	オリエンテーション 【講義】基礎介護技術とは何か	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ・Ⅱに目を通し、内容の全体像をイメージする。	第2回	生活支援の理解：【演習】老人体験	準備学習(60分)：〈予習〉高齢者にインタビューをし、心身の変化をイメージする〈課題〉老人体験後の感想等をワークシートにまとめ、次回提出	第3回	休息・睡眠の介護①：【講義・演習】ベッドメイキング1：意義・目的、寝具のたたみ方広げ方、コーナーの作り方	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p227～241を読む。	第4回	休息・睡眠の介護②：【演習】ベッドメイキング2：ベッドメイキング（2人で行う）技術の自己評価。 ・技術習得レベル確認試験1（ベッドメイキング）の説明	準備学習(60分)：〈復習〉技術の練習をする。	第5回	休息・睡眠の介護③：【技術習得レベルの確認試験1】ベッドメイキング3：試験内容（ベッドメイキング〈2人で行う〉）、評価、ふりかえり	準備学習(60分)：〈予習〉技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。	第6回	移動の介護①：【講義】意義と目的、ボディメカニクス、アセスメント	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（ボディメカニクスの応用）、p82～90を読む。〈復習〉授業内容のふりかえり。	第7回	移動の介護②：【講義・演習】体位変換1：体位、基本的な視点、起居動作、良肢位	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（主な姿勢）、p91～96を読む。	第8回	移動の介護③：【演習】体位変換2：上方移動・水平移動の介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p91～98、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。	第9回	移動の介護④：【演習】体位変換3：仰臥位から側臥位の介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p104～112、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。	第10回	移動の介護⑤：【演習】体位変換4：起き上がりから端座位の介助・端座位から立位への介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p112～117・p118～119を読む。 〈復習〉技術の練習をする。	第11回	移動の介護⑥：【講義・演習】歩行・杖歩行の介助、道具・用具、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p174～186を読む。 〈復習〉技術の練習をする。	第12回	移動の介護⑦：【演習】体位変換5：授業内容のふりかえり、技術の繰り返し練習	準備学習(60分)：授業内容のふりかえり、技術の練習をする。
回数	内容	準備学習																																							
第1回	オリエンテーション 【講義】基礎介護技術とは何か	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ・Ⅱに目を通し、内容の全体像をイメージする。																																							
第2回	生活支援の理解：【演習】老人体験	準備学習(60分)：〈予習〉高齢者にインタビューをし、心身の変化をイメージする〈課題〉老人体験後の感想等をワークシートにまとめ、次回提出																																							
第3回	休息・睡眠の介護①：【講義・演習】ベッドメイキング1：意義・目的、寝具のたたみ方広げ方、コーナーの作り方	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p227～241を読む。																																							
第4回	休息・睡眠の介護②：【演習】ベッドメイキング2：ベッドメイキング（2人で行う）技術の自己評価。 ・技術習得レベル確認試験1（ベッドメイキング）の説明	準備学習(60分)：〈復習〉技術の練習をする。																																							
第5回	休息・睡眠の介護③：【技術習得レベルの確認試験1】ベッドメイキング3：試験内容（ベッドメイキング〈2人で行う〉）、評価、ふりかえり	準備学習(60分)：〈予習〉技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。																																							
第6回	移動の介護①：【講義】意義と目的、ボディメカニクス、アセスメント	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（ボディメカニクスの応用）、p82～90を読む。〈復習〉授業内容のふりかえり。																																							
第7回	移動の介護②：【講義・演習】体位変換1：体位、基本的な視点、起居動作、良肢位	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ巻頭（主な姿勢）、p91～96を読む。																																							
第8回	移動の介護③：【演習】体位変換2：上方移動・水平移動の介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p91～98、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。																																							
第9回	移動の介護④：【演習】体位変換3：仰臥位から側臥位の介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p104～112、参考資料を読む。 〈復習〉技術の練習をする。																																							
第10回	移動の介護⑤：【演習】体位変換4：起き上がりから端座位の介助・端座位から立位への介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p112～117・p118～119を読む。 〈復習〉技術の練習をする。																																							
第11回	移動の介護⑥：【講義・演習】歩行・杖歩行の介助、道具・用具、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p174～186を読む。 〈復習〉技術の練習をする。																																							
第12回	移動の介護⑦：【演習】体位変換5：授業内容のふりかえり、技術の繰り返し練習	準備学習(60分)：授業内容のふりかえり、技術の練習をする。																																							

	・技術習得レベル確認試験2（体位変換）の説明	
第13回	移動の介護⑧【技術習得レベル確認試験2】体位変換6：試験内容（起き上がり→端座位→立位の介助：一部介助）・評価、試験のふりかえり	準備学習(60分)：技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。
第14回	身じたくの介護①：【講義】衣服の着脱の介助1：意義・目的・アセスメント	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p47～50を読む。
第15回	身じたくの介護②：【演習】衣服の着脱の介助2：座位での前開き・かぶりの上衣、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p51～56を読む。〈復習〉技術の練習をする
第16回	身じたくの介護③：【演習】衣服の着脱の介助3：座位でズボン着脱、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p56～58を読む・立位の技術を習得しておく 〈復習〉技術の練習をする。
第17回	身じたくの介護④：【演習】衣服の着脱の介助4：臥位での前開き上着、ズボン着脱、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p59～64を読む、体位変換の復習（仰臥位から側臥位）技術の習得をしておく。〈復習〉技術の練習をする
第18回	身じたくの介護⑤：【演習】衣服の着脱の介助5：浴衣の着脱、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p64を読む 〈復習〉：技術の練習をする。
第19回	身じたくの介護⑥：【演習】衣服の着脱の介助6：授業内容のふりかえり、技術の練習 ・技術習得レベル確認試験3（着脱の介護）の説明	準備学習(60分)：〈予習〉授業内容のふりかえり、技術の練習。
第20回	身じたくの介護⑦：【技術習得レベル確認試験3】衣服の着脱の介助7：試験内容（座位で前開きの上衣・ズボンの着替え：一部介助）、評価、試験のふりかえり	準備学習(60分)：実技習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。
第21回	移動の介護⑨：【講義・演習】車いすの介助1：車いすの種類・基本構造・点検・使い方・操作の仕方	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p131～132、P172を読む。 〈復習〉車いすの名称を覚える。技術の練習をする。
第22回	移動の介護⑩：【演習】車いすの介助2：ベッドから車いすへの移乗の介助（一部介助・全介助）、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉端座位から立位の技術を習得しておく。テキストⅠ p136～142を読む。〈復習〉技術の練習をする。
第23回	移動の介護⑪：【演習】車いすの介助3：車いすからベッドへの移動の介助（一部介助・全介助）、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p143～148を読む 〈復習〉技術の練習をする
第24回	移動の介護⑫：【演習】車いすの介助4：車いすでの移動：介助：段差・坂道・エレベーター、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p163～168を読む 〈復習〉技術の練習をする
第25回	移動の介護⑬：【演習】車いすの介助5：授業内容のふりかえり、技術の練習 ・技術習得レベル確認試験4（移動の介護）の説明	準備学習(60分)：授業内容のふりかえり、技術の練習をする。
第26回	移動の介護⑭：【技術習得レベル確認試験4】車いすの介助6：試験内容（ベッドから車いすへの移乗→移動：一部介助）、評価、試験のふりかえり	準備学習(60分)：技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。

第27回	身じたくの介護⑧：【講義】意義・目的 【演習】洗顔・整髪の介助	準備学習(60分)：〈準備〉テキストⅡ p6～18を読む。 〈復習〉授業内容のふりかえり。
第28回	身じたくの介護⑨：【演習】ひげ剃り・爪の手入れ・耳の清潔の介助	準備学習(60分)：〈準備〉テキストⅡ p18～28を読む。 〈復習〉授業内容のふりかえり。
第29回	観察の技法①：【講義】バイタルサイン：意義、目的、種類、方法、他職種との協働・連携	準備学習(60分)：〈準備〉医療的ケアのテキストの該当箇所を読む。
第30回	観察の技法②：【演習】体温・脈拍・呼吸・血圧測定、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈復習〉授業内容のふりかえり、技術の練習をする。
定時試験	筆記試験を行う	
第31回	入浴・清潔保持の介護①：【講義】意義・目的、道具・用具	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p104～107、p145～146を読む。 〈復習〉授業のふりかえり。
第32回	入浴・清潔保持の介護②：【講義】入浴の介助1：アセスメント、留意点	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p108～111を読む〈復習〉授業のふりかえり
第33回	入浴・清潔保持の介護③：【演習】入浴の介助2：個浴、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p111～117を読む〈復習〉授業のふりかえり
第34回	入浴・清潔保持の介護④：【演習】入浴の介助3：機械・シャワー浴、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p117～124を読む〈復習〉授業のふりかえり
第35回	入浴・清潔保持の介護⑤：【講義】清拭1：留意点・介助のポイント	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p124～132を読む〈復習〉授業のふりかえり
第36回	入浴・清潔保持の介護⑥：【演習】清拭2：全身清拭・部分清拭、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈復習〉授業内容のふりかえり
第37回	入浴・清潔保持の介護⑦：【演習】部分浴(手浴・足浴)、技術の自己評価	準備学習(60分)：テキストⅡ p132～141を読む。
第38回	入浴・清拭保持の介護⑧：【講義】洗髪1：ベッド上での洗髪	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p141～144を読む。 〈課題〉おむつ体験後に、ワークシートにまとめ、第40回に提出
第39回	入浴・清潔保持の介護⑨：【演習】洗髪2：ベッド上での洗髪、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈復習〉授業内容のふりかえり
第40回	排泄の介護①：【演習：グループワーク】おむつ体験(ワークシート)発表し、排泄の介護の心構え・留意点等を共有する 【講義】意義・目的・排泄の自立、アセスメント	準備学習(60分)：〈予習〉おむつ体験し、課題ワークシートにまとめる。 テキストⅡ p162～164を読む。
第41回	排泄の介護②：【演習】陰部洗浄・立位でのパッド交換・手袋の着脱、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p132～134、p175～177を読む。 〈復習〉技術の練習をする。
第42回	排泄の介護③：【演習】トイレ・ポータブルトイレでの排泄介護、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p164～174を読む。 〈復習〉技術の練習をする。
第43回	排泄の介護④：【演習】尿器・差し込み便器での介助、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p178～186を読む。 〈復習〉技術の練習をする。
第44回	排泄の介護⑤：【講義】おむつでの介助1：おむつ・パッドの種類、排尿・排便障害	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p193～200を読む〈復習〉授業のふりかえり

第45回	排泄の介護⑥：【演習】おむつでの介護2：ベッド上おむつ交換、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p187～192を読む〈復習〉技術の練習をする
第46回	排泄の介護⑦：【演習】おむつでの介護3：授業内容のふりかえり、技術の練習。 ・技術習得レベル確認試験5（おむつ交換）の説明	準備学習(60分)：〈予習〉授業内容のふりかえり。〈復習〉技術の練習をする。
第47回	排泄の介護⑧：【技術習得レベル確認試験5】排泄の介護：試験内容（ベッド上でのおむつ交換）評価、試験のふりかえり	準備学習(60分)：〈予習〉技術習得レベル確認試験に向けて十分に練習をする。
第48回	移動の介護⑮：【講義】車いすの介助6：車いすでの外出の留意点	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p163～168を復習し、技術の復習をする。
第49回	移動の介護⑯：【演習】車いすの介助7：車いすでの外出、技術の自己評価 ・修了時実技試験の説明（第54回予定）	準備学習(60分)：〈予習〉車いすでの外出時の配慮点をまとめる。
第50回	休息・睡眠の介護④【講義】意義・目的、安眠を阻害する要因	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p216～221を読む〈復習〉授業のふりかえり
第51回	休息・睡眠の介護⑤【講義・演習】安眠をうながす介護	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p222～226を読む〈復習〉授業のふりかえり
第52回	休息・睡眠の介護⑥【講義】シーツ交換1：意義・目的、留意点	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p233～p236を読む〈復習〉授業のふりかえり
第53回	休息・睡眠の介護⑦【演習】シーツ交換2：シーツ交換（2人で行う）技術の自己評価	準備学習(60分)：〈復習〉技術の練習をする。
第54回	修了時実技試験	準備学習(60分)：〈予習〉修了時実技試験にあたり十分に練習をする。
第55回	修了時実技試験の評価、試験のふりかえり、再試（対象者がいる場合）の説明	準備学習(60分)：〈復習〉技術のふりかえり
第56回	休息・睡眠の介護⑧【講義】電法1：意義・目的・留意点	準備学習(60分)：〈予習〉電法について調べる。 〈課題〉：長時間臥床体験をし、ワークシートを58回に提出
第57回	休息・睡眠の介護⑨【演習】電法2：温電法・冷電法・技術の自己評価	準備学習(60分)：〈復習〉授業内容を復習し、電法の効果と注意点をまとめる。
第58回	移動の介護⑰：【演習】褥瘡の予防1：グループワークで、長時間臥床体験の発表、体位変換の意義・安楽の姿勢保持の介助の必要性を共有する。 【講義】褥瘡の予防、良肢位、道具・用具	準備学習(60分)：〈予習〉長時間臥床し、体験レポートの記入。 テキストⅡ p120～123、p129～p130を読む
第59回	移動の介護⑱：【演習】褥瘡の予防2：安楽な姿勢・体位を保持する介助：仰臥位・側臥位・半坐位・起坐位保持の介護、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p233～236を読む〈復習〉授業のふりかえり
第60回	まとめ【講義・演習】生活支援技術のまとめ、国家試験対策	準備学習(60分)：〈予習・復習〉：基本介護技術の授業のふりかえり
定時試験	筆記試験を行う	

フィードバック方法：・実技終了後の自己評価表にコメントを書いて返却。

・ワークシート（老人体験・おむつ体験・長時間臥床体験）にコメントを書いて返却。

・技術習得レベル確認試験（5回実施）の習得レベルに達しない場合、再試を実施し、レベルアップを図る。
テキスト：最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 適時資料を配布
参考書・参考資料等：最新・介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」中央法規出版
学生に対する評価：定時試験成績（前期、後期）及び実技試験、提出物、授業態度による総合評価。 ・定時試験50%、実技試験30%（技術習得レベル確認試験10%、修了時実技試験20%）、 提出物10%、授業態度10%とする。 ※修了時実技試験の不合格者は、合格するまで実技試験を実施する。

授業科目名：生活支援技術（家事） 通年（前期 15/60回）	単位数：4単位	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：演習 分担																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 尊厳を保持し自立した生活を支えるために必要な食事の介護と家事の介護の意義について、理解できる。食事に必要な生活支援技術の知識、および技術を習得できる。自立に向けた食事の介護を実践するために必要な ICF の視点に基づくアセスメントが理解できる。利用者の状態に応じた食事の介護が実践できる。 【テーマ】 介護福祉士として仕事に従事するにあたり、必要な生活支援技術の知識・技術を習得することをテーマとし、①食事の介助、②嚥下体操、③口腔ケア、④ICF の視点に基づくアセスメント、⑤利用者の状態に応じた食事の介護などについて取り上げる。																																			
授業の概要： ①食事に必要な生活支援技術の知識、および技術を習得するため、演習を通して体験しながら学ぶ。 ②自立に向けた食事の介護を実践するために必要な ICF の視点に基づくアセスメントを学ぶ。 ③利用者の状態に応じた食事の介護について学ぶ。																																			
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>生活支援・家事支援の理解 自分の「生活」を見つめてみよう 演習：準備学習の成果を発表する。自分自身の「生活」についてワークシートに記載し、グループ内で発表する。グループ毎に気づいたことを発表し、全体で共有する。</td><td>「生活」の意味を辞書で調べる。利用者の生活を支援するとはどのようなことかまとめる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>ICF の視点と生活支援 ICF とは何か 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキスト p6～p17を読む。他教科で学んだ ICF について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>自立に向けた食事の介護① 食べるメカニズム、食べることを支える道具 演習：調べた自助具について発表する。</td><td>テキスト p188～p191、p208～210を読む。自助具について調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>自立に向けた食事の介護② 食事におけるアセスメントの視点 第 3 回の食べるメカニズムについて小テストを実施。</td><td>テキスト p194～p198を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>自立に向けた食事の介護③ 脱水の原因と予防、誤嚥・窒息防止に向けた介助 第 4 回に実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。</td><td>テキスト p204～p207を読む。普段の食事をする際に、むせやすい食材、食べにくい食材についてまとめる。他教科で学んだ脱水について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 6回</td><td>自立に向けた食事の介護④ 座位での食事介助（講義）</td><td>テキスト p198～p200を読む。他教科で学んだ嚥下について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 7回</td><td>自立に向けた食事の介護⑤ 座位での食事介助（演習） 演習：2人1組で座位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。</td><td>第 6 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 8回</td><td>自立に向けた食事の介護⑥ 臥位での食事介助（講義） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキスト p200～p204を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 9回</td><td>自立に向けた食事の介護⑦ 臥位での食事介助（演習） 演習：2人1組で臥位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。</td><td>第 8 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>自立に向けた食事の介護⑧ 嚥下体操（演習） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキスト p60～p62を読む。嚥下体操や、口腔体操と書かれている書籍を読む</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	生活支援・家事支援の理解 自分の「生活」を見つめてみよう 演習：準備学習の成果を発表する。自分自身の「生活」についてワークシートに記載し、グループ内で発表する。グループ毎に気づいたことを発表し、全体で共有する。	「生活」の意味を辞書で調べる。利用者の生活を支援するとはどのようなことかまとめる。(60分)	第 2回	ICF の視点と生活支援 ICF とは何か 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p6～p17を読む。他教科で学んだ ICF について復習する。(60分)	第 3回	自立に向けた食事の介護① 食べるメカニズム、食べることを支える道具 演習：調べた自助具について発表する。	テキスト p188～p191、p208～210を読む。自助具について調べる。(60分)	第 4回	自立に向けた食事の介護② 食事におけるアセスメントの視点 第 3 回の食べるメカニズムについて小テストを実施。	テキスト p194～p198を読む。(60分)	第 5回	自立に向けた食事の介護③ 脱水の原因と予防、誤嚥・窒息防止に向けた介助 第 4 回に実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキスト p204～p207を読む。普段の食事をする際に、むせやすい食材、食べにくい食材についてまとめる。他教科で学んだ脱水について復習する。(60分)	第 6回	自立に向けた食事の介護④ 座位での食事介助（講義）	テキスト p198～p200を読む。他教科で学んだ嚥下について復習する。(60分)	第 7回	自立に向けた食事の介護⑤ 座位での食事介助（演習） 演習：2人1組で座位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。	第 6 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)	第 8回	自立に向けた食事の介護⑥ 臥位での食事介助（講義） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p200～p204を読む。(60分)	第 9回	自立に向けた食事の介護⑦ 臥位での食事介助（演習） 演習：2人1組で臥位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。	第 8 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)	第10回	自立に向けた食事の介護⑧ 嚥下体操（演習） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p60～p62を読む。嚥下体操や、口腔体操と書かれている書籍を読む
回数	内容	準備学習																																	
第 1回	生活支援・家事支援の理解 自分の「生活」を見つめてみよう 演習：準備学習の成果を発表する。自分自身の「生活」についてワークシートに記載し、グループ内で発表する。グループ毎に気づいたことを発表し、全体で共有する。	「生活」の意味を辞書で調べる。利用者の生活を支援するとはどのようなことかまとめる。(60分)																																	
第 2回	ICF の視点と生活支援 ICF とは何か 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p6～p17を読む。他教科で学んだ ICF について復習する。(60分)																																	
第 3回	自立に向けた食事の介護① 食べるメカニズム、食べることを支える道具 演習：調べた自助具について発表する。	テキスト p188～p191、p208～210を読む。自助具について調べる。(60分)																																	
第 4回	自立に向けた食事の介護② 食事におけるアセスメントの視点 第 3 回の食べるメカニズムについて小テストを実施。	テキスト p194～p198を読む。(60分)																																	
第 5回	自立に向けた食事の介護③ 脱水の原因と予防、誤嚥・窒息防止に向けた介助 第 4 回に実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキスト p204～p207を読む。普段の食事をする際に、むせやすい食材、食べにくい食材についてまとめる。他教科で学んだ脱水について復習する。(60分)																																	
第 6回	自立に向けた食事の介護④ 座位での食事介助（講義）	テキスト p198～p200を読む。他教科で学んだ嚥下について復習する。(60分)																																	
第 7回	自立に向けた食事の介護⑤ 座位での食事介助（演習） 演習：2人1組で座位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。	第 6 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)																																	
第 8回	自立に向けた食事の介護⑥ 臥位での食事介助（講義） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p200～p204を読む。(60分)																																	
第 9回	自立に向けた食事の介護⑦ 臥位での食事介助（演習） 演習：2人1組で臥位での食事介助を行う。ワークシートを記載し提出する。	第 8 回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)																																	
第10回	自立に向けた食事の介護⑧ 嚥下体操（演習） 前回のワークシートにコメントをつけ A・B・C 評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p60～p62を読む。嚥下体操や、口腔体操と書かれている書籍を読む																																	

	演習：映像を見ながら嚥下体操を行う。ワークシートを記載し提出する。	む。(60分)
第11回	自立に向けた食事の介護⑨ 口腔ケアの意義・目的・方法（講義） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp45～p56、テキストp62～p64を読む。(60分)
第12回	自立に向けた食事の介護⑩ 口腔ケア（演習） 演習：2人1組で口腔ケアの介助を行う。 ワークシートを記載し提出する。	第11回の講義内容を復習する。演習に必要な持ち物を用意する。(60分)
第13回	利用者の状態に応じた食事の介護① 視覚機能が低下した利用者への介助 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	視覚機能の低下について他教科で学んだことを復習する。(60分)
第14回	利用者の状態に応じた食事の介護② 運動機能が低下した利用者への介助	運動機能の低下について他教科で学んだことを復習する。(60分)
第15回	利用者の状態に応じた食事の介護③ 認知・知覚機能が低下した利用者への介助	『認知症概論』で学んだことを復習する。知覚機能の低下について他教科で学んだことを復習する。(60分)
定時試験 筆記試験を実施		
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規		
参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価： 授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績70%、授業態度10%、ワークシート等の成果物20%		

授業科目名：生活支援技術（家事） 通年（後期）14/60回	単位数： （4単位）	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：演習 分担																																				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 尊厳を保持し自立した生活を支えるために必要な家事の介護の意義について、理解できる。自立に向けた家事の介護を実践するために必要な ICF の視点に基づくアセスメントが理解できる。 【テーマ】 介護福祉士として仕事に従事するにあたり、必要な生活支援技術の知識・技術を習得することをテーマとし、①調理、②洗濯、③掃除、④裁縫、⑤寝具の衛生管理、⑥買い物、⑦ICF の視点に基づくアセスメントなどについて取り上げる。																																						
授業の概要： ①自立に向けた家事の介護を実践するために必要な ICF の視点に基づくアセスメントを学ぶ。 ②訪問介護で実施出来る生活援助の内容について理解する。																																						
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第16回</td><td>家事支援の意義と目的 在宅介護における家事支援の役割 演習：訪問介護員のできることで、できないこと。事例について、できることとできないことを分類する。ワークシートに記載後、グループで検討、発表する。</td><td>『生活支援技術』や『介護概論』などで学んだ訪問介護員の職務内容について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第17回</td><td>家事支援を受けて生活する人の理解 在宅介護における家事支援の実践</td><td>テキストp282～p290を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第18回</td><td>自立生活を支える家事の介護① ICFの視点に基づくアセスメント（調理の支援）</td><td>テキストp292～p300を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第19回</td><td>自立生活を支える家事の介護② ICFの視点に基づくアセスメント（調理：事例検討） 調理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。</td><td>第18回の授業で学んだことを復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第20回</td><td>自立生活を支える家事の介護③ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキストp300～p305を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第21回</td><td>自立生活を支える家事の介護④ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯：事例検討） 洗濯をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。</td><td>第20回の授業で学んだことを復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第22回</td><td>自立生活を支える家事の介護⑤ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキストp305～p312を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第23回</td><td>自立生活を支える家事の介護⑥ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除：事例検討） 掃除をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。</td><td>第22回の授業で学んだことを復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第24回</td><td>自立生活を支える家事の介護⑦ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキストp312～p315を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第25回</td><td>自立生活を支える家事の介護⑧ ICFの視点に基づくアセスメント（寝具の衛生管理の支援）</td><td>テキストp315～p323を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第26回</td><td>自立生活を支える家事の介護⑨ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫・寝具の衛生管理：事例検討）裁縫と、寝具の衛生管理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表す</td><td>第24・25回の授業で学んだことを復習する。(60分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第16回	家事支援の意義と目的 在宅介護における家事支援の役割 演習：訪問介護員のできることで、できないこと。事例について、できることとできないことを分類する。ワークシートに記載後、グループで検討、発表する。	『生活支援技術』や『介護概論』などで学んだ訪問介護員の職務内容について復習する。(60分)	第17回	家事支援を受けて生活する人の理解 在宅介護における家事支援の実践	テキストp282～p290を読む。(60分)	第18回	自立生活を支える家事の介護① ICFの視点に基づくアセスメント（調理の支援）	テキストp292～p300を読む。(60分)	第19回	自立生活を支える家事の介護② ICFの視点に基づくアセスメント（調理：事例検討） 調理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第18回の授業で学んだことを復習する。(60分)	第20回	自立生活を支える家事の介護③ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp300～p305を読む。(60分)	第21回	自立生活を支える家事の介護④ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯：事例検討） 洗濯をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第20回の授業で学んだことを復習する。(60分)	第22回	自立生活を支える家事の介護⑤ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp305～p312を読む。(60分)	第23回	自立生活を支える家事の介護⑥ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除：事例検討） 掃除をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第22回の授業で学んだことを復習する。(60分)	第24回	自立生活を支える家事の介護⑦ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp312～p315を読む。(60分)	第25回	自立生活を支える家事の介護⑧ ICFの視点に基づくアセスメント（寝具の衛生管理の支援）	テキストp315～p323を読む。(60分)	第26回	自立生活を支える家事の介護⑨ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫・寝具の衛生管理：事例検討）裁縫と、寝具の衛生管理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表す	第24・25回の授業で学んだことを復習する。(60分)
回数	内容	準備学習																																				
第16回	家事支援の意義と目的 在宅介護における家事支援の役割 演習：訪問介護員のできることで、できないこと。事例について、できることとできないことを分類する。ワークシートに記載後、グループで検討、発表する。	『生活支援技術』や『介護概論』などで学んだ訪問介護員の職務内容について復習する。(60分)																																				
第17回	家事支援を受けて生活する人の理解 在宅介護における家事支援の実践	テキストp282～p290を読む。(60分)																																				
第18回	自立生活を支える家事の介護① ICFの視点に基づくアセスメント（調理の支援）	テキストp292～p300を読む。(60分)																																				
第19回	自立生活を支える家事の介護② ICFの視点に基づくアセスメント（調理：事例検討） 調理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第18回の授業で学んだことを復習する。(60分)																																				
第20回	自立生活を支える家事の介護③ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp300～p305を読む。(60分)																																				
第21回	自立生活を支える家事の介護④ ICFの視点に基づくアセスメント（洗濯：事例検討） 洗濯をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第20回の授業で学んだことを復習する。(60分)																																				
第22回	自立生活を支える家事の介護⑤ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp305～p312を読む。(60分)																																				
第23回	自立生活を支える家事の介護⑥ ICFの視点に基づくアセスメント（掃除：事例検討） 掃除をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	第22回の授業で学んだことを復習する。(60分)																																				
第24回	自立生活を支える家事の介護⑦ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp312～p315を読む。(60分)																																				
第25回	自立生活を支える家事の介護⑧ ICFの視点に基づくアセスメント（寝具の衛生管理の支援）	テキストp315～p323を読む。(60分)																																				
第26回	自立生活を支える家事の介護⑨ ICFの視点に基づくアセスメント（裁縫・寝具の衛生管理：事例検討）裁縫と、寝具の衛生管理をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表す	第24・25回の授業で学んだことを復習する。(60分)																																				

第27回	る。全体で共有する。 自立生活を支える家事の介護⑩ ICF の視点に基づくアセスメント（買い物の支援） 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp324～p327を読む。(60分)
第28回	自立生活を支える家事の介護⑪ アセスメント(買い物:事例検討) 買い物をアセスメントする際の視点についてワークシートに記載しグループ毎に発表する。全体で共有する。	ICF の視点に基づく 第27回の授業で学んだことを復習する。(60分)
第29回	全体のまとめ 後期14回分の学習内容の整理	
定時試験	筆記試験を実施	

※事前学習として、家事の仕方について書かれている書籍や雑誌に目を通し、家事の方法を予習しておくこと。介護福祉士として利用者の生活を支援していく方法を学ぶため、普段から自宅で積極的に家事に取り組んでいることが望ましい。

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規

参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。

学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。

定時試験成績70%、授業態度10%、ワークシート等の成果物20%

授業科目名：生活支援技術（家事） 通年（前期 9/60回）	単位数：(4単位)	担当教員名：横地 哲哉 担当形態： 演習 分担																											
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 本授業では人が生きていくうえでの住まいや環境の重要性について理解を深め、部屋ごとの工夫や環境整備における理論と実践について学ぶ 【テーマ】 居住環境の整備は生活支援をする上での基礎となる部分である。合理的な整備を行うと介護する側の理論で整備されることがあるため、支援が円滑になるような整備だけでなく、利用者の視点に立ち、利用者の生活維持・向上を図る視点を持つことの重要性を考える。																													
授業の概要： 人が生きていくうえで生活の基盤となるのが住まい。人が安心して快適に暮らすために必要な環境の整備とその必要性を学ぶ。 人体各部寸法から人の動作寸法等を理解し、それらの寸法の延長上に住まいや施設が設計されていることを実測などの体験学習・調査学習を通して理解する。 上記のハードの面に対して、ソフトの面（個々人の人生観、生活習慣、個性等の尊重）を理解し、居住環境を整備する技術を習得する。 各回の最初に前回授業の確認テストとその解説を行い理解度を高める。																													
授業計画： <table border="1" data-bbox="167 795 1428 1836"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>オリエンテーション・居住環境の意義について</td><td></td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>小テストと解説/高齢者・障害者の住まいの変遷とノーマライゼーション</td><td rowspan="4">通学ルート上にあるバリアフリーの事例を10種類以上収集する(60分)</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>小テストと解説/人間工学と住まい・施設の寸法の関係について</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>小テストと解説/実測実習（目測と実測：教室廻り等の実測実習）・課題出題 （課題：「自分の居住空間」①部屋の広さ及び空間の認識・間取り図を描く ②お気に入りの場所やアイテムの再認識等 ③居住空間の基本情報の把握等/課題意図：自分の居住空間及び環境空間を感じ取るための課題）</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点① （外回り・玄関・廊下・階段等の配慮）</td></tr> <tr> <td>第 6回</td><td>小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点② （浴室・トイレ・居間・寝室等の配慮） ＊課題途中経過（質疑応答）</td><td rowspan="4">住環境の整備に関連する職種の法根拠及び内容についての表をまとめる宿題(60分)</td></tr> <tr> <td>第 7回</td><td>小テストと解説/集団生活の場における工夫・留意点 ＊課題提出</td></tr> <tr> <td>第 8回</td><td>小テストと解説/他職種の役割と協働・居住環境の整備実習</td></tr> <tr> <td>第 9回</td><td>課題に対して学生によるプレゼンテーション・講評/全体のまとめ・資格試験について</td></tr> <tr> <td>定時試験</td><td>全9回の授業後に筆記試験を行う</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	オリエンテーション・居住環境の意義について		第 2回	小テストと解説/高齢者・障害者の住まいの変遷とノーマライゼーション	通学ルート上にあるバリアフリーの事例を10種類以上収集する(60分)	第 3回	小テストと解説/人間工学と住まい・施設の寸法の関係について	第 4回	小テストと解説/実測実習（目測と実測：教室廻り等の実測実習）・課題出題 （課題：「自分の居住空間」①部屋の広さ及び空間の認識・間取り図を描く ②お気に入りの場所やアイテムの再認識等 ③居住空間の基本情報の把握等/課題意図：自分の居住空間及び環境空間を感じ取るための課題）	第 5回	小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点① （外回り・玄関・廊下・階段等の配慮）	第 6回	小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点② （浴室・トイレ・居間・寝室等の配慮） ＊課題途中経過（質疑応答）	住環境の整備に関連する職種の法根拠及び内容についての表をまとめる宿題(60分)	第 7回	小テストと解説/集団生活の場における工夫・留意点 ＊課題提出	第 8回	小テストと解説/他職種の役割と協働・居住環境の整備実習	第 9回	課題に対して学生によるプレゼンテーション・講評/全体のまとめ・資格試験について	定時試験	全9回の授業後に筆記試験を行う	
回数	内容	準備学習																											
第 1回	オリエンテーション・居住環境の意義について																												
第 2回	小テストと解説/高齢者・障害者の住まいの変遷とノーマライゼーション	通学ルート上にあるバリアフリーの事例を10種類以上収集する(60分)																											
第 3回	小テストと解説/人間工学と住まい・施設の寸法の関係について																												
第 4回	小テストと解説/実測実習（目測と実測：教室廻り等の実測実習）・課題出題 （課題：「自分の居住空間」①部屋の広さ及び空間の認識・間取り図を描く ②お気に入りの場所やアイテムの再認識等 ③居住空間の基本情報の把握等/課題意図：自分の居住空間及び環境空間を感じ取るための課題）																												
第 5回	小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点① （外回り・玄関・廊下・階段等の配慮）																												
第 6回	小テストと解説/住まいの場における工夫・留意点② （浴室・トイレ・居間・寝室等の配慮） ＊課題途中経過（質疑応答）	住環境の整備に関連する職種の法根拠及び内容についての表をまとめる宿題(60分)																											
第 7回	小テストと解説/集団生活の場における工夫・留意点 ＊課題提出																												
第 8回	小テストと解説/他職種の役割と協働・居住環境の整備実習																												
第 9回	課題に対して学生によるプレゼンテーション・講評/全体のまとめ・資格試験について																												
定時試験	全9回の授業後に筆記試験を行う																												
テキスト： 『最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』の第2章（介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規）、適時最新情報をコピーにて配布																													
参考書・参考資料等： 特になし																													
学生に対する評価： 以下の4項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点50% ②小テスト全7回分の得点14% ③課題の内容26% ④授業態度10%																													

授業科目名：生活支援技術（家事） 通年（22/60回）	単位数：(4単位)	担当教員名：佐藤 真弓 担当形態： 演習 分担																																							
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護の現場では、介護を必要とする者および介護を行う者双方が、生きている、生活している、同じ人間、としての相互理解が重要になる。すなわち、利用者が、単に身体機能が回復するだけでなく、人間としての尊厳のある日常生活が行えるよう支援をすることが必要である。本授業では、人間生活の本質的意義を知り、介護の現場で応用していけるように生活全般にわたる家事技術を習得することを目的とする。 【テーマ】 本授業全般を通じたテーマは「家族とともにある生活支援」である。介護を考える際には家族の在り方が大きな影響を及ぼすため、家族や生活についての考察を深め、その上で望ましい生活支援技術について考えていきたい。																																									
授業の概要： 本授業では、まず、人間の生活、そして人間が生きていく上で欠かせない家族、について考察をする。そして、調理、洗濯、裁縫、家計、家庭管理などの家事に関する生活支援の技術を習得するよう、理論展開およびグループ学習による実習・演習を行う。学生自らが自身の生活を省みながら、諸問題を解決するための方策を探究することで、利用者の自立支援へ向けてそれら生活技術を応用できる能力を身につける。																																									
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>生活支援の基礎技術① 生活の意義を知る</td><td>教科書「生活と家族」p.10～p.26を読んでおく(1時間)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>生活支援の基礎技術② 家族の意義を知る 家族についてのディスカッション実施</td><td>身近な年長者に生活に関するインタビュー調査を実施し、生活史レポートを作成する(1時間)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>自立に向けた家事の介護① 食生活支援と栄養の理論</td><td>教科書「生活支援技術Ⅰ」p.216～p.222を読んでおく(1時間)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>自立に向けた家事の介護② 食生活と健康、健康調査に基づく献立作成</td><td>自分自身の食生活を振り返り課題を調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>自立に向けた家事の介護③ 基本の献立(米飯、だしの取り方)</td><td>米の炊飯、出汁の取り方について調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>自立に向けた家事の介護④ 形態別調理(常食、軟菜食、きざみ食、ミキサー食)</td><td>介護食の種類について調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>自立に向けた家事の介護⑤ 実習：症例別調理1 高血圧症の場合</td><td>高血圧症の症例と食生活支援について調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>自立に向けた家事の介護⑥ 実習：症例別調理2 高脂血症と骨粗しょう症の場合</td><td>高脂血症、骨粗鬆症の症例と食生活支援について調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>自立に向けた家事の介護⑦ 実習：症例別調理3 糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の場合</td><td>糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の症例と食生活支援について調べる(1時間)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>自立に向けた家事の介護⑧ 実習：在宅介護での調理</td><td>症例別の食生活支援の理論を整理する調査学習レポートと、在宅介護の調理において利用するポケットサイズのレシピ帳を作成する課題を課す(1時間)</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>生活支援の基礎技術③ 介護を必要とする人たちの食生活支援のまとめ</td><td>教科書「生活支援技術Ⅰ」p.223～p.228を読んでおく(1時間)</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>家事に関する衣生活支援の基礎技術</td><td>教科書「生活支援技術Ⅰ」</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	生活支援の基礎技術① 生活の意義を知る	教科書「生活と家族」p.10～p.26を読んでおく(1時間)	第2回	生活支援の基礎技術② 家族の意義を知る 家族についてのディスカッション実施	身近な年長者に生活に関するインタビュー調査を実施し、生活史レポートを作成する(1時間)	第3回	自立に向けた家事の介護① 食生活支援と栄養の理論	教科書「生活支援技術Ⅰ」p.216～p.222を読んでおく(1時間)	第4回	自立に向けた家事の介護② 食生活と健康、健康調査に基づく献立作成	自分自身の食生活を振り返り課題を調べる(1時間)	第5回	自立に向けた家事の介護③ 基本の献立(米飯、だしの取り方)	米の炊飯、出汁の取り方について調べる(1時間)	第6回	自立に向けた家事の介護④ 形態別調理(常食、軟菜食、きざみ食、ミキサー食)	介護食の種類について調べる(1時間)	第7回	自立に向けた家事の介護⑤ 実習：症例別調理1 高血圧症の場合	高血圧症の症例と食生活支援について調べる(1時間)	第8回	自立に向けた家事の介護⑥ 実習：症例別調理2 高脂血症と骨粗しょう症の場合	高脂血症、骨粗鬆症の症例と食生活支援について調べる(1時間)	第9回	自立に向けた家事の介護⑦ 実習：症例別調理3 糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の場合	糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の症例と食生活支援について調べる(1時間)	第10回	自立に向けた家事の介護⑧ 実習：在宅介護での調理	症例別の食生活支援の理論を整理する調査学習レポートと、在宅介護の調理において利用するポケットサイズのレシピ帳を作成する課題を課す(1時間)	第11回	生活支援の基礎技術③ 介護を必要とする人たちの食生活支援のまとめ	教科書「生活支援技術Ⅰ」p.223～p.228を読んでおく(1時間)	第12回	家事に関する衣生活支援の基礎技術	教科書「生活支援技術Ⅰ」
回数	内容	準備学習																																							
第1回	生活支援の基礎技術① 生活の意義を知る	教科書「生活と家族」p.10～p.26を読んでおく(1時間)																																							
第2回	生活支援の基礎技術② 家族の意義を知る 家族についてのディスカッション実施	身近な年長者に生活に関するインタビュー調査を実施し、生活史レポートを作成する(1時間)																																							
第3回	自立に向けた家事の介護① 食生活支援と栄養の理論	教科書「生活支援技術Ⅰ」p.216～p.222を読んでおく(1時間)																																							
第4回	自立に向けた家事の介護② 食生活と健康、健康調査に基づく献立作成	自分自身の食生活を振り返り課題を調べる(1時間)																																							
第5回	自立に向けた家事の介護③ 基本の献立(米飯、だしの取り方)	米の炊飯、出汁の取り方について調べる(1時間)																																							
第6回	自立に向けた家事の介護④ 形態別調理(常食、軟菜食、きざみ食、ミキサー食)	介護食の種類について調べる(1時間)																																							
第7回	自立に向けた家事の介護⑤ 実習：症例別調理1 高血圧症の場合	高血圧症の症例と食生活支援について調べる(1時間)																																							
第8回	自立に向けた家事の介護⑥ 実習：症例別調理2 高脂血症と骨粗しょう症の場合	高脂血症、骨粗鬆症の症例と食生活支援について調べる(1時間)																																							
第9回	自立に向けた家事の介護⑦ 実習：症例別調理3 糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の場合	糖尿病、心臓機能・腎臓機能障害の症例と食生活支援について調べる(1時間)																																							
第10回	自立に向けた家事の介護⑧ 実習：在宅介護での調理	症例別の食生活支援の理論を整理する調査学習レポートと、在宅介護の調理において利用するポケットサイズのレシピ帳を作成する課題を課す(1時間)																																							
第11回	生活支援の基礎技術③ 介護を必要とする人たちの食生活支援のまとめ	教科書「生活支援技術Ⅰ」p.223～p.228を読んでおく(1時間)																																							
第12回	家事に関する衣生活支援の基礎技術	教科書「生活支援技術Ⅰ」																																							

	洗濯・裁縫に関する介護の基礎技術	p.228～p.232 を読んでおく (1時間)
第13回	自立に向けた家事の介護⑨ 生活における洗濯・裁縫の意義と目的	教科書「生活支援技術Ⅰ」 p.232～p.235を読んでおく(1時間)
第14回	自立に向けた家事の介護⑩ 洗濯・裁縫の支援1 コースター製作の実習	教科書「生活支援技術Ⅰ」 p.235～p.236を参考に手縫いの練習をする(1時間)
第15回	自立に向けた家事の介護⑪ 洗濯・裁縫の支援2 お手玉製作の実習	家にある衣類がどこに、どのように管理されているかを調べる調査学習レポートを課す(1時間)
第16回	自立に向けた家事の介護⑫ 洗濯・裁縫の支援3 衣服の整理、管理	教科書「生活支援技術Ⅰ」 p.236～p.243を読んでおく(1時間)
第17回	家事に関する家庭生活支援の基礎技術 家計・家庭管理に関する支援の基礎技術	教科書「生活支援技術Ⅰ」 p.244～p.250を読んでおく(1時間)
第18回	自立に向けた家事の介護⑬ 生活における家計・家庭管理の意義と目的	教科書「生活と家族」p.123～p.139を読んでおく(1時間)
第19回	自立に向けた家事の介護⑭ 家計・家庭管理の支援1 家族と法律	教科書「生活と家族」p.102～p.122を読んでおく(1時間)
第20回	自立に向けた家事の介護⑮ 家計・家庭管理の支援2 生活時間	一日の行動調査(自分自身の24時間の生活時間を分単位で記録する)学習レポートを作成する(1時間)
第21回	自立に向けた家事の介護⑯ 家計・家庭管理の支援3 家計管理	家にある広報(区報、市報)をみて、消費者問題の解決に向けての取り組みにはどのようなものがあるかの調査学習レポートを作成する(1時間)
第22回	自立に向けた家事の介護⑰ 家計・家庭管理の支援4 調査した消費者問題についてプレゼンテーションとそのテーマに関するディスカッションを行う。	これまでの授業を振り返り消費生活に関する課題を整理する(1時間)
定時試験	レポート提出	
フィードバックの方法： フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを付記して返却する。		
テキスト：「最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」中央法規 「生活と家族一家政学からの学び」一藝社		
参考書・参考資料等：その他適宜、プリントを配布する。		
学生に対する評価：前期評価は第1～11回分で行う。レポート成績100%（内訳：調理実習レポート40%、課題レポート20%、平素の学習状況40%）で評価する。後期評価は第12～22回分で行う。レポート成績100%（内訳：被服実習レポート40%、課題レポート20%、平素の学習状況40%）で評価する。通年評価は前期・後期の成績の平均とする。		

授業科目名：生活支援技術（応用） 後期	単位数：2単位	担当教員名：小林 久美子 担当形態：演習 単独																																	
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 利用者の自立と尊厳の保持の理念を持ち、利用者の生活への思いや背景、心身の状態に応じた、生活支援の応用技術を実践できるようになる。領域「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識・技術を統合し、多様な対象者の個別の生活に対し、安全で適切な生活支援の応用技術を実践できるようになる。「障害に応じた介護」をサブタイトルとし、事例に沿った応用技術を実践できるようになる。 【テーマ】 利用者の生活への思いや背景、心身の状態に応じた、生活支援技術の演習を中心とし、 ① 利用者の状態・状況に応じた移動の介護 ②福祉用具の活用 ③運動機能障害 ④感覚機能障害 ⑤内部障害 ⑥パーキンソン病・関節リウマチ ⑦介護職の行うことができる医行為 ⑧応急手当 ⑨人生の最終段階における介護について取上げる。																																			
授業の概要： 利用者の自立と尊厳の保持を基本とし、個別に違う利用者の生活への思いや背景、心身の状態について考え、生活課題を把握する。領域「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識・技術を統合し、多様な対象者の生活に対し、安全で適切な生活支援の応用技術について、講義とグループワークなどの演習から学ぶ。																																			
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは【講義】意義・目的、対象者の理解、生活課題の把握、多職種連携</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p2～8を読む。</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>福祉用具の活用による介護①：【講義】意義、種類、提供のための視点</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p194～212を読む。</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>福祉用具の活用による介護②：【演習（グループワーク）】事例展開（ワークシート）：脳卒中（片麻痺）のある人の自立支援のための福祉用具を検討・発表・評価、まとめ</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉授業内容の復習、脳卒中について調べる。</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>運動機能障害に応じた介護①：【講義】脊髄損傷・脳性麻痺のある人の介護</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p12～14、障害の理解の該当箇所を読む。</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>運動機能障害に応じた介護②：【講義】生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p15～29を読む。</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>運動機能障害に応じた介護③：【演習（グループワーク）】事例展開（脊髄損傷）：食事・着替え・移動の介護</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉損傷レベルに応じての自立支援（福祉用具・自助具の活用）を考える。</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>運動機能障害に応じた介護④：【講義・演習】スライディングボード・スライディングシート・スリングシート、リフト、ストレッチャー、移乗機器の理解</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p149～162、p171～174を読む</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>運動機能障害に応じた介護⑤：【演習】スライディングボード・シート・リフト体験、技術の自己評価</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p153～162、p171～174を読む</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>運動機能障害に応じた介護⑥：【演習（グループワーク）】事例展開1（脳卒中後遺症：片麻痺・失語症）のある人の移動介護：ワークシート（手順書）作成、発表準備</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ 基本介護技術の移動、杖歩行の復習をする</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>運動機能障害に応じた介護⑦：【演習（グループワーク）】事例展開2（脳卒中後遺症）のある人の移動介護）発表・評価、まとめ、技術の</td><td>準備学習(60分)：〈予習〉発表ができるようグループ毎に準備する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは【講義】意義・目的、対象者の理解、生活課題の把握、多職種連携	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p2～8を読む。	第2回	福祉用具の活用による介護①：【講義】意義、種類、提供のための視点	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p194～212を読む。	第3回	福祉用具の活用による介護②：【演習（グループワーク）】事例展開（ワークシート）：脳卒中（片麻痺）のある人の自立支援のための福祉用具を検討・発表・評価、まとめ	準備学習(60分)：〈予習〉授業内容の復習、脳卒中について調べる。	第4回	運動機能障害に応じた介護①：【講義】脊髄損傷・脳性麻痺のある人の介護	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p12～14、障害の理解の該当箇所を読む。	第5回	運動機能障害に応じた介護②：【講義】生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p15～29を読む。	第6回	運動機能障害に応じた介護③：【演習（グループワーク）】事例展開（脊髄損傷）：食事・着替え・移動の介護	準備学習(60分)：〈予習〉損傷レベルに応じての自立支援（福祉用具・自助具の活用）を考える。	第7回	運動機能障害に応じた介護④：【講義・演習】スライディングボード・スライディングシート・スリングシート、リフト、ストレッチャー、移乗機器の理解	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p149～162、p171～174を読む	第8回	運動機能障害に応じた介護⑤：【演習】スライディングボード・シート・リフト体験、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p153～162、p171～174を読む	第9回	運動機能障害に応じた介護⑥：【演習（グループワーク）】事例展開1（脳卒中後遺症：片麻痺・失語症）のある人の移動介護：ワークシート（手順書）作成、発表準備	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ 基本介護技術の移動、杖歩行の復習をする	第10回	運動機能障害に応じた介護⑦：【演習（グループワーク）】事例展開2（脳卒中後遺症）のある人の移動介護）発表・評価、まとめ、技術の	準備学習(60分)：〈予習〉発表ができるようグループ毎に準備する。
回数	内容	準備学習																																	
第1回	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは【講義】意義・目的、対象者の理解、生活課題の把握、多職種連携	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p2～8を読む。																																	
第2回	福祉用具の活用による介護①：【講義】意義、種類、提供のための視点	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p194～212を読む。																																	
第3回	福祉用具の活用による介護②：【演習（グループワーク）】事例展開（ワークシート）：脳卒中（片麻痺）のある人の自立支援のための福祉用具を検討・発表・評価、まとめ	準備学習(60分)：〈予習〉授業内容の復習、脳卒中について調べる。																																	
第4回	運動機能障害に応じた介護①：【講義】脊髄損傷・脳性麻痺のある人の介護	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p12～14、障害の理解の該当箇所を読む。																																	
第5回	運動機能障害に応じた介護②：【講義】生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p15～29を読む。																																	
第6回	運動機能障害に応じた介護③：【演習（グループワーク）】事例展開（脊髄損傷）：食事・着替え・移動の介護	準備学習(60分)：〈予習〉損傷レベルに応じての自立支援（福祉用具・自助具の活用）を考える。																																	
第7回	運動機能障害に応じた介護④：【講義・演習】スライディングボード・スライディングシート・スリングシート、リフト、ストレッチャー、移乗機器の理解	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p149～162、p171～174を読む																																	
第8回	運動機能障害に応じた介護⑤：【演習】スライディングボード・シート・リフト体験、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p153～162、p171～174を読む																																	
第9回	運動機能障害に応じた介護⑥：【演習（グループワーク）】事例展開1（脳卒中後遺症：片麻痺・失語症）のある人の移動介護：ワークシート（手順書）作成、発表準備	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ 基本介護技術の移動、杖歩行の復習をする																																	
第10回	運動機能障害に応じた介護⑦：【演習（グループワーク）】事例展開2（脳卒中後遺症）のある人の移動介護）発表・評価、まとめ、技術の	準備学習(60分)：〈予習〉発表ができるようグループ毎に準備する。																																	

第11回	自己評価 視覚障害に応じた介護①：【講義】利用者の理解、生活上の困りごと、日常生活の介護事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p31～36、p39～45・障害の理解テキスト該当箇所を読む。
第12回	視覚障害に応じた介護②：【演習】移動介護（ガイドヘルプ）、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p36～P39を読む。
第13回	内部障害に応じた介護①：【講義】心臓・腎臓・小腸・HIVによる免疫・肝臓機能障害に応じた介護：生活上の困りごと、支援の展開	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p75～P88、p108～118、p134～p143、p146～P155、p158～p158～p167・障害の理解テキストの該当箇所を読む
第14回	内部障害に応じた介護②：【演習（グループワーク）】心臓・腎臓機能障害に応じた介護：事例展開（ペースメーカー・人工透析）、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p89～90、p119～p120、p143～p145、p167～p169を読む。
第15回	内部障害に応じた介護③：【講義】呼吸器機能障害に応じた介護1：生活上の困りごと事例の展開	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p91～95、p97～105を読む。
第16回	内部障害に応じた介護④：【演習（グループワーク）】呼吸器機能障害に応じた介護2：事例展開（酸素療法者〈HOT〉）事例で学ぶ、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p96～97・98、p103～107を読む。
第17回	内部障害に応じた介護⑤：【講義】膀胱・直腸機能障害に応じた介護1：ストーマ造設者の支援、生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p121～133を読む。
第18回	内部障害に応じた介護⑥：【演習（グループワーク）】膀胱・直腸機能障害に応じた介護2：事例展開（ストーマ〈パウチ交換〉・膀胱留置カテーテル〈介護〉）、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p206・207を読む。
第19回	パーキンソン病に応じた介護①：【講義】生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p256～269・障害の理解の該当箇所を読む
第20回	パーキンソン病に応じた介護②：【演習（グループワーク）】事例展開（移動）グループで検討・発表・評価・まとめ、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉環境整備・自助具の活用で自立支援の方法を考える
第21回	関節リウマチに応じた介護①：【講義】生活上の困りごと、支援の展開、事例で学ぶ	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅢ p270～284・障害の理解の該当箇所を読む。
第22回	関節リウマチに応じた介護②：【演習（グループワーク）】事例展開（衣服の着脱）グループで検討・発表・評価・まとめ、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉環境整備や自助具の活用で自立支援について考える。
第23回	介護職の行うことができる医行為①：【講義】介護員の行うことができる医行為とは（服薬・点眼・軟膏・湿布・座薬・浣腸・自己導尿）等の介助	準備学習(60分)：〈予習〉介護職として行うことができる医療行為について調べる。
第24回	介護職の行うことができる医行為②：【演習（グループワーク）】事例展開（服薬・点眼・軟膏・座薬の介助）、技術の自己評価	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ 導尿・浣腸・座薬の介助：p200～205を読む
第25回	応急手当の知識と技術①：【講義】想定される事故と予防の視点、応急手当とは	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅠ p262～267を読む。

第26回	応急手当の知識と技術②：【演習（グループワーク）】事例展開（止血・骨折・窒息・熱傷・救急車の手配、三角巾の活用）	準備学習(60分)：〈予習〉テキスト(15:医療的ケア)救急蘇生法該当箇所を読む。
第27回	人生の最終段階における介護①：【講義】意義・介護の役割、家族支援(グリーフケア)医療との連携と協働	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p250～263、p269、p272、p279～283、(11:こころとからだのしくみ)該当箇所を読む。
第28回	人生の最終段階における介護②：【演習（グループワーク）】死をむかえる人・死が近づいた時の介護(危篤時の介護)	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p264～272を読む。
第29回	人生の最終段階における介護③：【演習（グループワーク）】死をむかえた人の介護(死後のケア)	準備学習(60分)：〈予習〉テキストⅡ p273～278を読む
第30回	まとめ【講義・演習】生活支援技術(応用)授業内容のふりかえり、国家試験対策	準備学習(60分)：授業内容のふりかえり、国家試験対策
定時試験	筆記試験を行う	
フィードバックの方法：グループワークで行った事例のワークシートにコメントを書いて返却。 グループワークで行った評価表にコメントを書いて返却。		
テキスト：最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 適宜資料配布		
参考書・参考資料等：最新・介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規出版		
学生に対する評価：定時試験及び課題提出、事例の介護展開の発表、授業態度による総合評価。 定時試験50%、課題提出20%、事例の介護展開の取り組み・発表20%、授業態度10%		

授業科目名：介護過程の基礎 前期	単位数：2単位	担当教員名：久保 吉丸 担当形態：演習 単独																																										
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 介護過程の各段階における留意点、および、介護過程の展開の必要性を理解する。他の科目で学習した知識や技術を統合した介護過程の展開方法を習得することで、思考力・判断力を養い、利用者を主体とした根拠ある介護計画の立案およびサービスを提供する方法を身に付ける。 【テーマ】 介護過程は、専門的な知識に基づく実践方法を根拠付ける思考過程であり、介護の実践方法である。そのことを理解し、技術を習得するために、介護過程の意義・目的、介護過程の構成要素、介護過程の展開方法について取り上げる。																																												
授業の概要： テキストを用いた講義を中心に、介護過程の展開の基礎となる介護過程の目的を理解し、情報収集から計画の立案・実施・評価までの一連の介護過程に沿った考え方を学ぶ授業である。 ①介護過程の意義と目的を理解し、介護過程の展開のプロセスを学ぶ。 ②介護過程と生活支援との関係性を理解し、介護過程の必要性を学ぶ。 ③介護過程の全体像を踏まえ、アセスメントの方法を学ぶ。 ④情報を解釈・分析し、利用者の生活課題を理解し、その解決に向け、検討する方法を学ぶ。 ⑤実施および結果にもとづく評価の方法を理解し、次の展開に活かす方法を学ぶ。																																												
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>介護過程を理解する①：介護過程の意義と目的 計画を立てる際の概要をつかむため、演習により自分自身の計画について考える。ワークシートに記入後、グループでまとめ発表する。</td><td>テキストp2～p6を読む。テキスト内のわからない用語を調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>介護過程を理解する②：介護過程の必要性、介護過程の展開の基本視点 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキストp6～p14を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>介護過程を理解する③：介護過程の全体像(ICFの視点)</td><td>テキスト p18～p19、p26～p29 を読む。他科目で学んだ ICF について復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>アセスメント①：アセスメントとは 第2回、第3回の授業内容について小テストを実施する。</td><td>テキストp20～p26を読む。第2回、第3回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>アセスメント②：情報収集、解釈、関連付け・統合化 第4回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。</td><td>テキストp32～p35を読む。第4回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>アセスメント③：課題の明確化</td><td>テキストp36～p50を読む。第5回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>介護計画の立案①：介護計画の意義・目的、目標の設定（長期目標と短期目標）</td><td>テキストp52～p59を読む。第6回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>介護計画の立案②：具体的な支援内容・支援方法の決定</td><td>テキストp60～p64を読む。第7回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>実施と評価①：実施の準備と留意点（記録の意義、実施状況の把握、記録）</td><td>テキストp66～p76を読む。第8回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>実施と評価②：評価の内容と方法、評価のプロセスと視点</td><td>テキストp78～p93を読む。第9回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>介護過程の実践①：アセスメントの実際（事例）</td><td>第10回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>介護過程の実践②：計画の立案、評価の実際（事例）</td><td>第11回の授業内容を復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>「介護過程」とチームアプローチ①：多職種との協働・連携、社会資源</td><td>テキストp98～p108を読む。多職種の専門性について、『介護概論』</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	介護過程を理解する①：介護過程の意義と目的 計画を立てる際の概要をつかむため、演習により自分自身の計画について考える。ワークシートに記入後、グループでまとめ発表する。	テキストp2～p6を読む。テキスト内のわからない用語を調べる。(60分)	第2回	介護過程を理解する②：介護過程の必要性、介護過程の展開の基本視点 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp6～p14を読む。(60分)	第3回	介護過程を理解する③：介護過程の全体像(ICFの視点)	テキスト p18～p19、p26～p29 を読む。他科目で学んだ ICF について復習する。(60分)	第4回	アセスメント①：アセスメントとは 第2回、第3回の授業内容について小テストを実施する。	テキストp20～p26を読む。第2回、第3回の授業内容を復習する。(60分)	第5回	アセスメント②：情報収集、解釈、関連付け・統合化 第4回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキストp32～p35を読む。第4回の授業内容を復習する。(60分)	第6回	アセスメント③：課題の明確化	テキストp36～p50を読む。第5回の授業内容を復習する。(60分)	第7回	介護計画の立案①：介護計画の意義・目的、目標の設定（長期目標と短期目標）	テキストp52～p59を読む。第6回の授業内容を復習する。(60分)	第8回	介護計画の立案②：具体的な支援内容・支援方法の決定	テキストp60～p64を読む。第7回の授業内容を復習する。(60分)	第9回	実施と評価①：実施の準備と留意点（記録の意義、実施状況の把握、記録）	テキストp66～p76を読む。第8回の授業内容を復習する。(60分)	第10回	実施と評価②：評価の内容と方法、評価のプロセスと視点	テキストp78～p93を読む。第9回の授業内容を復習する。(60分)	第11回	介護過程の実践①：アセスメントの実際（事例）	第10回の授業内容を復習する。(60分)	第12回	介護過程の実践②：計画の立案、評価の実際（事例）	第11回の授業内容を復習する。(60分)	第13回	「介護過程」とチームアプローチ①：多職種との協働・連携、社会資源	テキストp98～p108を読む。多職種の専門性について、『介護概論』
回数	内容	準備学習																																										
第1回	介護過程を理解する①：介護過程の意義と目的 計画を立てる際の概要をつかむため、演習により自分自身の計画について考える。ワークシートに記入後、グループでまとめ発表する。	テキストp2～p6を読む。テキスト内のわからない用語を調べる。(60分)																																										
第2回	介護過程を理解する②：介護過程の必要性、介護過程の展開の基本視点 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキストp6～p14を読む。(60分)																																										
第3回	介護過程を理解する③：介護過程の全体像(ICFの視点)	テキスト p18～p19、p26～p29 を読む。他科目で学んだ ICF について復習する。(60分)																																										
第4回	アセスメント①：アセスメントとは 第2回、第3回の授業内容について小テストを実施する。	テキストp20～p26を読む。第2回、第3回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第5回	アセスメント②：情報収集、解釈、関連付け・統合化 第4回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキストp32～p35を読む。第4回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第6回	アセスメント③：課題の明確化	テキストp36～p50を読む。第5回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第7回	介護計画の立案①：介護計画の意義・目的、目標の設定（長期目標と短期目標）	テキストp52～p59を読む。第6回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第8回	介護計画の立案②：具体的な支援内容・支援方法の決定	テキストp60～p64を読む。第7回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第9回	実施と評価①：実施の準備と留意点（記録の意義、実施状況の把握、記録）	テキストp66～p76を読む。第8回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第10回	実施と評価②：評価の内容と方法、評価のプロセスと視点	テキストp78～p93を読む。第9回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第11回	介護過程の実践①：アセスメントの実際（事例）	第10回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第12回	介護過程の実践②：計画の立案、評価の実際（事例）	第11回の授業内容を復習する。(60分)																																										
第13回	「介護過程」とチームアプローチ①：多職種との協働・連携、社会資源	テキストp98～p108を読む。多職種の専門性について、『介護概論』																																										

第14回 「介護過程」とチームアプローチ②：介護福祉士の役割 第15回 まとめ：利用者の生活と介護過程の展開 定時試験 筆記試験を実施 フィードバックの方法：	などで学習したことを復習する。 (60分) テキスト p111～p119 を読む。介護福祉士の専門性について、『介護概論』などで学習したことを復習する。(60分) 第14回までの学習内容を復習する。(60分)
テキスト：『最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規	
参考書・参考資料等：『最新 介護福祉全書 7 介護過程』 メヂカルフレンド社	
学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、演習形式も取り入れて行うため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。定時試験成績70%、授業態度10%、ワークシート等の成果物20%	

授業科目名：介護過程の事例研究 後期	単位数：2単位	担当教員名：小針 臣子 、 久保 吉丸 担当形態：演習 複数																																																						
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 第Ⅱ期介護実習で実践した介護過程の展開をもとに自己の課題に気づき、よりよい支援の方法を考察し、追求する。そして、介護過程の事例研究を通し、自己の興味・関心を広げ、研究的態度を身につけるとともに問題解決能力を高め、支援者としての自覚と責任を養う。 【テーマ】 第Ⅱ期介護実習で実践した介護過程の展開を取り上げる。介護実習状況の振り返り、介護過程の展開のまとめ、実際の支援に対する評価・考察を行うことで、よりよい支援の方法を検討する。																																																								
授業の概要： 第Ⅱ期介護実習で実践した介護過程の展開をもとに研究を行う。 ①介護過程の展開における自己の問題・課題に気づく。 ②自己の興味・関心を広げ、問題・課題等について、よりよい支援を目指し検討した内容をまとめる。 ③発表要旨を作成し、研究から得られた知見を口頭発表する。 ④発表・聴講を通し、研究する姿勢、態度を養う。 ④他者からの助言を受け、さらなる探究心をもち支援者としての自覚と責任を持てるようになる。																																																								
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>ガイダンス：事例研究の概要、スケジュール、注意事項等</td><td></td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)</td><td></td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)</td><td>開催予定を確認し聴講する口頭発表内容や福祉機器を下調べする。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>事例研究に関する理解①：介護過程における事例研究とは、目的、方法</td><td></td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>事例研究に関する理解②：事例研究の実際（執筆内容の理解）</td><td></td></tr> <tr> <td>第 6回</td><td>事例研究に関する理解③：事例研究の実際（執筆要綱及び執筆様式の理解）</td><td></td></tr> <tr> <td>第 7回</td><td>事例研究に関する理解④：文献検索の方法と注意事項、文献シートの説明</td><td></td></tr> <tr> <td>第 8回</td><td>事例研究に関する理解⑤：先行研究の収集</td><td>第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返し、関心を広げたいと思う内容について考える。文献検索のキーワードとなる項目の候補を挙げておく。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 9回</td><td>介護過程の展開の振り返り：振り返りシートを用いた介護実習のまとめ</td><td></td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>研究課題の抽出とテーマ設定 ……中間評価 i（面談）</td><td></td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>事例研究の実際①：はじめに（目的）、事例の概要の執筆 振り返りシートをもとに、指導教員による個別指導。先行研究収集を踏まえ、テーマ設定に向けて方向性を絞る。</td><td>準備学習：第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返す。(60分)</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>事例研究の実際②：事例の概要の執筆の続き</td><td></td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>事例研究の実際③：介護実践のまとめの執筆</td><td></td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>事例研究の実際④：介護実践のまとめの執筆の続き …… 中間評価 ii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導によるフィードバックを踏まえ修正。</td><td></td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>事例研究の実際⑤：評価の執筆</td><td></td></tr> <tr> <td>第16回</td><td>事例研究の実際⑥：評価の執筆の続き</td><td></td></tr> <tr> <td>第17回</td><td>事例研究の実際⑦：評価の執筆 ……中間評価 iii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導による</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	ガイダンス：事例研究の概要、スケジュール、注意事項等		第 2回	アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)		第 3回	アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)	開催予定を確認し聴講する口頭発表内容や福祉機器を下調べする。(60分)	第 4回	事例研究に関する理解①：介護過程における事例研究とは、目的、方法		第 5回	事例研究に関する理解②：事例研究の実際（執筆内容の理解）		第 6回	事例研究に関する理解③：事例研究の実際（執筆要綱及び執筆様式の理解）		第 7回	事例研究に関する理解④：文献検索の方法と注意事項、文献シートの説明		第 8回	事例研究に関する理解⑤：先行研究の収集	第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返し、関心を広げたいと思う内容について考える。文献検索のキーワードとなる項目の候補を挙げておく。(60分)	第 9回	介護過程の展開の振り返り：振り返りシートを用いた介護実習のまとめ		第10回	研究課題の抽出とテーマ設定 ……中間評価 i（面談）		第11回	事例研究の実際①：はじめに（目的）、事例の概要の執筆 振り返りシートをもとに、指導教員による個別指導。先行研究収集を踏まえ、テーマ設定に向けて方向性を絞る。	準備学習：第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返す。(60分)	第12回	事例研究の実際②：事例の概要の執筆の続き		第13回	事例研究の実際③：介護実践のまとめの執筆		第14回	事例研究の実際④：介護実践のまとめの執筆の続き …… 中間評価 ii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導によるフィードバックを踏まえ修正。		第15回	事例研究の実際⑤：評価の執筆		第16回	事例研究の実際⑥：評価の執筆の続き		第17回	事例研究の実際⑦：評価の執筆 ……中間評価 iii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導による	
回数	内容	準備学習																																																						
第 1回	ガイダンス：事例研究の概要、スケジュール、注意事項等																																																							
第 2回	アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)																																																							
第 3回	アクティブ福祉in東京' 21(高齢者福祉実践・研究大会)	開催予定を確認し聴講する口頭発表内容や福祉機器を下調べする。(60分)																																																						
第 4回	事例研究に関する理解①：介護過程における事例研究とは、目的、方法																																																							
第 5回	事例研究に関する理解②：事例研究の実際（執筆内容の理解）																																																							
第 6回	事例研究に関する理解③：事例研究の実際（執筆要綱及び執筆様式の理解）																																																							
第 7回	事例研究に関する理解④：文献検索の方法と注意事項、文献シートの説明																																																							
第 8回	事例研究に関する理解⑤：先行研究の収集	第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返し、関心を広げたいと思う内容について考える。文献検索のキーワードとなる項目の候補を挙げておく。(60分)																																																						
第 9回	介護過程の展開の振り返り：振り返りシートを用いた介護実習のまとめ																																																							
第10回	研究課題の抽出とテーマ設定 ……中間評価 i（面談）																																																							
第11回	事例研究の実際①：はじめに（目的）、事例の概要の執筆 振り返りシートをもとに、指導教員による個別指導。先行研究収集を踏まえ、テーマ設定に向けて方向性を絞る。	準備学習：第Ⅱ期介護実習の実習日誌を読み返す。(60分)																																																						
第12回	事例研究の実際②：事例の概要の執筆の続き																																																							
第13回	事例研究の実際③：介護実践のまとめの執筆																																																							
第14回	事例研究の実際④：介護実践のまとめの執筆の続き …… 中間評価 ii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導によるフィードバックを踏まえ修正。																																																							
第15回	事例研究の実際⑤：評価の執筆																																																							
第16回	事例研究の実際⑥：評価の執筆の続き																																																							
第17回	事例研究の実際⑦：評価の執筆 ……中間評価 iii 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導による																																																							

	フィードバックを踏まえ修正。	
第18回	事例研究の実際⑧：考察の検討（課題に対する考察の方法）と文献検索	
第19回	事例研究の実際⑨：考察の執筆（介護計画の考察）	
第20回	事例研究の実際⑩：考察の執筆（先行研究を踏まえた考察）	
第21回	事例研究の実際⑪：考察の執筆（先行研究を踏まえた考察）の続き・・・中間評価iv 指導教員に執筆した内容を印刷し提出。個別指導によるフィードバックを踏まえ修正。	
第22回	事例研究の実際⑫：結論の執筆	
第23回	事例研究の実際⑬：結論の執筆の続き	
第24回	事例研究の実際⑭：今後の課題とおわりにの執筆	
第25回	事例研究の実際⑮：完成（提出物：表紙、目次付の事例研究及びデータ）12,000字提出	
第26回	事例研究発表会の目的と役割分担	
第27回	発表用資料の作成（パワーポイントと読み原稿）	発表に向けて、完成した論文の内容を振り返る。（60分）
第28回	事例研究発表会の準備	
第29回	事例研究発表会（全員発表）2コマ続きで開催	
第30回	事例研究発表会（全員発表）2コマ続きで開催	
定時試験	研究論文の提出、発表を定時試験とする	

※授業の総まとめとして、事例研究発表会を開催し、全員発表とする。

※準備学習として、自己の興味、関心ごとに関する文献検索を事前にすすめながら授業に臨む。

※冬期休暇前後に、先行研究を調べてまとめる課題を出す。

テキスト：貞静学園短期大学専攻科介護福祉専攻にてまとめた『実習ガイドブック』
『資料検索のてびき』貞静学園短期大学附属図書館、『執筆要領』

参考書・参考資料等：『介護福祉を学ぶ学生のための事例研究』（柊崎京子編著、久美出版）、

学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。

①介護過程の事例研究論文（80%）、②中間評価4回（作業内容、提出物、授業態度）各5点（20%）

授業科目名：介護過程の実践的応用 前期	単位数：2単位	担当教員名：久保 吉丸、吉藤 郁 担当形態： 演習 複数																																																									
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 利用者の個別のニーズを的確に把握し、多職種との連携のもと、根拠ある適切な介護サービスを提供する方法を習得する。 【テーマ】 様々な状態にある利用者として、①高齢者、②認知症のある高齢者、③障害者、④居宅高齢者を取りあげる。これらの事例をもとに介護過程の展開を行い、他の科目で学習した知識や技術を統合して、その方の状況、状態に適した支援を行うための介護過程の展開方法について学ぶ。																																																											
授業の概要： 4つの事例をもとに演習を行う。介護過程の基礎を踏まえた上で、情報収集から実施・評価までの一連の介護過程を展開することで介護過程の展開方法を学ぶ。また、学生間でのグループワークを通し、具体的な個別支援の方法について検討し、理解を深める。授業内容の要点は、以下の通りである。 ①個別的な状態にある利用者について介護過程の展開を通じて理解を深める。 ②具体的介護場面をイメージし、多科目で学んだ知識・技術を用いて介護過程を実践的に展開し、その具体的な支援の根拠について考える。 ③他者のおこなったアセスメントを検討し、多様な視点を学ぶ。 ④事例をもとにした介護過程の展開を通し、グループ学習において多職種との連携や協働、チームアプローチの必要性を考える。																																																											
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回</td><td>介護過程基礎の確認</td><td></td></tr> <tr><td>第2回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>①：「高齢者」事例の理解と情報収集 i 一つひとつの情報の理解</td><td></td></tr> <tr><td>第3回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。</td><td></td></tr> <tr><td>第4回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）ミニ事例で分析の仕方を練習。その後、事例①で分析を行なう。</td><td></td></tr> <tr><td>第5回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）</td><td></td></tr> <tr><td>第6回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>⑤：介護計画の立案 i（目標設定）</td><td></td></tr> <tr><td>第7回</td><td>介護過程の実践的展開<事例1>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）</td><td></td></tr> <tr><td>第8回</td><td>事例①のまとめ</td><td></td></tr> <tr><td>第9回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>①：「認知症」事例の理解と情報収集 i</td><td></td></tr> <tr><td>第10回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>②：情報収集 ii</td><td></td></tr> <tr><td>第11回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）</td><td></td></tr> <tr><td>第12回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）</td><td></td></tr> <tr><td>第13回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>⑥：介護計画の立案 i（目標設定）</td><td></td></tr> <tr><td>第14回</td><td>介護過程の実践的展開<事例2>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）</td><td></td></tr> <tr><td>第15回</td><td>事例②のまとめ</td><td></td></tr> <tr><td>第16回</td><td>介護過程の実践的展開<事例3>①：「障害のある人」事例の理解と情報収集 i</td><td></td></tr> <tr><td>第17回</td><td>介護過程の実践的展開<事例3>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。</td><td></td></tr> <tr><td>第18回</td><td>介護過程の実践的展開<事例3>③：情報の分析</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	介護過程基礎の確認		第2回	介護過程の実践的展開<事例1>①：「高齢者」事例の理解と情報収集 i 一つひとつの情報の理解		第3回	介護過程の実践的展開<事例1>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。		第4回	介護過程の実践的展開<事例1>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）ミニ事例で分析の仕方を練習。その後、事例①で分析を行なう。		第5回	介護過程の実践的展開<事例1>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）		第6回	介護過程の実践的展開<事例1>⑤：介護計画の立案 i（目標設定）		第7回	介護過程の実践的展開<事例1>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）		第8回	事例①のまとめ		第9回	介護過程の実践的展開<事例2>①：「認知症」事例の理解と情報収集 i		第10回	介護過程の実践的展開<事例2>②：情報収集 ii		第11回	介護過程の実践的展開<事例2>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）		第12回	介護過程の実践的展開<事例2>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）		第13回	介護過程の実践的展開<事例2>⑥：介護計画の立案 i（目標設定）		第14回	介護過程の実践的展開<事例2>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）		第15回	事例②のまとめ		第16回	介護過程の実践的展開<事例3>①：「障害のある人」事例の理解と情報収集 i		第17回	介護過程の実践的展開<事例3>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。		第18回	介護過程の実践的展開<事例3>③：情報の分析	
回数	内容	準備学習																																																									
第1回	介護過程基礎の確認																																																										
第2回	介護過程の実践的展開<事例1>①：「高齢者」事例の理解と情報収集 i 一つひとつの情報の理解																																																										
第3回	介護過程の実践的展開<事例1>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。																																																										
第4回	介護過程の実践的展開<事例1>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）ミニ事例で分析の仕方を練習。その後、事例①で分析を行なう。																																																										
第5回	介護過程の実践的展開<事例1>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）																																																										
第6回	介護過程の実践的展開<事例1>⑤：介護計画の立案 i（目標設定）																																																										
第7回	介護過程の実践的展開<事例1>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）																																																										
第8回	事例①のまとめ																																																										
第9回	介護過程の実践的展開<事例2>①：「認知症」事例の理解と情報収集 i																																																										
第10回	介護過程の実践的展開<事例2>②：情報収集 ii																																																										
第11回	介護過程の実践的展開<事例2>③：情報の分析 i（情報の解釈、関連付け・統合）																																																										
第12回	介護過程の実践的展開<事例2>④：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）																																																										
第13回	介護過程の実践的展開<事例2>⑥：介護計画の立案 i（目標設定）																																																										
第14回	介護過程の実践的展開<事例2>⑦：介護計画の立案 ii（支援内容、方法）																																																										
第15回	事例②のまとめ																																																										
第16回	介護過程の実践的展開<事例3>①：「障害のある人」事例の理解と情報収集 i																																																										
第17回	介護過程の実践的展開<事例3>②：情報収集 ii 情報をアセスメントシートに記入する。																																																										
第18回	介護過程の実践的展開<事例3>③：情報の分析																																																										

第19回	介護過程の実践的展開＜事例3＞④：介護計画の立案
第20回	介護過程の実践的展開＜事例3＞⑤：実施評価の視点・記録方法の確認
第21回	事例③のまとめ
第22回	介護過程の実践的展開＜事例4＞①：「居宅高齢者」事例の理解と情報収集 i
第23回	介護過程の実践的展開＜事例4＞②：情報の分析 ii（情報の解釈、関連付け・統合、生活課題の抽出）
第24回	介護過程の実践的展開＜事例4＞③：介護計画の立案 i
第25回	介護過程の実践的展開＜事例4＞④：介護計画の立案 ii
第26回	介護過程の実践的展開＜事例4＞⑤：実施評価の視点
第27回	事例④のまとめ
第28回	介護過程の実践的展開とチームアプローチ①：他職種との情報の共有・協働 i
第29回	介護過程の実践的展開とチームアプローチ②：他職種との情報の共有・協働 ii・事例をもとに考える
第30回	まとめ
定時試験	筆記試験を実施する

※準備学習として、適宜①高齢者、②認知症のある高齢者、③障害者、④居宅高齢者の事例にある疾患及び障害についての理解を深めるための事前課題を課す。（60分）

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程』 中央法規

参考書・参考資料等：『最新 介護福祉全書 7 介護過程』 メヂカルフレンド社
『事例で読み解く介護過程―根拠に基づく生活支援を实践するために』 森繁樹 中央法規
適宜、資料を配布する。

学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。

①定時試験（70%） ②4事例の演習の提出物を毎授業提出。（20%）

③演習への取り組み、授業態度（10%）

授業科目名：介護総合演習 通年	単位数：2単位	担当教員名：小針 臣子 、 久保 吉丸 担当形態：演習 複数																																																																																							
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 第Ⅰ期・第Ⅱ期介護実習及び訪問入浴実習をより効果的に実践するために、他の科目で学習した知識や技術の統合をはかり、自己の課題を明確にするための実習準備を行うことが出来る。また、実習後の振り返りを行い、実践に基づく自己の課題達成のための取り組みを評価し、専門職としてあらゆる状況にある利用者に対応できる実践力を身につけることが出来る。 【テーマ】 本科目は、第Ⅰ期・第Ⅱ期介護実習、および訪問入浴実習の事前・事後指導科目である。実習に向けての心構え、実習の構成や目的、必要な書類の作成準備、主体的な実習を実施するための実習課題の作成、実習への動機づけ、知識や技術の統合、実習体験の報告・まとめを展開する。																																																																																									
授業の概要： 第Ⅰ期・第Ⅱ期介護実習および訪問入浴実習の事前・事後の指導を行う。 ①介護実習のねらい、目的、課題を理解し、実習で求められる視点を理解する。 ②介護実習に必要な書類の準備をし、自己の実習課題を明確にする。 ③介護実習に必要な記録の種類を理解し、その記述方法を学ぶ。 ④他の科目で学習した知識や技術を実習において実践するための方法について学ぶ。 ⑤介護実習終了後にその振り返りを行い、自己評価し、今後の課題について理解する。																																																																																									
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回</td><td>『介護総合演習』の進め方について（オリエンテーション）</td><td></td></tr> <tr><td>第2回</td><td>介護実習における事前学習と、事後学習の意義</td><td></td></tr> <tr><td>第3回</td><td>第Ⅰ期介護実習の目的とその意義</td><td></td></tr> <tr><td>第4回</td><td>介護実習に臨む姿勢について</td><td></td></tr> <tr><td>第5回</td><td>実習目標、実習課題の作成方法及び個人票の作成について</td><td></td></tr> <tr><td>第6回</td><td>実習目標、実習課題、個人票等の作成及び実習前オリエンテーションについて</td><td></td></tr> <tr><td>第7回</td><td>実習日誌およびその他必要書類の書き方について</td><td></td></tr> <tr><td>第8回</td><td>実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）</td><td></td></tr> <tr><td>第9回</td><td>プロセスレコードの書き方について</td><td></td></tr> <tr><td>第10回</td><td>介護実習に関する確認事項と諸注意</td><td></td></tr> <tr><td>第11回</td><td>介護実習課題の発表、実習前オリエンテーション内容を踏まえた情報交換</td><td></td></tr> <tr><td>第12回</td><td>福祉用具体験講習会</td><td></td></tr> <tr><td>第13回</td><td>第Ⅰ期介護実習の振り返り①振り返りワークシートの作成と実習報告会準備</td><td></td></tr> <tr><td>第14回</td><td>第Ⅰ期介護実習の振り返り②実習報告会（全員発表）</td><td></td></tr> <tr><td>第15回</td><td>第Ⅰ期介護実習の振り返り③実習報告会（全員発表）</td><td></td></tr> <tr><td>第16回</td><td>訪問入浴実習の概要、訪問入浴実習に必要な書類と書き方</td><td></td></tr> <tr><td>第17回</td><td>訪問入浴実習オリエンテーションの参加（全員でアサヒサンクリーン北事業所へ）</td><td></td></tr> <tr><td>第18回</td><td>訪問入浴実習の振り返りとまとめ、第Ⅱ期介護実習の目的とその意義</td><td></td></tr> <tr><td>第19回</td><td>第Ⅱ期実習に必要な書類と書き方について（個人票等の作成）</td><td></td></tr> <tr><td>第20回</td><td>実習目標、実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）</td><td></td></tr> <tr><td>第21回</td><td>レクリエーションの企画用紙の作成と準備、レクリエーションの進め方（グループ）</td><td></td></tr> <tr><td>第22回</td><td>介護計画の作成に向けた介護過程の展開について</td><td></td></tr> <tr><td>第23回</td><td>第Ⅱ期介護実習に関する最終確認、実習課題発表</td><td></td></tr> <tr><td>第24回</td><td>帰校日1回目指導 実習の進捗状況の確認</td><td></td></tr> <tr><td>第25回</td><td>帰校日2回目指導 巡回担当教員による個別指導</td><td></td></tr> <tr><td>第26回</td><td>帰校日3回目指導 巡回担当教員による個別指導</td><td></td></tr> <tr><td>第27回</td><td>帰校日4回目指導 巡回担当教員による個別指導</td><td></td></tr> <tr><td>第28回</td><td>第Ⅱ期実習の振り返り①振り返りワークシートの作成</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	『介護総合演習』の進め方について（オリエンテーション）		第2回	介護実習における事前学習と、事後学習の意義		第3回	第Ⅰ期介護実習の目的とその意義		第4回	介護実習に臨む姿勢について		第5回	実習目標、実習課題の作成方法及び個人票の作成について		第6回	実習目標、実習課題、個人票等の作成及び実習前オリエンテーションについて		第7回	実習日誌およびその他必要書類の書き方について		第8回	実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）		第9回	プロセスレコードの書き方について		第10回	介護実習に関する確認事項と諸注意		第11回	介護実習課題の発表、実習前オリエンテーション内容を踏まえた情報交換		第12回	福祉用具体験講習会		第13回	第Ⅰ期介護実習の振り返り①振り返りワークシートの作成と実習報告会準備		第14回	第Ⅰ期介護実習の振り返り②実習報告会（全員発表）		第15回	第Ⅰ期介護実習の振り返り③実習報告会（全員発表）		第16回	訪問入浴実習の概要、訪問入浴実習に必要な書類と書き方		第17回	訪問入浴実習オリエンテーションの参加（全員でアサヒサンクリーン北事業所へ）		第18回	訪問入浴実習の振り返りとまとめ、第Ⅱ期介護実習の目的とその意義		第19回	第Ⅱ期実習に必要な書類と書き方について（個人票等の作成）		第20回	実習目標、実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）		第21回	レクリエーションの企画用紙の作成と準備、レクリエーションの進め方（グループ）		第22回	介護計画の作成に向けた介護過程の展開について		第23回	第Ⅱ期介護実習に関する最終確認、実習課題発表		第24回	帰校日1回目指導 実習の進捗状況の確認		第25回	帰校日2回目指導 巡回担当教員による個別指導		第26回	帰校日3回目指導 巡回担当教員による個別指導		第27回	帰校日4回目指導 巡回担当教員による個別指導		第28回	第Ⅱ期実習の振り返り①振り返りワークシートの作成	
回数	内容	準備学習																																																																																							
第1回	『介護総合演習』の進め方について（オリエンテーション）																																																																																								
第2回	介護実習における事前学習と、事後学習の意義																																																																																								
第3回	第Ⅰ期介護実習の目的とその意義																																																																																								
第4回	介護実習に臨む姿勢について																																																																																								
第5回	実習目標、実習課題の作成方法及び個人票の作成について																																																																																								
第6回	実習目標、実習課題、個人票等の作成及び実習前オリエンテーションについて																																																																																								
第7回	実習日誌およびその他必要書類の書き方について																																																																																								
第8回	実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）																																																																																								
第9回	プロセスレコードの書き方について																																																																																								
第10回	介護実習に関する確認事項と諸注意																																																																																								
第11回	介護実習課題の発表、実習前オリエンテーション内容を踏まえた情報交換																																																																																								
第12回	福祉用具体験講習会																																																																																								
第13回	第Ⅰ期介護実習の振り返り①振り返りワークシートの作成と実習報告会準備																																																																																								
第14回	第Ⅰ期介護実習の振り返り②実習報告会（全員発表）																																																																																								
第15回	第Ⅰ期介護実習の振り返り③実習報告会（全員発表）																																																																																								
第16回	訪問入浴実習の概要、訪問入浴実習に必要な書類と書き方																																																																																								
第17回	訪問入浴実習オリエンテーションの参加（全員でアサヒサンクリーン北事業所へ）																																																																																								
第18回	訪問入浴実習の振り返りとまとめ、第Ⅱ期介護実習の目的とその意義																																																																																								
第19回	第Ⅱ期実習に必要な書類と書き方について（個人票等の作成）																																																																																								
第20回	実習目標、実習課題の作成（巡回担当教員による個別指導）																																																																																								
第21回	レクリエーションの企画用紙の作成と準備、レクリエーションの進め方（グループ）																																																																																								
第22回	介護計画の作成に向けた介護過程の展開について																																																																																								
第23回	第Ⅱ期介護実習に関する最終確認、実習課題発表																																																																																								
第24回	帰校日1回目指導 実習の進捗状況の確認																																																																																								
第25回	帰校日2回目指導 巡回担当教員による個別指導																																																																																								
第26回	帰校日3回目指導 巡回担当教員による個別指導																																																																																								
第27回	帰校日4回目指導 巡回担当教員による個別指導																																																																																								
第28回	第Ⅱ期実習の振り返り①振り返りワークシートの作成																																																																																								

- 第29回 第Ⅱ期実習の振り返り②実習報告（巡回担当毎のグループ内での振り返り）
- 第30回 第Ⅱ期実習の振り返り③全体での発表および学びの共有
- 定時試験 ワークシートの提出を定時試験とする

※第8回の準備学習として、実習種別に関する調べ学習を課題とする。60分。

※第20回の準備学習として、実習種別に関する調べ学習を課題とする。60分。

※第21回の準備学習として、『人間関係の基礎と応用』で作成したレクリエーション企画書を復習しておく。高齢者を対象にしたレクリエーションに関する書籍を読んでおくこと。60分。

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習』 中央法規

参考書・参考資料等：貞静学園短期大学専攻科介護福祉専攻にてまとめた『実習ガイドブック』と、『介護実習記録』を使用

学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価して成績を判定する。

①実習毎の振り返りワークシート課題（50%）、②提出物（実習課題、実習に必要な書類、実習後の記録）（40%）、③授業態度（10%）

授業科目名：第Ⅰ期介護実習 前期	単位数： 介護実習全部で5単位	担当教員名：実習施設、小針 臣子、久保 吉丸 担当形態：実習
授業の到達目標及びテーマ： 【授業目標】 実習施設・事業等（Ⅰ）において、以下の1～5の実習目標に向けた介護実習を展開することができる。また実習目標に到達するために、教員及び実習指導者の指導を受け、計画的に実習課題に取り組むことができる。 【テーマ】 社会福祉の基本、対人援助技術、学習中の介護福祉の知識・技術を踏まえ、利用者との関わりを通して、利用者への生活支援の方法を学ぶ。 【実習目標】 1. 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設、その他のいずれかの生活施設において、利用者の生活支援の実際を見学し、施設の概要および介護職の役割を理解する。 2. どのような利用者がどのような目的で施設を利用しているのか、また利用者の一日の生活の流れを学び、様々な利用者の住まいの形を知る。 3. 利用者および家族とのコミュニケーションを実践し、ニーズを理解するためのコミュニケーション方法を理解する。 4. 職員の生活支援の様子を見学し、その一部を実践し、生活支援の基礎技術への理解を深める。 5. 毎日の実習目標を定め、実習内容を具体的に記録し、振り返りを活かして次の実践につなげられるようにする。		
授業の概要： 実習施設・事業等（Ⅰ）において、教員及び実習指導者の指導を受けながら、実習目標の到達に向けて計画的に実習課題に取り組み、実習を展開する。保育士養成課程で修得した社会福祉の理念、知識及び対人支援技術を踏まえた実習を行う。また、介護福祉士養成課程において学習中の介護福祉の知識・技術を踏まえ、実際の利用者に関わりながら、実際の生活支援の方法を学ぶ。		
授業計画： 1 実習期間 5月（9日間） 2 実習のすすめ方 準備学習 ・実習開始前に施設オリエンテーションを受けてオリエンテーション報告書を作成し、実習施設の概要及び実習中の留意事項を理解する。 ・実習施設のサービス種別、介護保険制度、障害者総合支援法などについて、予習・復習する。 実習1～2日目 ・施設の沿革、理念、特徴などの概要について、オリエンテーション、質問、見学から学ぶ ・どのような利用者が生活しているのかについて観察し、利用者の一日の生活の流れの実際を学ぶ ・利用者に自己紹介し、初対面として適切な態度で、利用者の尊厳に留意したコミュニケーションを実施する ・少しずつ利用者の名前と特徴を記憶する ・申し送りを聞き、その日の注意事項や、流れを理解する ・介護職のコミュニケーションを見学する ・介護職から一日の生活支援の流れや、生活支援の基礎技術（環境整備や介助前後の準備片付けなど）を見学させて頂き、担当職員の許可のもと実践する 実習3～5日目 ・様々な利用者や家族とコミュニケーションを実践し、フロアやユニットの利用者の名前と特徴を覚える ・利用者の利用目的や、生活の背景に興味を持ち、尊厳に留意しながら、支援に必要な信頼関係を築くためのコミュニケーションを図る ・申し送りや介護記録など、連携の実際を学ぶ ・介護職の状況に応じたコミュニケーションを見学する		

- ・生活支援技術の基礎技術を積極的に実践し、修得する
 - ・一日一つでも、生活場面における生活支援技術を見学し、できる範囲で指導を受けて実践する
- 実習 6～9 日目
- ・様々な利用者の心身の状況や生活背景を理解するため、コミュニケーションを実践する
 - ・レクリエーションや、様々な関わりを通して、積極的に交流を深める
 - ・短期入所や通所など、様々な利用方法の利用者と関わり、それぞれの利用目的や住まいの形を知る
 - ・様々な職種の仕事内容や役割を知る
 - ・生活支援の基礎技術を積極的に実践し、利用者が心地よく生活するための技術を学ぶ
 - ・様々な生活場面における生活支援技術を見学し、できる範囲で指導を受けて実践する

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規

参考書・参考資料等：貞静学園短期大学専攻科介護福祉専攻にてまとめた『実習ガイドブック』、
『介護実習記録』を使用

学生に対する評価：各実習施設からの評価表に加え、実習態度や実習状況、実習日誌等の記録内容、及び記録の提出状況から総合的に判断する。介護実習規約にもとづき評価する。

授業科目名：第Ⅱ期介護実習 後期	単位数： 介護実習全部で5単位	担当教員名：実習施設、小針 臣子、久保 吉丸 担当形態：実習
授業の到達目標及びテーマ： 【授業目標】 実習施設・事業等（Ⅱ）において、以下の1～6の実習目標に向けた介護実習を展開することができる。また実習目標に到達するために、教員及び実習指導者の指導を受け、計画的に実習課題に取り組むことができる。 【テーマ】 社会福祉の基本、対人援助技術、学習中の介護福祉の知識・技術、第Ⅰ期介護実習や訪問入浴実習の反省を踏まえて実習し、利用者との関わりを通して、利用者に対する生活支援の方法を学ぶ。 【実習目標】 1. 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設のいずれかの生活施設において、利用者の生活支援の実際を見学し、施設の概要および介護職の役割を理解する。 2. 利用者の状態・状況に応じたコミュニケーションを実践し、利用者および家族の個別のニーズに対する理解を深める。 3. 介護職の仕事内容の全般を理解し、生活支援技術の基礎技術を修得し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の実践方法を学ぶ。 4. 変則勤務を体験し、1日を通した介護職の役割と多職種の役割を理解し、連携と協働の実際を学び、実践することができる。 5. 実習課題の達成や実習テーマの追究など、研究的態度に基づき実習目標を定め、実習内容を記録し、考察し、次の実践につなげられるようになる。 6. 1人の利用者を担当してアセスメントを実施し、職員の指導を受けて、介護計画を立案し、実施、評価する一連の流れを展開することができる。		
授業の概要：保育士養成課程で修得した内容と、本学の介護福祉士養成課程において、学習中の介護福祉の知識・技術、第Ⅰ期介護実習、訪問入浴実習の反省を踏まえて実習し、生活支援技術を習得する。受け持ち利用者に対し、介護過程の展開を行い、個別ケアについて理解する。また、帰校日や実習終了後に学内で振り返り学習を行い、将来の介護福祉士として、質の向上を図る。		
授業計画： 1 実習期間 10月～11月（19日間） 2 実習のすすめ方 準備学習 ・実習開始前に施設オリエンテーションを受けてオリエンテーション報告書を作成し、実習施設の概要及び実習中の留意事項を理解する。 ・実習施設のサービス種別、介護保険制度、障害者総合支援法について、復習する。 ・第Ⅰ期介護実習で明確になった課題を踏まえ、実習課題を作成する。 ・介護過程の展開における留意点や記録の書き方を復習し、介護計画作成の準備を行う。 ・生活支援技術の基礎を予習・復習しておく。 実習1～4日目 ・施設の沿革、理念、特徴などの概要について、オリエンテーション、質問、見学から学ぶ ・どのような利用者が生活しているのかについて観察し、利用者の1日の生活の流れの実際を学ぶ ・様々な利用者や家族に対し、自己紹介からコミュニケーションを実践し、名前と特徴を覚える ・申し送りや介護記録など、連携の実際を学ぶ ・介護職の状況に応じたコミュニケーションを見学する ・介護職から1日の生活支援の流れや、生活支援の基礎技術の実際を学び、実践する ・様々な生活場面における生活支援技術を見学し、利用者ごとに違う生活支援技術の方法を学ぶ ・利用者の心身の状態や生活の背景に興味を持ち、利用者の個別的なニーズを探りながら、担当したい利用者を2～3名選ぶ。 ・担当したい利用者とその理由を実習指導者に相談し、担当利用者を1名に決定する。		

実習 5～9 日目

- ・様々な利用者や家族とコミュニケーションを図り、個別のニーズを理解するためのコミュニケーションの方法を学ぶ
- ・様々な職種の仕事や仕事内容を知り、多職種との連携の実際を学ぶ
- ・介護職の状況に応じたコミュニケーションを見学する
- ・生活支援技術の基礎技術を積極的に実践し、修得する
- ・1日1つでも、生活場面における生活支援技術を見学し、できる範囲で指導を受けて実践する
- ・実習指導者に相談して担当利用者を選び、生活場面を見学し、利用者との関わり、記録、様々な職種の意見などから情報収集をする
- ・ニーズを明確にし、実習指導者と教員に相談し、介護計画を立案する

実習 10～14 日目

- ・様々な利用者や家族とコミュニケーションを図り、状態や状況に応じたコミュニケーションの方法を学ぶ
- ・クラブ活動やレクリエーション、行事に参加し、様々な関わりを通して、利用者や家族を理解する
- ・実習指導者に相談し、利用者の状態に応じた集団のレクリエーションを企画する
- ・様々な生活場面における生活支援技術を見学し、指導を受けて実践できる範囲を増やす
- ・自立支援や生活の質の向上に向けた生活支援の実践に向けて、職員に質問しながら、自分の考えを持つ
- ・実習指導者の許可を得て、利用者の状況に応じた、介護計画を実践する
- ・担当利用者の周囲の利用者にも配慮しながら、交流を深める

実習 15～19 日目

- ・関わりの少ない利用者に対し、積極的に関わる
- ・実習指導者に許可を得て、企画したレクリエーションを実施し、集団でのコミュニケーションの実践方法を学ぶ
- ・自立支援や生活の質の向上について、テーマを持ち、介護職や多職種に積極的に質問し、自分なりの工夫を考えながら、指導を受けて生活支援技術を実践する
- ・夜勤を体験し、1日を通した介護職の役割や、多職種との連携の在り方を学ぶ
- ・機会があれば、委員会活動やケアカンファレンスに参加し、施設の職員の役割や、連携の実際を学ぶ
- ・介護計画の実践に無理がないかなどについて、利用者の観察を続ける
- ・介護計画の途中までの実践を踏まえ、細部の修正や工夫を加えながら、より良い支援の方法を探る
- ・一連の個別介護過程を評価し、利用者の残された課題を今後の支援につなげられるように、記録する

テキスト：『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習』 中央法規

参考書・参考資料等：貞静学園短期大学専攻科介護福祉専攻にてまとめた『実習ガイドブック』、『介護実習記録』を使用

学生に対する評価：各実習施設からの評価表に加え、実習態度や実習状況、実習日誌等の記録内容、及び記録の提出状況から総合的に判断する。介護実習規約にもとづき評価する。

授業科目名：訪問入浴実習 前期	単位数：第Ⅰ期・第Ⅱ期 介護実習に含まれる	担当教員名：実習施設、小針 臣子、久保 吉丸 担当形態：実習
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 実習施設・事業等（Ⅰ）訪問入浴事業所において以下の実習目標に向けた介護実習を展開することができる。 【テーマ】 学習中の介護福祉の知識・技術、及び第Ⅰ期介護実習、第Ⅱ期介護実習を踏まえ、職員同行の元、利用者の自宅で訪問入浴介護の実際について学ぶ。 ① 自宅で暮らしている利用者及び、家族の生活の様子を学ぶ。 ② 訪問入浴介護の支援の実際を見学し、介護の仕事の内容と役割を学ぶ。 ③ 利用者や家族と関わりを持ち、当事者の思いについて学ぶ。 ④ 利用者の尊厳に配慮し、専門職としてどのように関わればよいかを学ぶ。		
授業の概要： 訪問入浴実習では、学校で学んだ介護の基本及び第Ⅰ期介護実習、第Ⅱ期介護実習の経験を踏まえ、職員の同行のもと、利用者の居宅介護を支える仕組みや、実際の利用者・家族の様子、生活支援技術について、支援場面の見学や関わりから理解を深めていく。		
授業計画： 1 実習期間 7月（1日間） 2 実習事業所 学生の居住地近隣にある事業所で実習 3 実習のすすめ方 ①各事業所のプログラムに沿って実習をすすめる ②4～6件程度、職員に同行して利用者宅を訪問する ③訪問入浴サービスの業務について見学を中心に学び、一部実践する ④利用者やご家族とのかかわりを通して、居宅での生活や利用者の思いに触れる 4 その他 ・実習に向けた事前準備は、『介護総合演習』の授業内で行う ・訪問入浴実習中は職員の指示のもと行動する ※介護実習の準備学習として、訪問入浴介護事業所の事前オリエンテーションに参加する。オリエンテーション報告書を作成し、事業所の概要及び利用者の居宅における実習の留意事項を理解する。 ※準備学習として、『介護概論B』や『生活と福祉』などの授業で学んだ介護保険制度におけるサービスの位置づけ、サービス内容やサービスを利用できる対象者などの基本情報について復習しておく。		
テキスト： 『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習』 中央法規		
参考書・参考資料等： 貞静学園短期大学専攻科介護福祉専攻にてまとめた『実習ガイドブック』、『介護実習記録』を使用		
学生に対する評価： 各実習施設からの評価表に加え、実習態度や実習状況、実習日誌等の記録内容、及び記録の提出状況から総合的に判断する。介護実習規約にもとづき評価する。		

授業科目名：高齢者と生活 前期	単位数：2単位	担当教員名：松永 博子 担当形態： 講義 単独																																																			
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 【テーマ】 高齢者の心理を主たるテーマとし、高齢者のおかれている現代社会、高齢者を取り巻く環境を知った上で、人間の発達と加齢、老化の過程を学び、老年期におけるこころとからだを理解する。																																																					
授業の概要： 本講義では、人間の発達と加齢（老化）を理解するために、基本的な人間の発達について生涯発達という視点から、高齢者心理について考える。次に、老年期の発達と成熟について発達課題を中心に学び、日本国内における高齢者や介護に対する法整備の歴史等についても時系列で学ぶことによりその推移を概観し、既に高齢者となっている世代の歴史的变化についても知見を深め、高齢者心理を理解するための基礎的知識の構築を行う。加齢（老化）に伴う心身の機能の変化や、それらが及ぼす日常生活への影響や高齢者の心理および高齢者を取り巻く現状について、随時事例を交えながら学ぶ。																																																					
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価の仕方等</td><td>(0分)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>人間の成長と発達の基礎的理解 1 人間の発達・成長・老化とは何か(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>人間の成長と発達の基礎的理解 2 超高齢社会、高齢者の定義(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>老年期の発達と成熟 1 老年期の発達段階と発達課題(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>老年期の発達と成熟 2 ライフサイクルのなかの老年期、喪失体験、セクシュアリティ(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>老いを取り巻く現状 1 高齢者とその家族を考える(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>老いを取り巻く現状 2 高齢者とその家族の気持ちを考える(グループワーク)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>老化に伴う心と体の変化と日常生活 1 知的・認知機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>老化に伴う心と体の変化と日常生活 2 身体的機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>高齢者理解 1 認知症高齢者とその高齢者に関わる専門職の視点の検討(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>高齢者理解 2 認知症高齢者及びターミナル期高齢者の事例検討(ディスカッション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>高齢者と健康 1 高齢者に生じやすい症状と訴え(グループワーク)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>高齢者と健康 2 高齢者に多い疾病と留意点(グループワーク)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>高齢者と健康 3 高齢者のこころの問題と精神障害(グループワーク)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>まとめと国家試験対策(プレゼンテーション)</td><td>(30分)</td></tr> <tr> <td>定時試験</td><td>筆記試験を実施する</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価の仕方等	(0分)	第2回	人間の成長と発達の基礎的理解 1 人間の発達・成長・老化とは何か(ディスカッション)	(30分)	第3回	人間の成長と発達の基礎的理解 2 超高齢社会、高齢者の定義(ディスカッション)	(30分)	第4回	老年期の発達と成熟 1 老年期の発達段階と発達課題(ディスカッション)	(30分)	第5回	老年期の発達と成熟 2 ライフサイクルのなかの老年期、喪失体験、セクシュアリティ(ディスカッション)	(30分)	第6回	老いを取り巻く現状 1 高齢者とその家族を考える(ディスカッション)	(30分)	第7回	老いを取り巻く現状 2 高齢者とその家族の気持ちを考える(グループワーク)	(30分)	第8回	老化に伴う心と体の変化と日常生活 1 知的・認知機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)	(30分)	第9回	老化に伴う心と体の変化と日常生活 2 身体的機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)	(30分)	第10回	高齢者理解 1 認知症高齢者とその高齢者に関わる専門職の視点の検討(ディスカッション)	(30分)	第11回	高齢者理解 2 認知症高齢者及びターミナル期高齢者の事例検討(ディスカッション)	(30分)	第12回	高齢者と健康 1 高齢者に生じやすい症状と訴え(グループワーク)	(30分)	第13回	高齢者と健康 2 高齢者に多い疾病と留意点(グループワーク)	(30分)	第14回	高齢者と健康 3 高齢者のこころの問題と精神障害(グループワーク)	(30分)	第15回	まとめと国家試験対策(プレゼンテーション)	(30分)	定時試験	筆記試験を実施する	
回数	内容	準備学習																																																			
第1回	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価の仕方等	(0分)																																																			
第2回	人間の成長と発達の基礎的理解 1 人間の発達・成長・老化とは何か(ディスカッション)	(30分)																																																			
第3回	人間の成長と発達の基礎的理解 2 超高齢社会、高齢者の定義(ディスカッション)	(30分)																																																			
第4回	老年期の発達と成熟 1 老年期の発達段階と発達課題(ディスカッション)	(30分)																																																			
第5回	老年期の発達と成熟 2 ライフサイクルのなかの老年期、喪失体験、セクシュアリティ(ディスカッション)	(30分)																																																			
第6回	老いを取り巻く現状 1 高齢者とその家族を考える(ディスカッション)	(30分)																																																			
第7回	老いを取り巻く現状 2 高齢者とその家族の気持ちを考える(グループワーク)	(30分)																																																			
第8回	老化に伴う心と体の変化と日常生活 1 知的・認知機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)	(30分)																																																			
第9回	老化に伴う心と体の変化と日常生活 2 身体的機能の変化と日常生活への影響(ディスカッション)	(30分)																																																			
第10回	高齢者理解 1 認知症高齢者とその高齢者に関わる専門職の視点の検討(ディスカッション)	(30分)																																																			
第11回	高齢者理解 2 認知症高齢者及びターミナル期高齢者の事例検討(ディスカッション)	(30分)																																																			
第12回	高齢者と健康 1 高齢者に生じやすい症状と訴え(グループワーク)	(30分)																																																			
第13回	高齢者と健康 2 高齢者に多い疾病と留意点(グループワーク)	(30分)																																																			
第14回	高齢者と健康 3 高齢者のこころの問題と精神障害(グループワーク)	(30分)																																																			
第15回	まとめと国家試験対策(プレゼンテーション)	(30分)																																																			
定時試験	筆記試験を実施する																																																				
※日頃から高齢者や介護に関心を持ってもらうため、授業の始めにテーマを決めて10分程度のディスカッションを行う。 ※各単元後には確認テストを行い、その場で答え合わせをしつつ解説を行い、理解を促す。 ※各授業において明示するテキスト範囲まで準備学習を行うこと。																																																					
フィードバックの方法： 確認テストは答え合わせを行い、次回までに訂正したものを提出させる。																																																					

テキスト：『最新介護福祉全書 9 発達と老化の理解』メヂカルフレンド社、その他資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等：『最新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解』中央法規

学生に対する評価：以下の3点を総合的に評価し判定する。

①定時試験（60%）、②授業態度（20%）、③出席率・ディスカッション等への参加態度（20%）

授業科目名：認知症概論 前期	単位数：2単位	担当教員名：小針 臣子 担当形態：講義 単独																								
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 認知症の原因疾患について、医学的な観点から理解できる。認知症の中核症状・行動心理症状について理解できる。わが国における認知症ケアの歴史について理解し、これからの望ましいケアについて考えることができる。認知症の人や家族介護者が置かれている状況について理解し、必要に応じ適切な社会資源に繋げる方法を考えることができる。 【テーマ】 認知症に関する基礎知識の習得をテーマとし、①医学的側面からの基礎知識（原因・症状・診断・治療・予防・ケア方法など）、②認知症ケアの歴史、③認知症の人が生活する場の理解、④成年後見制度や日常生活自立支援事業、各種サービスなどの社会資源、⑤認知症の本人や家族介護者の心理などについて取り上げる。																										
授業の概要： ①医学的側面からの基礎知識（原因・症状・診断・治療・予防・対応方法など）について学ぶ。 ②中核症状と行動心理症状の違いや、それぞれの症状に応じたケア方法について基礎知識を習得する。 ③わが国における認知症ケアの歴史について、保存されている資料や映像を踏まえて学ぶ。 ④認知症の本人や家族介護者が置かれている状況を理解し、制度やサービス等の社会資源について学ぶ。 ⑤認知症の本人や家族介護者の心理について、体験者の手記などの資料や、演習を通して理解する。																										
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>認知症に対する知識の確認 「認知症」って何？ ブレインストーミングを用いたグループディスカッションとプレゼンテーション</td><td>認知症に関する新聞記事、テキスト①、書籍などを読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>認知症ケアの歴史 認知症ケアの進化の歴史、認知症高齢者数の推移 補助資料として映像資料や写真も用いて歴史を理解し、ワークシートに学びを整理する。</td><td>テキスト①p2～p14と、痴呆というタイトルがついた書籍を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>認知症の基礎的理解① 認知症の定義、原因疾患と特徴の理解 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。</td><td>テキスト①p16～p26を読む。老化による物忘れの特徴を自習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>認知症の基礎的理解② 中核症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。中核症状についての知識の習得。</td><td>テキスト①p26～p29を読んだ後、中核症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>認知症の基礎的理解③ 行動心理症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。行動心理症状についての知識の習得。</td><td>テキスト①p30～p42を読み、行動心理症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 6回</td><td>認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ、老化のしくみと脳の変化 【アクティブラーニング】 脳のしくみについて、解剖生理学的に特に大切なポイントはどこかディスカッションする 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>テキスト①p44～p50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53-59を読む。各テキストで指定された範囲の脳の作りとはたらきについて調べてマークしておく。(60分)</td></tr> <tr> <td>第 7回</td><td>認知症の基礎的理解⑤ アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症 【フィードバック】 第6回で提出された課題にコメントを書いて返却</td><td>テキスト①p59～p64を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53～59を読む。</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	認知症に対する知識の確認 「認知症」って何？ ブレインストーミングを用いたグループディスカッションとプレゼンテーション	認知症に関する新聞記事、テキスト①、書籍などを読む。(60分)	第 2回	認知症ケアの歴史 認知症ケアの進化の歴史、認知症高齢者数の推移 補助資料として映像資料や写真も用いて歴史を理解し、ワークシートに学びを整理する。	テキスト①p2～p14と、痴呆というタイトルがついた書籍を読む。(60分)	第 3回	認知症の基礎的理解① 認知症の定義、原因疾患と特徴の理解 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト①p16～p26を読む。老化による物忘れの特徴を自習する。(60分)	第 4回	認知症の基礎的理解② 中核症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。中核症状についての知識の習得。	テキスト①p26～p29を読んだ後、中核症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)	第 5回	認知症の基礎的理解③ 行動心理症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。行動心理症状についての知識の習得。	テキスト①p30～p42を読み、行動心理症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)	第 6回	認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ、老化のしくみと脳の変化 【アクティブラーニング】 脳のしくみについて、解剖生理学的に特に大切なポイントはどこかディスカッションする 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	テキスト①p44～p50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53-59を読む。各テキストで指定された範囲の脳の作りとはたらきについて調べてマークしておく。(60分)	第 7回	認知症の基礎的理解⑤ アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症 【フィードバック】 第6回で提出された課題にコメントを書いて返却	テキスト①p59～p64を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53～59を読む。
回数	内容	準備学習																								
第 1回	認知症に対する知識の確認 「認知症」って何？ ブレインストーミングを用いたグループディスカッションとプレゼンテーション	認知症に関する新聞記事、テキスト①、書籍などを読む。(60分)																								
第 2回	認知症ケアの歴史 認知症ケアの進化の歴史、認知症高齢者数の推移 補助資料として映像資料や写真も用いて歴史を理解し、ワークシートに学びを整理する。	テキスト①p2～p14と、痴呆というタイトルがついた書籍を読む。(60分)																								
第 3回	認知症の基礎的理解① 認知症の定義、原因疾患と特徴の理解 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト①p16～p26を読む。老化による物忘れの特徴を自習する。(60分)																								
第 4回	認知症の基礎的理解② 中核症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。中核症状についての知識の習得。	テキスト①p26～p29を読んだ後、中核症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)																								
第 5回	認知症の基礎的理解③ 行動心理症状とは何か 予習した成果を全員発表し全体で共有する。行動心理症状についての知識の習得。	テキスト①p30～p42を読み、行動心理症状に書かれている項目を2つ選び調べる。(60分)																								
第 6回	認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ、老化のしくみと脳の変化 【アクティブラーニング】 脳のしくみについて、解剖生理学的に特に大切なポイントはどこかディスカッションする 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	テキスト①p44～p50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53-59を読む。各テキストで指定された範囲の脳の作りとはたらきについて調べてマークしておく。(60分)																								
第 7回	認知症の基礎的理解⑤ アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症 【フィードバック】 第6回で提出された課題にコメントを書いて返却	テキスト①p59～p64を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、テキスト③p53～59を読む。																								

	【アクティブラーニング】 アルツハイマー認知症と血管性認知症の違いについてディスカッションする	各テキストで指定された範囲のアルツハイマー認知症と血管性認知症について調べてマークしておく。(60分)
第8回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 認知症の基礎的理解⑥レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、感覚・知覚・認知	テキスト①p64～p65を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、
	【フィードバック】 第7回で提出された課題にコメントを書いて返却	テキスト③p59～65を読む。各テキストで指定された範囲のレビー小体型認知症、前頭側頭型認知症について調べてマークしておく。(60分)
	【アクティブラーニング】 アルツハイマー認知症と血管性認知症の違い、感覚・知覚・認知の大切なポイントについてディスカッションする	各テキストで指定された範囲のレビー小体型認知症、前頭側頭型認知症について調べてマークしておく。(60分)
第9回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 認知症の基礎的理解⑦ クロイツフェルトヤコブ病、若年性認知症、認知症と間違えられやすい状態、記憶とそのプロセス	テキスト①p65～p67を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、
	【フィードバック】 第8回で提出された課題にコメントを書いて返却	テキスト③p66～74を読む。各テキストで指定された範囲のクロイツフェルトヤコブ病、若年性認知症、認知症と間違えられやすい状態、記憶とそのプロセスについて調べてマークしておく。(60分)
	【アクティブラーニング】 クロイツフェルトヤコブ病、若年性認知症、認知症と間違えられやすい状態、記憶とそのプロセスについて、記憶のプロセスの段階についてディスカッションする。	各テキストで指定された範囲の認知症の診断と治療と予防、動機付けと欲求の階層(マズロー)について調べてマークしておく。(60分)
第10回	【課題】 授業で行った内容の概要をノートにまとめる 認知症の基礎的理解⑧ 認知症の診断と治療と予防	テキスト①p69～p88を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、
	【フィードバック】 第9回で提出された課題にコメントを書いて返却	テキスト③p75～82を読む。各テキストで指定された範囲の認知症の診断と治療と予防、動機付けと欲求の階層(マズロー)について調べてマークしておく。(60分)
	【アクティブラーニング】 アルツハイマー認知症と血管性認知症の違い、記憶プロセス大切なポイントについてディスカッションする	各テキストで指定された範囲の認知症の診断と治療と予防、動機付けと欲求の階層(マズロー)について調べてマークしておく。(60分)
第11回	【課題】 授業で行った内容の概要をノートにまとめる※後日コメントを記入し返却する。 認知症の人の語る認知症	テキスト①p90～p120、p159～164、若年性認知症について書かれている新聞記事、書籍などを読む。新聞記事を持参する。(60分)
	認知症の人本人から発信される生活のしづらさの理解 若年性認知症の人の体験談資料をもとに学んだことをワークシートにまとめ発表する。	テキスト②p252～p275を読んだ後、家族介護者について書かれている新聞記事、書籍などを読む。(60分)
第12回	認知症の人とその家族の理解 認知症の受容と介護、レスパイトケア	テキスト①p290～p300を読む。成年後見制度と日常生活自立支援事業について、『生活と福祉』等で学習したことを復習する。(60分)
	認知症の人とその家族が認知症を受容する過程をテキスト①手記をもとにグループワークで学ぶ。 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト②p278～289を読む。介護保険サービスについて復習する。事前課題として、自分の住
第13回	認知症の人に関する社会資源① 成年後見制度、日常生活自立支援事業	テキスト③p232～p250、p278～289を読む。介護保険サービスについて復習する。事前課題として、自分の住
	前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト④p232～p250、p278～289を読む。介護保険サービスについて復習する。事前課題として、自分の住
第14回	認知症の人に関する社会資源② フォーマルサービス、インフォーマルサービス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護などについて学ぶ	事前課題として、自分の住

第15回 まとめ 定時試験	第1回演習を踏まえた総括と、これまで学んだことの再確認 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 ブレインストーミングを用いたグループディスカッションとプレゼンテーション 筆記試験を実施する	む地域の高齢者対象の各種サービスについて情報収集し、パンフレット等の資料を持参する。(60分) 1回目のグループのまとめシートを見ながら、自信を持って答えられない部分がある場合にはその部分を調べ修正したものを持参する。(60分)
	テキスト： ①『最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解』 中央法規 ②『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版 ③『こころとからだのしくみ』 メヂカルフレンド社 ④『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』 中央法規(第6・10回授業内で使用)	
	参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。	
	学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績 70%、授業態度 10%、ワークシート等の成果物 20%	

授業科目名：認知症ケア論 後期	単位数：2単位	担当教員名：松永 博子 担当形態：講義 単独																											
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 『認知症概論』で学んだ認知症に関する基礎的知識を踏まえ、認知症のある人の生活上の困難を理解し、本人及び家族を含めた周囲の環境に配慮したケアの方法を身につける。認知症のある人を中心に据え、本人及び家族、地域の力を活用した認知症ケアの知識を習得する。 【テーマ】 認知症のある人の心理、身体機能の変化、生活、支援方法、地域との連携・多職種協働のあり方を取りあげる。																													
授業の概要： 認知症のある人の事例を用いて、生活の様々な場面における認知症のある人の生活上の困難を理解し、その具体的な支援の方法について検討していく。 ①認知症のある人を支援するためのアセスメント方法を学ぶ ②認知症に伴うこころとからだの変化、生活上の課題を理解する ③認知症ケアにかかわる多職種との連携・協働のあり方、家族支援の方法について学ぶ ④若年性認知症とはどのような状態か、認知症高齢者支援との共通点、相違点を理解する																													
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>認知症に関する基礎知識の整理 認知症の原因と症状についての復習 認知症の原因と症状について、前期学習した内容を思い出し、グループでディスカッションを行う。</td><td>認知症のタイプ別特徴について、『認知症概論』第7～9回の授業内容を復習しておく。(60分)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>認知症の人の心の世界 本人主体のケアを考える 授業開始時、第1回の授業で復習した内容について小テストを実施。BPSDの症状が見られる場面を映像で見た後、ワークシートを作成。それをもとにグループワークでケアの方法を検討し、グループ毎に発表する。</td><td>認知症の原因と症状について第1回授業の復習。(60分)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>パーソンセンタードケアの実現に向けて① パーソンセンタードケアとは何か 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 第2回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。</td><td>テキスト②p127～p130、テキスト②p188～189を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>パーソンセンタードケアの実現に向けて② センター方式、ひもときシート、DCM</td><td>テキスト②p183～p196を読む。認知症の方の介護計画や、介護計画を立てる際の留意点について書かれている書籍や雑誌を読む。(60分)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>認知症高齢者の現状と地域でのサポート① 地域連携、認知症サポーターの役割・機能、新オレンジプラン</td><td>テキスト①p24、p25～p34、p200～p222を読む。日本には認知症サポーターの人数がどのくらいいるか調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>認知症高齢者の現状と地域でのサポート② 地域包括支援センター、認知症カフェ</td><td>地域包括支援センターの役割について『介護概論』や『生活と福祉』などで学んだことをテキストを使い復習する。認知症カフェについて調べる。(60分)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>認知症の人に対する介護過程の展開の基本 認知症介護を実践するための介護過程における留意点</td><td>テキスト①p107～p119を読む。介護過程のプロセスについて『介護過程』のテキストを復習する。(60分)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>若年性認知症の人の支援① 若年性認知症の人の暮ら</td><td>テキスト①p61、テキスト②</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	認知症に関する基礎知識の整理 認知症の原因と症状についての復習 認知症の原因と症状について、前期学習した内容を思い出し、グループでディスカッションを行う。	認知症のタイプ別特徴について、『認知症概論』第7～9回の授業内容を復習しておく。(60分)	第2回	認知症の人の心の世界 本人主体のケアを考える 授業開始時、第1回の授業で復習した内容について小テストを実施。BPSDの症状が見られる場面を映像で見た後、ワークシートを作成。それをもとにグループワークでケアの方法を検討し、グループ毎に発表する。	認知症の原因と症状について第1回授業の復習。(60分)	第3回	パーソンセンタードケアの実現に向けて① パーソンセンタードケアとは何か 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 第2回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキスト②p127～p130、テキスト②p188～189を読む。(60分)	第4回	パーソンセンタードケアの実現に向けて② センター方式、ひもときシート、DCM	テキスト②p183～p196を読む。認知症の方の介護計画や、介護計画を立てる際の留意点について書かれている書籍や雑誌を読む。(60分)	第5回	認知症高齢者の現状と地域でのサポート① 地域連携、認知症サポーターの役割・機能、新オレンジプラン	テキスト①p24、p25～p34、p200～p222を読む。日本には認知症サポーターの人数がどのくらいいるか調べる。(60分)	第6回	認知症高齢者の現状と地域でのサポート② 地域包括支援センター、認知症カフェ	地域包括支援センターの役割について『介護概論』や『生活と福祉』などで学んだことをテキストを使い復習する。認知症カフェについて調べる。(60分)	第7回	認知症の人に対する介護過程の展開の基本 認知症介護を実践するための介護過程における留意点	テキスト①p107～p119を読む。介護過程のプロセスについて『介護過程』のテキストを復習する。(60分)	第8回	若年性認知症の人の支援① 若年性認知症の人の暮ら	テキスト①p61、テキスト②
回数	内容	準備学習																											
第1回	認知症に関する基礎知識の整理 認知症の原因と症状についての復習 認知症の原因と症状について、前期学習した内容を思い出し、グループでディスカッションを行う。	認知症のタイプ別特徴について、『認知症概論』第7～9回の授業内容を復習しておく。(60分)																											
第2回	認知症の人の心の世界 本人主体のケアを考える 授業開始時、第1回の授業で復習した内容について小テストを実施。BPSDの症状が見られる場面を映像で見た後、ワークシートを作成。それをもとにグループワークでケアの方法を検討し、グループ毎に発表する。	認知症の原因と症状について第1回授業の復習。(60分)																											
第3回	パーソンセンタードケアの実現に向けて① パーソンセンタードケアとは何か 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 第2回で実施した小テストを採点し返却。全員合格点に達した時点で、復習を兼ねて解説する。	テキスト②p127～p130、テキスト②p188～189を読む。(60分)																											
第4回	パーソンセンタードケアの実現に向けて② センター方式、ひもときシート、DCM	テキスト②p183～p196を読む。認知症の方の介護計画や、介護計画を立てる際の留意点について書かれている書籍や雑誌を読む。(60分)																											
第5回	認知症高齢者の現状と地域でのサポート① 地域連携、認知症サポーターの役割・機能、新オレンジプラン	テキスト①p24、p25～p34、p200～p222を読む。日本には認知症サポーターの人数がどのくらいいるか調べる。(60分)																											
第6回	認知症高齢者の現状と地域でのサポート② 地域包括支援センター、認知症カフェ	地域包括支援センターの役割について『介護概論』や『生活と福祉』などで学んだことをテキストを使い復習する。認知症カフェについて調べる。(60分)																											
第7回	認知症の人に対する介護過程の展開の基本 認知症介護を実践するための介護過程における留意点	テキスト①p107～p119を読む。介護過程のプロセスについて『介護過程』のテキストを復習する。(60分)																											
第8回	若年性認知症の人の支援① 若年性認知症の人の暮ら	テキスト①p61、テキスト②																											

	しを理解する 持参した新聞記事をワークシートに整理し、グループで内容をまとめ発表する。『認知症概論』で学習した内容を踏まえ、認知症高齢者とは異なる支援はどのようなことか理解する。	p159～164を読む。若年性認知症について書かれている新聞記事を5つ調べて読み、授業時に持参する。(60分)
第9回	若年性認知症の人の支援② 事例をもとに支援のあり方を検討する 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 若年性認知症の人が働くことを支援する際の留意点について、映像を見て学んだことをワークシートに整理し、グループで内容をまとめ発表する。	第8回授業で学習したことを復習する。(60分)
第10回	認知症の人の生活障害① 食事の支援方法を検討する 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 食事の場面での生活の課題をワークシートにまとめ、グループ内で内容をまとめ発表する。	テキスト①p119～123を読む。(60分)
第11回	認知症の人の生活障害② 排泄の支援方法を検討する 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 排泄の場面での生活の課題をワークシートにまとめ、グループ内で内容をまとめ発表する。	テキスト①p124～127を読む。(60分)
第12回	認知症の人の生活障害③ 入浴の支援方法を検討する 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 入浴の場面での生活の課題をワークシートにまとめ、グループ内で内容をまとめ発表する。	テキスト①p131～136を読む。(60分)
第13回	家族のレスパイト 家族のレスパイトの必要性とレスパイトケア 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。	テキスト p238～p246を読む。 『認知症概論』第12回で学習した家族の心理やレスパイトケアを復習する。(60分)
第14回	事例検討① よくみられる BPSD への対応について BPSDの種類別に事例を検討する。望ましいケアについてワークシートに整理し、グループでまとめ発表する。	テキスト p41～p51を読む。『認知症概論』第4回、第5回で学習した認知症に伴う症状について復習する。(60分)
第15回	事例検討② 個別事例をもとに支援のあり方を検討する 前回のワークシートにコメントをつけA・B・C評価で個別に返却後全体で学びの共有。 これまで学んだことの総まとめとして、事例についてワークシートに整理し、グループでまとめ発表する。 授業内で事例のまとめと、15回分の授業の復習としてポイントを整理する。ワークシートは授業翌日にコメントをつけA・B・C評価で個別に返却する。	第14回までの学習内容について、テキスト①、ノートやプリントを復習する。(60分)
定時試験	筆記試験を実施する	
テキスト：①最新介護福祉全書10『認知症の理解と介護』 メヂカルフレンド社 ②『最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解』 中央法規		
参考書・参考資料等：『新・介護福祉士養成講座9 介護過程』 中央法規		
学生に対する評価：授業は、講義形式だけでなく、グループワークなどの演習形式も取り入れて行う。 そのため、演習時の参加態度やワークシート等の成果物も評価の対象とする。 定時試験成績 70%、授業態度 10%、ワークシート等の成果物 20%		

授業科目名：障害の特性と支援 前期	単位数：2単位	担当教員名：小針 臣子 担当形態： 講義 単独																																				
授業の到達目標及びテーマ： 【授業の到達目標】 障害のある人の心理的・身体的特徴を踏まえた医学的基礎知識、家族や地域での生活支援を習得する。 【テーマ】 「障害の基礎知識と支援のあり方」について取り上げる。																																						
授業の概要： 障害のある人（視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、発達障害、精神障害、高次脳機能障害、内部障害、難病）の身体機能・心理・社会的側面を理解することで、障害のある人を地域での生活を支えるための支援について学ぶ。具体的目標は以下のとおりである。 ①障害の基本的な考えと障害福祉の理念を述べる。 ②各障害の医学的知識（解剖生理・疾患の基礎）を説明する。 ③障害のある人の心理状態と生活への影響を理解する。 ④障害のある人の生活支援を理解する。 ⑤障害のある人へのサポートシステム、チームアプローチの意義、多職種連携を理解する。																																						
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td><td>障害の基礎的理解</td><td>テキスト p 2-45 を読む p 9-10 ICIDHとICFの違いを調べる(60分)</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人の理解</td><td>テキスト p 48-80 を読む p 72 図2-8盲ろう者のコミュニケーション方法を実践する(60分)</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>肢体不自由のある人の理解</td><td>テキスト P82-100 を読む p 87 図3-4脊髄損傷者の症状・介護にマークして読む(60分)</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>知的障害・発達障害のある人の理解</td><td>テキスト p 101-110, p 134-153 p 135発達障害支援法における『発達障害』をマークする(60分)</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>精神障害のある人の理解</td><td>テキスト p 111-124 を読む p 112-113 (1) 統合失調症をまとめる(60分)</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>高次脳機能障害のある人の理解</td><td>テキスト p 125-133 を読む p 126 図3-7をマークする(60分)</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>内部障害のある人の理解① 心臓機能障害</td><td>テキスト p 156-162 を読む 『人体解剖図』 p 163 刺激伝導系をマークする 『人体解剖図』 p 167冠状動脈の役割を調べる(60分)</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>内部障害のある人の理解② 腎臓機能障害</td><td>テキスト p 162-170 を読む 『人体解剖図』 p 203図を見ながら p 202 尿生成のメカニズムを読む(60分)</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>内部障害のある人の理解③ 呼吸機能障害</td><td>テキスト p 171-177 を読む p 174表4-5入浴・食事・排便・衣服・歩行・気道感染予防を実践する(60分)</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>内部障害のある人の理解④ 膀胱・直腸機能障害</td><td>テキスト p 177-186 を読む 『人体解剖図』 p 65 を写して消化吸収の流れを把握する 『人体解剖図』 p 71腎臓で尿が生成されてから排泄する尿路を把握する(60分)</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>内部障害のある人の理解⑤ 肝臓機能障害と免疫機能障害</td><td>テキスト p 186-201 を読む p 186 日和見感染とは何かをマークする</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第1回	障害の基礎的理解	テキスト p 2-45 を読む p 9-10 ICIDHとICFの違いを調べる(60分)	第2回	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人の理解	テキスト p 48-80 を読む p 72 図2-8盲ろう者のコミュニケーション方法を実践する(60分)	第3回	肢体不自由のある人の理解	テキスト P82-100 を読む p 87 図3-4脊髄損傷者の症状・介護にマークして読む(60分)	第4回	知的障害・発達障害のある人の理解	テキスト p 101-110, p 134-153 p 135発達障害支援法における『発達障害』をマークする(60分)	第5回	精神障害のある人の理解	テキスト p 111-124 を読む p 112-113 (1) 統合失調症をまとめる(60分)	第6回	高次脳機能障害のある人の理解	テキスト p 125-133 を読む p 126 図3-7をマークする(60分)	第7回	内部障害のある人の理解① 心臓機能障害	テキスト p 156-162 を読む 『人体解剖図』 p 163 刺激伝導系をマークする 『人体解剖図』 p 167冠状動脈の役割を調べる(60分)	第8回	内部障害のある人の理解② 腎臓機能障害	テキスト p 162-170 を読む 『人体解剖図』 p 203図を見ながら p 202 尿生成のメカニズムを読む(60分)	第9回	内部障害のある人の理解③ 呼吸機能障害	テキスト p 171-177 を読む p 174表4-5入浴・食事・排便・衣服・歩行・気道感染予防を実践する(60分)	第10回	内部障害のある人の理解④ 膀胱・直腸機能障害	テキスト p 177-186 を読む 『人体解剖図』 p 65 を写して消化吸収の流れを把握する 『人体解剖図』 p 71腎臓で尿が生成されてから排泄する尿路を把握する(60分)	第11回	内部障害のある人の理解⑤ 肝臓機能障害と免疫機能障害	テキスト p 186-201 を読む p 186 日和見感染とは何かをマークする
回数	内容	準備学習																																				
第1回	障害の基礎的理解	テキスト p 2-45 を読む p 9-10 ICIDHとICFの違いを調べる(60分)																																				
第2回	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人の理解	テキスト p 48-80 を読む p 72 図2-8盲ろう者のコミュニケーション方法を実践する(60分)																																				
第3回	肢体不自由のある人の理解	テキスト P82-100 を読む p 87 図3-4脊髄損傷者の症状・介護にマークして読む(60分)																																				
第4回	知的障害・発達障害のある人の理解	テキスト p 101-110, p 134-153 p 135発達障害支援法における『発達障害』をマークする(60分)																																				
第5回	精神障害のある人の理解	テキスト p 111-124 を読む p 112-113 (1) 統合失調症をまとめる(60分)																																				
第6回	高次脳機能障害のある人の理解	テキスト p 125-133 を読む p 126 図3-7をマークする(60分)																																				
第7回	内部障害のある人の理解① 心臓機能障害	テキスト p 156-162 を読む 『人体解剖図』 p 163 刺激伝導系をマークする 『人体解剖図』 p 167冠状動脈の役割を調べる(60分)																																				
第8回	内部障害のある人の理解② 腎臓機能障害	テキスト p 162-170 を読む 『人体解剖図』 p 203図を見ながら p 202 尿生成のメカニズムを読む(60分)																																				
第9回	内部障害のある人の理解③ 呼吸機能障害	テキスト p 171-177 を読む p 174表4-5入浴・食事・排便・衣服・歩行・気道感染予防を実践する(60分)																																				
第10回	内部障害のある人の理解④ 膀胱・直腸機能障害	テキスト p 177-186 を読む 『人体解剖図』 p 65 を写して消化吸収の流れを把握する 『人体解剖図』 p 71腎臓で尿が生成されてから排泄する尿路を把握する(60分)																																				
第11回	内部障害のある人の理解⑤ 肝臓機能障害と免疫機能障害	テキスト p 186-201 を読む p 186 日和見感染とは何かをマークする																																				

第12回	難病のある人の理解	『人体解剖図』 p 195肝臓のはたらきを読む(60分) テキスト p 202-212 を読む p 203 難病の患者に対する医療等に関する法律で難病の定義をマークする(60分)
第13回	障害のある人の介護	テキスト p 214-257を読む(60分)
第14回	家族の支援	テキスト p 260-281を読む (60分)
第15回	連携と協働	テキスト p 284-308 を読む(60分)
定時試験	筆記試験を実施する	
*授業終了前に小テストを実施する		
*復習学習：毎回授業時に復習学習プリントを配布する		
テキスト：1. 最新・介護福祉士養成講座 12『発達と老化の理解』（中央法規出版） 2. ぜんぶわかる『人体解剖図』（坂井建雄著、成美堂出版）		
参考書・参考資料等： ①新・介護福祉士養成講座 15『医療的ケア』第3版（中央法規出版） ②『こころとからだのしくみ』（メヂカルフレンド社） ③新・介護福祉士養成講座 5『コミュニケーション技術』第3版（中央法規出版）		
学生に対する評価：定時試験（70%）、準備学習・小テスト（20%）、授業態度（10%）		

授業科目名：こころとからだのしくみ 通年（前期）	単位数：4単位	担当教員名：小針 臣子 担当形態：講義 単独																		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】 ひとを理解するために、基本であるからだの成り立ちに関する医学的知識と、生活活動別の生活支援技術の根拠となる①食事、②排泄、③移動、④身じたく、⑤清潔保持、⑤睡眠、⑥死、に関する生活障害と支援について学ぶ。 【授業の到達目標】 ひとのこころやからだのしくみを理解するうえで大切な、生理学、運動学、精神心理学をもとに、加齢やさまざまな疾患に関する知識を身に付け、主体となる利用者を深く理解し、身体の安全と心理的側面の介護支援方法を実践するための知識を習得する。																				
授業の概要： ひとの成り立ちである「こころとからだのしくみに」について医学的基礎(生理学・運動学・精神心理学)から学ぶ。授業内容の要点と具体的な目標は以下の通りである。 ①身体の成り立ち、ひとの生命活動のしくみを学び、生きているしくみを医学的に学び説明できる。 ②脳のしくみ、ひとの欲求を理解し、こころのしくみを理解し、さまざまな状況にある人々のこころの段階を適切に述べる事が出来る。 ③障害からおこる生活活動への影響と、その支援に必要な「食事」「排泄」「活動・移動」「身じたく」「清潔保持」「睡眠」「死」に関連した基礎的で根拠に基づいた知識、また、これらに影響を及ぼす要因、異常を発見するための変化や対応について説明することができる。 ④医学的基礎知識からなる判断をもとに、他職種連携を理解し、介護福祉士として、生活支援を実施する意義と役割を理解し、考えを述べる事が出来る。																				
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>健康、人間の欲求、自己実現、自己概念、尊厳（配布資料あり） ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参する 【アクティブラーニング】自己実現、自己概念、尊厳についてディスカッションする</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p1-3、p78-79、p92-94を読む</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみの理解①：身体の成り立ち、生命活動の調整のしくみ、ホメオスタシス 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p2-19を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみ②呼吸・循環、ストレス、免疫系 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p20-50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる こころのしくみの理解：脳のはたらきとつくり、こころと脳のつながり、こころのしくみ ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参 【フィードバック】第 1-3 回目まとめ章末ミニテスト、第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】こころと脳についてディスカッション</td><td>【準備学習】(60 分)テキスト①p20-50 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「活動・移動」に関連したしくみ①：基礎知識（骨、関節、筋、神経、刺激） 【フィードバック】第 4 回目の内容の章末ミニテスト、第 4 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p133-141を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	健康、人間の欲求、自己実現、自己概念、尊厳（配布資料あり） ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参する 【アクティブラーニング】自己実現、自己概念、尊厳についてディスカッションする	【準備学習】(60分)テキスト①p1-3、p78-79、p92-94を読む	第 2回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみの理解①：身体の成り立ち、生命活動の調整のしくみ、ホメオスタシス 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認	【準備学習】(60分)テキスト①p2-19を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする	第 3回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみ②呼吸・循環、ストレス、免疫系 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認	【準備学習】(60分)テキスト①p20-50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする	第 4回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる こころのしくみの理解：脳のはたらきとつくり、こころと脳のつながり、こころのしくみ ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参 【フィードバック】第 1-3 回目まとめ章末ミニテスト、第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】こころと脳についてディスカッション	【準備学習】(60 分)テキスト①p20-50 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする	第 5回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「活動・移動」に関連したしくみ①：基礎知識（骨、関節、筋、神経、刺激） 【フィードバック】第 4 回目の内容の章末ミニテスト、第 4 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p133-141を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
回数	内容	準備学習																		
第 1回	健康、人間の欲求、自己実現、自己概念、尊厳（配布資料あり） ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参する 【アクティブラーニング】自己実現、自己概念、尊厳についてディスカッションする	【準備学習】(60分)テキスト①p1-3、p78-79、p92-94を読む																		
第 2回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみの理解①：身体の成り立ち、生命活動の調整のしくみ、ホメオスタシス 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認	【準備学習】(60分)テキスト①p2-19を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする																		
第 3回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる からだのしくみ②呼吸・循環、ストレス、免疫系 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認	【準備学習】(60分)テキスト①p20-50を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする																		
第 4回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる こころのしくみの理解：脳のはたらきとつくり、こころと脳のつながり、こころのしくみ ※テキスト④『コミュニケーション技術』持参 【フィードバック】第 1-3 回目まとめ章末ミニテスト、第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】こころと脳についてディスカッション	【準備学習】(60 分)テキスト①p20-50 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする																		
第 5回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「活動・移動」に関連したしくみ①：基礎知識（骨、関節、筋、神経、刺激） 【フィードバック】第 4 回目の内容の章末ミニテスト、第 4 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p133-141を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする																		

第6回	「活動・移動」に関連したしくみ②：活動と動作(姿勢、座位保持、立ち上がり、歩行)、ボディメカニクス 【フィードバック】第5回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】骨と関節をグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p141-160を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第7回	「活動・移動」に関連したしくみ③：心身の機能低下が及ぼす影響、廃用症候群、褥瘡、転倒、変化の気づきと対応(脳梗塞、脳卒中) 【フィードバック】第6回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】心身の機能低下が及ぼす影響グループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p161-171を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第8回	「食事」に関連したしくみ①：医学・栄養学的基礎知識(消化器官、栄養、水分) 転倒、変化の気づきと対応(脳梗塞、脳卒中) ※テキスト③『医療的ケア』第3版(中央法規出版)持参する 【フィードバック】「活動・移動」章末ミニテスト実施、第7回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】人間にとって食事とはなにか、ディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①p175-186を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、「活動・移動」の復習
第9回	「食事」に関連したしくみ②：食事の意義、消化と吸収 ※テキスト③『医療的ケア』第3版(中央法規出版)持参する 【フィードバック】第8回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】人間にとって食事とはなにか、ディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①186p-199を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第10回	「食事」に関連したしくみ③：食事への影響、視覚、運動、咀嚼・嚥下等機能低下・障害 ※テキスト③『医療的ケア』第3版(中央法規出版)持参する 【フィードバック】第9回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】人間にとって食事とはなにか、ディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p199-200を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第11回	「食事」に関連したしくみ④：異常の発見と対応(窒息、誤嚥、脱水) 【フィードバック】第10回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】人間にとって高齢者への食事の支援についてグループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p200-209を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第12回	「排泄」に関連したしくみ①：基礎知識(排泄器官、便、尿) 【フィードバック】「食事」章末ミニテスト実施、第11回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】便の生成と消化器の成り立ちについてグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p249-253を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、「食事」の復習
第13回	「排泄」に関連したしくみ②：排泄の意義としくみ、排泄行	【準備学習】(60分)テキ

	動、排泄機能の影響 【フィードバック】第12回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】排泄機能の影響と排泄行動についてディスカッション	スト①p253-267を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第14回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「排泄」に関連したしくみ③：排泄への影響、排泄行動の困難（視覚、運動、認知症） 【フィードバック】第13回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】排泄機能障害と支援についてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト①p268-284を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第15回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「排泄」に関連したしくみ④：機能低下・障害、異常の発見と対応（感染、尿・便の異常） 【フィードバック】第13回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「排泄」章末ミニテスト実施、排泄機能障害と支援についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①第7章「排泄」の復習
定時試験	筆記試験を行う	
テキスト：毎回持参		
①『こころとからだのしくみ』（小板橋喜久代、メヂカルフレンド社）		
② ぜんぶわかる『人体解剖図』（坂井建雄著、成美堂出版）		
参考書・参考資料等： ①最新・介護福祉士養成講座 14『こころとからだのしくみ』（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版）		
※下記②③は持参する回もあり(他科目で使用するテキスト)		
②最新・介護福祉士養成講座 15『医療的ケア』（中央法規出版）◆第8～10回で使用		
③『医療的ケア』第三版(建帛社)◆第8～10回で使用		
④最新・介護福祉士養成講座 5『コミュニケーション技術』（中央法規出版）◆第1回、第4回で使用		
学生に対する評価： ①定時試験（70%）、②章末テスト(20%)、③授業参加度（10%）		

授業科目名：こころとからだのしくみ 通年（後期）	単位数：(4単位)	担当教員名：小針 臣子 担当形態：講義 単独																		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】 ひとを理解するために、基本であるからだの成り立ちに関する医学的知識と、生活活動別の生活支援技術の根拠となる①食事、②排泄、③移動、④身じたく、⑤清潔保持、⑤睡眠、⑥死、に関する生活障害と支援について学ぶ。 【授業の到達目標】 ひとのこころやからだのしくみを理解するうえで大切な、生理学、運動学、精神心理学をもとに、加齢やさまざまな疾患に関する知識を身に付け、主体となる利用者を深く理解し、身体の安全と心理的側面の介護支援方法を実践するための知識を習得する。また、国家試験合格ライン到達のための知識と理解を深めることができる。																				
授業の概要： ひとの成り立ちである「こころとからだのしくみに」について医学的基礎(生理学・運動学・精神心理学)から学ぶ。授業内容の要点と具体的な目標は以下の通りである。 ①身体の成り立ち、ひとの生命活動のしくみを学び、生きているしくみを医学的に学び説明できる。 ②脳のしくみ、ひとの欲求を理解し、こころのしくみを理解し、さまざまな状況にある人々のこころの段階を適切に述べる事が出来る。 ③障害からおこる生活活動への影響と、その支援に必要な「食事」「排泄」「活動・移動」「身じたく」「入浴・清潔保持」「睡眠」「死」に関連した基礎的で根拠に基づいた知識、また、これらに影響を及ぼす要因、異常を発見するための変化や対応について説明することができる。 ④医学的基礎知識からなる判断をもとに、他職種連携を理解し、介護福祉士として、生活支援を実施する意義と役割を理解し、考えを述べる事が出来る。																				
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>「身じたく」に関連したしくみ①：基礎知識（顔面の筋・骨、感覚、口腔のしくみ） 【アクティブラーニング】脳と感覚器についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p97－114を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>「身じたく」に関連したしくみ②：顔、口腔、着脱、爪、頭髮に必要な身体動作 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】身じたくの身体動作についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60 分)テキスト①p114－1122 を読む</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>「身じたく」に関連したしくみ③：身じたくを整えることへの影響、視覚、運動機能低下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】機能障害になった場合の身体動作についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①p122－130を読む</td></tr> <tr> <td>第 4回</td><td>「身じたく」に関連したしくみ④：異常の発見と対応（拒否、感染）とその支援 下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】事例検討のグループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①第3章「身じたく」すべてを読む</td></tr> <tr> <td>第 5回</td><td>「入浴・清潔」に関連したしくみ①：基礎知識（皮膚、頭皮、毛髪、発汗） 【フィードバック】第 4 回で提出された課題にコメントを</td><td>【準備学習】(60 分)テキスト①p212－226 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	「身じたく」に関連したしくみ①：基礎知識（顔面の筋・骨、感覚、口腔のしくみ） 【アクティブラーニング】脳と感覚器についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p97－114を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする	第 2回	「身じたく」に関連したしくみ②：顔、口腔、着脱、爪、頭髮に必要な身体動作 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】身じたくの身体動作についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60 分)テキスト①p114－1122 を読む	第 3回	「身じたく」に関連したしくみ③：身じたくを整えることへの影響、視覚、運動機能低下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】機能障害になった場合の身体動作についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p122－130を読む	第 4回	「身じたく」に関連したしくみ④：異常の発見と対応（拒否、感染）とその支援 下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】事例検討のグループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①第3章「身じたく」すべてを読む	第 5回	「入浴・清潔」に関連したしくみ①：基礎知識（皮膚、頭皮、毛髪、発汗） 【フィードバック】第 4 回で提出された課題にコメントを	【準備学習】(60 分)テキスト①p212－226 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを
回数	内容	準備学習																		
第 1回	「身じたく」に関連したしくみ①：基礎知識（顔面の筋・骨、感覚、口腔のしくみ） 【アクティブラーニング】脳と感覚器についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p97－114を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする																		
第 2回	「身じたく」に関連したしくみ②：顔、口腔、着脱、爪、頭髮に必要な身体動作 【フィードバック】第 1 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】身じたくの身体動作についてグループワークで確認 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60 分)テキスト①p114－1122 を読む																		
第 3回	「身じたく」に関連したしくみ③：身じたくを整えることへの影響、視覚、運動機能低下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 2 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】機能障害になった場合の身体動作についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①p122－130を読む																		
第 4回	「身じたく」に関連したしくみ④：異常の発見と対応（拒否、感染）とその支援 下障害、口腔清潔 【フィードバック】第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】事例検討のグループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①第3章「身じたく」すべてを読む																		
第 5回	「入浴・清潔」に関連したしくみ①：基礎知識（皮膚、頭皮、毛髪、発汗） 【フィードバック】第 4 回で提出された課題にコメントを	【準備学習】(60 分)テキスト①p212－226 を読む、テキスト②当該箇所がどこかを																		

	書いて返却 【アクティブラーニング】「身じたく」章末ミニテスト 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	探しマークする、第3章「身じたく」復習
第6回	「入浴・清潔」に関連したしくみ②：陰部と尿路感染、入浴と清潔保持 【フィードバック】第5回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】皮膚と粘膜の清潔についてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト①p227-233を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第7回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「入浴・清潔」に関連したしくみ③：清潔への影響、視覚、運動、循環、皮膚等機能低下・障害（掻痒、かぶれ） 【フィードバック】第6回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】皮膚の機能障害予防についてグループワーク・発表	【準備学習】(60分)テキスト①p233-237を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第8回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「入浴・清潔」に関連したしくみ④：異常の発見と対応 【フィードバック】第7回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】入浴が及ぼすからだへの影響についてグループワーク	【準備学習】(60分)テキスト①p238-246を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第9回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「睡眠」に関連したところとからだのしくみ①：睡眠とは何か、睡眠の基礎知識、睡眠のしくみとリズム 【フィードバック】第8回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「入浴・清潔」章末ミニテスト	【準備学習】(120分)テキスト①p288-301を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする、第6章「入浴・清潔」の復習
第10回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「睡眠」に関連したところとからだのしくみ②：機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響、睡眠障害、睡眠環境と安眠のための工夫 【フィードバック】第9回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】睡眠のための良い環境とはなにかグループワーク・発表	【準備学習】(120分)テキスト①p301-312を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第11回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「死にゆく人」のところとからだのしくみ①（身体面）：「死」の捉え方、終末期から死亡時の体の理解、臨終が近づいたときの兆候と介護 【フィードバック】第10回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「死」の判定についてディスカッション	【準備学習】(120分)テキスト①p315-325を読む、テキスト②当該箇所がどこかを探しマークする
第12回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 「死にゆく人」のところとからだのしくみ②（心理面）：「死」の恐怖・不安、「死」を受容する段階、終末期にまつわる問題 【フィードバック】第11回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】終末期の医療職との連携についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①p325-335を読む

第13回	こころとからだのしくみに関する重要点の振り返りと事例演習1【国家試験対策】：「身じたく」「入浴・清潔」「活動・移動」 【フィードバック】第12回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「睡眠・死」章末ミニテスト、「身じたく」「入浴・清潔」「活動・移動」に基づいた事例のグループワーク・発表 【課題】授業で行った事例のワークシートをまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①「身じたく」「入浴・清潔」「活動・移動」を読む、第8章「睡眠」・9章「死にゆく人のこころとからだのしくみ」の復習
第14回	こころとからだのしくみに関する重要点の振り返りと事例演習2【国家試験対策】：「食事」「排泄」 【フィードバック】第13回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「食事」「排泄」に基づいた事例のグループワーク・発表 【課題】授業で行った事例のワークシートをまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①「食事」「排泄」を読む
第15回	こころとからだのしくみに関する重要点の振り返りと事例演習3【国家試験対策】：「睡眠」「死」 【フィードバック】第14回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】「睡眠」「死」に基づいた事例のグループワーク・発表 【課題】授業で行った事例のワークシートをまとめる	【準備学習】(120分)テキスト①「睡眠」「死」を読む
定時試験 筆記試験を行う		
テキスト：※前期と同じテキストを使用する ①『こころとからだのしくみ』（小板橋喜久代、メヂカルフレンド社） ② ぜんぶわかる『人体解剖図』（坂井建雄著、成美堂出版）		
参考書・参考資料等：③ 最新・介護福祉士養成講座 14『こころとからだのしくみ』（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ※下記は持参する回もあり(他科目で使用するテキスト) ④『最新介護福祉全書 9 発達と老化の理解』メヂカルフレンド社◆第11・12回で使用		
学生に対する評価：①定時試験（70%）、②章末テスト(20%)、③授業参加度（10%）		

授業科目名：医療的ケア 通年	単位数：講義と演習 合わせて5単位	担当教員名：小針 臣子 担当形態： 講義・演習 単独												
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】 人間の生命に欠かせない呼吸と食のニーズを守るために、医療的ケアが必要な方へ看護職と連携して確実に実施することができるよう、医療的ケアの根拠を理解して技術を習得する。 【授業の到達目標】 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な基礎知識と、医療的ケア実施の基礎的知識として、関連する法制度・倫理、関連職種との役割、救急蘇生法、医療行為における安全への留意点や心理的側面への配慮、感染予防及び健康状態の把握を習得する。また、喀痰吸引法および経管栄養法に必要な人体構造・機能の理解、急変時対応、小児の場合等、医療的ケアを実施するために必要な知識と実施手順を視聴覚教材とロールプレイを用いながら実技を習得する。また講義と実技試験の準備により国家試験に合格するラインの知識を習得することができる。														
授業の概要： 授業内容の要点と具体的な目標は以下の通りである。 1. 医療的ケアとは何か、なぜ介護福祉士が行うのか、医療的ケアを行うための根拠となる法律・倫理上の原則に基づいた基本的心構えを説明できる。 2. 救急蘇生法、応急手当の基礎知識、重要性を説明できる。 3. スタンダードプリコーションおよび感染予防法について説明できる。 4. ひとの健康な状態について理解し、急変状態とその変化を理解できる。 5. 呼吸のしくみと働きを理解し、呼吸器とその異常状態について説明できる。 6. 喀痰吸引の実施手順と必要物品・留意点および人工呼吸器装着者、子どもの喀痰吸引について説明できる。 7. 喀痰吸引の感染予防、安全確認について説明できる。 8. 消化器系のしくみと働きを理解し、消化器系とその異常状態について説明できる。 9. 経管栄養のしくみと種類、使用する器具・物品、経管栄養剤と取り扱いについて説明できる。 10. 経管栄養実施の手順と留意点および子どもの経管栄養法について説明できる。 11. 経管栄養での感染予防、安全確認について説明できる。 12. 実施前中後における関連職種の連携、報告・記録について理解できる。 13. 各技術を医学的・科学的に理解した上で、実際に行う技術の手順書を作成することができる。 14. 演習での実技試験														
授業計画： <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>内容</th><th>準備学習</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1回</td><td>オリエンテーション 医療的ケアの基礎 1：医療的ケアを学ぶ目的、医療的ケアとは、医行為・医療の倫理、制度、喀痰吸引等制度(社会福祉士及び介護福祉士法)、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、チーム医療と介護職員との連携、その他の制度 【アクティブラーニング】介護福祉士が実施できる医行為についてのグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①2p～p34を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。</td></tr> <tr> <td>第 2回</td><td>医療的ケアの基礎 2：安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生 【フィードバック】第 1回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】小児と高齢者への心肺蘇生の相違と留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①36p～p57を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。</td></tr> <tr> <td>第 3回</td><td>清潔保持と感染予防 1：感染予防(スタンダードプリコーション：標準予防策)、介護職の感染予防 【フィードバック】第 2回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】正確な手洗い方法と手指消毒法を実技グループワーク</td><td>【準備学習】(60分)テキスト①60p～70pを読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。</td></tr> </tbody> </table>			回数	内容	準備学習	第 1回	オリエンテーション 医療的ケアの基礎 1：医療的ケアを学ぶ目的、医療的ケアとは、医行為・医療の倫理、制度、喀痰吸引等制度(社会福祉士及び介護福祉士法)、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、チーム医療と介護職員との連携、その他の制度 【アクティブラーニング】介護福祉士が実施できる医行為についてのグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①2p～p34を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。	第 2回	医療的ケアの基礎 2：安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生 【フィードバック】第 1回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】小児と高齢者への心肺蘇生の相違と留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①36p～p57を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。	第 3回	清潔保持と感染予防 1：感染予防(スタンダードプリコーション：標準予防策)、介護職の感染予防 【フィードバック】第 2回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】正確な手洗い方法と手指消毒法を実技グループワーク	【準備学習】(60分)テキスト①60p～70pを読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。
回数	内容	準備学習												
第 1回	オリエンテーション 医療的ケアの基礎 1：医療的ケアを学ぶ目的、医療的ケアとは、医行為・医療の倫理、制度、喀痰吸引等制度(社会福祉士及び介護福祉士法)、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、チーム医療と介護職員との連携、その他の制度 【アクティブラーニング】介護福祉士が実施できる医行為についてのグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①2p～p34を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。												
第 2回	医療的ケアの基礎 2：安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生 【フィードバック】第 1回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】小児と高齢者への心肺蘇生の相違と留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①36p～p57を読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。												
第 3回	清潔保持と感染予防 1：感染予防(スタンダードプリコーション：標準予防策)、介護職の感染予防 【フィードバック】第 2回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】正確な手洗い方法と手指消毒法を実技グループワーク	【準備学習】(60分)テキスト①60p～70pを読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。												

第 4回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 清潔保持と感染予防 2：環境の清潔と消毒法(滅菌・消毒)と演習(手洗いと手指消毒) 【フィードバック】第 3 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】正確な手洗い方法と手指消毒法の実技テスト	【準備学習】(60 分)テキスト①71p～73pを読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。
第 5回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 健康状態の把握：身体・精神の健康、健康状態を知る項目(バイタルサインなど)、急変時の状態と対応・事前準備(報告、連絡、応急手当、記録) 【フィードバック】第 4 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】バイタルサイン測定のグループワーク	【準備学習】(60 分)テキスト①75p～84pを読む、テキスト②「テキスト①」で指定された範囲の該当ページを調べてマークしておく。
第 6回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 1：呼吸のしくみとはたらき 【フィードバック】第 5 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】バイタルサイン測定のグループワーク	【準備学習】(60 分)テキスト①88p～98pとテキスト②p61～69を読む、テキスト①②で指定された範囲にあてはまる「テキスト③④」の該当範囲を調べてマークしておく。
第 7回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 2：人工呼吸器と喀痰吸引、子どもの吸引、吸引を受ける対象者や家族の気持ちと対応、説明と同意 【フィードバック】第 6 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】吸引を受ける対象者と家族へのケアについてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト①88p～116pとテキスト②p69～79を読む
第 8回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 3：呼吸器の感染予防、安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 【フィードバック】第 7 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】吸引時の感染予防と事故対策についてグループワーク・発表	【準備学習】(60分)テキスト①116p～128pとテキスト②p79～81を読む
第 9回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめ 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 4：喀痰吸引実施手順の流れ (1)必要物品・実施前の対象者の備備 (2)喀痰吸引の実施手順と留意点 (3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア (4)報告と記録 【フィードバック】第 8 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】喀痰吸引の手順のポイントについてグループワーク	【準備学習】(60分)テキスト①131p～150pとテキスト②p82～86を読む
第10回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 5：口腔内吸引の実施手順と留意点 【フィードバック】第 9 回で提出された課題にコメントを書いて返却	【準備学習】(60 分)テキスト②付属の DVD 内の「口腔内吸引」の視聴、口腔内吸引の概要の確認

	【アクティブラーニング】口腔内吸引の留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	(テキスト①②該当部分を読む)
第11回	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 6：鼻腔内吸引の実施手順と留意点 【フィードバック】第 10 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】鼻腔内吸引の留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60 分)テキスト②付属の DVD 内の「鼻腔内吸引」の視聴、鼻腔内吸引の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)
第12回	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 7：気管カニューレ内吸引の実施手順と留意点 【フィードバック】第 11 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】気管カニューレ内吸引の留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60 分)テキスト②付属の DVD 内の「気管カニューレ内吸引」の視聴、気管カニューレ内吸引の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)
第13回	高齢者及び障害児・者の経管栄養 1：消化器系のしくみとはたらき 【フィードバック】第 12 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】消化器系のしくみのグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①156p～165pとテキスト②p94～97を読む、テキスト①②で指定された範囲にあてはまる「テキスト③④」の該当範囲を調べてマークしておく。
第14回	高齢者及び障害児・者の経管栄養 2：経管栄養法の種類と実施上の留意点 ：確認テストA(第1～12回までの内容) 【フィードバック】第 13 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経管栄養法の実施上の留意点についてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(120 分)テキスト①165p～174p とテキスト②p98～102 を読む、確認テストAの範囲の復習
第15回	第 15 回 高齢者及び障害児・者の経管栄養 3：子どもの経管栄養、対象者と家族の気持ちと対応、説明と同意 【フィードバック】第 14 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経管栄養法を受ける対象者と家族へのケアについてディスカッション 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①174p～181pとテキスト②p114～117を読む
第16回	高齢者及び障害児・者の経管栄養 4：経管栄養の感染対策、危険因子、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 【フィードバック】第 15 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経管栄養法の感染予防と事故対策についてグループワーク・発表 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	【準備学習】(60分)テキスト①181p～188pとテキスト②p118～128を読む
第17回	高齢者及び障害児・者の経管栄養 5：経管栄養実施手順の流れ (1)必要物品 (2)実施前の対象者の準備 (3)手順と留意点【液体・半固形栄養剤】 (4)前中後の観察ポイントとケア	【準備学習】(60分)テキスト①193p～206pとテキスト②p105～113を読む

	(5)報告と記録 【フィードバック】第17回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】喀痰吸引の手順のポイントについてグループワーク 【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる	
第18回	高齢者及び障害児・者の経管栄養6：経鼻経管栄養法の実施手順と留意点 【フィードバック】第17回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経鼻経管栄養法の留意点についてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「経鼻経管栄養法」の視聴、経鼻経管栄養法の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)
第19回	高齢者及び障害児・者の経管栄養7：胃ろう・腸ろうの実施手順の流れ 【フィードバック】第18回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】胃ろう・腸ろうの留意点についてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「胃ろう・腸ろう」の視聴、胃ろう・腸ろうの概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)
第20回	第20回 救急蘇生法(講義)：救急蘇生法、一次救命処置の方法、応急手当 【フィードバック】第19回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】救急蘇生法、一次救命処置の方法、応急手当の留意点についてディスカッション	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「救急蘇生法」の視聴、救急蘇生法の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)
第21回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 医療的ケア全体のポイントとまとめ：経管栄養法まとめ：確認テストB(第13～20回までの内容) 【アクティブラーニング】介護福祉士が実施する医療的ケアについてグループワーク・発表	【準備学習】(120分)確認テストBの範囲の復習 【フィードバック】第20回で提出された課題にコメントを書いて返却
第22回	【課題】授業で行った内容の概要をノートにまとめる 喀痰吸引のまとめと手順確認1：口腔内吸引の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第21回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】口腔内吸引の(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備についてディスカッションしながら確認	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「口腔内吸引」の視聴、口腔内吸引の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備の手順書を作成
第23回	【課題】授業で確認した手順書の修正 喀痰吸引のまとめと手順確認2：口腔内吸引の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第22回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】口腔内吸引の(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録についてディスカッションしながら確認	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「口腔内吸引」の視聴、口腔内吸引の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録の手順書を作成
第24回	喀痰吸引のまとめと手順確認3：鼻腔内吸引の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第23回で提出された課題にコメントを書いて返却	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「鼻腔内吸引」の視聴、鼻腔内吸引の概要の確認(テ

	【アクティブラーニング】鼻腔内吸引の(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備についてディスカッションしながら確認	キスト①②該当部分を読む)しながら(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備の
第25回	【課題】授業で確認した手順書の修正 第25回 喀痰吸引のまとめと手順確認4: 鼻腔内吸引手順を細かく確認しながらの手順書作成 【フィードバック】第24回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】鼻腔内吸引の(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「鼻腔内吸引」の視聴、鼻腔内吸引の概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録の手順書を作成
第26回	喀痰吸引のまとめと手順確認5: 気管カニューレ内吸引の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第25回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】気管カニューレ内吸引の(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「気管カニューレ内吸引」の視聴、鼻腔内吸引の概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備の手順書を作成
第27回	喀痰吸引のまとめと手順確認6: 気管カニューレ内吸引の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第26回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】気管カニューレ内吸引の(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「気管カニューレ内吸引」の視聴、鼻腔内吸引の概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら(3)喀痰吸引前中後の観察ポイントとケア(4)報告と記録の手順書を作成
第28回	喀痰吸引のまとめと手順確認7: 喀痰吸引3種類の手順のまとめと確認 【フィードバック】第27回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】グループワークで手順書を使用して動いてみる 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「喀痰吸引」3種の視聴、概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら作成した手順書を確認
第29回	経管栄養法のまとめと手順確認1: 経鼻経管栄養法の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第28回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経鼻経管栄養法の(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「経鼻経管栄養法」の視聴、経鼻経管栄養法の概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備の手順書を作成
第30回	経管栄養法のまとめと手順確認2: 経鼻経管栄養法の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第29回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経鼻経管栄養法の(3)手順と留意点についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「経鼻経管栄養法」の視聴、経鼻経管栄養法の概要の確認 (テキスト①②該当部分を読む)しながら(3)手順と留意点の手順書を作成

第31回	経管栄養法のまとめと手順確認 3: 経鼻経管栄養法の手順を細かく確認しながら手作成順書 【フィードバック】第 30 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】経鼻経管栄養法の(4)前中後の観察ポイントとケア(5)報告と記録についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	作成 【準備学習】(60 分)テキスト②付属の DVD 内の「経鼻経管栄養法」の視聴、経鼻経管栄養法の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(4)前中後の観察ポイントとケア(5)報告と記録の手順書を作成
第32回	経管栄養法のまとめと手順確認 4: 胃ろう【液体】の手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第 31 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】胃ろうの(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「胃ろう【液体】」の視聴、胃ろうの概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(1)必要物品(2)実施前の対象者の準備の手順書を作成
第33回	経管栄養法のまとめと手順確認 5: 胃ろうの手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第 32 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】胃ろう【液体】の(3)手順と留意点報告と記録についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60分)テキスト②付属のDVD内の「胃ろう【液体】」の視聴、胃ろう【液体】の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(3)手順と留意点の手順書を作成
第34回	経管栄養法のまとめと手順確認 6: 胃ろうの手順を細かく確認しながら手順書作成 【フィードバック】第 33 回で提出された課題にコメントを書いて返却 【アクティブラーニング】胃ろう【液体】の(4)前中後の観察ポイントとケア(5)報告と記録についてディスカッションしながら確認 【課題】授業で確認した手順書の修正	【準備学習】(60 分)テキスト②付属の DVD 内の「胃ろう【液体】」の視聴、胃ろう【液体】の概要の確認(テキスト①②該当部分を読む)しながら(4)前中後の観察ポイントとケア(5)報告と記録の手順書を作成
定時試験	筆記試験を実施する	
第35回	救急蘇生法(演習)※上級救命講習受講の後 【アクティブラーニング】学生プレゼンテーション型の心肺蘇生法演習とグループワーク 【課題】事例に基づいたレポート 【フィードバック】提出後一週間以内にコメントを書いて返却 また、以下5種の実技をそれぞれ最低5回以上演習で行う。	【準備学習】(60分)心肺蘇生法の手順書作成
第36~40回	基本演習: 実技試験(各回) 喀痰吸引 口腔内 【アクティブラーニング】演習のコメントシート	【準備学習】(各回毎に60分)口腔内吸引の実技練習
第41~45回	基本演習: 実技試験(各回) 喀痰吸引 鼻腔内 【アクティブラーニング】演習のコメントシート	【準備学習】(各回毎に60分)鼻腔内吸引の実技練習
第46~50回	基本研修(演習): 実技試験(各回) 喀痰吸引 気管カニューレ内部 【アクティブラーニング】演習のコメントシート	【準備学習】(各回毎に60分)気管カニューレ内部吸引の実技練習
第51~60回	基本研修(演習): 実技試験(各回) 経管栄養 胃ろう・腸ろう 液体 【アクティブラーニング】演習のコメントシート	【準備学習】(各回毎に60分)胃ろう・腸ろうの実技練習
第61~	基本研修(演習): 実技試験(各回) 経管栄養 経鼻経管	【準備学習】(各回毎に60

70回 【アクティブラーニング】演習のコメントシート 定時試験 筆記試験を実施する 【確認テストA・Bについて】 ※14回目と21回目に確認テストを実施。この確認テストは、法令により90%の正答率で合格となっているため、それ以下の成績の場合は再試となる。また、この2回の確認テスト合格者のみ演習へと進めるため、講義50時間の予習復習は必ず行うこと。 【基本演習について】 ※36回目以降の基本演習は、講義50時間と確認テスト2回(AとB)の合格者が基本演習の実技試験を受講・受験できる。また、法令によりこの演習において各実技の5回以上の合格をもって医療的ケア(基本研修)の合格・修了となっている。そのため、不合格者は合格するまで実技テストを実施する都合により講義回数が増える場合がある。 【上級救命講習受講について】 ※35回目の救急蘇生法(演習)については、それまでに上級救命講習を全員受講する。詳細は別途提示する。	分)経鼻経管栄養法の実技練習
テキスト：新・介護福祉士養成講座 15『医療的ケア』（中央法規出版）	
参考書・参考資料等： ぜんぶわかる『人体解剖図』（坂井建雄著、成美堂出版） 『こころとからだのしくみ』（小板橋喜久代ら著、メヂカルフレンド社） 介護福祉士養成課程・介護職のための『医療的ケア』（建帛社）	
学生に対する評価：第1～34回：確認テスト(AとBの2回分)と定時試験での筆記試験実施70%、課題提出と内容20%、授業態度10% 第35～66回：実技試験と定時試験80%、課題提出と内容10%、授業態度10%	